

深谷市
じょう しき めん
上敷免遺跡

一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告

— V —

(第3分冊)

1993

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

序
例言
凡例

(第1分冊)

I	調査の概要	1
1	発掘調査に至るまでの経過	1
2	発掘調査および整理・報告書刊行事業の組織	2
3	発掘調査および整理・報告書作成作業の経過	3
4	発掘調査の方法	4
II	遺跡の立地と環境	6
III	縄文・弥生時代の遺構と遺物	13
1	縄文時代の遺構と遺物	16
2	弥生時代の遺構と遺物	16
IV	谷及びグリッドの出土遺物	38
1	谷	38
2	グリッド	85
3	土製品・玉類	103
4	石器	105
V	縄文・弥生時代のまとめ	115
1	土器について	115
2	底部圧痕について	147
3	石器について	158

(第2分冊)

VI	古墳時代以降の遺構と遺物	175
1	第1発掘区	175
2	第2発掘区	405

(第3分冊)

3	第3発掘区	639
4	第4発掘区	813

(第4分冊)

5	第5発掘区	897
6	第6発掘区	1097
7	石製品	1153
8	土製品	1167
9	鉄製品	1175
10	衣採遺物	1181
VII	まとめ	1182
VIII	附篇	1207

插图目次

【第3分冊】

第502図	第3発掘区全測図	640	第539図	第119号住居跡出土遺物	682
第503図	第101号住居跡	641	第540図	第120号住居跡	684
第504図	第101号住居跡出土遺物(1)	642	第541図	第120号住居跡出土遺物(1)	685
第505図	第101号住居跡出土遺物(2)	643	第542図	第120号住居跡出土遺物(2)	686
第506図	第102号住居跡	646	第543図	第120号住居跡出土遺物(3)	687
第507図	第102号住居跡出土遺物	647	第544図	第121号住居跡・出土遺物	690
第508図	第103号住居跡	648	第545図	第122・123号住居跡	691
第509図	第103号住居跡出土遺物	649	第546図	第122号住居跡出土遺物	692
第510図	第104号住居跡	651	第547図	第124号住居跡	692
第511図	第104号住居跡出土遺物	652	第548図	第125号住居跡	693
第512図	第105号住居跡カマド全景	652	第549図	第125号住居跡出土遺物	694
第513図	第105号住居跡	653	第550図	第126・127号住居跡	695
第514図	第105号住居跡出土遺物	654	第551図	第126号住居跡出土遺物	696
第515図	第106号住居跡・出土遺物	656	第552図	第127号住居跡出土遺物	697
第516図	第107号住居跡・出土遺物	657	第553図	第128号住居跡・出土遺物	699
第517図	第108号住居跡	658	第554図	第129号住居跡	700
第518図	第108号住居跡出土遺物(1)	659	第555図	第130号住居跡	701
第519図	第108号住居跡出土遺物(2)	660	第556図	第130号住居跡出土遺物	702
第520図	第109号住居跡	662	第557図	第131号住居跡(1)	704
第521図	第109号住居跡出土遺物	663	第558図	第131号住居跡(2)	705
第522図	第110号住居跡	665	第559図	第131号住居跡出土遺物(1)	706
第523図	第110号住居跡出土遺物	666	第560図	第131号住居跡出土遺物(2)	707
第524図	第114号住居跡カマド全景	666	第561図	第132・133号住居跡	708
第525図	第111号住居跡・出土遺物	667	第562図	第132号住居跡出土遺物(1)	710
第526図	第112号住居跡・出土遺物	668	第563図	第132号住居跡出土遺物(2)	711
第527図	第113号住居跡・出土遺物	669	第564図	第133号住居跡出土遺物	712
第528図	第114・115号住居跡	670	第565図	第134号住居跡・出土遺物	714
第529図	第114号住居跡出土遺物(1)	671	第566図	第135号住居跡・出土遺物	715
第530図	第114号住居跡出土遺物(2)	672	第567図	第136号住居跡	716
第531図	第115号住居跡出土遺物	673	第568図	第137号住居跡	717
第532図	第116号住居跡	674	第569図	第138号住居跡(1)	718
第533図	第116号住居跡出土遺物(1)	675	第570図	第138号住居跡(2)・出土遺物	719
第534図	第116号住居跡出土遺物(2)	676	第571図	第139号住居跡・出土遺物	720
第535図	第117号住居跡	677	第572図	第146・147号住居跡遺物出土状況	721
第536図	第117号住居跡出土遺物	678	第573図	第140・145号住居跡(1)	722
第537図	第118号住居跡	680	第574図	第140・145号住居跡(2)	723
第538図	第119号住居跡	681	第575図	第145号住居跡出土遺物	724
			第576図	第141号住居跡	725

第577回	第141号住居跡出土遺物(1)……………	726	第616回	第168号住居跡出土遺物……………	781
第578回	第141号住居跡出土遺物(2)……………	727	第617回	第169号住居跡(1)……………	782・783
第579回	第141号住居跡出土遺物(3)……………	728	第618回	第169号住居跡(2)……………	784
第580回	第141号住居跡出土遺物(4)……………	729	第619回	第169号住居跡出土遺物(1)……………	785
第581回	第142号住居跡……………	732	第620回	第169号住居跡出土遺物(2)……………	786
第582回	第142号住居跡出土遺物……………	733	第621回	第169号住居跡出土遺物(3)……………	787
第583回	第143号住居跡……………	735	第622回	第169号住居跡出土遺物(4)……………	788
第584回	第143号住居跡出土遺物(1)……………	736	第623回	第169号住居跡出土遺物(5)……………	789
第585回	第143号住居跡出土遺物(2)……………	737	第624回	第169号住居跡出土遺物(6)……………	790
第586回	第144・146・147号住居跡……………	739	第625回	第170号住居跡……………	796
第587回	第144・147号住居跡出土遺物(1)……………	740	第626回	第170号住居跡出土遺物……………	797
第588回	第144・147号住居跡出土遺物(2)……………	741	第627回	第171号住居跡……………	799
第589回	第144・147号住居跡出土遺物(3)……………	742	第628回	第171号住居跡出土遺物……………	800
第590回	第146号住居跡出土遺物……………	743	第629回	第5・6号井戸・ 第6号井戸出土遺物……………	801
第591回	第156号住居跡……………	744	第630回	第3発掘区土坑(1)……………	802
第592回	第156号住居跡出土遺物……………	745	第631回	第3発掘区土坑(2)……………	803
第593回	第157・158号住居跡……………	746	第632回	第3発掘区土坑(3)……………	804
第594回	第157・158号住居跡出土遺物……………	747	第633回	第3発掘区土坑(4)……………	805
第595回	第159号住居跡……………	748	第634回	第3発掘区土坑出土遺物……………	806
第596回	第159号住居跡出土遺物……………	749	第635回	第11号溝・ 第10・11・13号溝出土遺物……………	808
第597回	第160号住居跡・出土遺物……………	751	第636回	第12・13号溝……………	809
第598回	第161号住居跡……………	752・753	第637回	第14号溝・第14・15号溝出土遺物……………	810
第599回	第161号住居跡出土遺物(1)……………	754	第638回	第15号溝……………	811
第600回	第161号住居跡出土遺物(2)・ 第162号住居跡出土遺物……………	755	第639回	第3発掘区ピット出土遺物……………	812
第601回	第162号住居跡……………	757	第640回	第4発掘区全測図……………	814
第602回	第163号住居跡……………	758	第641回	第172号住居跡および出土遺物……………	815
第603回	第163号住居跡出土遺物……………	759	第642回	第173・174号住居跡および 第173・175号住居跡出土遺物……………	817
第604回	第164号住居跡……………	760・761	第643回	第175・176号住居跡……………	819
第605回	第164号住居跡出土遺物(1)……………	762	第644回	第177・178号住居跡……………	820・821
第606回	第164号住居跡出土遺物(2)……………	763	第645回	第178号住居跡出土遺物……………	822
第607回	第164号住居跡出土遺物(3)……………	764	第646回	第179号住居跡カマド……………	824・825
第608回	第165・166号住居跡……………	767	第647回	第179号住居跡……………	826・827
第609回	第165・166号住居跡出土遺物……………	768	第648回	第179号住居跡出土遺物……………	828
第610回	第167号住居跡……………	770・771	第649回	第179号住居跡カマド遺物出土状況……………	829
第611回	第167号住居跡出土遺物(1)……………	772	第650回	第180号住居跡……………	830
第612回	第167号住居跡出土遺物(2)……………	773	第651回	第180号住居跡出土遺物……………	831
第613回	第167号住居跡出土遺物(3)……………	774	第652回	第181・182号住居跡……………	832
第614回	第167号住居跡出土遺物(4)……………	775			
第615回	第168号住居跡……………	780			

第653回	第182号住居跡出土遺物	833			
第654回	第181号住居跡出土遺物	834			
第655回	第183号住居跡カマド	836			
第656回	第183号住居跡	837			
第657回	第183号住居跡出土遺物(1)	838			
第658回	第183号住居跡出土遺物(2)	839			
第659回	第183号住居跡出土遺物(3)	840			
第660回	第184・185号住居跡	844			
第661回	第184・185号住居跡出土遺物	845			
第662回	第186号住居跡	846			
第663回	第186号住居跡出土遺物	847			
第664回	第187・188・189号住居跡	848・849			
第665回	第187号住居跡出土遺物	850			
第666回	第188号住居跡出土遺物(1)	852			
第667回	第188号住居跡出土遺物(2)	853			
第668回	第189号住居跡出土遺物	855			
第669回	第190号住居跡	857			
第670回	第191号住居跡および出土遺物	858			
第671回	第192・193号住居跡	859			
第672回	第192号住居跡出土遺物	860			
第673回	第193号住居跡遺物出土状況	861			
第674回	第193号住居跡出土遺物(1)	862			
第675回	第193号住居跡出土遺物(2)	863			
第676回	第193号住居跡出土遺物(3)	864			
第677回	第193号住居跡出土遺物(4)	865			
第678回	第193号住居跡出土遺物(5)	866			
第679回	第194・195号住居跡	872			
第680回	第195号住居跡カマド	873			
第681回	第194号住居跡出土遺物	874			
第682回	第195号住居跡出土遺物	876			
第683回	第196号住居跡	877			
第684回	第196号住居跡出土遺物	878			
第685回	第197号住居跡	880			
第686回	第197号住居跡出土遺物	881			
第687回	第198・199号住居跡	882			
第688回	第198・199号住居跡出土遺物	883			
第689回	第200・201・202号住居跡	885			
第690回	第200・201・ 202号住居跡出土遺物(1)	886			
第691回	第200・201・ 202号住居跡出土遺物(2)	887			
第692回	第200・201・ 202号住居跡出土遺物(3)	888			
第693回	第203号住居跡	891			
第694回	第204号住居跡	891			
第695回	第205・206号住居跡および 第206号住居跡出土遺物	892			
第696回	第4発掘区上坑・井戸	894			
第697回	第16号溝および出土遺物	895			
第698回	第4発掘区グリッド出土遺物	896			

目 次

【第3分冊】

図版128	第101号住居跡 第102号住居跡 第103号住居跡 第104号住居跡 第105号住居跡 第106・107・108号住居跡 第109号住居跡 第110号住居跡	図版133	第156号住居跡 第157号住居跡 第158号住居跡 第159号住居跡 第161号住居跡 第163号住居跡 第164号住居跡 第165・166号住居跡
図版129	第113号住居跡 第114・115号住居跡 第116号住居跡 第117号住居跡 第118号住居跡 第119号住居跡 第120号住居跡 第121号住居跡	図版134	第167号住居跡 第167号住居跡遺物出土状況 第168号住居跡 第168号住居跡カマド 第169号住居跡 第169号住居跡遺物出土状況 第170号住居跡 第171号住居跡
図版130	第122・123号住居跡 第126号住居跡 第128号住居跡 第130号住居跡 第131号住居跡 第131号住居跡カマド 第132号住居跡 第132号住居跡遺物出土状況	図版135	第3発掘区 土師器 坏(1)
図版131	第132・133号住居跡 第138号住居跡 第141号住居跡 第141号住居跡遺物出土状況 第142号住居跡 第142号住居跡カマド 第142号住居跡貯蔵穴 第143号住居跡	図版136	第3発掘区 土師器 坏(2)
図版132	第143号住居跡遺物出土状況 第143号住居跡カマド 第140・145号住居跡 第145号住居跡カマド 第3発掘区全景	図版137	第3発掘区 土師器 坏(3)
		図版138	第3発掘区 土師器 坏(4) 須恵器 坏類(1)
		図版139	第3発掘区 土師器 甗 須恵器 坏類(2)
		図版140	第3発掘区 土師器 高坏・蓋 須恵器 蓋
		図版141	第3発掘区 土師器 埴・皿・鉢・壺
		図版142	第3発掘区 土師器 ミニチュア他
		図版143	第3発掘区 土師器 甗類(1)
		図版144	第3発掘区 土師器 甗(1)・甗類(2)
		図版145	第3発掘区 土師器 甗類(3)
		図版146	第3発掘区 土師器 甗類(4)
		図版147	第3発掘区 土師器 甗類(5)・甗(2)
		図版148	第3発掘区 土師器 甗(3)
		図版149	第3発掘区 土師器 支脚
		図版150	第172号住居跡 第173号住居跡 第178号住居跡 第179号住居跡

- 第180号住居跡
 第181・182号住居跡
 第183号住居跡
 第184号住居跡
 図版151 第185号住居跡
 第186号住居跡
 第188号住居跡
 第188号住居跡遺物出土状況
 第190号住居跡
 第191号住居跡
 第192・193号住居跡
 第194号住居跡
 図版152 第195号住居跡カマド
 第196号住居跡貯蔵穴 A
 第197号住居跡
 第197号住居跡貯蔵穴
 第198・199号住居跡
 第200号住居跡
 第201・202号住居跡
 第202号住居跡遺物出土状況
 図版153 第4発掘区 土師器 坏(1)
 図版154 第4発掘区 土師器 坏(2)・須恵器 皿
 図版155 第4発掘区 土師器 高坏・碗他
 図版156 第4発掘区 土師器 类(1)
 図版157 第4発掘区 土師器 类(2)・钵・甑(1)
 図版158 第4発掘区 土師器 类(3)
 図版159 第4発掘区 土師器 类(4)・甑(2)他
 須恵器 甕

3 第3発掘区

第3発掘区は、X軸のモート（+23.080～+23.140）、Y軸の400～422（-47.916～-48.048）にあたる。遺構確認面における標高は平均33.1mで、平坦である。第3発掘区は調査時に分割した上敷免遺跡東・西の境界をまたぎ、現道および水路によって発掘区域を4個所に分けられている。そのなかで最西端に位置している発掘区域が調査時の上敷免遺跡西にあたり、ほかは上敷免遺跡東の範囲である。ほぼ全面が土取りによる削平を受けている。平面的には遺構の残存状態が良好であるかのように捉えられるが、これらの遺構のほとんどは床面近くまで削平されており、残存状態はさほどよいとはいえない。噴砂による影響は比較的少なく、遺構の形態が大きく歪められているものはみられない。

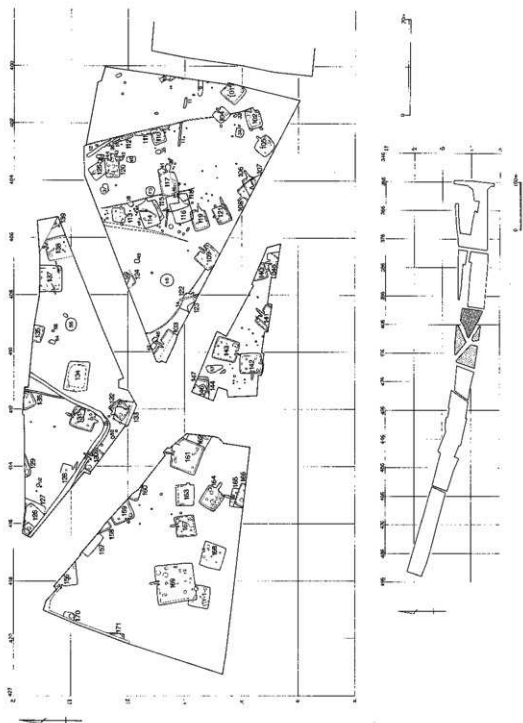
第3発掘区から検出されている遺構は、住居跡65軒（第100～147号、第156～171号、Y-1号）、井戸跡2基（第5・6号）、土坑25基（第33～57号）、溝7条（第9～15号）である。

住居跡は、分布の密な最東端の発掘区域で重複が著しい。この区域は土取りによる削平の影響を大きく受け、現状よりも高い分布密度を示す可能性がある。確認されている住居跡のほとんどのものが、北壁もしくは東壁にカマドが構築されている。例外的に西壁2軒、南壁1軒も認められている。時期的な問題を度外視すれば、住居跡の配置にはある程度の規制性・方向性を読み取ることができる。これらの時期別の内訳は、弥生時代中期1軒、古墳時代中期3軒、古墳時代後期37軒、奈良時代5軒、平安時代前半9軒、不明9軒である。

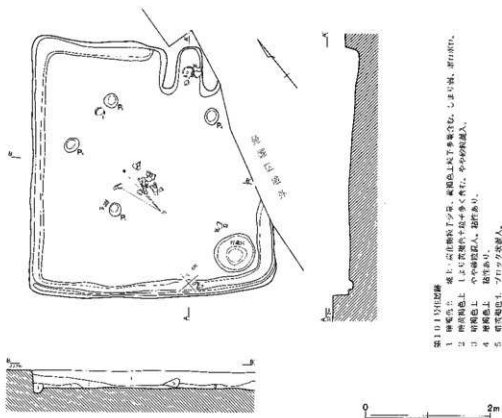
井戸跡は、最東端の発掘区域で2基検出されている。調査計画の都合により、発掘調査を行なった時期と周辺水田の水稲耕作時期（＝遺跡の冠水時期）が重なってしまったため、十分な成果をあげることができなかった。第5号井戸跡からは遺物が出土していない。第6号井戸跡の遺物は遺構確認時のものであり、明確な時期を求めることは難しい。

土坑は、規模・形態がさまざまである。割合に長方形の平面形態をもつものが多いようである。数基が集中して群が形成され、数ヶ所に分散している。うち7基の土坑から図示し得る遺物が出土しているが、用途・性格等を類推する資料に欠ける。

溝は、ほとんどのものが幅が狭く、浅い。用途・性格等は不明である。うち1条はほぼ直角に屈曲しているものがあり、集落の区画もしくは排水等に用いられた可能性がある。検出された遺物は重複している住居跡から流れ込んだと思われるものが多く、時期を明確にすることは難しい。



第502图 第3号地区全测图

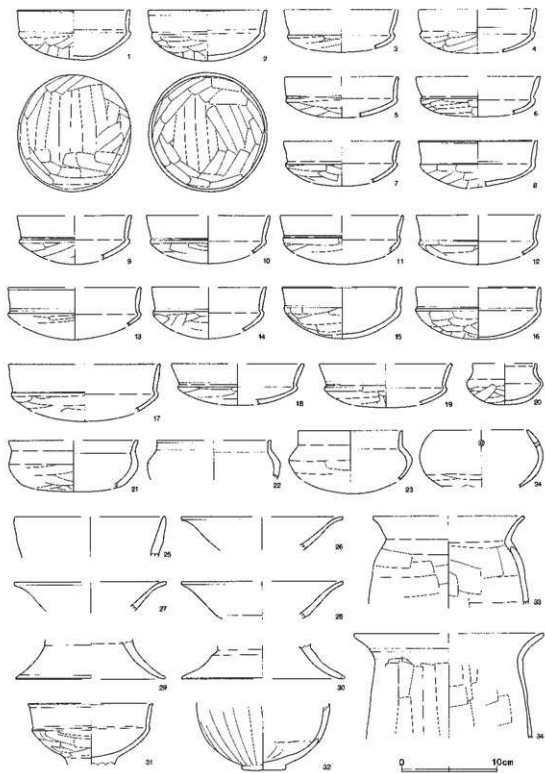


第503図 第101号住居跡

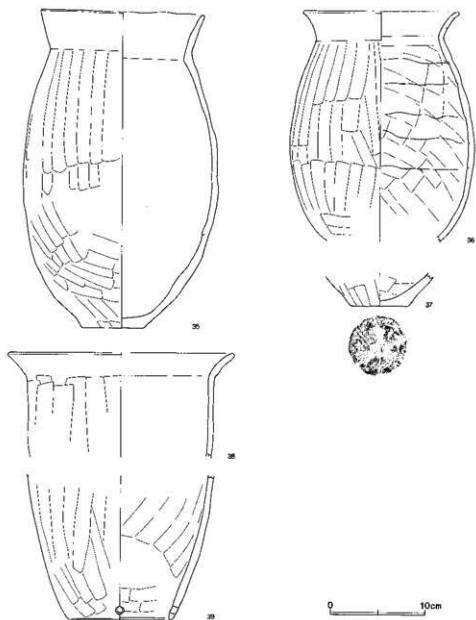
(1) 住居跡

第101号住居跡（第503図）

セー400・401、スー400・401Gridに位置し、東コーナー部は発掘区域外にかかっている。規模は主軸辺4.08m・短辺3.75m、深さ0.25~0.70mであり、主軸方位はN-43°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はほぼ全周している。幅0.16~0.34m、深さ0.24~0.34mの規模をもっている。カマドは北東壁に構築されている。全長0.81m、焚き口幅0.45mを測り、煙道部は短い。袖部は地山を掘り残しており、西側は発掘区域外にかかっている。貯蔵穴は円形で、カマドと対向する辺の南コーナー部に設置されている。南北0.59m・東西0.67m、深さ0.14mを測る。ピットは4基検出され、P3のほかはすべて主柱穴である。カマド周辺の貼床は顕著にみられる。遺物は土師器が中心で、カマドおよび住居跡中央部より出土している。ほかに土玉1点、須恵器1片がある。



第504図 第101号住居跡出土遺物(1)



第505図 第101号住居跡出土遺物(2)

第102号住居跡 (第506図)

セー401・402Gridに位置している。カマドが片袖の住居跡であり、規模は主軸辺の長い方が3.99m・短い方が3.48m、短辺が3.01m、深さが0.26~0.70mである。主軸方位はN-70°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はほぼ全周している。幅0.16~0.34m、深さ0.39~0.44mの規模をもっている。カマドは東壁中央やや南よりに構築されている。燃焼部は楕円形を呈し、全長1.15m、焚き口幅0.46mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、火床面は摺り鉢状に掘り込ま

第101号住居跡 (第504 - 505図)

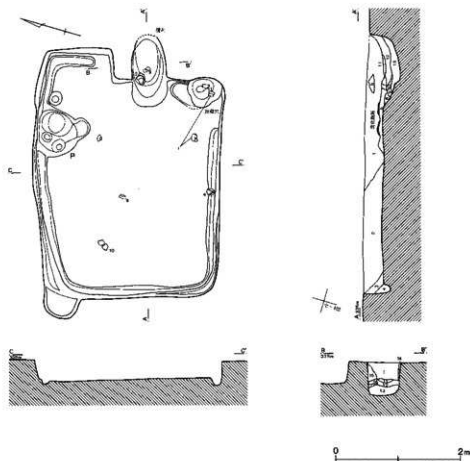
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	□11.7 高5.1	B+R+W	黄橙	100	%B。口縁部面トリ
2	环	□12.3 高5.3	B+R+W	橙	100	%B。口縁部面トリ 外面は全体に黒色
3	环	□(12.0)	B+R+W+W'	にぶい橙	口縁 40	口縁部面ヘラアテ面トリ
4	环	□(12.4)	B+W+W' 少	(内)灰褐 (外)橙	30	口縁部面ヘラアテ面トリ
5	环	□(12.0)	B+R+W+W'	橙	20	口縁部面ヘラアテ面トリ
6	环	□(13.0)	R多+W+W'	橙～黒	30	口縁部面ヘラアテ面トリ
7	环	□(12.2)	B+R多+W+W'	橙～黒	40	口縁部面ヘラアテ面トリ
8	环	□12.4	B+W	(内)黒褐 (外)暗褐	70	口縁部面トリ 全体に黒色
9	环	□(12.0)	B+R多+W+W'	橙	30	口縁部面ヘラアテ面トリ
10	环	□(13.0)	B+R多+W+W'	にぶい黄橙	口縁 30	口縁部面ヘラアテ面トリ
11	环	□(13.0)	R多+W	橙～にぶい橙	口縁 20	口縁部面ヘラアテ面トリ
12	环	□(13.0)	B+R多+W+W'	にぶい橙	40	口縁部面ヘラアテ面トリ
13	环	□(14.0)	B+R+W	橙～灰白	口縁 20	口縁部面ヘラアテ面トリ
14	环	□(12.0)	B少+R+W	橙～灰白	口縁 30	口縁部面ヘラアテ面トリ
15	环	□(12.5) 高5.4	B+R+W	(内)橙～灰褐 (外)明赤褐～にぶい赤褐	50	口縁部面トリ 口縁部内外面黒色
16	环	□(13.1) 高5.5	B+R+W	明赤褐	25	%A。口縁部面トリ
17	环	□(16.0)	B+R多+W	橙	20	口縁部面トリ
18	环	□(14.0)	B+R+W+W'	橙～黒褐	20	口縁部面ヘラアテ面トリ 外面の風化著しい
19	环	□(14.0)	B+R+砂	橙～黒	30	
20	环(ミニチュア)	□(6.6) 高4.3	B少+R+W少+W' 少	橙～灰白	25	
21	筒	□(13.6)	W+W'	橙	40	
22	輪	□(12.0)	B+W+W'	橙	口縁 20	口縁部面ヘラアテ面トリ 外面風化
23	輪	□11.0	B+W	橙	上半部 50	口縁部面ヘラアテ面トリ
24	輪	□(10.0)	B少+R+W少	橙～明黄褐	30	穿孔(2孔1対)
25	壺	□(16.0)	R+W	橙	口縁 15	
26	高环	□(17.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 10	口縁部面トリ
27	高环	□(16.0)	B+W+W'	橙	口縁 10	口縁部面トリ
28	高环	□(17.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 15	口縁部面トリ
29	高环	脚15.6	B+R+W	橙	脚部 80	

30	高坏	脚17.0	B+R+W	橙	脚部 40	No.4.
31	高坏	口(13.1)	B+R+W少	(内)橙 (外)明赤褐	坏部 45	口縁端部凹トリ
32	甕	底5.4	R+W+W'	橙	下半部 30	底部一方のケズリ
33	甕	口(16.0)	B+W+砂多	橙	口縁 20	
34	甕	口(20.0)	B+R+W+砂多	橙	口縁 20	
35	甕	口17.1 底5.5 高33.0 脚20.6	B+R+W+砂少+泥少	(内)におい黄橙～ におい橙 (外)におい赤褐～ におい黄橙	70	No.2・3・5. 胴部外面全体に黒色で剥離が著しい
36	甕	口16.2 脚19.6	B+R+W+砂少+泥少	(内)赤褐 (外)赤褐～ におい橙	40	No.5.
37	甕	底5.0	W+砂多	(内)灰赤～赤黒 (外)におい赤褐	底部 100	木炭痕
38	甕	口(24.0)	B+R多+W	橙	口縁 20	
39	甕	底10.5	B+R+W+砂少+泥少	(内)明赤褐 (外)橙	底部 50	穿孔(2孔1対) 胴部外面に黒色部分

第102号住居跡(第507区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.0 底5.6 高4.2	B+W	灰白～赤褐	100	No.4・6. 回転未切り離し 内外面に重ね焼きの痕跡 口唇部内側に沈線が刻る
2	坏	口13.2 底5.8 高4.1	B+R少+W+W'+砂少+泥少	灰白～におい黄橙	60	No.1. カマド. 回転未切り離し 焼成不良
3	坏	口12.9 底5.9 高3.6	B+R+W	灰白～褐灰	75	回転未切り離し
4	高台付甕	口13.0 台5.8 高5.7	B多+W	灰白	90	No.8. 回転未切り離し後、高台ナデツケ 高台端部ヘラアテ
5	高台付甕	口(16.0) 台(8.0)	B+R+W+W'+泥	橙～黒褐	30	高台部欠損 回転未切り離し 底部内面に重ね焼きの痕跡
6	高台付甕		B+W	灰白	30	No.8. 高台端部ヘラアテ
7	高台付甕	台5.0	W+砂少	灰白	底部 100	貯蔵穴. 高台部欠損 回転未切り後 高台ナデツケ 内面に重ね焼きの痕跡
8	甕	底(13.5)	B+W+砂少+泥少	灰	下位 30	
9	甕	口(21.6) 脚24.7	B+R+W	赤褐～橙	40	No.2. 貯蔵穴. 胴部外面黒色
10	甕	口(22.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 25	No.9.
11	甕	口(24.0)	B+R多+W+W'	におい黄橙～黒	口縁 10	No.10.
12	甕	口(26.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 10	
13	甕		B+R+W	(内)明赤褐 (外)灰褐	30	カマド. 胴部外面黒色

れている。貯蔵穴は不整円形で、カマドの南側の南東コーナー部に位置している。南北0.84m・東西0.48m、深さ0.53mを測る。ピットは1基検出され、柱穴と思われる。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺から出ている。



第102号住居跡

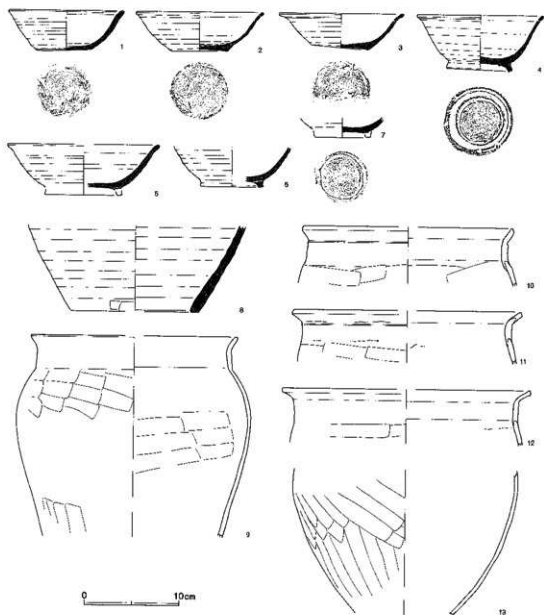
- 1 暗褐色土 焼土・黄褐色土粒子少量含む。炭化物点在。
- 2 暗褐色土 1より少量の焼土・黄褐色土粒下含む。炭化物粒少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 砂粒混入。しまり弱。
- 5 黄褐色土 ブロック状。
- 6 暗褐色土 やや灰色。焼土・炭化物粒少量。黄褐色土粒子少量含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子少量。炭化物少量含む。

- 8 暗褐色土 焼土粒下。炭化物多量含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒子。炭化物微量含む。
- 10 暗褐色土 焼土粒子。炭化物多量含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒子多量。炭化物少量含む。
- 12 暗褐色土 やや灰色。焼土粒子少量。炭化物微量含む。
- 13 暗褐色土 焼土粒下多量。炭化物少量含む。
- 14 暗褐色土 焼土粒下多量含む(カマド壁部が崩壊を受けている)。
- 15 暗褐色土 焼土粒子多量。焼土ブロック。炭化物少量含む。
- 16 暗褐色土 焼土粒子。炭化物多量含む。

第506図 第102号住居跡

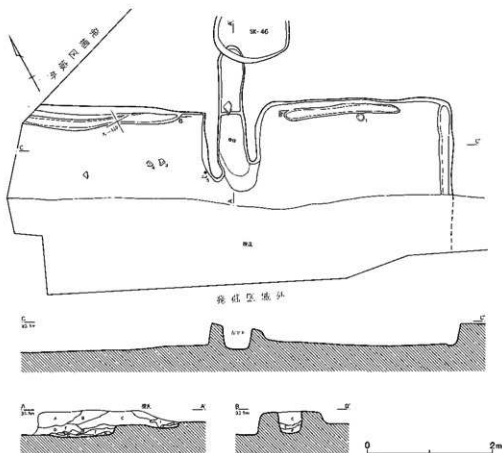
第103号住居跡 (第508図)

い—409・410、ろ—410Gridに位置し、住居跡の大半は発掘区域外で、また発掘区域内の南西側半分は攪乱されている。そのため、調査はカマドの周辺部に限られている。カマドは北東壁中央に構築され、煙道部先端は第46号土坑に切られている。全長2.30m、焚き口幅0.47mを測る。袖部は地山を掘り残して形成され、燃焼部でごく緩やかな曲線を描いている。火床面は摺り鉢状の緩やかな窪みもち、急激に立ち上がって煙道部に繋がっている。住居跡の規模は明確ではないが、比較



第507図 第102号住居跡出土遺物

的大型の住居跡である。深さが0.27～0.32mであり、主軸方位はN-29°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は検出された壁をほぼ全周している。壁溝の規模は、幅0.17～0.37m、深さ0.35～0.37mである。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物は比較的少なく、平安時代前半の須恵器片が混入している。



第103号住居跡カマド

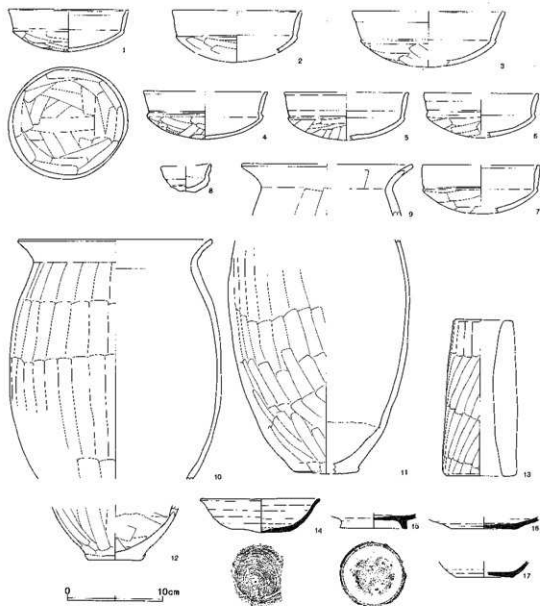
- A 褐色土 粘土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり
- D 褐色土 粘土・炭化物粒子、黄褐色土ブロックわずかに含む。しまりあり
- C 暗褐色土 粘土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり
- D 暗褐色土 粘土・炭化物粒子多量、黄褐色土ブロックわずかに含む。しまりあり

- E 暗褐色土 粘土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり
- F 黄褐色土 炭化物層。粘土粒子少量含む。軟質
- G 暗黄褐色土 粘土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり
- H 灰褐色土 粘土粒子わずかに、炭化物粒子多く含む。灰土味。軟質
- I 褐色土 粘土粒子・ブロック(3~10cm)、炭化物粒子多く含む
- J 灰褐色土 粘土粒子・ブロック(3~5cm)、炭化物粒子多く含む。層状砂混入

第508図 第103号住居跡

第104号住居跡 (第510図)

スー401、シー401Gridに位置している。東側半分は土取りによる削平を受けているものの、辛い床面までは達していない。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は認められていない。規模は主軸辺2.55m・長辺2.61m、深さ0.15~0.96mであり、主軸方位はN-43°-Eを測る。カマドは北東壁中央やや南よりに構築され、全長0.77m、焚き口幅0.38mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残して形成されているが、左右の大きさが極端に異なっている。袖部の大きさの違いから、これを



第509図 第103号住居跡出土遺物

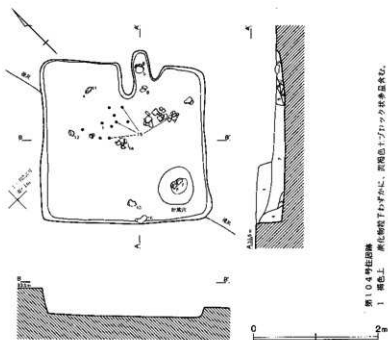
補うために粘土等を用いてカマドを構築していたことが予想されるが、これらの構築材は検出されていない。袖部は燃焼部で「ハ」の字に開き、火床面は平坦である。貯蔵穴はカマドと対向する辺の南コーナー部に位置し、円形を呈している。南北0.59m・東西0.57m、深さ0.34mを測る。ピットは検出されていない。住居跡中央部の貼床は顕著に認められている。遺物はカマドおよび中央部から出土している。

第103号住居跡 (第509回)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口12.4 高4.4	B+R+W	黄橙	100	№8. 口縁部面トリ 外面に黒色部分 口縁は槽凹形
2	環	口(13.6)	B+R+W+W'	橙	40	口縁部へアラテ面トリ
3	環	口26.0	B+R+W少+W' 少	橙～浅黄橙	30	№3. 口縁部へアラテ面トリ
4	環	口(13.0) 高(5.0)	B+R+W	橙	40	№4. 口縁部へアラテ面トリ
5	環	口(13.0)	B+R多+W	橙～黒	40	№6. 口縁部へアラテ面トリ
6	環	口(12.0)	B+R+W多	橙	40	カマド. 口縁部面トリ
7	環	口(12.4)	R多+W+W'	橙	40	口縁部面トリ 風化が著しく調整不 明瞭
8	手捏ね	口(5.3) 高(2.6)	R多	浅黄橙	20	大変いびつなため全体の復元図は不正確
9	壺	口(18.0)	B+R+W+砂多	橙～灰白	口縁 25	口縁部弱い面トリ 風化が著しく調 整不明瞭
10	壺	口20.2 胴22.2	B+R+W+砂少	赤灰	40	
11	壺	底(6.5) 胴19.0	B+R少+W	(内)赤灰 (外)赤褐	50	カマド.
12	壺	底5.6	B+R+W+W'+砂	橙～灰黄	底部 100	底部一方向のケズリ 内面底部付近は 黒変
13	支脚	上端5.8 下端7.8 高16.3	B+R+W	橙～黄橙	95	№2. 部分的に粘土付着
14	高台付碗	口12.6 底5.2 高3.5	W多	黄灰	60	ビット2. 回転未切り離し 火だすき 風の痕跡
15	高台付碗	台7.0	R+W+張	灰	底部 100	ビット2. 回転未切り後、高台部ナデツ ケ
16	皿	底(7.0)	B+W	(内)暗青灰 (外)灰	底部 15	ビット2. 回転未切り離し
17	環	底(6.0)	R+W	灰白	底部 25	ビット2. 回転未切り離し

第104号住居跡 (第511回)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	小型環	口9.2 高3.8	B+R+W少	橙～灰褐	80	№7. 口縁部内部の1/3はミガキ 縁部面トリ 内外面に黒色部分
2	小型環	口9.8 高4.2	B+R+W少	浅黄橙	50	№16. 口縁部面トリ
3	環	口(12.0)	B+R+W+W'	橙	15	口縁部面トリ 内面風化
4	環	口(13.6)	B+R多+W+W'	橙	20	№8.
5	環	口12.2 高4.7	B+R+W	黒～にふい橙	95	№1. 口縁部面トリ 口唇部と内面は 黒色
6	環	口(12.0)	B+R多+W+W'	橙～黒褐	20	口縁部面トリ
7	環	口12.1 高5.3	B+R+W少+W' 少	橙	95	№17. 内外面に黒色部分
8	環	口(13.0)	B+R+W+W'	明赤褐～暗赤褐	40	№18. 口縁部へアラテ面トリ
9	環	口(16.0)	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	30	№2 貯蔵穴. 口縁部面トリ
10	壺	口(17.0)	B+R多+W	橙	口縁 30	№15. 口縁部面トリ



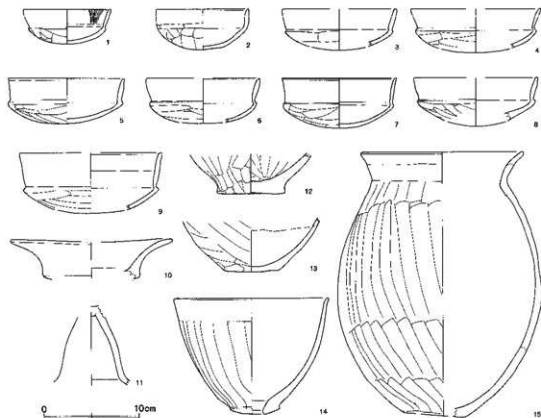
第510図 第104号住居跡

- 新104号住居跡
- 1 褐色土 灰化物粒すけすけに、灰褐色土ブロックが多数含む。しまりあり。
 - 2 灰色土 粘土・灰化物粒すけすけに、黒褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 3 暗褐色土 灰褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 4 暗褐色土 灰褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 5 褐色土 粘土・灰化物粒すけすけに、黒褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 6 褐色土 粘土・灰化物粒すけすけに、黒褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 7 灰褐色土 灰化物粒すけすけに、黒褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。
 - 8 灰褐色土 灰化物粒すけすけに、黒褐色土ブロックが少量含む。しまりあり。

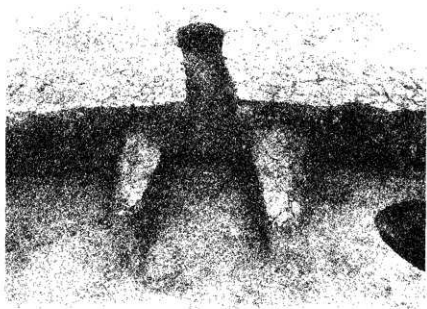
11	高坪		B+R+W'	橙	脚部 60	No.8.
12	礎	底7.0	B+R+W+砂多	(内)橙 (外)にふい橙	底部 50	No.9. 底部ケズリ
13	礎	底5.6	B+W	黒~褐灰	底部 50	No.14. 内外面黒色
14	飯	口16.4 底5.2 高12.1	B+R少+W	浅黄橙	75	No.13. 内外面に黒色部分
15	礎	口17.2 高27.6	底(6.5) 厚26.5	(内)淡橙 (外)にふい赤褐~明褐灰	75	No.4~6・12・貯蔵穴。脚部外面下半に黒色部分

第105号住居跡 (第512・513図)

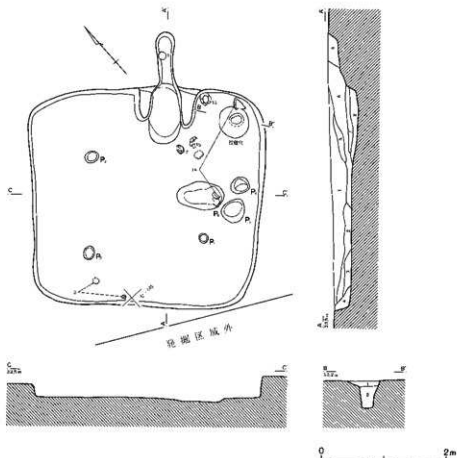
モ-402・403、セ-402・403Gridに位置している。規模は主軸辺3.48m・長辺3.67m、深さ0.21~0.36mであり、主軸方位はN-43°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は認められない。カマドは北東壁中央に構築され、全長1.78m、焚き口幅0.56mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字に開いている。燃焼部は楕円形で、摺り鉢状に掘り込まれている。火床面は急激に立ち上がり、煙道部は外方に延びている。貯蔵穴は円形で、カマド南側の東コーナー部に位置している。南北0.63m・東西0.61m、深さ0.44mである。ピットは6基検出され、P2・P3は明確に柱穴と捉えることができる。遺物はカマド・貯蔵穴およびその周辺部から土師器が出土し、ほかに石製不明品がある。



第511図 第104号住居跡出土遺物



第512図 第105号住居跡カマド全景



第105号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土粒子多く含む。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土粒子少量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土粒子少量含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。

- 6 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子少量、黄褐色土粒子わずかに含む。しまりあり。
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、焼土ブロック(5~10mm)多く含む。しまりあり。
- 8 暗褐色土 炭化物粒子、焼土。
- 9 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、焼土ブロック(5mm)少量含む。しまりあり。

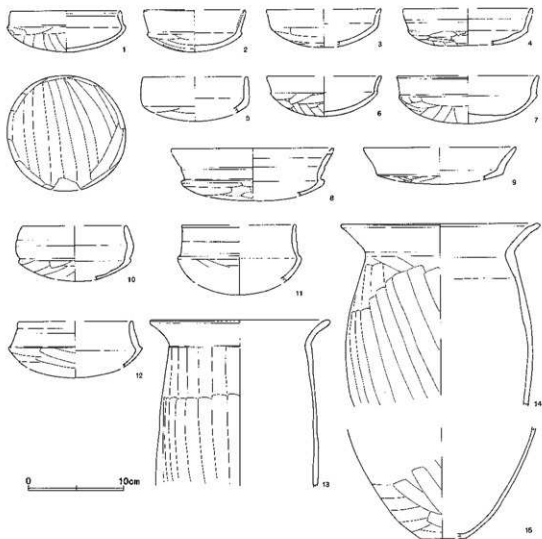
第105号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土粒子より多く含む。

第513号 第105号住居跡

第106号住居跡 (第515号)

セー403・404Gridに位置している。第107・108号住居跡と重複し、新旧関係はほかの2軒よりも新しい。平面形態は短辺に比べて長辺(主軸辺)が極端に長い長方形を呈している。長辺と短辺の比率は発掘区域外に延びるため不明であるが、2:1程度にはなるものと考えられる。規模は短辺2.43m、深さ0.16~0.34mであり、主軸方位はN-59°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち



第514図 第105号住居跡出土遺物

上がり、壁溝は北コーナー部のみに廻っている。壁溝の規模は幅0.18~0.26m、深さ0.31~0.67mである。カマドは南東コーナー部付近に構築され、全長1.63m、焚き口幅0.40mを測る。燃焼部が壁外に掘り込まれており、方形を呈している。袖部は確認されていない。掘り窪められている火床面は平坦である。煙道部は燃焼部よりも幅が狭く、外方に細長く延びている。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物は北壁際の1ヶ所に集中して出土しているが、量は少ない。3~5は重複している住居跡から混入したものと思われる。6は磨石で13.0×13.8×3.3cm、865gを測る。

第107号住居跡 (第516図)

セー403・404Gridに位置している。第106・108号住居跡と重複し、新旧関係は第106号住居跡よ

第105号住居跡 (第514図)

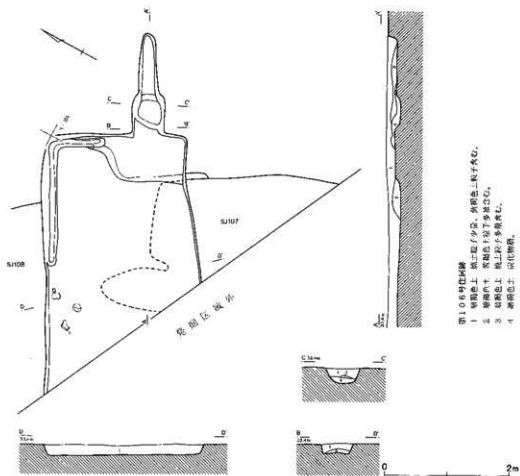
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口11.5 高4.3	B+R+W	橙	95	No.1. 口縁端部沈滞状のヘラアテ 内面黒色
2	環	口(10.6) 高4.4	B+R+W	にふい橙	60	No.8-9. 風化 内外面に黒色部分
3	環	口(12.0)	B少+W+W'	橙～黒	30	
4	環	口(13.6)	B+R+W+W'	明赤褐～暗赤褐	15	
5	環	口(11.0)	B+R少+W少	橙～黒褐	口縁 25	
6	環	口(12.0) 高4.2	B+R少+W+W'	橙～明赤褐	30	カマド。
7	環	口(14.8) 高5.0	B+W	褐灰～にふい橙	50	No.5. 内外面全体に黒色
8	環		B+R少+W+W'	橙	30	貯蔵穴。口縁端部欠損(口径不明)
9	環	口(16.0)	B+R+W+W'	橙～黒褐	10	
10	環	口(11.0)	B多+R+W	にふい橙	40	
11	環	口(12.0)	B+W+W'	橙	30	風化が著しく調整不明瞭
12	環	口(12.0)	B+W+砂多	橙	20	カマド。
13	環	口19.0	B多+R+W	赤褐	30	No.2.
14	環	口20.9 胴19.6	B多+R+W多+砂少	赤褐	50	No.3-7. 内外面に黒色部分
15	環	底(4.6)	B+R+W少	明赤褐～にふい橙	下半部 20	No.4. 風化が著しく調整不明瞭

第106号住居跡 (第515図)

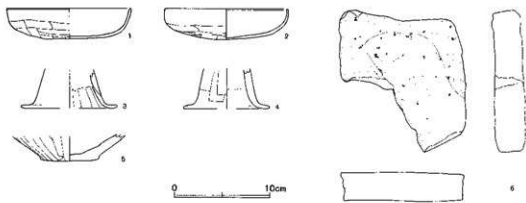
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口13.0 高3.2	B+R+W少	淡黄橙	95	
2	環	口13.0 高3.2	B+R+W+砂少	黄橙～橙	100	
3	高環	胴(10.0)	B+W+砂多	橙	胴部 20	風化により調整不明瞭
4	高環	胴(9.0)	B+W+W'+砂多	橙	胴部 20	風化が著しく調整不明瞭
5	環	底5.0	B+R+W+W'多	橙～灰褐	底部 50	風化が著しく内面調整不明瞭

第107号住居跡 (第516図)

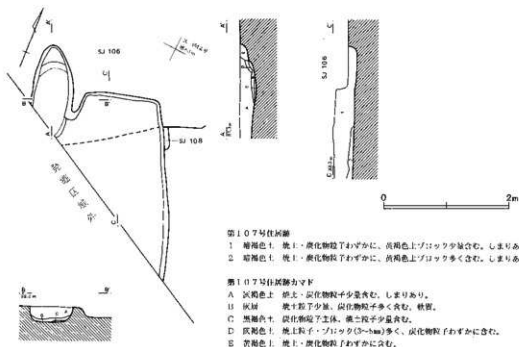
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口(12.0)	B+R多+W+W'	橙	10	口縁端部ヘラアテ面トリ
2	環	口(12.0)	B+R+W多	橙	20	口縁端部ヘラアテ面トリ 内面風化
3	環	底(5.0)	B+R+W+W'+砂多	橙	底部 20	カマド。底部ケズリ 風化



- 第106号住居跡
- 1 黄褐色土 填土面有砂层、黄褐色土坑子壳。
 - 2 黄褐色土 灰褐色土坑子壳。
 - 3 黄褐色土 坑上灰子壳层。
 - 4 黄褐色土 灰化层。



第515图 第106号住居跡·出土遺物

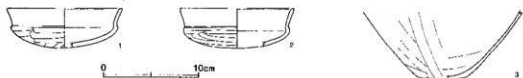


第107号住居跡

- 1 黄褐色土。焼土・炭化物粒了わずかに、黄褐色土がブロック状に含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土。焼土・炭化物粒了わずかに、黄褐色土がブロック状に含む。しまりあり。

第107号住居跡カマド

- A 黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- B 灰褐色土 焼土粒子少量。炭化物粒子多く含む。積層。
- C 黒褐色土 炭化物粒了土体。炭土粒子少量含む。
- D 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)多く。炭化物粒子わずかに含む。
- E 黄褐色土 焼土・炭化物粒了わずかに含む。

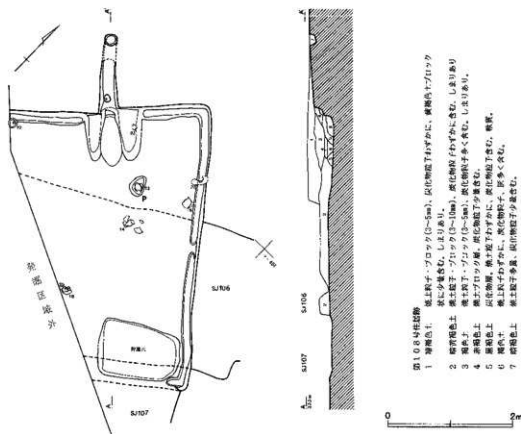


第516図 第107号住居跡・出土遺物

りも古く、第108号住居跡よりも新しい。大半が発掘区域外であり、深さ0.12~0.17m、主軸方位はN-30°-Wを測る。住居跡の規模は不明である。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は認められていない。カマドは北壁に構築され、現存長1.49mを測る。袖部は地山が掘り残され、東側のみ調査されている。燃燒部は楕円形を呈し、摺り鉢状に掘り穿められている。火床面は緩やかに立ち上がり、煙道部はごく短い。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物の量はきわめて少ない。3は第106号住居跡より混入したものと思われる。

第108号住居跡 (第517図)

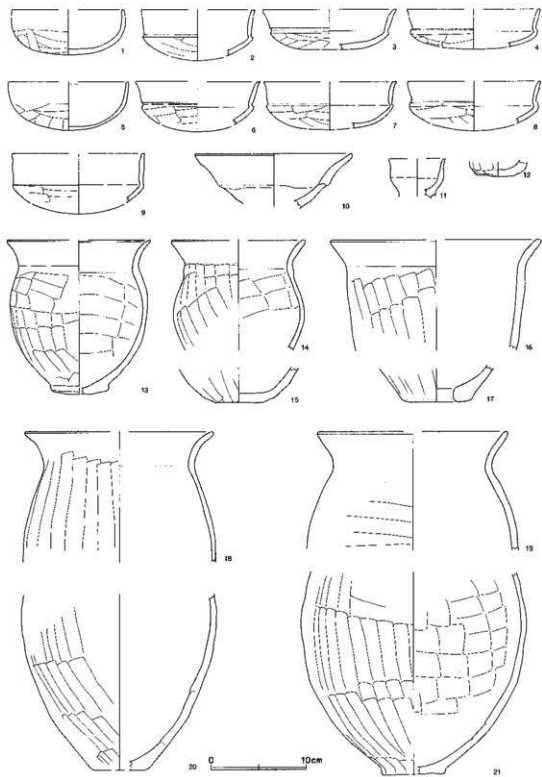
セー403・404、スー404Gridに位置している。第106・107号住居跡と重複し、新旧関係は、第106・107号住居跡よりも古い。南側半分は発掘区域外にかかり、南東壁が第107号住居跡と重複しているため検出されていない。そのため規模は明確ではないが、主軸方向の北東壁は4.35m、深さ0.34~0.96mであり、主軸方位はN-35°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は北東壁



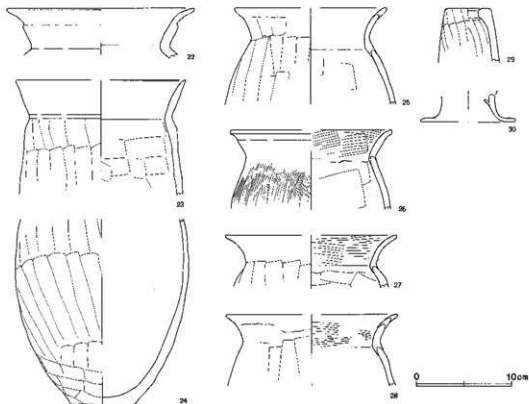
第517図 第108号住居跡

中央で途切れている。南東壁には廻っていない。壁溝の規模は幅0.14～0.36m、深さ0.24～0.40mを測る。カマドは北西壁やや東よりに構築され、全長2.10m、焚き口幅0.43mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字に開いている。燃焼部は楕円形を呈し、ごく緩やかではあるが窪んでいる。火床面は急激に立ち上がり、狭い平坦面を形成し、再び急激に立ち上がって煙道部へ繋がっている。煙道部は細長く外方に延び、途中土取りによる削平を受けている。煙出部分は垂直方向にビット状に掘り込まれている。貯蔵穴はいびつな長方形で、カマドと対向する壁際の東コーナー部に位置している。南北0.86m・東西1.30m、深さ0.11mを測る。検出されているビットは1基で、柱穴と考えられる。住居跡南半部分の貼床は明確に残存している。遺物は比較的多く出土しているが、第107号住居跡のものも混入しているものと思われる。

- 第108号住居跡
- 1 埋褐色土 焼土粒子・ブロッキング(3～5m)、灰化物粒了わずかに、黄褐色土ブロッキングに少量含む、しほりあり。
 - 2 埋褐色土 焼土粒子・ブロッキング(3～10m)、灰化物粒子わずかに含む、しほりあり。
 - 3 埋褐色土 焼土粒子・ブロッキング(3～5m)、灰化物粒子多く含む、しほりあり。
 - 4 埋褐色土 灰化物層、焼土粒了わずかに、灰化物粒了少量含む。
 - 5 埋褐色土 灰化物層、焼土粒了わずかに、灰化物粒了含む、粗質。
 - 6 埋褐色土 焼土粒子わずかに、灰化物粒子、灰多量含む。
 - 7 埋褐色土 焼土粒子多量、灰化物粒子少量含む。



第518図 第108号住居跡出土遺物(1)



第519図 第108号住居跡出土遺物(2)

第109号住居跡 (第520図)

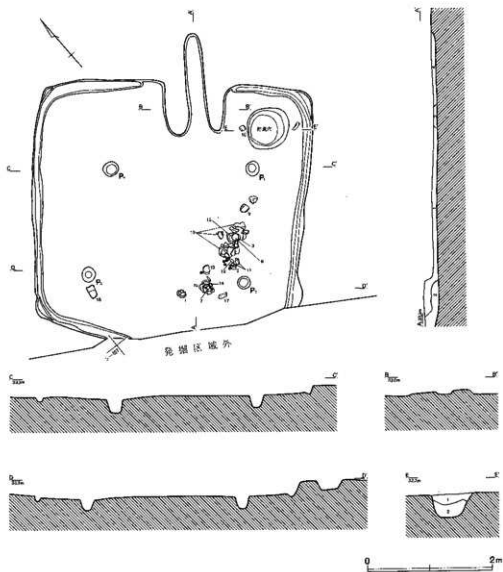
スー406、シー406・407Gridに位置している。南コーナー部は発掘区域外にかかっている。大半が土取りによる削平を受け、辛うじて床面付近が残存している程度である。平面形態は歪な方形を呈している。規模は主軸辺の計測可能な個所で4.10m・長辺4.37m、深さはわずかに0.07~0.15mほどであり、主軸方位はN-41°-Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、幅0.07~0.25m、深さ0.28~0.87mの取溝がほぼ全周している。カマドは北東壁中央やや南よりの位置に構築され、全長1.62m、焚き口幅0.46mを測る。袖部は地山が掘り残され、煙道部は外方に長く延びている。火床面は平坦である。貯蔵穴は円形で、カマドの南側の東コーナー部に位置している。南北0.63m・東西0.68m、深さ0.40mを測る。4基検出されているピットは、いずれも柱穴である。遺物は南コーナー部付近の床面直上から出土している。土師器のほか、須恵器1片、礪物石1点、縄文土器3片、弥生土器1片がある。

第110号住居跡 (第522図)

いー402、ろー402Gridに位置している。第111号住居跡と重複し、新旧関係は第111号住居跡よりも新しい。カマドは片袖で、規模は主軸辺の長い方が3.38m・短い方が2.92m、短辺は2.54m、

第108号住居跡 (第518・519図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.6) 高4.7	B+R+W+	橙	40	底部外面に焼きむら 風化
2	坏	口(12.0)	B+R+W+砂少	橙	30	口縁端部面トリ
3	坏	口(14.0)	B+W	橙～にふい燻	20	口縁端部ヘラアテ面トリ
4	坏	口(14.0)	B+R多+W	橙	30	口縁端部面トリ
5	坏	口12.4 高5.1	B+R+W少	橙	60	外面に黒色部分
6	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	40	口縁端部ヘラアテ面トリ
7	坏	口(14.0)	B+R+W	橙	30	貯蔵穴。口縁端部ヘラアテ面トリ
8	坏	口(14.0)	R多+W	橙	30	口縁端部面トリ
9	坏	口(14.0)	R+W+W'	橙	20	口縁端部ヘラアテ面トリ(貯蔵)
10	高坏	口16.3	B+R+W少	橙	50	No.10. 粘土組織み上げ痕跡 外面に黒色部分
11	ミニチュア	口(6.0)	B+R+W	にふい橙	坏部 50	風化により調整不可瞭
12	ミニチュア	底(3.9)	B+R	黄橙	20	
13	小型甕	口(15.0) 高16.1 底(5.8)	B+R+W+砂少	黄橙～橙	50	No.7.
14	小型甕	口(14.0)	B多+R多+W+砂少	灰褐～浅黄橙	20	No.4. 外面黒色
15	甕	底5.0	B+R+W+W'+砂	(内)浅黄橙 (外)にふい橙	底部 100	内面は風化著しい 底部一方向のケズリ
16	甕	口(21.7)	B+R+W	橙	口縁 45	No.5.
17	甕	底(7.2)	B+R+W	橙	底部 90	外面に黒色部分
18	甕	口(19.6) 胴20.2	B+R少+W少	浅黄橙	口縁 25	No.1.
19	甕	口(20.0)	B+R多+W	橙	口縁 10	口縁端部面トリ 風化著しく調整不明瞭
20	甕	底(5.3) 胴20.5	B+W少	浅黄橙～にふい橙	底部 25	底部は火をうけて赤く変色・剥離
21	甕	底(6.8) 胴(23.8)	B+R少+W	浅黄橙～褐灰	20	底部ケズリ 胴部外面が全体的に黒色
22	壺	口18.4	B+R+W	橙	口縁 70	No.6.
23	甕	口(17.8)	B+R少+W+W'少+砂少	にふい黄橙	口縁 25	No.8.
24	甕	底(6.3) 胴18.2	B+R+W	浅黄橙～橙	30	貯蔵穴。
25	甕	口(16.0)	B+R+W+砂多	浅黄橙	口縁 10	No.11.
26	甕	口(17.0)	R少+W+W'+砂多	橙	口縁 50	
27	甕	口(18.0)	B+R+W	にふい黄橙	口縁 40	
28	甕	口(18.0)	B+R+W+W'+砂多	橙	口縁 15	
29	支脚	上端4.8	B+R+W	橙	30	外面に黒色部分
30	台付坏	台(10.0)	R多+W	橙～黒褐	高台部 30	割れ口部分に粘土積み上げ痕跡



第109号住居跡

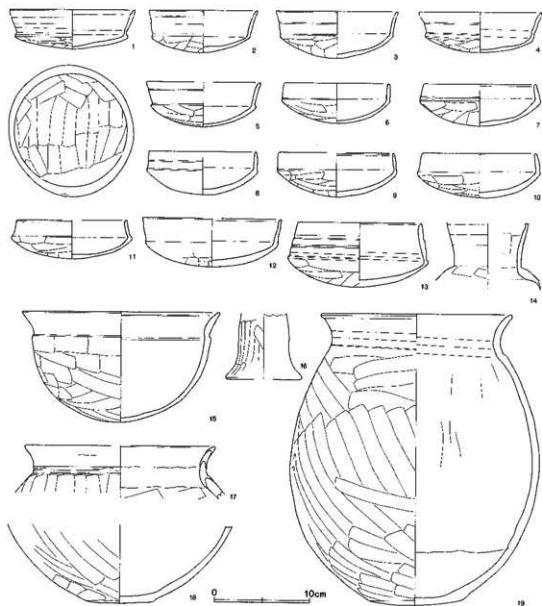
- 1 褐色土 黄土・炭化物粒下わずかに、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 黄土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 3 褐色土 黄土・炭化物粒子少量、焼土ブロック(5~10cm)多く含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土 焼土粒子・ブロック(3~10cm)少量、炭化物粒子、灰多く含む。

第109号住居跡的竈穴

- 1 暗褐色土 黄土・炭化物粒下わずかに、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 黄土・炭化物粒下わずかに含む。しまりあり。

第520図 第109号住居跡

深さ0.15~0.19mを測る。主軸方位はN-73°-Eを示している。壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。壁溝は北西コーナー部から西壁・北壁に廻っている。幅0.17~0.43m、深さ0.23~0.43mの規模をもっている。カマドは北東壁中央に構築され、煙道部は土取りによる掘乱を受けて



第521図 第109号住居跡出土遺物

いる。現存長0.89m、焚き口幅0.70mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字状に広がっている。燃焼部は隅丸方形で、摺り鉢状に掘り窪められている。火床面はよく焼けており、煙道部へ緩やかに続いている。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物はカマドの周辺部および南西コーナー部から出土しているが、量は少ない。

第109号住居跡 (第521図)

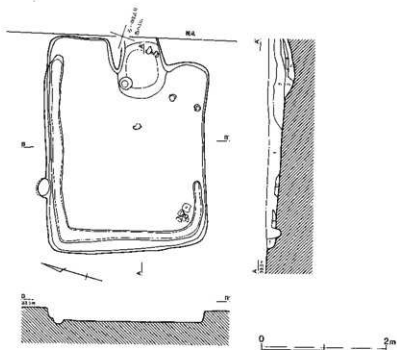
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	□12.8 高4.9	B+R多+W	橙	95	№18. 外面は黒色で一部剥離
2	环	□11.3 高4.4	B+R+W	にふい橙	60	№14. 外面は全体に黒色
3	环	□12.7 高4.9	B+R多+W	にふい橙	95	№8. □縁部に黒色部分
4	环	□12.8 高4.2	B+R多+W	橙	95	№16.
5	环	□(12.0) 高4.7	B少+R+W+W'	にふい橙	30	貯蔵穴。
6	环	□11.0 高4.2	B+R+W	橙	75	□縁部内外面黒色
7	环	□11.8 高4.4	B+R多+W+W'	にふい橙	100	№16.
8	环	□11.8 高4.6	B+R多+W+W'	明褐色	90	№7.
9	环	□(12.0) 高4.5	B多+R+W	にふい橙	50	№4. 内外面全体に黒色
10	环	□11.8 高4.6	B多+R+W	浅黄橙	95	№15. 外面に黒色部分
11	环	□(11.6) 高4.0	B+R多+W	橙	50	№11-12.
12	环	□(14.5) 高5.1	B+R+W	浅黄橙～橙	40	№13. 内面全体に黒色
13	环	□12.8 高6.8	B+R+W	浅黄橙	80	№9. □縁端部面トリ 外面全体に黒色
14	壺		B+R+W+W'	灰褐～橙	□縁 25	
15	鉢	□20.8 高11.5	B+R多+W	橙	95	№16. 胴部外面に黒色部分
16	支脚	下端(8.0)	B+R多+W+W'	橙	脚部 20	№2.
17	壺	□(20.0)	B+R+W+W'	にふい赤褐	□縁 20	№17. □縁端部ヘラアテ
18	壺	底7.0	B+R+W+W'+砂少+灰少	にふい黄橙～橙	底部 70	№19. 底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
19	壺	□(20.0) 底9.8 高30.3 胴26.1	B+R+W+W'+砂少+灰少	(内)赤(外)暗赤褐	85	№5-6-10. 底部ケズリ 内外面に黒色部分

第111号住居跡 (第525図)

いー402、ろー402Gridに位置している。第110号住居跡と重複し、新旧関係は第110号住居跡よりも古い。大部分が土取りによる削平を受けており、西壁部分のみが辛うじて残存している。一辺7.14m、深さ0.24～0.34mで、規模がかなり大きな住居跡である。西辺の方位はN-14°-Wを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。残存部分では壁溝が全周し、規模は幅0.14～0.23m、深さ0.30～0.40mを測る。カマド・貯蔵穴・ピット等は検出されていない。遺物は少なく、南西コーナー部より縄物石3点が出土している。

第112号住居跡 (第526図)

ろー402、はー102Gridに位置している。大部分が土取りによる削平を受けており、西壁部分が辛うじて残存しているのみである。重複している第13号溝との新旧関係は平面的には確認されていないが、第112号住居跡の土層断面に第13号溝の上層が認められなかったことから、第112号住居跡

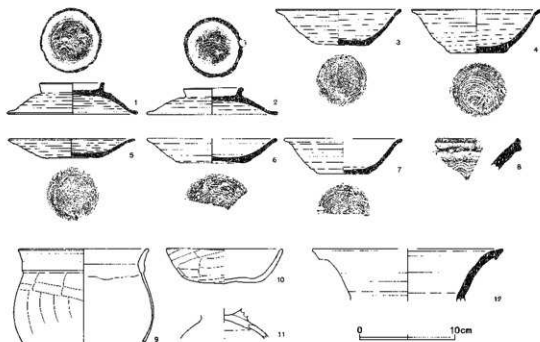


- 第110号住居跡
- 1 黄褐色土 焼土・黄褐色土に若干多量含む。
 - 1' 黄褐色土 1より若干多量含む。
 - 1'' 黄褐色土 1より北側に若干多量含む。
 - 1''' 黄褐色土 1より黄褐色土に若干多量含む。
 - 2 黄褐色土
 - 3 黄褐色土 焼土若干多量、黄褐色土に若干多量含む。
 - 4 黄褐色土 焼土・灰化層に若干多量含む。
 - 5 黄褐色土 焼土若干多量含む。

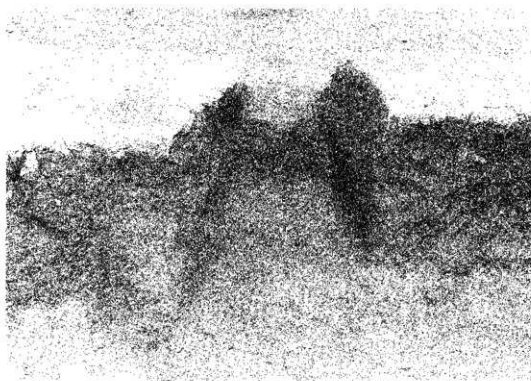
第522図 第110号住居跡

第110号住居跡(第523図)

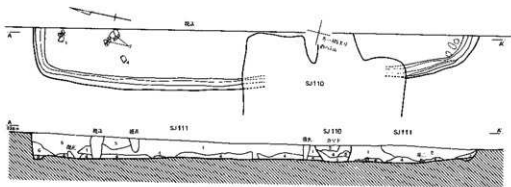
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	□13.6 つまみ6.8 高3.3	B+R+W+礎少	灰	95	回転糸切り跡した後、つまみナデツケ
2	蓋	□13.5 つまみ6.1 高2.8	B+R+W+礎少	灰〜にふい橙	75	回転糸切り跡した後、つまみナデツケ 内面に重ね焼きの痕跡
3	坏	□13.0 底5.4 高3.7	W+礎少	灰	85	回転糸切り跡し
4	坏	□13.3 底5.6 高4.5	W+礎少	灰	85	回転糸切り跡し
5	坏	□13.2 底5.3 高2.0	B+W+礎少	灰	70	回転糸切り跡し
6	皿	□(13.6) 底(6.6) 高2.5	B+W+W'+礎少	灰	30	回転糸切り跡し
7	坏	□(12.4) 底5.6 高3.7	W	灰	40	回転糸切り跡し
8	礎		W	灰		波状文
9	蓋	□13.5 胴14.6	B+R+W	黄橙〜橙	口縁 50	
10	坏	□12.1 底5.7 高3.7	B多+W+W'+砂少	灰濁〜にふい橙	100	底部ケズリ+ナデ
11	台付礎		B+R+W+W'	橙	脚部 30	
12	蓋	□(20.0)	W+礎少	灰	口縁 15	



第523図 第110号住居跡出土遺物



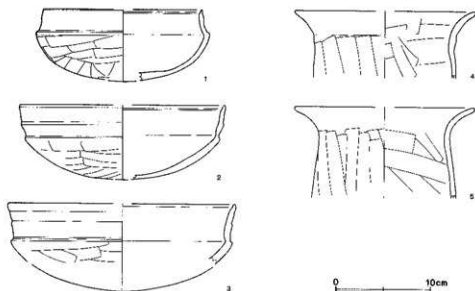
第524図 第114号住居跡カマド全景



第111号住居跡

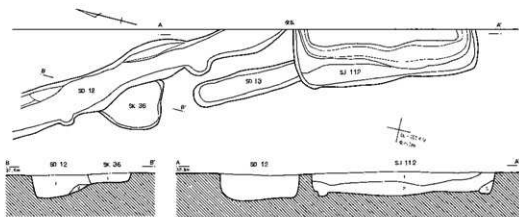
- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子少量含む。しまりやや弱。

- 4' 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりやや弱。
- 4'' 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子少量含む。しまりやや弱。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック少量含む。
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。砂粒混入。



第525図 第111号住居跡・出土遺物

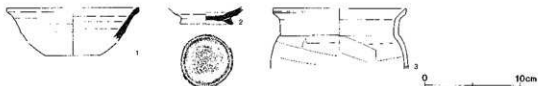
のほうが新しいものと推定できる。規模は、一辺が2.92m、深さは0.29-0.30mである。西辺の方位はN-13°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.17-0.33m、深さ0.15-0.36mの規模の壁溝が全周している。壁溝は壁のラインよりも大きく離れていることから、住居跡の掘り方の溝とも考えられる。しかし土取りによる削平を受けている付近で壁と壁溝が接近しているため、土層断面等によって確認されている訳ではないが、住居跡が拡張されていると解釈する方が妥



第112号住居跡

- 1 暗褐色土 粘土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 粘土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 空疎。炭化物・黄褐色土粒子微量含む。粘付ややあり。

0 2m



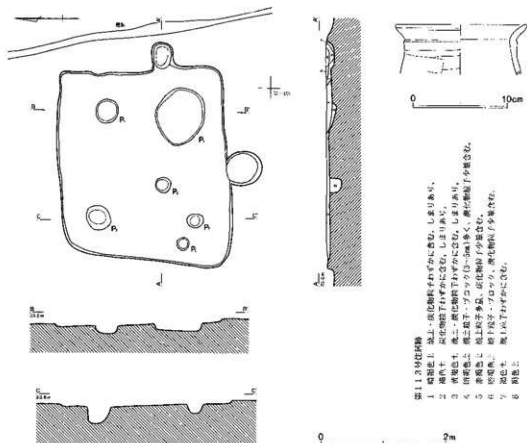
第526号 第112号住居跡・出土運物

第111号住居跡 (第525図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(X)	備考
1	鉢	□(18.0)	B+R+W	褐灰～橙	40	No.1. 口縁端部面トリ沈線 内外面黒色
2	鉢	□(21.4)	B+R多+W+W'	橙	30	No.2-3.
3	鉢	□(24.0)	B+R少+W	橙～黒褐	口縁 20	
4	甕	□(19.0)	B+R少+W	橙	口縁 10	No.6.
5	甕	□(19.0)	B+W+砂多	橙	口縁 15	

第112号住居跡 (第526図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(X)	備考
1	甕	□(14.0)	B+R+W+W'	灰	口縁 20	
2	高台付甕	台5.6	W+砂少	灰	底部 100	回転糸切り磨し後、高台ナデツク内面に重ね柄きの痕跡
3	甕	□(14.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 30	



第527図 第113号住居跡・出土遺物

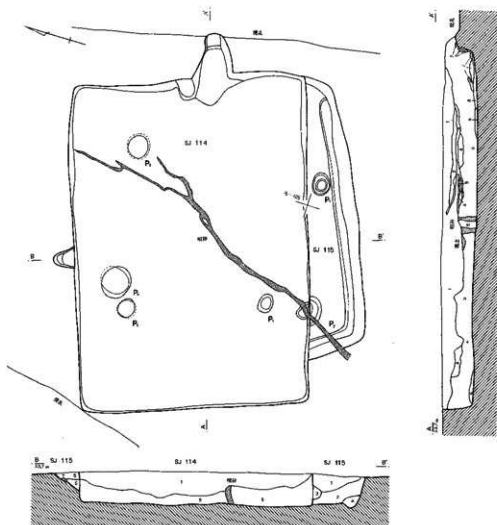
第113号住居跡 (第527図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	罎	口(14.0)	B+R+W'	橙～浅黄橙	口縁 10	

当と思われる。カマド・貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物は少なく、図示し得たものほかに須恵器11片が出土している。

第113号住居跡 (第527図)

は-404・405Gridに位置している。上取りによる削平を受けており、深さが0.04-0.06mとたいへん浅い。規模は主軸辺2.98m・短辺2.72mであり、主軸方位はN-87°-Eを測る。カマドは東壁中央やや南よりに構築され、全長0.42m、焚き口幅0.27mを測る。燃焼部は壁外に張り込まれ、隅丸方形を呈している。火床面は摺り鉢状に窪み、袖部は検出されていない。煙道部は削平されていると推測される。貯蔵穴は確認されていない。6基検出されているピットのうち、P1-P4が柱穴である。遺物は少なく、ほかに須恵器1片、縄物石2点が出土している。



第114号住居跡

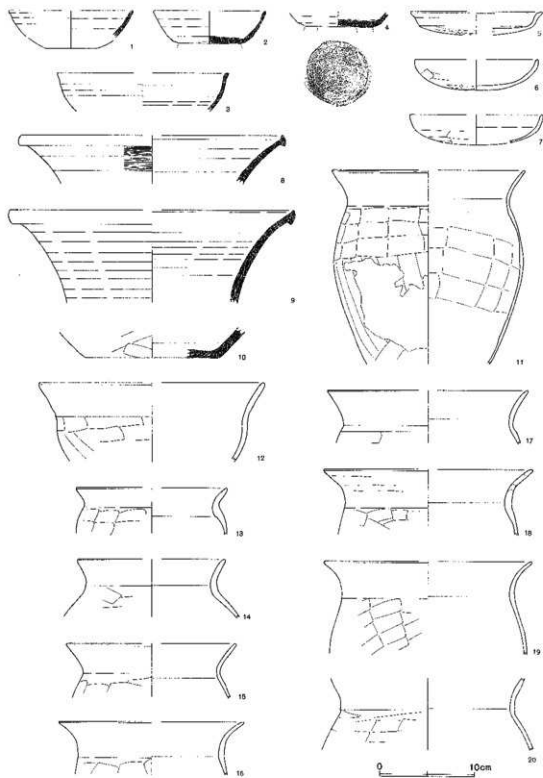
- 1 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(0~5cm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5cm)少量、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 炭化物粒子主体。焼土粒子・ブロック(3~5cm)多く、暗褐色土混じり含む。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック状に多量含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5cm)、炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 6 黄褐色土 ブロック状堆積。暗褐色土粒子含む。しまりあり。

- 7 赤褐色土 焼土ブロック堆積。炭化物粒子少量、暗褐色土粒子含む。
- 8 黄褐色土 炭化物層。焼土粒子少量含む。軟質。
- 9 暗褐色土 焼土粒子多く、炭化物粒子少量含む。しまりあり。

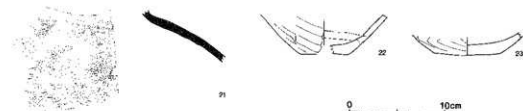
第115号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。粘性弱。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 微溝。粘性あり。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。
- 6 灰土層 炭化物微量含む。
- 7 黄土層 炭化物粒子微量含む。

第528図 第114・115号住居跡



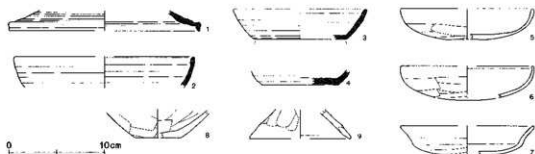
第529图 第114号住居跡出土遺物(1)



第530図 第114号住居跡出土遺物(2)

第114号住居跡 (第529・530図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.0)	W+針	灰	口縁 15	
2	坏	口(12.0) 底6.6 高3.4	W+針少	灰	底部 100	底部全面右回転ヘラケズリ
3	椀	口(16.0)	W	灰	口縁 10	口縁外部面に自然釉が環状に付着
4	坏	底7.0	W+砂少	灰	底部 100	カマド。回転糸切り離し後、周辺右回転ヘラケズリ
5	坏	口(13.6)	B+R多+W	黄橙	口縁 20	口縁外部面トリし、沈線が残る
6	坏	口(12.8) 高4.0	B+R多+W	にふい橙	30	
7	坏	口(14.0)	B+W+W'	橙	15	
8	甕	口27.8	W+泥少	灰~灰白	口縁 25	カキメ 内面に自然釉付着
9	甕	口(29.8)	W+泥少	灰~灰白	口縁 20	部分的に自然釉付着
10	甕	底(14.0)	W	(内)灰白 (外)暗灰	底部 10	
11	甕	口(20.0) 胴(20.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 30	胴部外面下半にカマドの二次焼成による粘土付着
12	鉢	口(23.3)	B+R少+W+W'	にふい橙	口縁 40	外面黒色
13	甕	口(16.8)	B+R多+W	橙	口縁 20	
14	甕	口(16.4)	B+R+W	橙	口縁 40	
15	甕	口(17.8)	B+R多+W	橙	口縁 20	
16	甕	口(19.4)	B多+R+W	浅黄橙	口縁 20	
17	甕	口(21.0)	B+R多+W	橙	口縁 30	
18	甕	口(21.8)	B+R+W	灰褐~橙	口縁 20	外面黒色
19	甕	口(21.8)	B+R多+W	にふい橙	口縁 25	
20	甕		B+R+W	橙	口縁 25	口縁部欠損(口径不明)
21	甕		W+泥少	灰~オリーブ灰		外面平行タケキ、内面ナデ
22	甕	底(5.0)	B+R+W	橙~黄橙	底部 30	底部外面黒色
23	甕	底6.8	B+R+W	黒~浅黄橙	底部 50	内面・底部外面黒色



第531図 第115号住居跡出土遺物

第115号住居跡 (第531図)

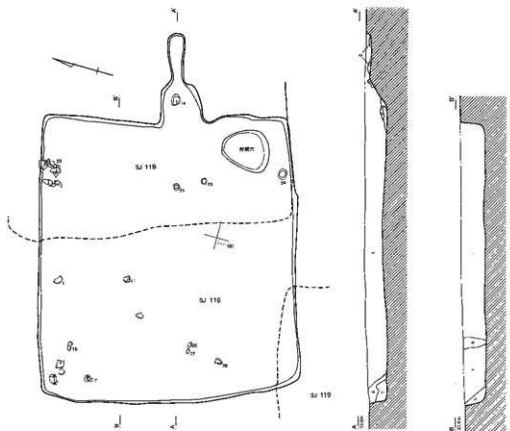
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(20.0)	V+針	灰	10	
2	鉢	口(19.0)	V+針	灰	10	
3	杯	口(14.0)	V+針	灰白	30	底部ケズリ
4	杯	底(8.0)	V	灰	底部 40	底部外面の風化が著しく、切り離し技法不明
5	杯	口(14.0)	B+W+W'	橙	30	風化著しい
6	杯	口(14.0)	B+W+W'	橙	30	
7	杯	口(14.0)	B+R+W	にぶい赤褐	20	
8	蓋	底(5.0)	B+R+W+磯少	橙	底部 40	底部は一方のケズリ
9	台付蓋	台(10.6)	B+R多+W+W'	橙	脚部 40	

第114・115号住居跡 (第524・528図)

第114・115号住居跡は、い—404・405、ろ—404・405Gridに位置し、噴砂の亀裂が南北に走っている。第114号住居跡のカマドの煙道部は土取りによって削平されている。新旧関係は第114号住居跡が第115号住居跡よりも新しい。

第114号住居跡の規模は、主軸辺5.36m・短辺4.61m、深さ0.30～0.52mであり、主軸方位はN—73°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は認められていない。カマドは東壁中央に構築されている。捩乱されているため、現存長1.13m、焚き口幅0.54mを測る。燃焼部が壁外に掘り込まれ、袖部は北側のみが検出されているが規模は小さい。火床面は摺り鉢状に掘り窪められ、急激に立ち上がって煙道部へ続いている。煙道部はある程度の長さを有していたものと想定される。貯蔵穴は検出されていない。ピットは4基で、柱穴もしくはこれに付随する機能を有するものと考えられる。遺物は図示し得たもののほかに、瓦石1点、縄文土器2片が出土している。

第115号住居跡の規模は、一辺4.41m、深さ0.39～0.53mで、主軸方位はN—22°—Wを測る。カマドが北壁に構築され、煙道部先端のみが第114号住居跡北壁外側に検出されている。カマドの位



第116号住居跡

- 1 暗褐色土 焼上粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼上粒子・ブロック(5~10mm)多量、炭化物粒子少量含む。
- 3 黒褐色土 焼上・炭化物粒子、灰多く、焼上ブロック(3~5mm)少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 5 黄褐色土 焼上・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 6 暗褐色土 1に準じ、炭化物の集中部。

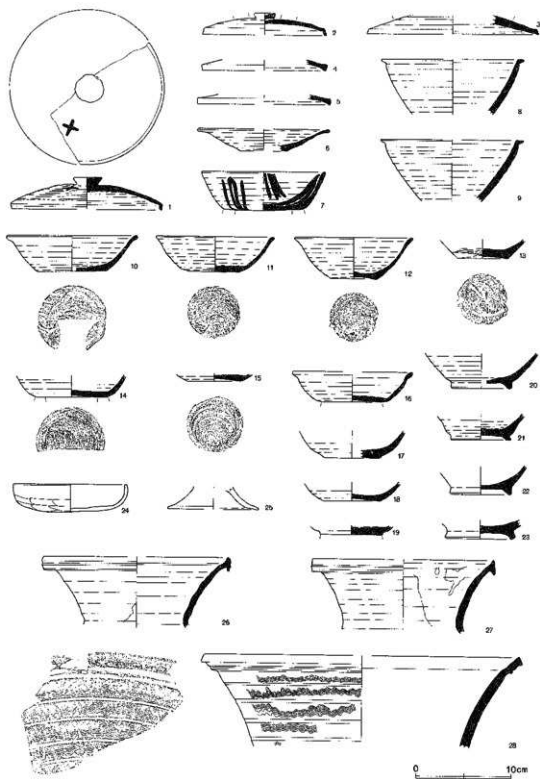
0 2m

第532図 第116号住居跡

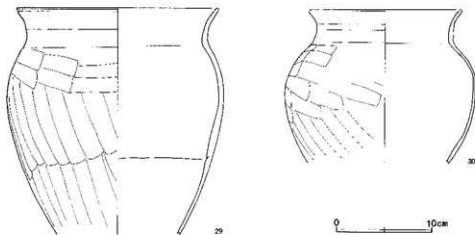
置および想定される規模から第115号住居跡は主軸辺のやや短い形態を呈していたものと推測される。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は調査されている部分においてはほぼ全周している。幅0.26~0.36m、深さ0.43~0.74mの規模をもっている。貯蔵穴は確認されていない。ピットは2基検出されている。遺物は第114号住居跡から混入したものがほとんどで、時期を特定できるものはない。ほかに縄文土器1片が出土している。

第116号住居跡 (第532図)

ン—404・405、い—404・405Gridに位置している。第118・119号住居跡と重複し、新旧関係は



第533图 第116号住居跡出土遺物(1)

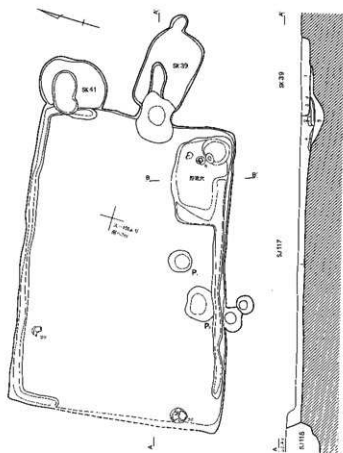


第534図 第116号住居跡出土遺物(2)

第116号住居跡(第533・534図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(15.6)	W	灰~暗灰	30	No.5. 口縁部は黒色 外面に「+」の 胎書
2	蓋	口(13.0) 高(2.3) つまみ2.2	W	灰~暗灰	40 (30+10)	No.4. 内面の風化が著しい 番面粗 2 点同一個体
3	蓋	口(16.0)	B+W少	灰白	10	
4	蓋	口(13.0)	W	灰~暗赤灰	10	
5	蓋	口(14.0)	W	青灰~にふい赤褐	口縁 20	焼成やや不良
6	皿	口(13.8)	B+W	灰白	口縁 30	カマド、貯蔵穴。回転糸切り離し
7	坏	口12.8 底8.4 高4.1	B+W	灰	95	No.11. 底部手持ちヘラケズリ後、周辺 回転ヘラケズリ 火だすき風の痕跡
8	碗	口(14.7)	W	灰	口縁 20	口縁部外面に火だすき風の痕跡
9	碗	口(14.8)	W	灰	口縁 20	
10	坏	口13.6 底7.0 高3.6	B+W	灰	70	カマド。回転糸切り離し
11	坏	口12.3 底5.3 高3.7	B+W	灰白	50	No.6. 回転糸切り離し、周辺部ナデツケ
12	坏	口12.3 底4.9 高4.3	W+混少	灰	50	貯蔵穴。回転糸切り離し
13	坏	底5.2	B多+W	にふい黄褐~灰黄 褐	底部 100	回転糸切り離し 体部外面にヘラの ひっかき痕 焼成不良
14	坏	底7.6	W多+針	灰	底部 50	回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
15	坏	底5.8	W多+針	灰~暗赤灰	底部 95	No.8. 回転糸切り離し
16	坏	口(12.6) 底6.4 高3.1	W+針少	灰	30	左回転ヘラケズリ
17	坏	底(6.0)	B	灰	底部 30	回転糸切り離し
18	坏	底(6.0)	B多+W	にふい黄褐~橙	底部 20	回転糸切り離し 焼成不良
19	坏	底6.4	W	オリーブ灰	底部 100	左回転ヘラケズリ

20	高台付納	台(6.0)	B+R+W	黄橙～にぶい橙	30	カマド。ヘラケズリ後、高台ナデツケ 酸化焙焼成
21	高台付納	台6.7	B多+W	灰	25	№3。ヘラケズリ後、高台ナデツケ
22	高台付納	台6.0	B+R多+砂多	にぶい橙	35	カマド。ヘラケズリ後、高台ナデツケ 酸化焙焼成
23	高台付納	台6.9	B多+R+W	橙	20	№2。ヘラケズリ後、高台ナデツケ 酸化焙焼成
24	坪	□11.7 高2.9	B+R+W+W' 少	橙	90	№1。
25	台付壁	台(9.6)	B+R+W	橙	脚部 25	
26	竈	□(19.4)	B+W	灰	口縁 25	№12。外面一部・内面に自然軸付着
27	竈	□(19.0)	W	灰～輪オリーブ	口縁 15	№12。全体に自然軸付着
28	竈	□(33.2)	B少+W+砂少	灰～褐灰	口縁 20	№13。
29	竈	□21.0 脚23.2	B+R+W多	橙	40	№4。
30	竈	□16.8 脚19.9	B多+R+W+W' +砂少	橙	45	



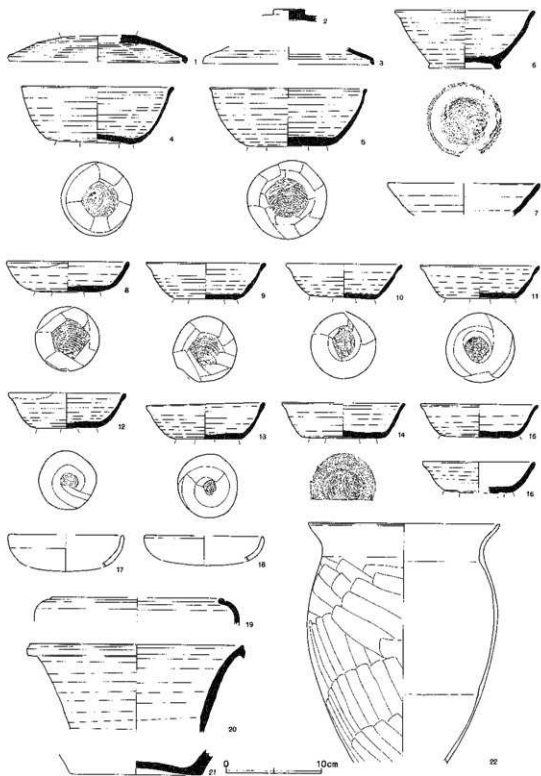
第117号住居跡

- 1 築造上 灰上・黄化物混入。黄褐色ナプロック少量混入。しまじあり。
- 2 築造上 灰上ナプロック少量。黄褐色ナプロック少量混入。
- 3 築造上 灰上灰下少量。黄化物混入多量。少くも黄褐色。
- 4 築造上 灰上無混入。
- 5 築造上 灰上灰下・ナプロック。黄化物混入。黄褐色ナプロック少量混入。

第117号住居跡の周辺

- 1 築造上 灰上灰下・ナプロック。黄化物混入。黄褐色ナプロック少量混入。
- 2 築造上 灰上・黄化物混入。
- 3 築造上 灰上・黄化物混入。
- 4 築造上 灰上・黄化物混入。

第535図 第117号住居跡

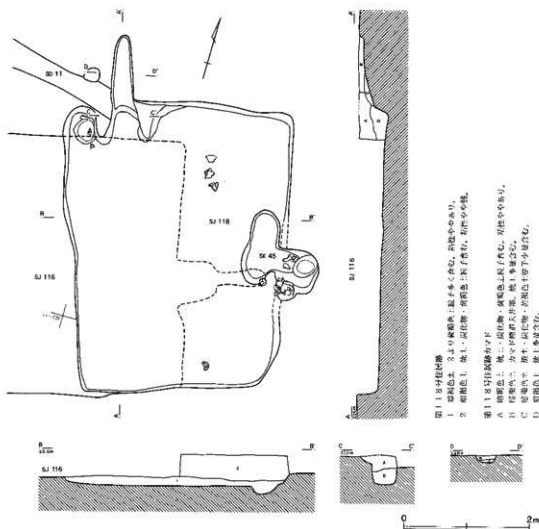


第536图 第117号住居跡出土遺物

第117号住居跡 (第536区)

No.	器 種	大きさ(cm)	胎 土	色 調	残存率(%)	備 考
1	甕	□(18.5)	V多	赤褐～灰赤	45	蓋上間は西転ヘラケズリ
2	蓋のつまみ		B+W	灰	10	
3	甕	□(18.0)	V	青灰～灰	口縁 15	
4	鉢	□15.8 底8.7 高5.8	V	灰	60	No.9. 回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ
5	鉢	□16.2 底8.2 高8.1	V	灰～灰白	75	回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ
6	高台付鉢	□14.5 台7.3 高5.1	B+W+V多	灰	60	No.2. 回転糸切り離した後、高台ナデツケ
7	坏	□(18.0)	V+針	灰	口縁 10	
8	坏	□12.6 底8.8 高3.2	V	灰	70	回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ 口縁部に黒色の火だすき風の痕跡
9	坏	□12.4 底8.6 高3.8	B+W	灰白	70	回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ
10	坏	□12.0 底6.9 高3.5	B+W+針	灰白	60	回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ
11	坏	□12.4 底7.2 高2.4	B+R+W+磁少+針	橙～赤褐	75	回転糸切り離した後、周辺回転ヘラケズリ 口唇部は赤褐
12	坏	□12.2 底7.0 高3.7	B+W+針	灰	75	回転糸切り離した後、周辺回転ヘラケズリ 口唇部に火だすき風の痕跡
13	坏	□12.3 底8.6 高3.7	B+W	灰白	80	回転糸切り離した後、周辺回転ヘラケズリ
14	坏	□12.8 底(8.9) 高3.7	B+W+針	灰	30	カマド。回転糸切り離した後、周辺ヘラケズリ
15	坏	□12.2 底8.2 高3.5	B+W+磁少+針	灰～オリーブ灰	50	回転糸切り離し 口縁部黒色
16	坏	□11.7	B+W+磁少	オリーブ灰	50	底部周辺ヘラケズリ 内側に沈積
17	坏	□(12.0)	B+W+V	橙	20	風化が著しく調整不明
18	坏	□(12.4)	B+W	橙	30	風化が著しく調整不明
19	無原壺	□(18.0)	V	灰～暗灰	口縁 20	口縁部外周ヘラアテ沈積
20	甕	□22.3	V+磁少	灰	口縁 95	No.3.
21	甕	底(13.8)	B+W	灰	底部 50	底部ケズリ
22	甕	□20.0	B+R多+W	赤褐	70	No.4.

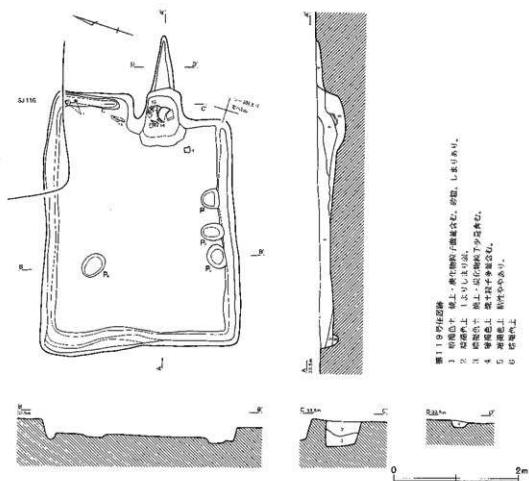
第118・119号住居跡よりも新しい。規模は、主軸辺4.52m・短辺4.13m、深さ0.23～0.39mであり、主軸方位はN-74°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は検出されていない。カマドは東壁中央に構築されている。全長1.53m、焚き口幅0.72mを測る。燃焼部が外方に掘り込まれ、方形を呈している。袖部は認められていない。火床面は平坦面から緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。煙道部は先太り気味に延びている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に位置している。不整形円で、南北0.74m・東西0.67m、深さ0.23mを測る。ピットは検出されていない。遺物は比較的多く、なかでも「X」の墨書のある須恵器の蓋が出土している。



第537図 第118号住居跡

第117号住居跡 (第535図)

いー403・404Gridに位置し、第118号住居跡、第39・41号土坑と重複している。新旧関係は第118号住居跡よりも新しく、第39・41号土坑よりも古い。平面形態は長方形で、主軸辺4.77m・短辺3.28m、深さ0.11~0.67mの規模をもっている。主軸方位はN-80°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は北東コーナー部から北西コーナー部までと南壁に廻っている。規模は幅0.14~0.26m、深さ0.17~0.54mである。カマドは東壁中央に構築され、全長1.26m、焚き口幅0.58mを測る。燃烧部が壁外に掘り込まれ、不整形を呈している。袖部は検出されていない。火床面は摺り鉢状に掘り込まれ、緩やかに立ち上がって煙道部に絞っている。煙道部は比較的短い。貯蔵穴はカマドの南側の南東コーナー部に位置し、南壁の壁溝と接している。長方形で、規模は南北

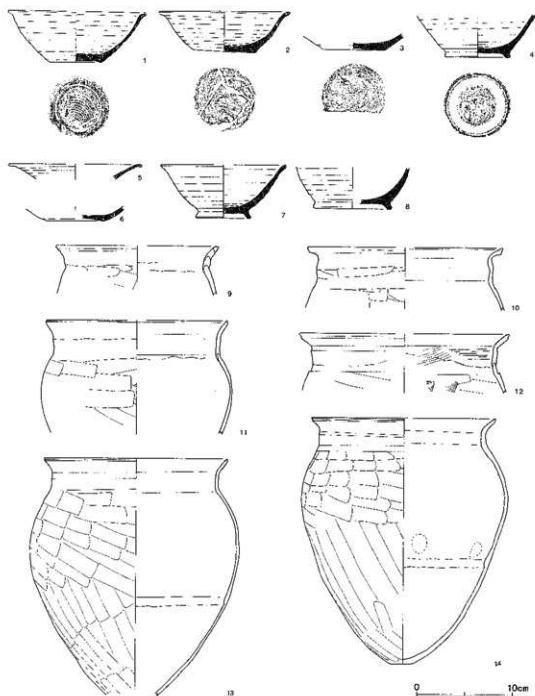


第538図 第119号住居跡

0.94m・東西1.41m、深さ0.34mを測る。南東コーナー部がピット状に掘り込まれており、ここをP2が柱穴となる可能性をもっている。ピットは2基検出されている。また住居跡外部に南辺に接してピットが存在しているが、住居跡との関係は明確ではない。ただし住居跡に関連する機能をもっているピットである可能性は高い。遺物は須恵器を中心とし、ほかに石製不明品が出上している。

第118号住居跡 (第537図)

N-404、い-404・405Gridに位置している。第116・117号住居跡・第45号土坑・第11号溝と重複し、新旧関係はほかの遺構よりも古い。規模は主軸辺4.57m・短辺3.28m、深さ0.13~0.14mであり、主軸方位はN-18°-Wを測る。南壁はほぼ垂直に、西壁は緩やかに立ち上がっている。壁溝は検出されていない。カマドは北壁の北西コーナー部付近に構築され、全長1.72m、焼き口幅0.47mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字に開いている。火床面はよく焼けてお



第539図 第119号住居跡出土遺物

り、平坦面から急激に立ち上がって煙道部に続いている。煙道部は外方に長く延びている。貯蔵穴は検出されていない。ピットは北西コーナー部のカマドに接している位置に検出されており、遺物が出土している。規模は小さいものの、これが貯蔵穴となる可能性もある。遺物は土師器13片、須

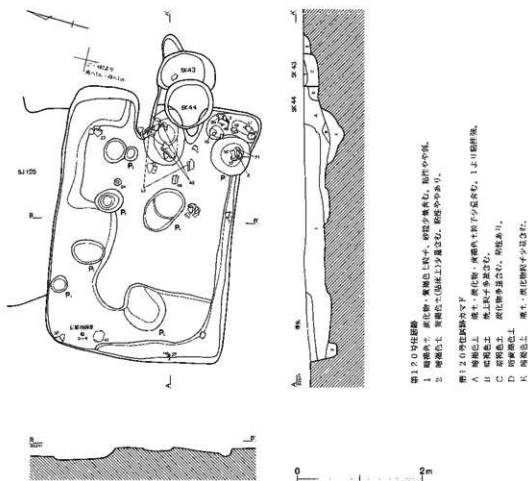
第119号住居跡 (第539図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	椀	口(14.4) 底5.6 高5.1	B+R+W+少量	におい黄橙～褐灰	50	№1・2. 回転未切り離し
2	坏	口13.6 底6.5 高4.2	B+R+W+少量	におい黄橙～褐灰	95	回転未切り離し
3	坏	底8.8	R+W+W'	洗黄～灰黄	底部 80	回転未切り離し 風化
4	高台付碗	台6.8	B+R多+W	におい橙～褐灰	30	№4. 回転未切り離し後、高台ナデツケ
5	皿	口(14.0)	W	灰白～黒褐	10	
6	坏	底(8.0)	W+砂	灰	底部 40	回転未切り離し
7	高台付碗	口(13.0) 台(6.2) 高5.5	B+R+W	におい黄橙～灰白	30	回転未切り離し後、高台ナデツケ
8	高台付碗	台(8.2)	B+R+W+W'	におい橙～褐灰	20	回転未切り離し後、高台ナデツケ 酸化焙焼成
9	壺	口(17.0)	B+R+W+砂	橙	口縁 20	
10	壺	口(20.4)	B+R+W+W'	橙	口縁 25	
11	壺	口(19.0)	B+W	橙	上半部 25	№3. 内面は風化により調整不明瞭
12	壺	口(22.0)	B+R+W+砂	におい赤褐	口縁 20	
13	壺	口19.2 胴21.9	B多+R+W+W'	(内)赤褐 (外)灰赤	80	№6. 胴部外面中に帯状の黒色部分
14	壺	口19.2 底2.4 高25.6 胴21.6	B多+R+W+W'	(内)赤褐 (外)明赤褐	70	№5・7・8. 胴部外面に黒色部分

恵器1片で、図示し得るものは認められない。

第119号住居跡 (第538図)

シ-404・405Gridに位置している。第116号住居跡と重複し、新旧関係は第116号住居跡よりも古い。カマドは片袖で、規模は主軸辺の長い方が4.06m・短い方が3.56mであり、短辺3.02m、深さ0.18～0.33mを測る。主軸方位はN-76°-Eである。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝はほぼ全周している。壁溝の規模は幅0.21～0.39m、深さ0.26～0.32mである。カマドは東壁中央やや南よりに構築され、全長1.76m、焚き口幅0.64mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字に開いている。燃焼部は方形を呈し、摺り鉢状に掘り込まれている。火床面は比較的よく焼けており、急激に立ち上がっている。煙道部は先細り気味に、外方に延びている。貯蔵穴は検出されていない。ピットは4基検出され、P3・P4が柱穴で、ほかは壁溝に沿っている。入口部に関連した機能が考えられる。遺物は供膳形態としての須恵器と、貯蔵・煮沸形態としての土師器に明確に分割されている。



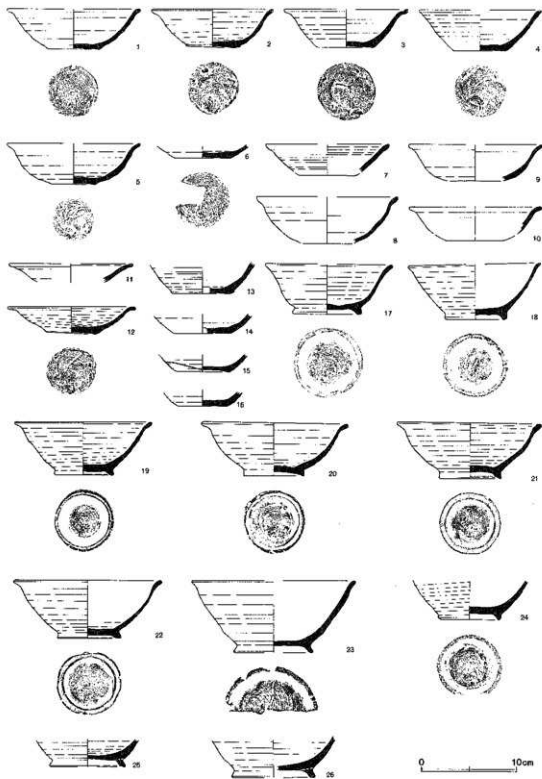
第120号住居跡
 1. 燧石・炭化物・黄褐色土粒子、砂粒少量を含む、粘りや中体。
 2. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。

第120号住居跡の断面
 A. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、1より粘り強い。
 B. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。
 C. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。
 D. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。
 E. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。
 F. 燧石・炭化物・黄褐色土(粘土)少量を含む、粘りや中体。

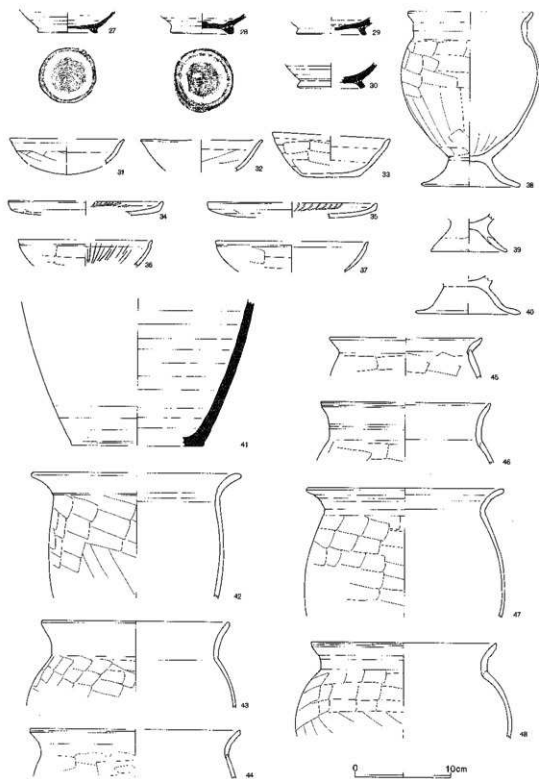
第540図 第120号住居跡

第120号住居跡 (第540図)

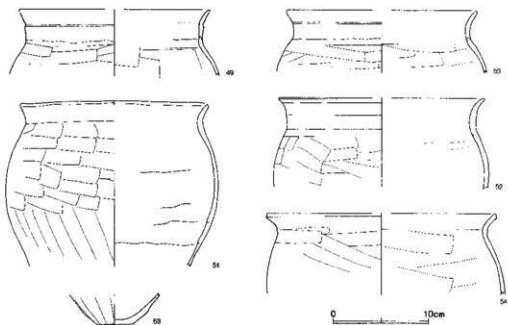
は—403Gridに位置し、第125号住居跡・第43・44号土坑と重複している。新旧関係は第125号住居跡よりも新しく、第43・44号土坑よりも古い。規模は主軸辺4.29m・短辺2.87m、深さ0.33～0.48mであり、主軸方位はN-81°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は南壁・西壁および北東コーナー部に廻っている。規模は幅0.12～0.54m、深さ0.42～0.48mである。カマド周辺および住居跡中央部の貼床は顕著であるが、北西コーナー部付近ではみられず、掘り方が溝状に検出されている。カマドは東壁中央に構築され、全長2.09m、焚き口幅0.65mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、「ハ」の字に開いている。燃焼部は楕円形を呈し、火床面は深く掘り込まれている。煙道部は外方に長く延びており、先端部が北側に緩やかに屈曲している。貯蔵穴は認められていない。ピットは7基検出され、P1・P2・P3が柱穴である。遺物はカマド周辺部から出土し、ほかに石製紡錘車1点、土製不明品1点、縄文土器1片、弥生土器2片がある。



第541图 第120号住居跡出土遺物(1)



第542图 第120号住居跡出土遺物(2)



第543図 第120号住居跡出土遺物(3)

第120号住居跡(第541~543図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 底5.4 高4.2	W	灰	40	回転糸切り難し
2	坏	口12.3 底4.7 高3.9	B+W+磁多	灰	100	No.4. 回転糸切り難し
3	坏	口(13.0) 底8.0 高4.0	R+W多	灰~にふい赤褐	40	No.32. 回転糸切り難し
4	坏	口(12.8) 底5.6 高4.3	W多+磁	灰~にふい赤褐	40	回転糸切り難し 焼成やや不良
5	坏	口(14.0) 底4.6 高4.2	R+W+砂	灰白~黄灰	25	No.11. 回転糸切り難し
6	坏	底8.0	W+磁少	灰	底部 80	回転糸切り難し
7	坏	口(13.0)	R+W	黒褐	25	
8	碗	口(14.8)	R多+W	灰白~にふい橙	40	No.8. 貯蔵穴. 焼成不良
9	坏	口(14.0)	R+W	にふい黄橙~橙	45	風化著しい 焼成不良
10	坏	口(14.0)	W	灰黄~黒	口縁 30	器面荒れている
11	皿	口(13.0)	B+W	灰白	口縁 20	
12	皿	口13.4 底5.0 高2.7	B少+W+磁少	灰	100	No.10. 回転糸切り難し
13	坏	底(6.0)	R+W+磁少	にふい黄橙~黒褐	底部 30	回転糸切り難し 焼成不良
14	坏	底(6.0)	W	灰	底部 30	回転糸切り難し 外面の器面粗
15	坏	底5.8	R+W	にふい赤褐~灰褐	底部 50	回転糸切り難し 焼成不良

16	环	底(5.2)	B+W	灰	底部 40	回転糸切り離し
17	高台付柄	口(13.3) 台(6.9) 高(5.2)	B+R+W+砂少	灰白～灰オリーブ	40	No.3. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
18	高台付柄	口(13.3) 台(6.0) 高(5.7)	B+R多+W+砂少	灰白～にふい煙	40	No.6. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
19	高台付柄	口14.4 台6.1 高(5.5)	B+R+W+砂少	灰	60	No.2. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
20	高台付	口15.4 台6.3 高5.5	B+W+砂少	灰	90	No.23. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
21	高台付柄	口15.1 台6.3 高5.8	B+R多+W	灰白～灰	100	No.7. 底部ナデ後、高台ナデツケ
22	高台付柄	口15.5 台6.4 高6.0	B+R+W多+砂少+砂少	灰白～にふい煙	80	No.26. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
23	高台付柄	口(17.1) 台(8.0) 高(7.5)	B+R+W+砂少	灰白～薄灰	40	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 内面風化
24	高台付柄	台6.0	B+R多+W	灰～浅黄煙	40	No.22. 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
25	高台付柄	台(8.0)	B+W	灰	30	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
26	高台付柄	台(8.7)	B+W+砂少	灰	20	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
27	高台付柄	台6.2	B+W	灰白	30	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
28	高台付柄	台6.5	B+W	黄煙～にふい煙	30	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
29	高台付柄	台(7.4)	B少+R少+W	にふい煙	20	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
30	高台付柄	台(7.0)	B多+W	灰	20	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
31	柄	口(12.0)	B+W+砂	煙	20	
32	环	口(12.8)	B+R+W	煙	30	風化
33	环	口(12.4) 底6.0 高4.5	B+R少+W+W'	煙～にふい黄煙	40	底部ケズリ ややいびつ
34	盤	口(16.0)	B+R+W+W'	煙～にふい煙	口縁 10	放射状斑文 外面に黒色部分
35	盤	口(17.7)	B+R+W+W'	煙～にふい煙	口縁 15	放射状斑文 外面に黒色部分
36	环	口(14.0)	B+W	煙～黒濁	20	放射状斑文
37	环	口(16.0)	B+R+W+W'	煙	10	
38	台付蓋	口(13.0) 脚14.4 台10.3	B+R+W	煙	70	No.31. 外面黒色
39	台付蓋	台6.0	B+R+W	煙	脚部 90	
40	台付蓋	台11.0	B+R+W+砂	煙	脚部 70	内面風化
41	蓋		B+W	灰	底部 20	No.27. 底部ケズリ
42	蓋	口(21.9)	B+R+W+W'	煙～浅黄煙	口縁 45	No.2.
43	蓋	口19.5	B+R多+W	にふい煙～煙	口縁 70	No.16・19. カマド。
44	蓋	口(22.0)	B+R+W	煙	口縁 30	
45	蓋	口(16.0)	B+R+W+W'	煙	口縁 15	

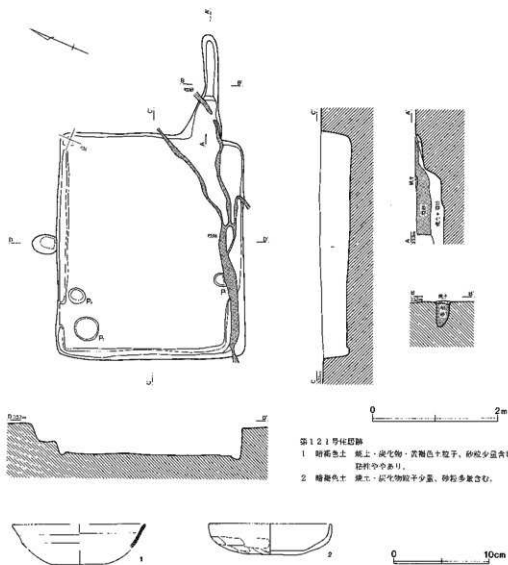
46	莖	□17.9	B+R+W	にふい橙～橙	口縁 30	No.15.
47	莖	□20.2 脚20.9	B+R多+W+W'	橙	口縁 50	
48	莖	□(19.2)	B+R+W	にふい黄橙～にふい赤褐	口縁 70	No.1.
49	莖	□(20.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	
50	莖	□(20.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 25	No.9.
51	莖	□19.5 脚22.2	B+R+W	にふい橙	口縁 70	No.13・21.
52	莖	□(21.6)	B+W少	橙	口縁 40	No.29.
53	莖	底3.8	B+R+W+W'	橙	底部 100	底部一方向のケズリ
54	莖	□(24.0)	B+R+W	橙～黒褐	口縁 15	

第121号住居跡 (第544図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(14.0)	Y+針	灰白	口縁 15	
2	坏	□12.7 底5.8 高3.2	B+R+W	橙～褐灰	55	外面全体に黒色

第122号住居跡 (第546図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	椀	□(11.4) 底2.7 高5.8	B+R多+W+W'	橙	40	外面に黒色部分
2	坏	□(13.8)	B+R+W+W'	橙～にふい橙	口縁 20	No.3.
3	坏	□12.0 高4.3	B多+R+W	橙	70	No.1, 口縁端部面トリシ沈線が破る
4	坏	□(13.0) 底3.8 高(4.6)	B+R多+W	橙	20	
5	高坏		B+R+W	橙	脚部 60	No.11.
6	高坏		B+R+W	橙	脚部 60	No.12.
7	卮	底2.7 脚9.1	B+R+W+W'	橙	80	No.9, 底部外面に黒色部分
8	坏	□(16.2)	B+R+W+W	黄橙	口縁 15	貯蔵穴。口縁端部面トリ
9	高坏	脚(17.6)	B+R多+W多+W'	橙～にふい橙	脚部 40	No.2.
10	壺	□14.3	B+R多+W	橙	口縁 50	内外黒色 風化
11	莖	□20.0	B+R多+W多	橙	口縁 20	
12	莖	□(17.6) 脚20.6	B多+R+W	にふい橙	口縁 20	No.5.
13	莖	□21.5 底8.7 高20.6 脚24.1	B+R+W	(内)赤褐 (外)赤	90	No.6・7・8・13, 底部ケズリ 脚部外面に黒色部分
14	莖	底(7.3)	B+R+W	橙	底部 20	底部ケズリ



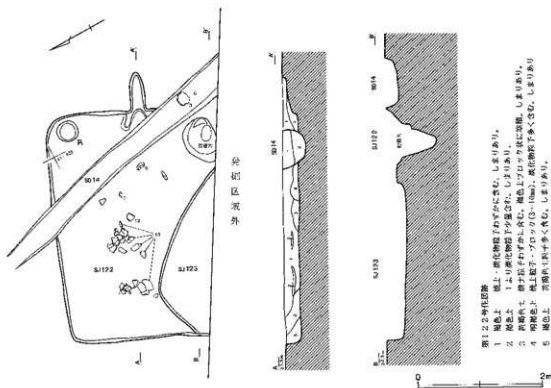
第121号住居跡

- 1 暗褐色土 灰上・炭化物・黄褐色土質土、砂粒少量含む、
 柱穴やふみり、
- 2 暗褐色土 灰上・炭化物粒少量、砂粒多量含む。

第544図 第121号住居跡・出土遺物

第121号住居跡（第544図）

スー404・405、ンー404・405Gridに位置している。噴砂の亀裂が南壁に沿って走っているが、住居跡の形状が大きく変形されるほどの影響を受けていない。規模は主軸辺3.59m・短辺3.03m、深さ0.39～0.46mであり、主軸方位はN-68°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は北東コーナー部から南西コーナー部にかけて廻っている。壁溝の規模は幅0.11～0.36m、深さ0.39～0.49mである。カマドは南東コーナー部付近に構築され、噴砂による影響を受けている。土層は焼土と噴砂が入り混じっている。全長1.76m、焚き口幅0.46mを測る。燃焼部が壁外に掘り込まれ、長方形を呈している。袖部は形成されていない。火床面は平坦で、急激に立ち上がって煙道部へ続



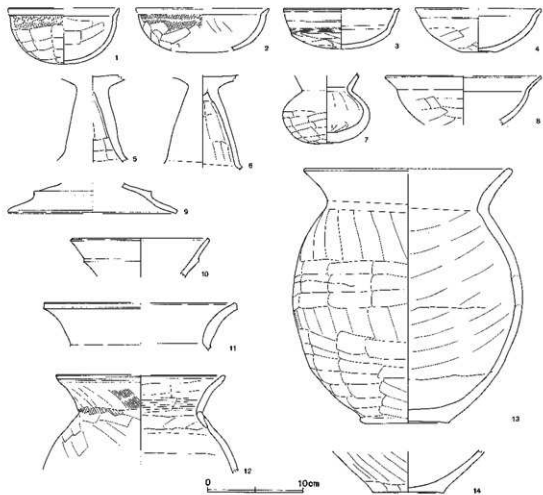
第545図 第122・123号住居跡

いている。煙道部は長い。貯蔵穴は確認されていない。ピットは3基で、また北壁に接した壁外に1基検出されている。遺物は少なく、土師器・須恵器のほかには石製剣形製品？1点、土製勾玉1点、縄文土器4片が出土している。

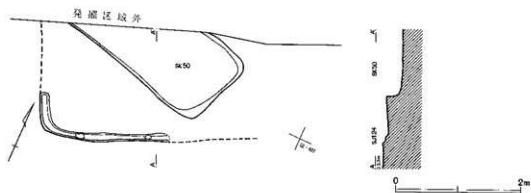
第122・123号住居跡（第545図）

第122・123号住居跡はN—407・408、い—407・408Gridに位置している。第122号住居跡は南西部が発掘区域外にかかり、第14号溝と重複している。第123号住居跡は大半の部分が発掘区域外であり、北コーナー部のみ調査を行なうことができた。新旧関係は第123号住居跡→第122号住居跡→第14号溝の順で構築されている。

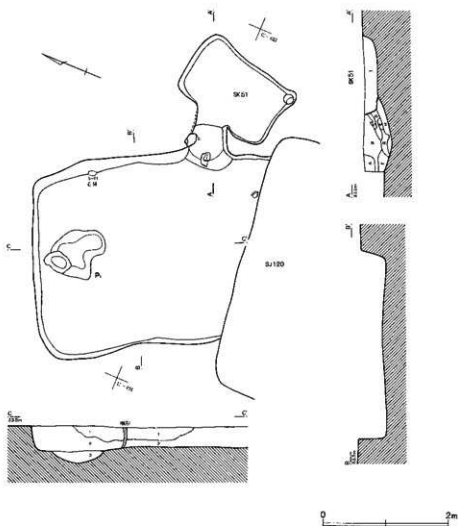
第122号住居跡の規模は、主軸辺3.64m、深さ0.23～0.92mであり、主軸方位はN—115°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、礎石は認められていない。カマドは東壁中央部に構築され、全長0.96m、焚き口幅0.26mを測る。袖部は地山を掘り残して形成され、「ハ」の字に大きく開いている。火床面はあまり焼けておらず、急激に立ち上がって煙道部へ続いている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に位置している。不整形を呈し、深く掘り込まれている。南北0.57m・東西0.48m、深さ0.66mを測る。底面は狭い。ピットは北東コーナー部に1基のみ検出されている。



第546图 第122号住居跡出土遺物



第547图 第124号住居跡



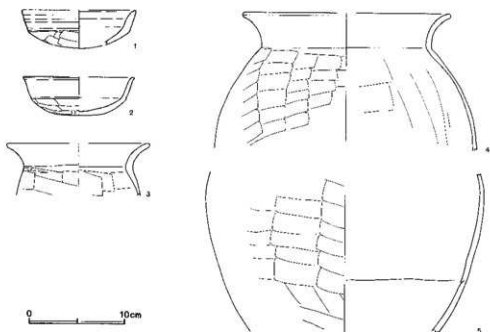
第125号住居跡

- 1 暗褐色土 粘土・炭化物粒わずかに、黄褐色土粒子ブロック状に少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 炭土粒下、黄褐色土ブロックわずかに、炭化物粒少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土

第125号住居跡カマド

- A 褐色土 粘土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり。
- B 暗褐色土 粘土・炭化物粒下、黄褐色土ブロックわずかに含む。しまりあり。
- C 暗褐色土 炭土粒子・ブロック(5~10cm)多量、炭化物粒わずかに含む。しまりあり。
- D 暗褐色土 炭土粒子・ブロック(3~5cm)少量、炭化物粒わずかに含む。しまりあり。
- E 赤褐色土 炭土ブロック層。
- F 褐色土 粘土・炭化物粒わずかに、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり。
- G 暗褐色土 粘土粒子・黄褐色土ブロック少量、炭化物粒わずかに含む。しまりあり。
- H 灰色土 灰質、炭土粒子・ブロック(3~5cm)少量、炭化物粒子多く含む。しまりあり。

第548図 第125号住居跡



第549図 第125号住居跡出土遺物

第125号住居跡 (第549図)

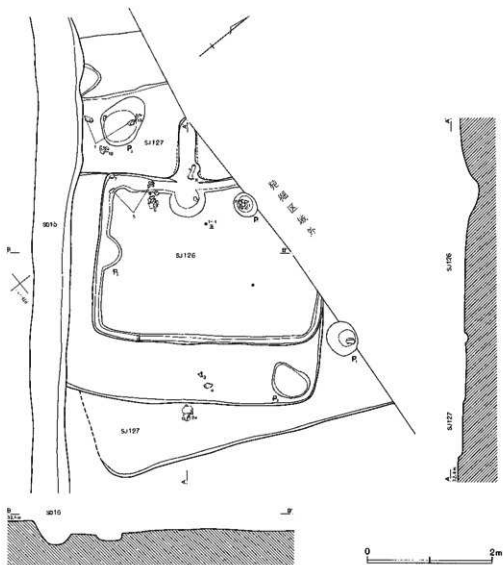
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(12.0)	B+R+W*	橙~黒	40	口縁端部ヘラアテ
2	坏	□(11.7) 高4.0	B+R多+W*	橙~黄橙	40	外面に黒色部分
3	甕	□(15.0)	B+W*+砂	橙	口縁 25	
4	甕	□(21.6)	B+R+W*	橙	口縁 40	
5	甕		B+R+W	橙	15	No.1.

第123号住居跡の規模は明確にはできないが、深さ0.26m、北辺の方位はN-120°-Wを測る。各辺が緩やかな曲線を描く形態をもつものと推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、カマド・壁溝・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。

遺物は第122号住居跡では中央部付近の床面直上からおもに出土し、ほかに須恵器1片、幅物石1点がある。第123号住居跡では土師器8片が出土したのみで、図示し得るものはない。出土している遺物の年代と2軒の住居跡の新旧関係から推測すると、第123号住居跡はカマドが設置されていない可能性がある。

第124号住居跡 (第547図)

ろ—407Gridに位置している。大半が発掘区域外にかかり、また土取りによる削平のため壁溝の一部が確認されているのみである。規模・主軸方位等は計測できない。壁溝の規模は幅0.08—

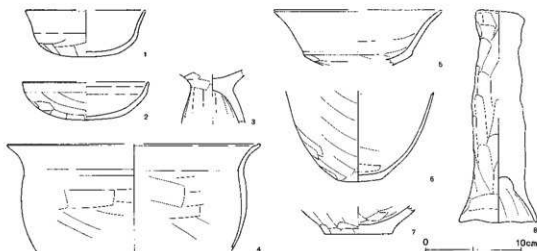


第550図 第126・127号住居跡

0.14m、深さ0.26~0.65mを測る。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。第50号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。双方の遺構とも遺物が出土していないため明確ではないが、おそらくは第124号住居跡の方が先行して構築されたものと想定される。

第125号住居跡 (第548図)

は-403、に-403・404Gridに位置している。第120号住居跡・第51号土坑と重複し、ほかの遺構よりも先行している。規模は主軸辺3.01m、深さ0.38~0.40mであり、主軸方位はN-66°-Eを測る。長辺は3.90m以上あり、平面形態は主軸辺の短い長方形を呈している。壁はやや傾斜をも



第551図 第126号住居跡出土遺物

第126号住居跡 (第551図)

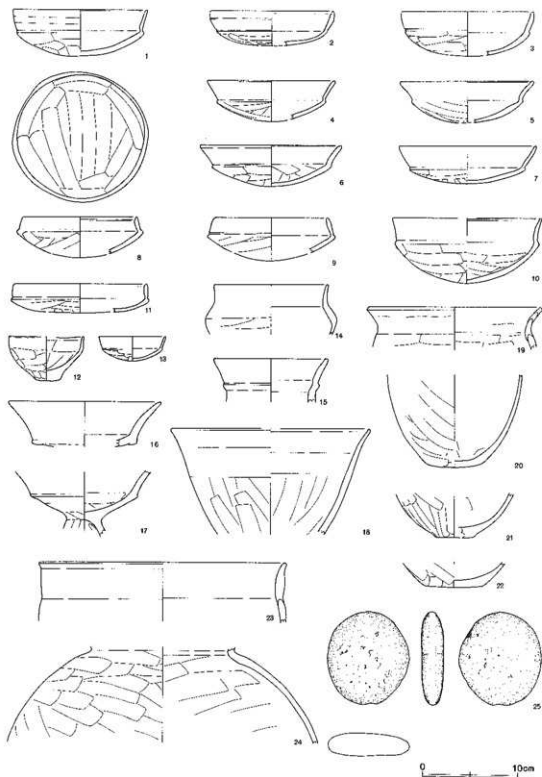
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.5) 高4.9	B+R+W少	(内)黒 (外)黄橙~橙	70	No.2, 内面黒色
2	坏	口(13.2) 高4.0	B+R少	(内)浅黄橙 (外)黒褐~浅黄橙	50	No.2, 外面に黒色部分
3	高坏		B+R+W少	橙	20	No.15,
4	鉢	口26.5	B少+R+W	橙	15	No.14,
5	高坏	口17.6	B+R	(内)橙 (外)黄橙	30	No.8・12, 内面に黒色部分
6	甗	底4.5	B+R	(内)橙 (外)黒褐~明褐	15	No.9, 底部ケズリ 底部外面黒色
7	甗	底7.0	W+黒少	橙~におい黄褐	底部 50	No.11,
8	支脚	上端5.1 下端8.2 高22.1	B+R+W少+W'少	(内)橙 (外)黄橙~褐	95	No.5,

って立ち上がり、破溝は廻っていない。カマドは東壁に構築されている。煙道部が第51号土坑に切られているため全長は不明であるが、焚き口幅は0.53mを測る。燃燒部が壁外に掘り込まれ、袖部は形成されていない。火床面は摺り鉢状に掘り込まれ、よく焼けている。貯蔵穴は検出されていない。ピットは北壁際中央に1基検出されている。不整形で、掘り込みは浅い。遺物は少なく、ほかに石錘1点が出土している。

第126・127号住居跡 (第550図)

第126号住居跡と第127号住居跡は重複し、ほぼ—415、へ—415・416Gridに位置している。新田岡係は第126号住居跡が第127号住居跡よりも新しく、両住居跡とも第15号溝に切られている。さらに北側は発掘区域外である。いずれも土取りの影響によって、たいへん浅い。

第127号住居跡は第126号住居跡との重複、土取りによる削平、また発掘区域外にかかっている岡

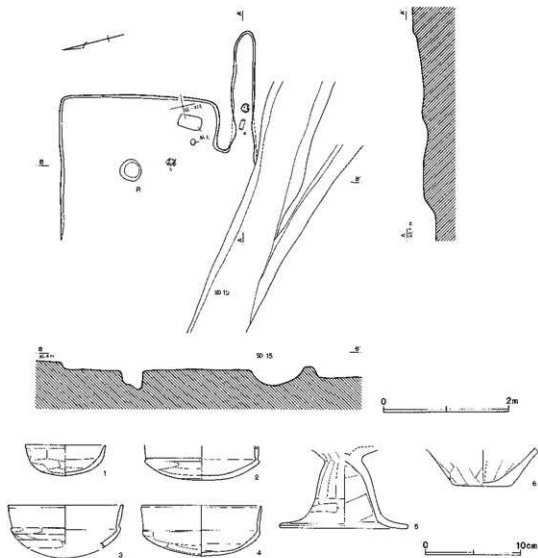


第552图 第127号住居跡出土遺物

第127号住居跡(第552図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(X)	備考
1	环	口14.1 高4.8	B少+R+W少	橙	100	№2・4。外面に黒色部分
2	环	口(13.0)	B+R少+W少	灰白	30	口縁端部ヘラアテ
3	环	口(14.0)	R+W	橙	30	口縁端部弱い面トリ
4	环	口(13.4)	R多+W	橙	20	口縁端部弱い面トリ 風化が著しい
5	环	口(14.0)	B少+R多+W+W'少	橙	20	口縁端部面トリ 風化
6	环	口14.9 高4.2	B少+R+W少	赤褐	90	口縁端部面トリ
7	环	口(14.4) 高4.0	B少+R+W少	橙～にふい黄橙	30	外面風化が著しい
8	环	口(12.0)	R+W	にふい橙	20	口縁端部ヘラアテ
9	环	口(12.0)	B+R+W	(内)橙(外)黒褐	20	内面風化
10	环	口(15.6) 高5.8	B+R多+W	黄橙	40	№1。
11	环	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	10	風化が著しい
12	ミニチュア鉢	口7.8 底2.4 高4.6	B+R+W	橙	80	底部ケズリ 底部外面黒色
13	ミニチュア環	口(7.0) 高2.6	R+W+橙	橙	30	風化が著しい
14	碗	口(12.0)	R多+W	橙	10	口縁端部面トリ
15	小笠蓋	口(12.0)	R多+W+W'少	橙	口縁 20	
16	高環	口(18.0)	B少+R+W	橙	口縁 5	口縁端部丸い
17	高環		B+R+W少	橙	20	
18	甌	口(20.9)	B+R+W少+W'少+橙	橙	10	
19	鉢	口(18.0)	R多+W+W'	橙	口縁 25	№5。
20	鉢	底5.3	B+R+W少+W'少	(内)橙～にふい黄橙(外)黒褐～褐	15	外面は全体的に黒色
21	鉢	底(4.0)	B+R+W	橙	底部 20	底部ケズリ
22	甌	底5.0	R多+W+橙少	橙	底部 60	底部多方向のケズリ 内面風化が著しい
23	甌?	口(26.0)	B+R+W	橙	口縁 20	風化が著しい
24	壺		B少+R+W少	橙	15	№6・SJ127、SJ128・127。

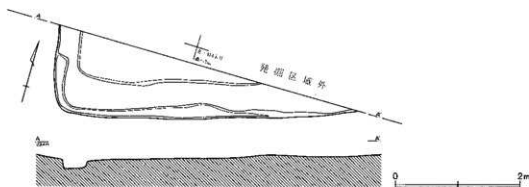
係から、東壁および西壁の一部のみが確認されている。東西6.03m、深さ0.12～0.94mを測る大形の住居跡で、東壁の方位をN-55°-Eに向けている。カマド・壁溝・貯蔵穴等の施設は検出されていない。カマドは出土している遺物の年代や木遺跡例の傾向から、発掘区域外に構築されているものと推定される。2基のピットのうち、P1は柱穴と思われる。遺物の量は比較的多く、8.7×9.6×2.4cm・290gの磨石1点、編物石3点が出土している。



第553図 第128号住居跡・出土遺物

第128号住居跡 (第553図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口8.4 高3.2	B+R+W	(内)橙~淡黄橙 (外)淡黄橙~橙	80	外面に黒色部分
2	坏		B+R+W	橙	20	カマド。外面の風化が著しく、器面剥離
3	坏	口(12.0)	B+R+W	橙	30	口縁部弱い面トリ
4	坏	口12.6 高5.3	B+R+W+V'	橙	80	№1。内外面に黒色部分
5	高坏	脚13.5	B少+R+W少+V'少	橙	脚部 90	№3。
6	壺	底6.2	B+R+W+砂少	橙	10	カマド。底部ケズリ

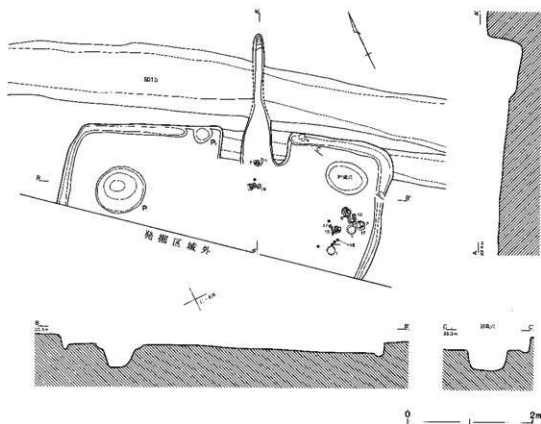


第554図 第129号住居跡

第126号住居跡は拡張が行なわれている。北壁・西壁は延長され、南壁・東壁は新たに築かれている。カマドは新たに構築することなく、そのまま使用している。拡張後の規模は主軸辺3.64m、深さ0.17～0.28m、拡張前の規模は主軸辺2.62m・長辺3.76mを測る。主軸方位をN-60°-Wに向けている。壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。拡張前は壁溝が全周している。幅0.10～0.29m、深さ0.15～0.96mの規模をもっている。拡張後には新たに付設されていない。カマドは西壁に構築され、全長1.57m、焚き口幅0.36mを測る。燃烧部は隅丸方形を呈し、摺り鉢状に掘り込まれている。袖部は検出されていない。おそらくは粘土等によって構築されていたものが土取りの擾乱によって消滅してしまったものと推測される。火床面は緩やかに煙道部へ続いている。ピットはカマドの北側に1基のみ検出され、遺物が出土している。規模は小さいものの、これが貯蔵穴になる可能性もある。貼床は拡張されている部分において顕著に認められている。遺物はカマド周辺部を中心に、カマド燃烧部からは土製支脚、ほかに土製切子玉が出土している。

第128号住居跡（第553図）

に-413・414、ほ-413・414Gridに位置している。南半部が第15号溝によって切れ、また西半部は土取りによって削平されている。そのためカマドおよび北コーナー部のみが確認されている。規模は主軸辺・長辺とも計測不可能であるが、カマドが東壁の中央部に構築されているものと仮定するならば、比較的大型の住居跡であると推測される。深さが0.10～0.76mであり、主軸方位はN-104°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は認められていない。カマドは全長2.12m、焚き口幅0.44mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残して形成し、燃烧部で「ハ」の字状にやや開いている。火床面から緩やかに煙道部へ繋がり、煙道部は長く延びている。カマドの構築材と思われる粘土塊が、カマドの北側から発見されている。貯蔵穴は検出されていない。ピットは1基のみで、柱穴と思われる。貼床はカマド周辺部で顕著に認められている。遺物は少なく、ほかに須恵器1片が出土している。



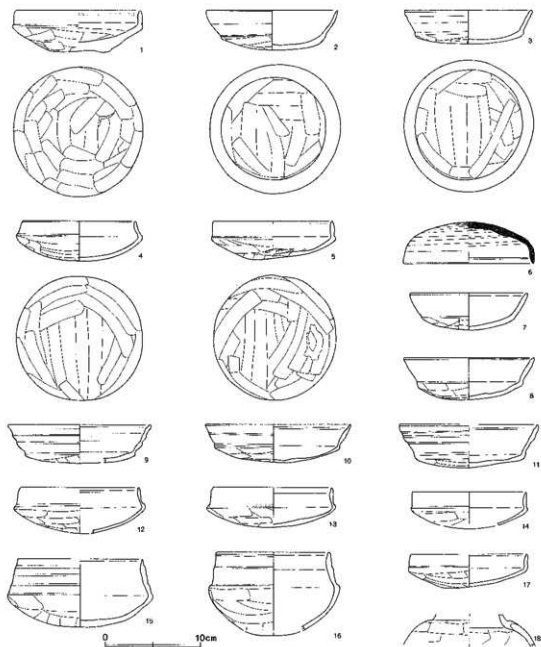
第555図 第130号住居跡

第129号住居跡 (第554図)

へー413・414Gridに位置し、大半が発掘区域外にかかっている。また削平の影響によって、掘り込みは浅い。そのため南コーナー部の幅0.03~0.24m、深さ0.73~0.79mの溝状の掘り形のみが確認されている。住居跡の規模は主軸辺・長辺とも計測不能で、深さが0.11~0.18m、南辺の方位はN-88°-Eを測る。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。出土遺物は認められない。

第130号住居跡 (第555図)

はー413、にー413・414Gridに位置している。南半部分は発掘区域外にかかり、北側は第15号溝によって切られている。規模は主軸辺が計測できず、東西5.12m、深さ0.16~0.28m、主軸方位はN-37°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は調査可能な箇所については全周し、幅0.08~0.23m、深さ0.10~0.20mの規模をもっている。カマドは北壁中央に構築され、煙道部が第15号溝で切られている。全長2.17m、焚き口幅0.48mを測る。袖部は地山が掘り残され、燃焼部は「ハ」の字にやや開いている。煙道部が外方に下傾斜しながら延び、煙出部で急激に立ち上がっ



第556図 第130号住居跡出土遺物

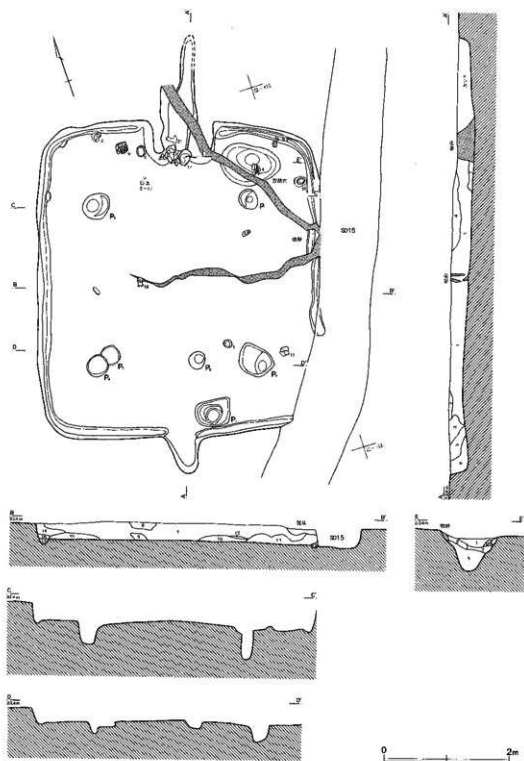
ている。燃焼部に比べて、煙道部の幅は狭い。貯蔵穴はカマドの東側の北東コーナー部に位置している。南北0.51m・東西0.67m、深さ0.35mを測り、楕円形を呈している。2基検出されているピットのうち、1基は柱穴と思われる。遺物はカマド周辺および東壁沿いから出土している。坏形土器がほとんどで、煮沸・貯蔵用の甕・壺形土器類はみられない。

第130号住居跡 (第556図)

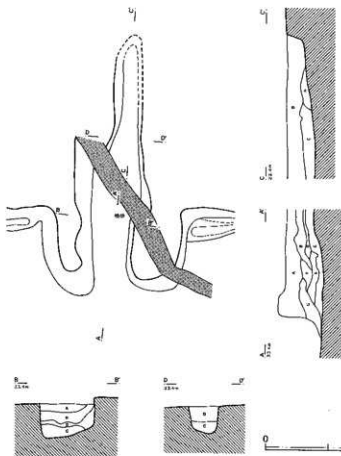
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□13.1 底8.5 高4.2	B少+R少+W+	明赤褐	100	No.10.
2	坏	□13.7 高4.2	B+R+W	(内)橙 (外)橙~褐	95	No.1. 口縁端部面トリ 外面に黒色部分
3	坏	□13.4 高3.5	B+R少+W	明赤褐	90	外面に黒色部分
4	坏	□11.9 高4.2	B+W少+W' 少	(内)暗褐~黒 (外)黒~赤褐	100	No.12. 内外面とも黒色部分が多い
5	坏	□12.5 高3.9	B+R少+W+W' 少	(内)ふい褐 (外)橙~褐	95	No.5. 口唇部内側に沈線 坏部に焼成後の穿孔
6	蓋	□13.7 高4.3	B+W少	褐灰	80	
7	坏	□12.4 高3.9	B+R+W	(内)褐 (外)黄褐	60	No.14. 内外面に黒色部分
8	坏	□13.8 高4.4	B少+R+W	(内)橙 (外)明黄褐~橙	90	No.2.
9	坏	□(15.0)	B+R多+W	(内)ふい黄橙 (外)橙	30	貯蔵穴。口縁端部へアラテ
10	坏	□15.1 高4.0	B+R+W少	橙	70	No.5. 口縁端部面トリ
11	坏	□(14.6) 高4.5	B少+R少+W	橙	50	No.13.
12	坏	□12.4	B+R+W+W' 少	明褐	85	No.1. 内外面に黒色部分
13	坏	□12.4 高4.2	B少+R+W	明赤褐	90	No.3. 外面に黒色部分
14	坏	□(12.0)	R多+W	灰白~黒褐	10	
15	坏	□(13.1) 高7.1	B+R+W少+W' 少	明褐	50	内面酸化が著しい 外面に黒色部分
16	坏	□12.1	B+R+W少	(内)赤橙~ふい 橙 (外)赤橙~ふい 黄褐	60	No.16. 外面に黒色部分
17	坏	□(12.2) 高3.4	B+R少+W	ふい褐	50	No.8. 内外面に黒色部分
18	小型壺		B+R+W	橙	割破上位 30	No.9.

第131号住居跡 (第557・558図)

に—411・412、ほ—412Gridに位置し、東壁を第15号溝によって切られている。噴砂の亀裂が東壁からカマド・中央部に2条走り、東壁およびカマドが変形されている。カマドに対向する位置に形態がカマドの煙道状を呈している張りだし部が存在している。位置および形態からカマドの可能性をもって精査を行なったが、覆土の状況などから張りだし部と判断した。住居跡の規模は主軸辺5.03m・短辺4.51m、深さ0.19~0.42mで、主軸方位はN—20°—Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝はカマドおよび張りだし部を除いて全周している。規模は幅0.21~0.90m、深さ0.12~0.34mである。カマドは北壁中央に構築され、噴砂の亀裂によって水平方向に形状が歪められている。全長は推定で1.97m、焚き口幅0.47mを測る。袖部は地山を掘り残して形成され、燃焼部先端に向かって微妙にすぼまっている。火床面は掘り鉢状にやや窪みもち、緩やかに煙道部に繋がっている。貯蔵穴はカマドの東側の北東コーナー部に位置し、噴砂の亀裂が走っている。楕円形を呈し、南北0.58m・東西0.98m、深さ0.64mを測る。深く掘り込まれ、底面部は狭い。ピット



第557图 第131号住居跡(1)



第131号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子顕著。炭褐色土粒了(100)ブロック状に多量含む。粘性弱、堅硬。
- 2 暗褐色土 粒子が粗い。粘性弱。
- 3 暗褐色土 1類似。黄褐色土ブロック含む。
- 4 暗褐色土 1類似。黄褐色土ブロック含む。粘性弱、堅硬。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物・炭褐色土粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子多量含む。粘性あり。
- 7 暗褐色土 焼土・黄褐色土粒子少量。炭化物粒子少量含む。粘性弱、もろい。
- 8 暗黄褐色土
- 9 暗黄褐色土
- 10 暗褐色土 粘性あり。堅硬。
- 11 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子多量含む。
- 12 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- 13 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。もろい。
- 14 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。炭化物粒子多量含む。
- 15 暗褐色土 炭化物粒子多量含む。
- 16 暗褐色土 1類似。炭化物・黄褐色土粒子少量含む。

第131号住居跡カマド

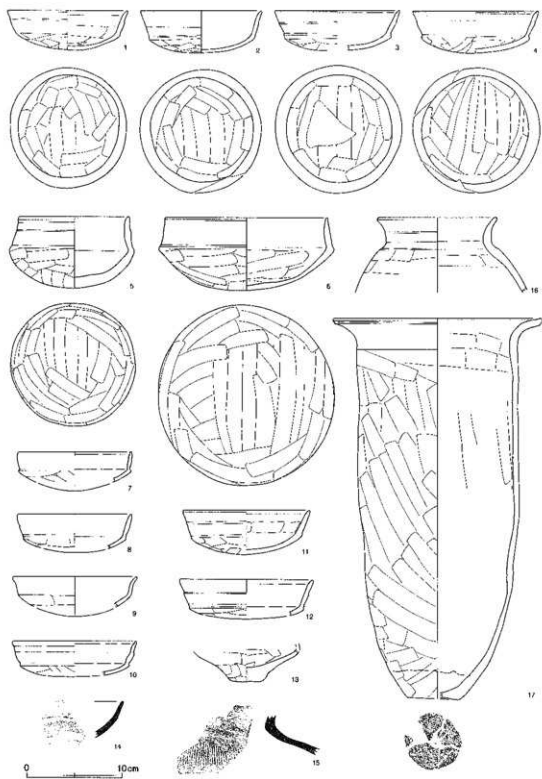
- A 褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。しまりあり。堅硬。
- B 暗黄褐色土 焼土粒子やや多く。黄褐色土粒子少量含む。
- C 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- D 暗黄褐色土 炭化物層。焼土粒子多量含む。しまり弱。
- E 暗黄褐色土 炭化物層。焼土粒子少量含む。しまり弱。
- F 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土・黄褐色土粒子少量含む。堅硬。
- G 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
- H 暗褐色土 焼土・炭褐色土粒子少量含む。しまり弱。

第131号住居跡貯蔵穴

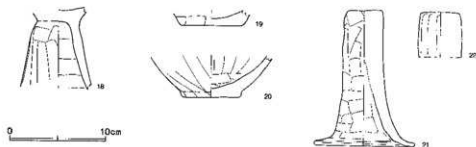
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子多量含む。
- 1' 暗褐色土 1に多量の炭化物粒子含む。
- 2 褐色土 炭化物粒子少量。黄褐色土粒子多量含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子顕著含む。粘性あり。
- 4 暗褐色土 1に少量の炭化物粒子含む。
- 5 暗褐色土

第558図 第131号住居跡(2)

は7基検出され、主柱穴4本が確認されている。P7は張りだし部付近に存在し、これらの施設が入口部に関連した機能をもっていた可能性もあろう。貼床は2面確認され、堅くしまっている。遺物はカマド周辺部に集中し、坏形土器の出土が目立っている。なかでも大型の坏形を呈している鉢形土器の存在は注目される。ほかに石製白玉1点、須恵器7片、編物石2点が検出されている。



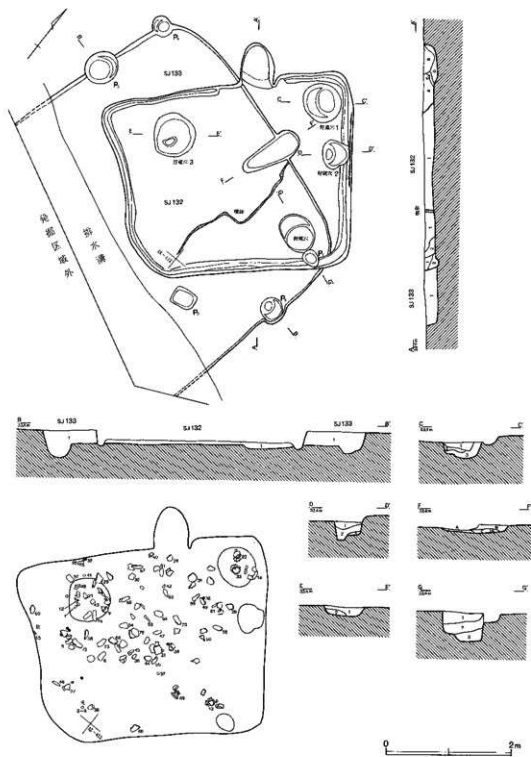
第559图 第131号住居跡出土遺物(1)



第560図 第131号住居跡出土遺物(2)

第131号住居跡(第559・560図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.6 高4.1	B多+R多+W	橙	100	No.9. 口縁端部面トリ
2	坏	口12.7 高4.4	B多+R多+W	(内)橙 (外)橙~にふい橙	95	No.1. 外面に黒色部分
3	坏	口13.0	B+R+W	灰褐	95	全体的に黒色
4	坏	口13.2 高4.4	B+W+W'	(内)褐灰(外)褐灰 ~にふい黄橙	90	No.6. 貯蔵穴. 口縁端部面トリ 内面黒色
5	坏	口11.5 高7.5	B+W少+W'	(内)黄灰(外)褐灰	100	No.3. 全体的に灰色
6	坏	口17.0 高7.6	B多+W	にふい黄橙	100	No.2. 内外面に黒色部分
7	坏	口(12.0)	B多+R+W	にふい橙	口縁 15	口縁端部ヘラアテ
8	坏	口(12.0)	B多+R	灰白	30	
9	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	10	内面風化が著しい
10	坏	口(15.0)	B多+W	浅黄橙	30	
11	坏	口13.3 高4.6	B+R+W	(内)橙~灰褐 (外)橙~褐	70	No.10. 口縁端部面トリ
12	坏	口(14.0)	B多+R+W	浅黄橙	口縁 20	
13	壺	底3.0	B少+R+W少	橙	底部 100	
14	高坏		W少	灰		外面波状文 内面ナデ
16	壺		B少+W少	(内)暗赤灰 (外)にふい赤橙		外面平行クタクキ 内面ナデ
16	壺	口12.5	B多+W	(内)にふい黄橙 (外)灰黄褐	30	No.7. 内外面に黒色部分
17	壺	口21.9 底5.3 高39.6	B+R+W	橙~にふい黄橙	95	No.4. 底部木炭痕
18	高坏		B+R+W	橙	脚部 60	No.8.
19	壺	底5.4	B+R多	(内)浅黄橙 (外)黒褐	底部 50	底部に「X」印
20	壺	底(5.0)	B+R多	(内)橙(外)黒	底部 40	風化が著しい 器面粗
21	支脚	上端3.9 下端10.5 高14.2	B+W少	(内)橙 (外)橙~浅黄橙	95	No.5.
22	支脚	上端4.1	B+R少	橙	20	



第561図 第132・133号住居跡

第132号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰褐色土ブロック少量含む、しまりあり。
- 2 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物粒少量含む、しまり・粘りあり。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子少量、炭化物粒子多量含む、しまり・粘りあり。

第132号住居跡カマド

- A 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。
- B 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰色砂多く含む、しまりあり。
- C 灰褐色土 焼土粒少量、炭化物粒子、灰色砂多く含む、粘り。
- D 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む、しまりあり。

第132号住居跡貯蔵穴 C-C

- 1 暗褐色土 焼土粒わずかに、炭化物粒子少量含む、しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒わずかに、灰褐色土ブロック多く含む、しまりあり。
- 3 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック少量含む、しまりあり。

第132号住居跡貯蔵穴 D-D

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む、しまりあり。
- 2 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む、しまりあり。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多く含む、しまりあり。

第132号住居跡貯蔵穴 E-E

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒少量、黄褐色土粒少量含む。
- 2 褐色土 砂粒多量含む。

第133号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒少量、炭化物・黄褐色土粒少量含む、砂粒含むが厚層。

第133号住居跡カマド

- A 褐色土 炭化物層、焼土・炭化物粒子多量含む。
- A' 褐色土 炭化物層、焼土・炭化物粒子多量含む。
- B 褐色土 焼土・炭化物粒子やや多く含む。
- C 褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。

第133号住居跡貯蔵穴

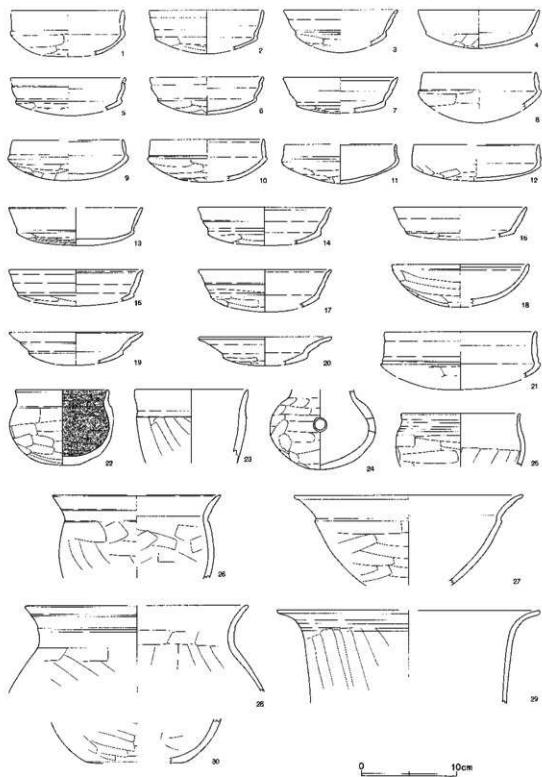
- 1 褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む、粘りあり。
- 3 暗褐色土 砂粒ブロック状に含む、粘りあり。

第132・133号住居跡 (第561図)

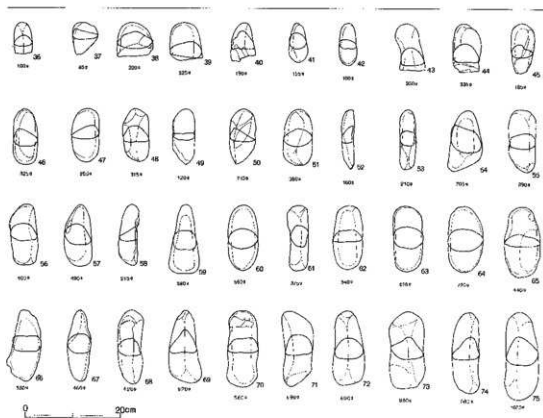
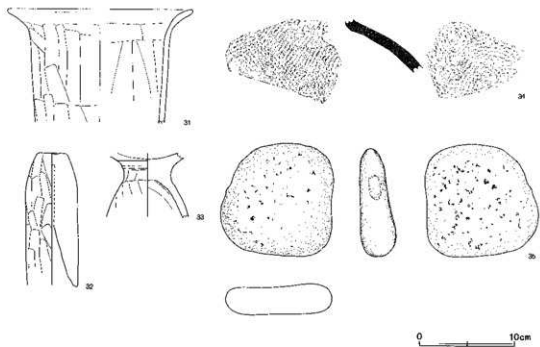
ろー411・412、はー411・412Gridに位置している。2軒の住居跡の遺物が混入し、またさほどの時期差が存在していないことから、遺物年代によって新旧関係を明確にすることは困難である。平面確認においては、第132号住居跡が第133号住居跡よりも新しいものと判断されている。

第132号住居跡の規模は、主軸辺2.97m・長辺3.68m、深さ0.13～0.17mを測り、主軸をN-50°-Wの方向に向けている。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、幅0.11～0.21m、深さ0.11～0.24mの壁溝がほぼ全周している。カマドは北西壁やや北よりに構築され、全長0.77m、焚き口幅0.46mを測る。燃燒部が壁外に掘り込まれ、鶏卵形を呈している。袖部はわずかではあるが確認されており、地山が掘り残されている。火床面は摺り鉢状に掘り込まれている。貯蔵穴は3基検出されている。貯蔵穴1はカマドの北側の北コーナー部に位置し、規模は南北0.58m・東西0.64m、深さ0.28mである。貯蔵穴2は北東壁中央部に位置し、南北0.47m・東西0.42m、深さ0.27mの規模を有している。貯蔵穴3はカマドの南側の西コーナー部に位置し、規模は南北0.60m・東西0.67m、深さ0.24mを測る。ピットは検出されていない。遺物は貯蔵穴1・3に集中している。特筆すべきは、編物石が床面の全面にわたって40点出土している。ほかに石製瓦葺1点、須恵器5片、11.8×11.7×3.7cm、750gの磨石が1点検出されている。

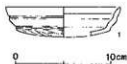
第133号住居跡は南半部が発掘区域外にかかっている。規模は、一辺4.84m、深さ0.18～0.49mであり、主軸方位はN-11°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は認められていない。床面は噴砂の亀裂によって段差が生じている。カマドは北壁中央に構築され、燃燒部の掘り方が確認されている。細長い鶏卵形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。構造等は不明である。現存長1.01m、現存焚き口幅0.32mを測る。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に位置し、



第562图 第132号住居跡出土遺物(1)



第563图 第132号住居跡出土遺物(2)



第561図 第133号住居跡出土遺物

第132号住居跡 (第562・563図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(11.6)	B多+W	灰褐	20	No.19。口縁部欠損
2	坏	□(12.0)	B多+R+W	橙	20	風化が著しい
3	坏	□(12.0)	B+R+W	灰白～黒褐	10	
4	坏	□(12.8) 高4.0	B+W	橙～にぶい黄橙	10	風化が著しい
5	坏	□(12.0)	B+R多+W少	灰白～橙	20	口縁部欠損
6	坏	□(12.0) 高3.9	B+R多+W	橙～淡黄橙	25	
7	坏	□(12.0)	B+W	灰黄褐	20	口縁部に弱いヘラアテ
8	坏	□(12.0)	B+R+W	灰白	20	
9	坏	□(11.6) 高4.2	B+R+W+W'少	明赤褐	45	No.20。
10	坏	□(12.0)	B+W	灰白～黒褐	20	口縁部ヘラアテ
11	坏	□(11.8) 高4.1	B+R+W少	にぶい黄橙	45	
12	坏	□(13.2) 高3.8	B+R少	淡黄橙	30	No.19。外面に黒色部分
13	坏	□(13.9) 高4.0	B+R少+W少+W'少	明褐	45	No.10。外面黒色
14	坏	□(14.0)	B多+R+W	灰白	10	口縁部ヘラアテ
15	坏	□(14.0)	B+W少	にぶい黄橙	口縁 10	
16	坏	□(14.0)	B+R+W	橙	20	口縁部ヘラアテ
17	坏	□(14.0)	B+W少	灰白～褐灰	10	口縁部ヘラアテ 内面風化が著しい
18	坏	□14.4	B+R+W	(内)明赤褐 (外)明黄褐～明赤褐	90	No.1。
19	坏	□(14.0)	B多+R+W	灰白	10	体部が浅い
20	坏	□(14.0)	B+W	灰白～黒褐	坏部 20	体部が浅い
21	坏	□(16.0)	B+R少+W	黒褐	10	No.23。
22	碗	□9.8 高7.9	B+R+W+W'少	(内)黒 (外)明赤褐	100	No.2。内面黒色
23	小型罐?	□(12.0)	B+W+橙	橙	口縁 25	内面風化
24	はそう	孔1.5×1.4	B少+R+W少	(内)灰黄橙 (外)にぶい黄橙～橙	70	外面に黒色部分
25	碗	□12.5	B+R少+W	橙	50	No.24。

26	小型罎	口(17.6)	B+R+W少	(内)黒褐 (外)橙～黒褐	15	No.33. 内外面に黒色部分
27	鉢	口(24.0)	B+R+W+W'	橙	5	No.14. 内部風化
28	壺	口(23.3)	B+R+W+W'+砂多	(内)橙 (外)におい褐	10	No.5.
29	甗	口(27.6)	B+R+W少	(内)黄橙 (外)黄橙～黒	15	No.25. 外面に黒色部分
30	甗		B+R少+W少	(内)橙 (外)黒～黄橙	15	No.29. 外面に黒色部分
31	甗	口(19.3)	B+R+W+W'+砂多	橙	15	No.12.
32	支脚	上端3.0	B+R+W少+W'	(内)黄橙 (外)黒褐～黄橙	30	No.26. 外面に黒色部分
33	高环?		B+R少+W	橙	10	No.4.
34	甗		B+W+塵少	(内)灰白 (外)におい橙～灰	No.18.	No.18. 外面平行タタキ 内面青海波文

第133号住居跡 (第564図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	口(12.0)	B+R多+W+W'	灰褐	20	貯藏穴。
2	环	口(12.0)	B+R多+W	灰褐	20	カマド。
3	甗		B少	(内)赤灰 (外)赤褐		外面平行タタキ 内面ナデ

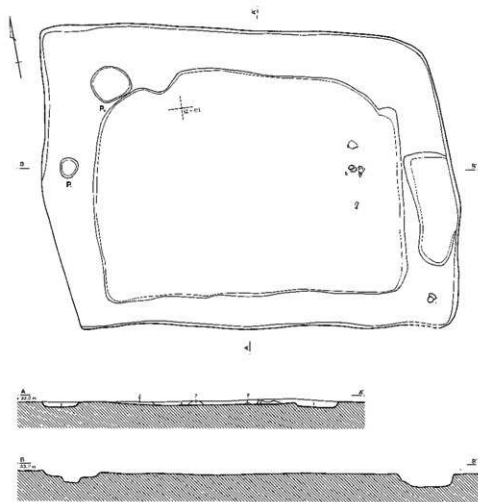
第134号住居跡 (第565図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	埴	口11.5 高12.0	B+R+W+W' 多	明赤褐	100	No.1.
2	甗	口18.0	B+R+W多	明赤褐	口縁 50	風化著しい
3	甗	口(22.0)	B+R+W+W' 多	橙	口縁 15	
4	甗	底7.0	W+W'	橙～灰黄	底部 100	底部周辺に粘土が薄く付着
5	壺	底6.0	W多+W'+砂	(内)におい黄橙～黒 (外)橙	底部 100	No.4. 底部ケズリ後、周辺部に粘土が薄く付着
6	高台付鍋	口(11.2) 台(5.6) 高3.0		灰オリーブ (施)灰白	20	灰釉陶器(近世?) 内面に重ね焼きの痕跡

南北0.50m・東西0.68m、深さ0.46mの楕円形である。ピットは5基検出され、P2以外はすべて壁際に掘り込まれている。

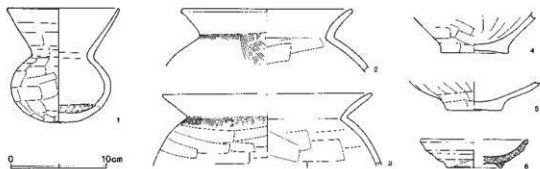
第134号住居跡 (第565図)

に—410・411、は—410・411Gridに位置している。土取りによって削平され、全周している溝状の掘り方のみが検出されている。規模は長辺6.62m・短辺4.28m、深さ0.11～0.60mであり、長軸方位はN—84°—Wを測る。貯藏穴は認められておらず、ピットは2基確認されている。出土遺物は少ない。遺物の年代から推定すると、住居跡はカマドの設置されていない時期のものと考えられる。出土している灰釉陶器は後世の混入品である。

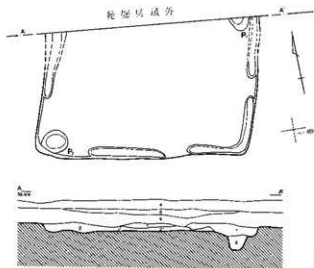


第134号住居跡

- 1 即焼内土 焼土・炭化物粒がわずかに、波藍色ナツコック多量含む。しまりあり。
- 2 燻炭焼内土 炭化物粒がわずかに含む。しまりあり。

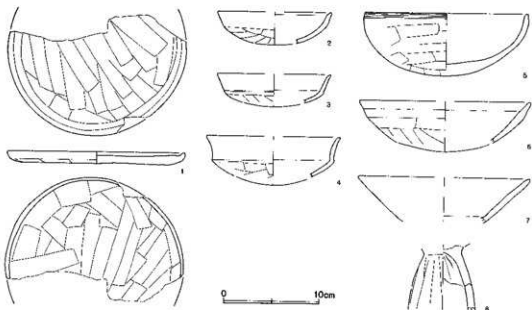


第565図 第134号住居跡・出土遺物



第135号住居跡

- 1 褐色土 焼土・黄褐色土粒子散在、しまり・粘性强。
- 2 暗褐色土 1よりしまり強。
- 3 暗褐色土 焼土・黄褐色土粒子少散在、しまり・粘性强。
- 4 灰褐色土 スより黄褐色土粒子多く散在、粘性强やあり。
- 5 暗褐色土 スより黄褐色土粒子多く散在、粘性强やあり。
- 6 暗褐色土 焼土・黄褐色土粒子少散在、しまり・粘性强。



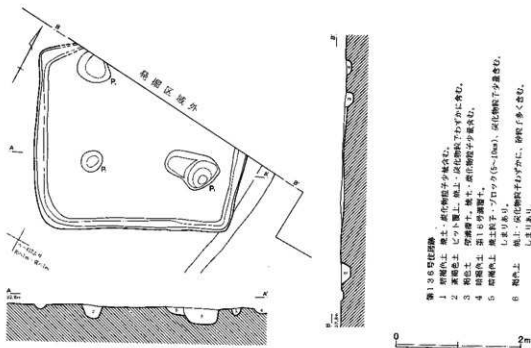
第566図 第135号住居跡・出土遺物

第135号住居跡 (第566図)

は—409、へ—409Gridに位置している。北半部が発掘区域外にかかり、また土取りによって削平されている。規模は一辺3.44m、深さ0.01～0.65mで、検出されている南壁の方位はN—98°—Eを測る。壁溝は部分的ではあるが、ほぼ全周している。0.11～0.19m、深さ0.04～0.78mの規模をもっている。カマド・貯蔵穴は検出されていない。ピットは南西コーナー部および東壁際に2基掘り込まれている。貼床は確認されていない。遺物は少なく、釘と思われる鉄製品が出土している。

第135号住居跡 (第566図)

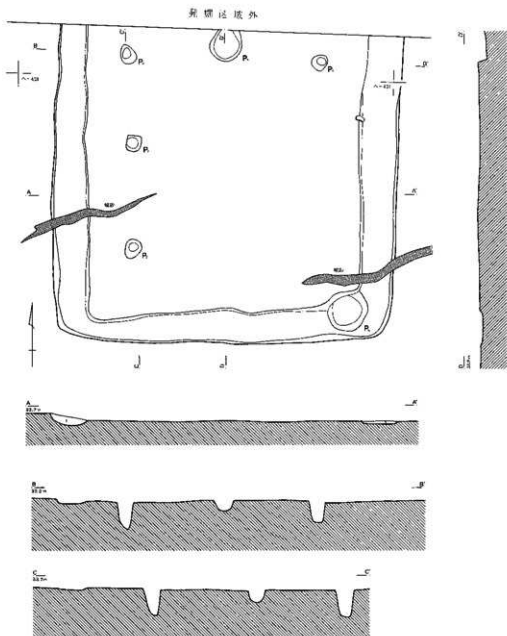
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	鉢	口18.5 高1.2	B+R多+W+	におい赤褐	55	
2	坏	口(12.0)	B+W+	におい橙	40	口縁端部ヘラアテ面トリ 内面は風化により調整不可致
3	坏	口(12.0)	W+	灰褐	10	
4	坏	口(14.0)	B+W+少	橙~におい橙	15	口縁端部面トリ
5	坏	口(17.1) 高6.5	B+R多+W	(内)橙 (外)におい橙~橙	40	
6	坏	口(18.0)	B+R+W+	橙	10	
7	高坏	口(18.0)	B+R多+W+	橙~におい橙	坏部 15	風化
8	高坏		B+R+W	明赤褐~橙	胴部 70	一本の粘土紐を螺旋状に巻き上げて成形



第567図 第136号住居跡

第136号住居跡 (第567図)

へ—411・412Gridに位置し、北コーナー部が発掘区域外にかかっている。また土取りによって削平され、掘り込みはたいへん浅い。規模は東西3.38m・南北3.03m、深さ0.12~0.82mで、西壁の方位はN-29°-Wを測る。幅0.15~0.24m、深さ0.12~0.82mの規模の壁溝が全周している。カマドおよび貯蔵穴は確認されていない。検出されている3基のピットは、すべて柱穴である。貼床は中央部で顕著に認められているが、ほかの部分については床面が攪乱されている。遺物は出土



第137号住居跡

1 粘褐色土 炭十・灰化物粒子わずかに、黄褐色ナブロック多く含む。

0 2m

第568図 第137号住居跡

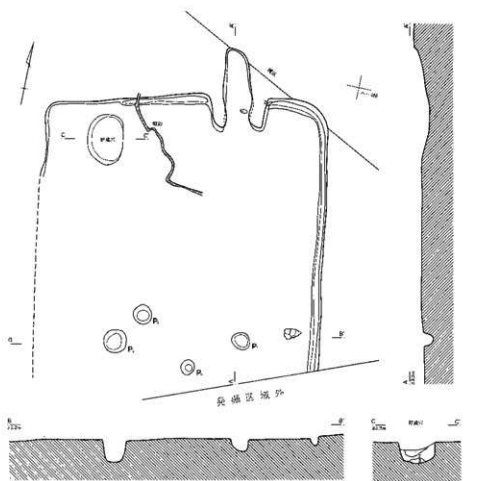


図138号住居跡貯蔵穴

- 1 貯蔵色：炭化物粒子わずかに、灰色砂粒子多く含む。しまり部、断面。
- 2 貯蔵色：炭化物粒子、黄褐色土ブロック(5~10cm)わずかに、灰色砂粒子多量含む。しまり部、断面。
- 3 貯蔵色：炭化物粒子わずかに、灰色砂粒子少許、黄褐色土ブロック(5~10cm)多く含む。しまりあり。

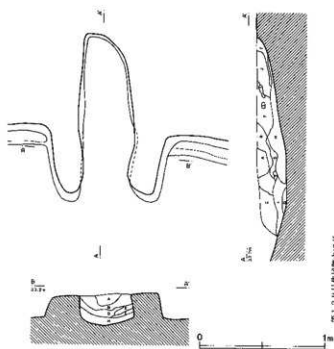
0 2m

第569図 第138号住居跡(1)

していない。

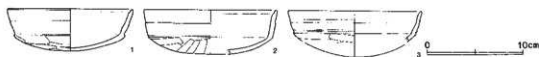
第137号住居跡 (第568図)

は—406・407、へ—406・407Gridに位置し、北側が発掘区域外にかかっている。土取りによって削平され、床面は消失している。幅0.31~0.64m、深さ0.03~0.36mの規模をもつ溝状の掘り方が全周している。噴砂の亀裂が2条、東・西壁を横切って走っている。住居跡は東西5.56m、深さ0.02~0.12mで、南北辺の方位はN-6°-Wを測る。カマドおよび貯蔵穴は確認されていない。検出されている6基のピットのうち、P1~P4が柱穴である。P5は位置や掘り込まれている深さ



第138号住居跡カマド

- A 内面土 黒土・炭化物粒子わずかに、内面土はフロック多量含む、しきりあり。
 B 内面土 灰土・炭化物粒子少量、灰土フロック(3-5mm)、内面土上/フロックわずかに含む、しきりあり。
 C 内面土 灰土・炭化物粒子、黒土フロック(5-10mm)少量、内面土はフロック多量含む、しきりあり。
 D 内面土上 黒土・炭化物粒子、炭化物(2-3mm)多量、灰土フロック(3-5mm)少量含む、しきりあり。
 E 内面土上 炭化物粒子少量、黒土フロック(1-3mm)多量含む。
 F 内面土上 灰土粒子・フロック(1-3mm)、炭化物粒子少量、内面土上/フロックわずかに含む、しきりあり。
 G 内面土上 黒土粒子・フロック(1-3mm)、炭化物粒子多量含む、しきりあり。
 H 内面土上 灰土粒子・フロック(1-3mm)、炭化物粒子、灰土多量含む、積置。
 I 内面土上 灰土・炭化物・炭化物粒子多量含む、黒土フロック。
 J 内面土上 フロック増加、灰土・炭化物粒子少量、灰土フロック(3-5mm)わずかに含む、しきりあり。

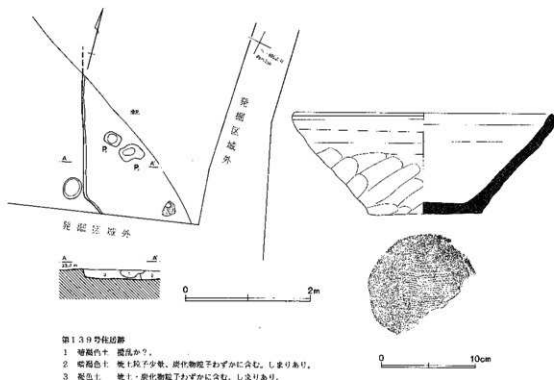


第570図 第138号住居跡(2)・出土遺物

第138号住居跡(第570図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.2 高4.4	B+W少	(内)灰黄褐 (外)にふい黄橙	70	外面に黒色部分
2	坏	口(14.0)	B多+W	灰白~黒	40	No.2・カマド、口縁端部ヘラアテ
3	坏	口(14.0)	B+R少	にふい橙~黒褐	口縁 20	

等から、カマドの熱焼部の可能性がある。遺物は出土していない。



第571図 第139号住居跡・出土遺物

第139号住居跡 (第571図)

No.	部 種	大きさ(cm)	胎 土	色 調	残存率(%)	備 考
1	鉢	口27.9 底12.0 高10.7	V+露多	灰白～褐灰	60	No.1, 底部磨止未切り離し

第138号住居跡 (第569・570図)

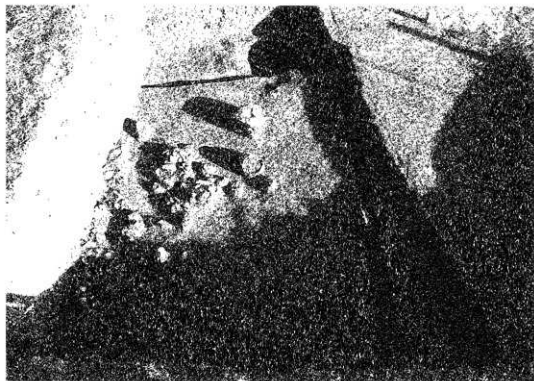
ほ—405・406、へ—406Gridに位置し、南側は発掘区域外にかかっている。大半が土取りによる削平を受けている。噴砂の亀裂がカマドの西側を南北に走り、この影響によってカマド周辺部の床面が陥没している。そのためこの付近のみで貼床が明瞭に残存しているが、ほかは削平によって消失されている。規模は主軸辺4.30m以上・短辺4.61m、深さ0.17～0.48mで、主軸方位はN—9°—Wを測る。カマドは北壁中央やや東よりに構築され、煙道部の先端が土取りによる削平を受けている。全長は推定で1.35m、焚き口幅0.46mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残して形成され、燃焼部でややすぼまっている。火床面は摺り鉢状の窪みもち、緩やかに煙道部へ繋がっている。壁溝は北壁のカマドの西側および北東コーナー部から東壁に確認されている。規模は幅0.01～0.21m、深さ0.24～0.29mを測る。貯蔵穴はカマドの西側の北西コーナー部に位置し、南北0.79m・東西0.58m、深さ0.33mで、楕円形を呈している。ピットは4基検出されているが、用途は明らかではない。遺物はカマド周辺部より出土しているが、量は少ない。

第139号住居跡 (第571図)

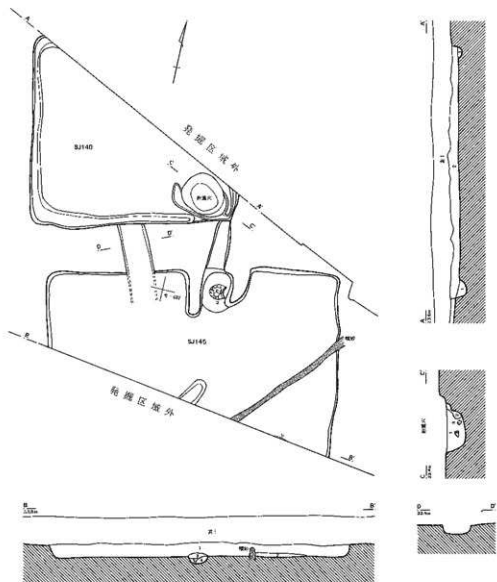
ほ—405Gridに位置し、大半が発掘区域外にかかっている。また発掘区域内のほとんどの部分は土取りによって削平されている。そのため南西コーナー部付近のみが確認されている。規模は主軸辺・長辺とも計測不能で、深さは0.12~0.16m、主軸方位はN-60°-Wを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝は透っていない。カマド・貯蔵穴は検出されていない。ピットは2基認められているが、用途等は不明である。貼床は確認されていない。遺物はたいへん少なく、須恵器の鉢形土器1点のみである。

第140号住居跡 (第573・574図)

セ—406・407Gridに位置し、第145号住居跡と重複している。新旧関係は第145号住居跡よりも新しい。北東半部は発掘区域外にかかっている。規模は南北辺3.03m・東西辺3.28m、深さ0.58~0.85mであり、主軸方位はN-79°-Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝は発掘区域内ではほぼ全周している。幅0.12~0.38m、深さ0.15~0.83mの規模をもっている。貯蔵穴は南東コーナー部に位置し、壁溝と接している。南北0.67m・東西0.88m、深さ0.34mで、円形を呈している。カマドおよびピットは検出されていない。遺物は須恵器1片、編物石1点が出土し、図示し得るものはみられない。



第572図 第146・147号住居跡遺物出土状況



第140号住居跡

- 1 覆土層 覆土上進入なく堅固。
- 2 暗褐色土 炭化物、灰褐色土ブロック少量、茶褐色土粒子多量含む。覆土多量混入。しまり・粘性弱。

第140号住居跡貯蔵穴

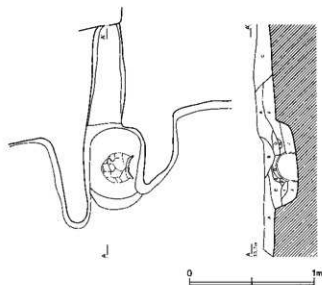
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰褐色土ブロック(2~5mm)少量含む。しまりあり。
- 2 灰褐色土 灰色砂粒多く含む。
- 3 灰褐色土 ブロック。

第145号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- 4 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。
- 5 無層状土 焼土粒子少量含む。



第573図 第140・145号住居跡(1)



第574図 第140・145号住居跡(2)

第145号住居跡のkamado

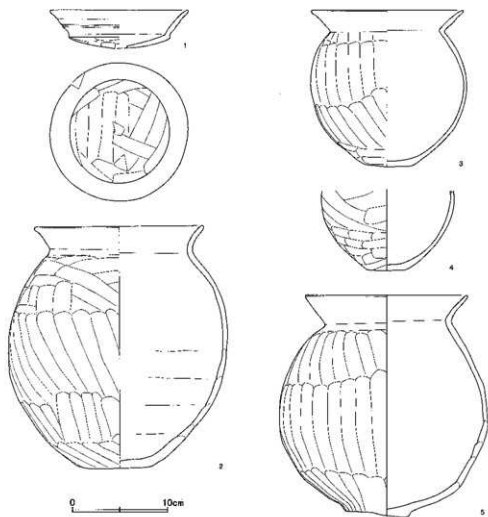
- A 赤褐色土 地上、灰化物混下わずかに含む。
- B 暗褐色土 地土層下・フロック(5~10cm)多量、灰化物混少量含む。
- C 暗赤土 地上、灰化物混下わずかに、黒褐色土・フロック少量含む。
- D 暗赤土 地上、灰化物混少量含む。
- E 暗褐色土 フロック状。
- F 暗褐色土 地下、灰化物混下わずかに、炭屑土・フロック少量含む。
- G 暗褐色土 地下層下・フロック(3~5cm)多量含む。
- H 赤褐色土 地上、灰化物混少量含む。
- I 赤褐色土 地上・フロック状。
- J 赤褐色土 地下、灰化物混下わずかに含む。

第145号住居跡 (第573・574回)

モ—406・407、セ—406・407Gridに位置し、第140号住居跡とカマドの煙道部の先端がわずかに重複している。南半部は発掘区域外にかかっている。噴砂の亀裂が東西に走り、その影響によって南側の床面がやや陥没している。規模は主軸辺は計測不能、東西が4.67m、深さ0.13~0.21mであり、主軸方位はN-14°-Wを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝は確認されていない。カマドは北壁中央やや東よりに構築されている。カマドの方位は住居跡の南北辺の方位と異なり、やや東側に向いている。現存長1.49m、焚き口幅0.46mを測る。袖部は地山を掘り残して形成され、形状はいびつである。燃焼部は隅丸方形を呈し、摺り鉢状に窪められている。火床面は急激に立ち上がっている。煙道部は燃焼部の西側に偏り、幅が燃焼部に比べて狭くなっている。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物は少なく、図示し得たもののほかに、須壺器1片が出土している。

第141号住居跡 (第576回)

モ—408、セ—408・409Gridに位置し、南半部が発掘区域外にかかっている。噴砂の亀裂が南北に走り、この影響によって西側の床面が陥没し、また貯蔵穴も壊されている。規模は主軸辺が計測不能で、長辺4.50m、深さ0.05~0.20mであり、主軸方位はN-38°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、調査部分においては幅0.10~0.21m、深さ0.31~0.36mの規模をもつ壁溝がほぼ全周している。カマドは北東壁中央に構築され、全長1.96m、焚き口幅0.54mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、燃焼部において「ハ」の字に開いている。火床面は攪乱を受けており、詳細は不明である。煙道部は長く外方に延びている。貯蔵穴はカマドの西側の北コーナー部に位置し、南北0.64m、深さ0.25mの方形を呈している。ピットは検出されていない。遺物は比較的多く、カマド

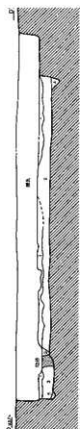
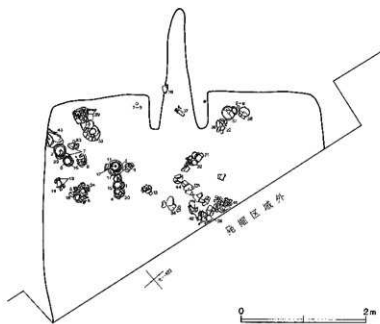
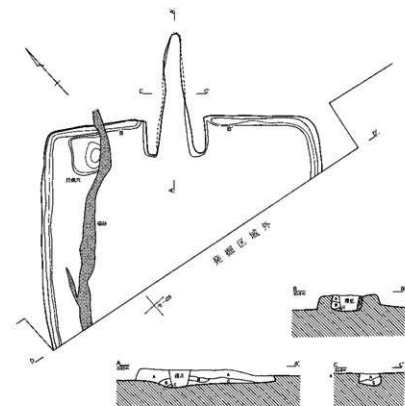


第575図 第145号住居跡出土遺物

第145号住居跡 (第575図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口14.4	B+R少+W	にじみ黄橙	95	底部ケズリ 内外面に黒色部分
2	甕	口17.8 底7.8 高25.2 胴23.0	B+R+W多+砂少+炭少	残黄橙	95	№1. カマド。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分 胴部内面にタール状の付着物
3	小型甕	口15.9 底5.0 高16.3 胴16.4	B+R+W多+W'+砂少	橙	100	内外面に黒色部分
4	甕	底4.0	B+R+W'+W'+砂少+炭少	(内)橙~にじみ (外)暗褐	底部 70	底部ケズリ 胴部外面黒色
5	甕	口17.0 底6.9 高23.0 胴21.8	B+R+W多+W'+砂少	(内)橙~褐 (外)橙~暗褐	90	№2. 底部ケズリ 内外面に黒色部分

の周辺部からおもに出土している。なかでも大型の環形を呈している鉢形土器の存在は注目される。ほかに土土1点、石製不明品3点、須恵器2片が検出されている。



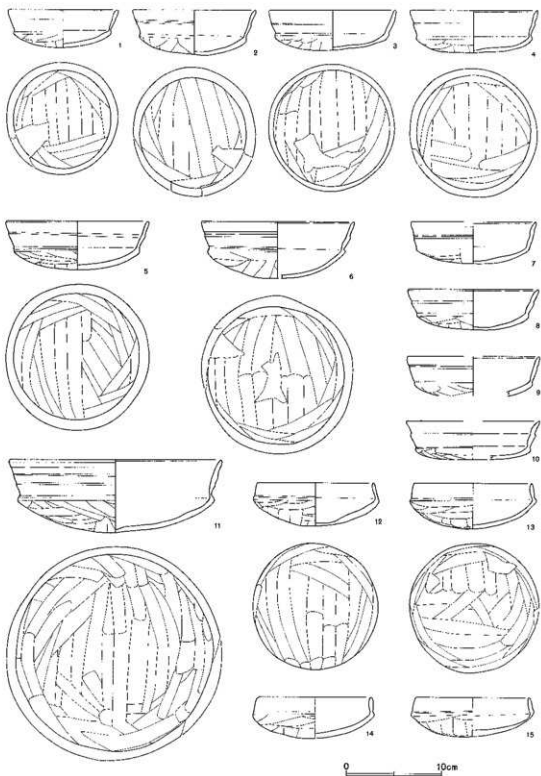
第141号住居跡

- 1 褐色土 粘土質土層跡、黄褐色土、赤褐色土層が多数含む。
- 2 暗褐色土 赤褐色土層が多数含む。
- 3 黄褐色土 灰化層が少量含む。
- 4 赤褐色土 暗褐色土層が多数含む。
- 5 暗褐色土 砂混少量含む。

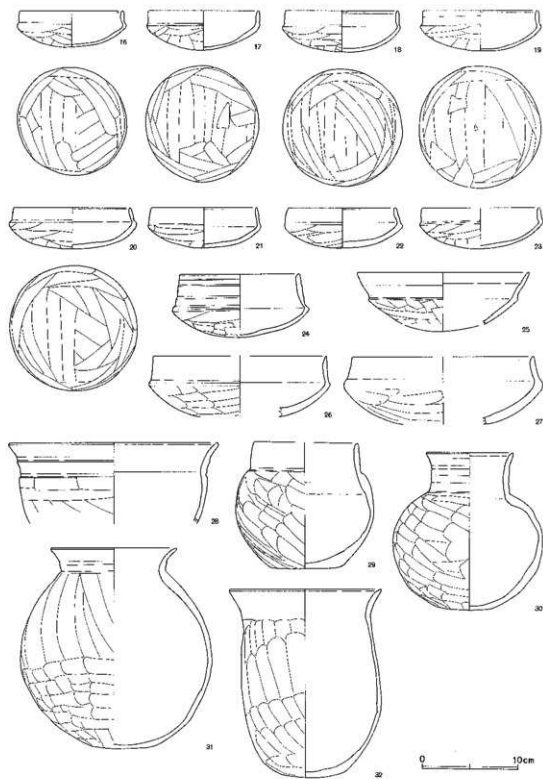
第141号住居跡のヤド

- A 暗褐色土 地上、灰化物・黄褐色土、赤褐色土層が少量含む。多い。
- B 暗褐色土 黄褐色土層が多数含む。
- C 暗褐色土 粘土質土層が多数含む。しまり少な。

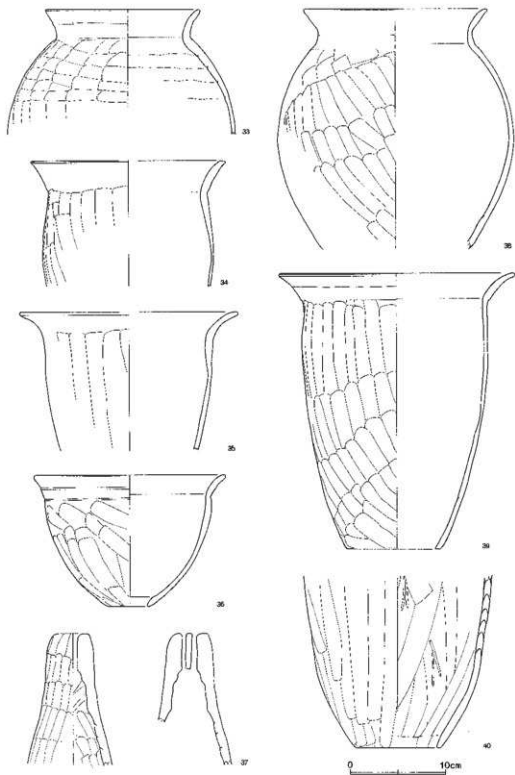
第576図 第141号住居跡



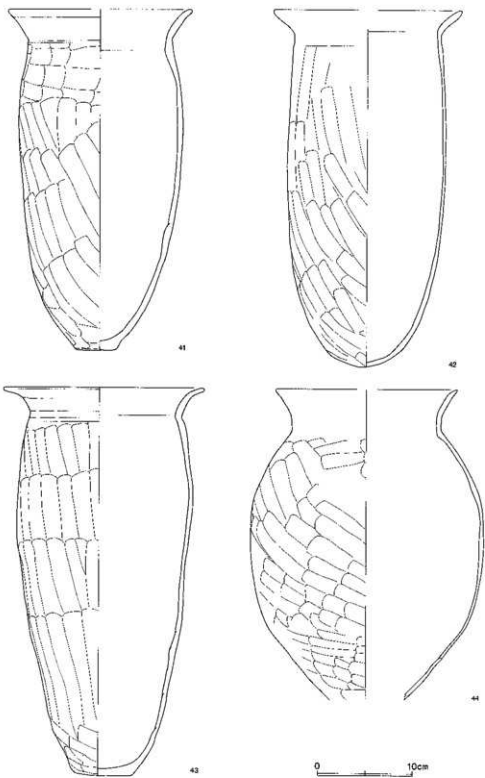
第577图 第141号住居跡出土遺物(1)



第578回 第141号住居跡出土遺物(2)



第579图 第141号什层出土文物(3)



第580圖 第141号住居跡出土遺物(4)

第141号住居跡(第577~580号)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□11.6 高4.0	B+R+W'	橙	90	No.23。口縁部面トリ 内外面に黒色部分
2	坏	□12.9 高4.6	B少+R少+W'	(内)褐(外)黒褐	90	No.34。口縁部面トリ
3	坏	□13.3 高4.2	B+R+W'	(内)にふい黄橙 (外)橙~にふい黄橙	95	No.26。内面に黒色部分
4	坏	□13.3 高4.4	B+R+W少+W'	(内)にふい褐 (外)にふい黄橙	95	No.21。口縁部面トリ 内外面に黒色部分
5	坏	□16.0 高5.1	B+W+W'	(内)灰白 (外)灰黄褐	100	No.32。外面に黒色部分
6	坏	□16.0	B+W少+W' 少	灰黄	90	No.40。内外面に黒色部分
7	坏	□(13.1) 高4.3	B+R+W少+W'	明褐	50	No.29-33。口縁部面トリ 内外面全体がうすい黒色
8	坏	□13.7 高4.2	B+R少+W少+W'	明赤褐	90	No.28。口縁部面トリ 内外面うすい黒色
9	坏	□13.9	B+R+W+W'	明赤褐	30	No.19。内外面に黒色部分
10	坏	□(14.0)	B+R+W	橙	30	外面に黒斑
11	坏	□22.3 高7.7	B+R少+W+W'	(内)黒褐(外)にふい黄褐~黒褐	90	No.27。内外面が全体に黒色
12	坏	□12.2 高4.6	B+W+W' 少	(内)明褐~褐 (外)黄褐~黄橙	100	No.25。内外面が全体的に黒色
13	坏	□12.2 高4.6	B+R少+W少	(内)にふい黄褐~黒褐 (外)にふい黄褐	90	No.16。内外面が全体的に黒色
14	坏	□11.7 高4.3	B+R+W少+W' 少	(外)にふい黄褐 にふい黄橙	80	No.37。内外面に黒色部分
15	坏	□11.9 高4.0	B+R+W少	にふい黄橙	90	No.22。風化が著しい
16	坏	□10.8 高3.8	B+R少+W	(内)明褐~暗褐 (外)黄褐~にふい黄褐	100	No.31。内面黒色
17	坏	□11.6 高4.1	B+R+W	にふい赤褐	95	No.24。内外面が全体的に黒色
18	坏	□11.9 高4.3	B+R少+W+W'	黄橙	100	No.39。
19	坏	□12.0 高4.2	B+R+W	橙	85	No.38。
20	坏	□12.2 高4.3	B+R+W	にふい褐	90	No.20。口縁部内外面に黒色部分
21	坏	□11.0 高4.7	B+R少+W少	赤橙	90	No.8。外面に黒色部分
22	坏	□11.2 高4.2	B+R+W少+W' 少	(内)暗褐~黒褐 (外)明赤褐~にふい赤褐	90	No.6。内面黒色
23	坏	□(12.3) 高4.2	B+R少+W少	(内)黒褐~褐 (外)明黄褐	85	No.30。内面黒色
24	坏	□12.7 高5.6	B+R少+W+W' 少	(内)明赤褐~黒褐 (外)橙~黒褐	90	No.41-42。口縁部内外面黒色
25	坏	□(18.0)	B+W少	にふい黄橙	20	内外面に黒色部分
26	坏	□(18.3)	B+R+W少+W' 少	橙	25	
27	坏	□(19.0)	B+R+W少+W' 少	(内)橙~灰褐 (外)明赤褐~灰赤橙	40	口縁部内外面黒色
28	鉢	□21.3	B+W+砂多	橙	20	No.47-カマド。内外面に黒色部分

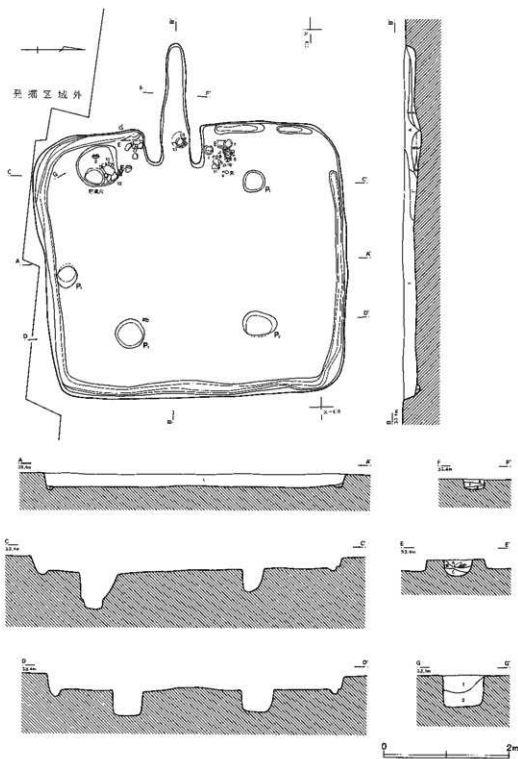
29	小型甕	口(11.0) 底7.1 高13.1 胴14.5	B少+R+W少	(内)橙 (外)におい黄褐	80	№35. 底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
30	小型甕	口9.1 高16.4 胴15.6	B+R+W+W'	(内)橙 (外)橙～明黄褐	100	№4. 底部ケズリ 外面に黒色部分
31	甕	口13.2 底5.7 高20.8 胴20.1	B+R少+W+W'	(内)橙～灰褐 (外)明赤褐～にお い黄褐	95	№2. 底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
32	小型甕	口15.9 高19.8	B+R+W+W'	橙	70	№9. 底部ケズリ
33	甕	口16.1 胴(23.8)	B+R+W+W'	橙	40	№45. 外面に黒色部分
34	甕	口(20.3)	B+R少+W少+W' 少	橙	25	№17.
35	甕	口(22.8)	B+R+W少+W'	灰黄褐	15	
36	甕	口20.0 底4.0 高13.7	B+R+W少	橙	95	№5. 胴部外面に黒色部分
37	支脚	上端3.7	B+R+W+W' 少	黄橙～橙	60	№1. 2孔 外外面黒色
38	甕	口19.2 胴24.7	B+R+W+W'+砂少	橙	40	№14. 胴部外面下半に黒色部分
39	甕	口24.7 底9.8 高28.7	B+R+W+W'+砂少	橙	80	№43-44. 内外面に黒色部分
40	甕	底(8.8)	B+R+W少	橙～洗黄橙	15	外面に黒色部分
41	甕	口(19.2) 底4.0 高35.6	B+R+W+W'+砂少	(内)橙～におい赤 褐 (外)明褐～にお い黄	70	№15. 底部ケズリ 内外面に黒色部分
42	甕	口(19.7) 底3.2 高37.1	B+R+W+W'	明赤褐	70	№13-14. 底部ケズリ 胴部外面下半に 黒色部分が覆る
43	甕	口21.0 底5.9 高40.3	B+R+W+W'+砂少	(内)橙～明褐 (外)明褐	95	№36. 底部ケズリ 胴部外面・内面下半 に黒色部分 カマドの二次焼成による粘土 付着
44	甕	口18.9 胴24.4	B+R+W少+W'	橙	40	№10-12. 胴部内外面に黒色部分

第142号住居跡 (第581回)

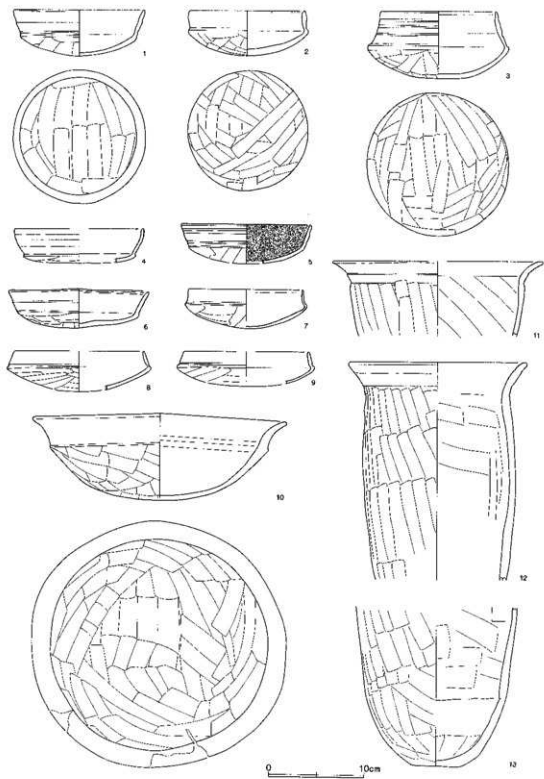
モ-410、セ-410、ス-410Gridに位置している。第143号住居跡と重複し、新旧関係は第143号住居跡より新しい。規模は主軸辺4.33m・短辺4.30m、深さ0.16～0.23mで、主軸方位はN-92°-Wを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝はカマドの北側部分が途切れているものの、ほぼ全周している。幅0.12～0.32m、深さ0.22～0.35mの規模を有している。カマドは西壁中央に構築され、全長2.01m、焚き口幅0.51mを測る。袖部は地山を掘り残して形成し、煙道部は長く外方に延びている。火床面は摺り鉢状の緩やかな窪みをもっている。貯蔵穴はカマドの南側の南西コーナー部に位置し、南北0.64m・東西0.63m、深さ0.60mの不整形を呈している。東側の壁際が深く掘り込まれており、この部分とP1-P3が主柱穴である。貼床は施されておらず、カマドの袖部北側から朱が検出されている。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土している。なかでも大型の坏形を呈している鉢型土器の存在は注目される。土敷免遺跡において検出されているこの種の土器の中で特に人型のものであり、大きく歪んでいる。ほかに編物石が4点ある。

第143号住居跡 (第583回)

ス-409・410、シ-410Gridに位置し、カマドの煙道部先端が第142号住居跡によって切られて



第581图 第142号住居跡



第582图 第142号伴后跡出土遺物

第142号住居跡

- 1 暗褐色土 炭化物・灰褐色土粒子多量含む。しまりあり。
2 暗褐色土 1より黄褐色土粒子多量含む。

第142号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 炭化物・灰褐色土粒子少量含む。しまり・粘性あり。
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。しまり・粘性あり。

第142号住居跡カマド

- A 暗褐色土 炭土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。しまりあり。
B 焼土層 天井部陥没。
C 炭化物層
D 赤褐色土 火床面。
E 暗褐色土 炭土・黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
F 暗褐色土 炭土・炭化物・黄褐色土粒子多量含む。しまりあり。

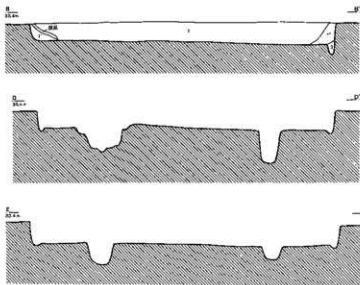
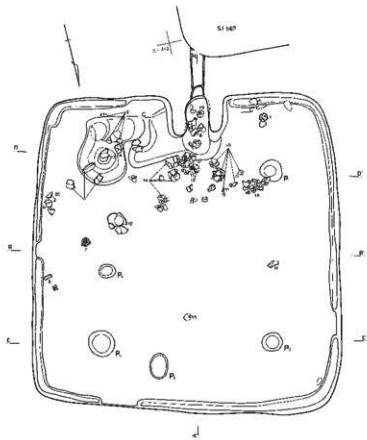
第142号住居跡 (第582図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□13.6 高4.8	B多+R+W'	にふい橙	100	№5, 外面は全体に黒色
2	坏	□11.8 高4.7	B多+R多+W	橙	100	№13, 口縁部面トリシ沈線が廻る
3	坏	□11.8 高7.0	B+W多+W'	にふい橙～黒褐	100	№8, 黒色
4	坏	□(13.6)	B+R+W	灰白～橙	口縁 40	2点同一器体
5	坏	□13.6	B+R+W	明赤褐～にふい赤褐	70	貯蔵穴。内外面に黒色部分
6	坏	□14.2 高4.0	B+R+W少	にふい橙	55	口縁部面トリシ沈線が廻る
7	坏	□12.0 高4.0	B+R少+W少+W'少	にふい橙～にふい褐	100	№1,
8	坏	□(13.6)	B+R+W+W'	にふい黄橙	40	№2, 内面風化により調整不明
9	坏	□(13.0)	B+R少+W少	浅黄橙	30	№3, 風化が著しい
10	鉢	□26.1 高9.1	B+R+W少	橙	90	№7, 外面に黒色部分
11	甌	□(22.0)	B多+W	灰白～黒	口縁 25	№4,
12	甌	□18.2	B+R+W+砂多+磯少	明赤褐	50	№11,
13	甌	底5.0	B+R+W+砂多+磯少	(内)暗赤褐 (外)明赤褐～暗赤褐	30	№11, 木葉痕

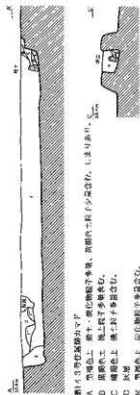
いる。規模は主軸辺5.03m・短辺4.92m、深さ0.28～0.33mであり、主軸方位はN-168°-Wを測る。カマドが南壁中央に構築され、上敷免遺跡においては数少ない例である。現存長1.76m、焚き口幅0.38mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残して形成し、燃焼部は双円形を呈している。火床面はよく焼けており、若干の深みをもっている。急激に立ち上がって狭い平坦面をつくり、さらに立ち上がって煙道部へ達している。平面的にもこれに対応している。煙道部は長く外方に延びているが、削平されているため、きわめて浅い。住居跡の壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.11～0.30m、深さ0.28～0.43mの壁溝が3カ所途切れてはいるがほぼ全周している。貯蔵穴はカマド東側の南東コーナー部に位置し、南北1.08m・東西0.74m、深さ0.32mを測る。不整形を呈し、中央部が深く掘り込まれている。この部分とP1～P3が支柱穴となる。全体的に貼床が顕著である。特にカマドの周辺部においては貼床面が隆起し、堅くしまっている。遺物はカマドの周辺部から出土し、ほかに編物石4点がある。

第144・146・147号住居跡 (第572・586図)

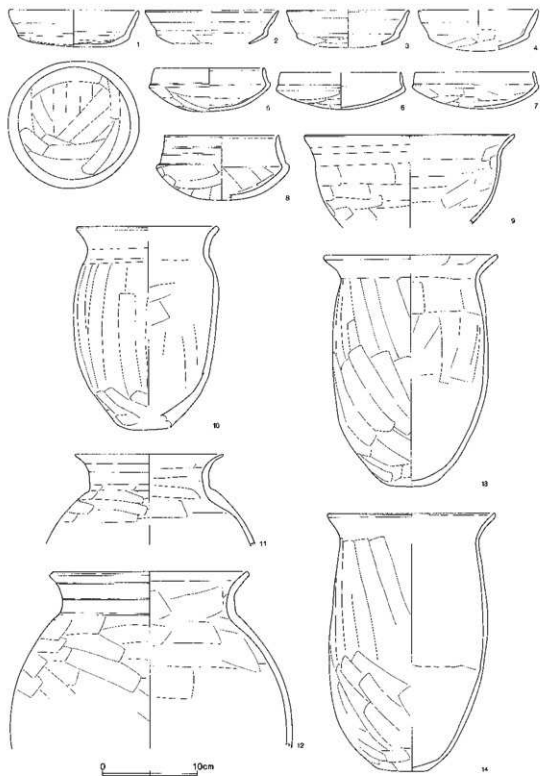
シ-410・411Gridに位置し、大半の部分が発掘区域外にかかっている。平面的に重複関係を確



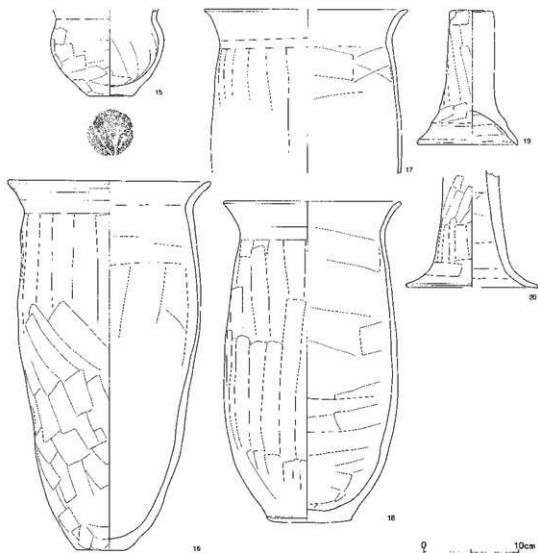
第143号住居跡
 1 褐色土 地上、灰化層に少量、褐色土に若干多量含む。乾燥。
 1-1 褐色土 1より厚層に若干少量含む。
 1-2 褐色土 1より厚層に若干少量含む。
 2 暗褐色土 地上、灰化層に若干少量含む。若干あり。
 3 暗褐色土 地上、褐色土に若干少量含む。若干あり。



第143号住居跡カマド
 A 暗褐色土 地上、灰化層に若干少量含む。若干あり。若干あり。
 B 黒灰色土 地上に若干少量含む。
 C 暗褐色土 地上に若干少量含む。
 D 灰層
 E 暗褐色土 灰化層に若干少量含む。



第584图 第143号住居跡出土遺物(1)



第585図 第143号住居跡出土遺物(2)

認することができず、1軒の住居跡として調査を進めた。しかし断面の観察によってようやく3軒の重複関係を把握することができた。新旧関係は第144号住居跡→第147号住居跡→第146号住居跡の順で構築されている。土層は第1・6層が第146号住居跡、第2・5・7・8層が第147号住居跡、第9・10層が第144号住居跡である。

第144号住居跡の規模は、主軸辺・長辺が計測不能で、深さ0.29～0.33m、南壁の方位はN-88°-Wを測る。比較的大型の住居跡と推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、カマド・竈溝・貯蔵穴等の施設は検出されていない。ピットは南東コーナー部および南壁際に確認されている。貼床は施されていない。

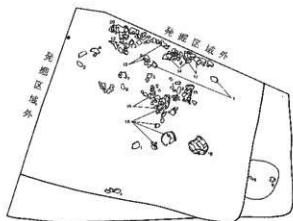
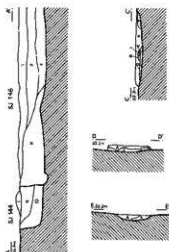
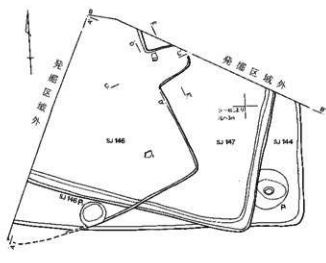
第147号住居跡は深さ0.10～0.36m、南壁の方位はN-71°-Wを測る。規模は不明であるが、比

第143号住居跡(第584・585図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	□13.7 高3.9	B+R+W少	(内)にふい赤褐 (外)明褐～褐	100	No.6. 内外面に全体的に黒色
2	环	□(14.0)	B+R少	(内)灰白(外)黄褐	15	
3	环	□(12.8)	B+R+W少	にふい黄橙	40	No.33・39～41.
4	环	□12.5	B+R少+W少	橙	35	No.35.
6	环	□11.6 高4.5	B+R少	(内)黒褐 (外)明褐～暗褐	85	No.27・28. 口縁部面トリ 内面黒色
6	环	□(12.6) 高3.8	B+R+W少	(内)灰黄褐～にふい橙 (外)にふい黄橙 暗褐	50	No.47. 内外面に黒色部分
7	环	□12.5 高3.8	B+R		85	No.26. 内外面に黒色部分
8	环	□12.1	B+R+W少+W少	橙	90	No.29. 口縁部外面に黒色部分
9	鉢	□22.0	B+R少+W少	(内)橙～淡黄橙 (外)橙～明黄褐	50	No.31・37・38. 風化
10	甕	□15.0 底15.2	B+R+W+砂少+礫少	(内)黒褐～橙(外)橙～にふい黄褐	80	No.4～8. 胴部内面・外面下半黒色
11	壺	□(15.8)	B+R+W少	(内)橙～黒褐 (外)橙	20	No.2. 内外面に黒色部分
12	壺	□20.9 底25.6	B+R少+W+砂少	(内)淡黄橙～橙 (外)橙	30	No.25. 胴部外面に黒色部分
13	甕	□18.1 底8.0 高24.1	B+R+W+砂多+礫多	(内)にふい橙～橙 (外)橙～灰褐	80	No.13. 底部ケズリ 内外面に黒色部分
14	甕	□17.8 底5.1 高26.8	B+R+W+砂多+礫多	(内)にふい黄褐～橙 (外)橙～にふい黄褐	80	No.20～23. 底部ケズリ 口縁部・胴部外面下半に黒色部分
15	小型壺	底4.6	B+R少+W	明赤褐	80	No.1. 底部木炭痕
16	甕	□21.2 底5.1 高38.5	B+R+W+砂多+礫多	橙	85	No.3. 底部ケズリ 胴部外面下半～底部黒色
17	甕	□(21.3)	B+R+W+砂少+礫少	橙	15	No.36.
18	甕	□18.7 底8.9 高33.6	B+R少+砂少	(内)灰褐～橙(外)にふい赤褐～橙	50	No.14・15・17・カムF. 底部ケズリ 内外面に黒色部分が多い
19	支脚	上端4.7 下端10.5 高14.0	B+R少+W	(内)橙～黄橙 (外)明黄褐～橙	50	No.19.
20	支脚	下端(13.8)	B+R少+W少	明黄褐	70	No.30.

較的大型の住居跡と推測される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.13～0.22m、高さ0.63～0.95mの規模をもつ壁溝が全周している。カマド・貯蔵穴・ピットは検出されていない。貼床は明瞭に確認されている。第144・147号住居跡の出土遺物は明確に所属を分割することができない。しかし出土状況から考えると、第147号住居跡に所属するものがほとんどであろう。第147号住居跡ではほかに土玉1点が検出されている。

第146号住居跡は土取りによって削平されている。規模は深さ0.16～0.26m、主軸方位はN-56°-Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝・貯蔵穴・ピットは確認されていない。カマドは北東壁に構築され、燃焼部の掘り方のみが検出されている。燃焼部を壁外に掘り込み、方形を呈している。全長0.66m、焚き口幅0.47mで、火床面は緩やかな窪みをもっている。貼床はカマドの周辺部で明瞭に確認されている。遺物は少ない。



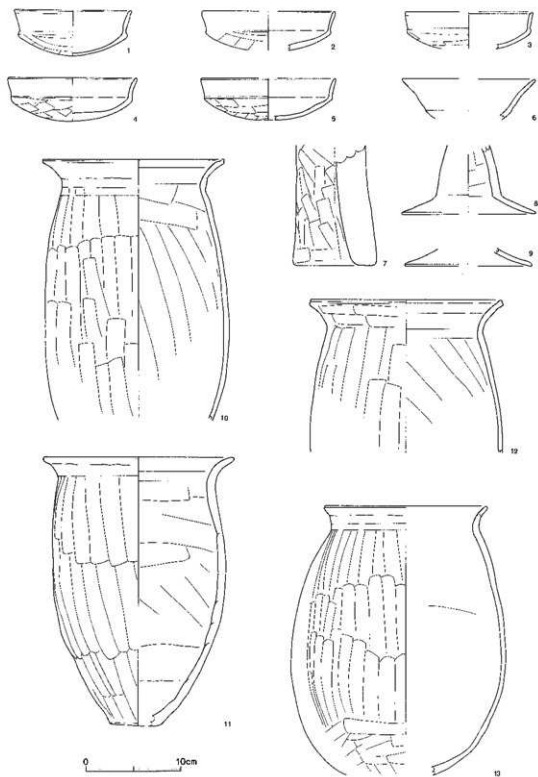
第144・146・147号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、赤褐色土粒子少量含む。堅緻。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物・灰褐色土粒子少量含む。
- 2' 暗褐色土 2より焼土・炭化物粒子多く含む。
- 3 褐色土 炭化物粒子少量含む。
- 4 黒褐色土 赤褐色土粒子少量含む。軽石ややあり。堅緻。
- 4' 黒褐色土 4より赤褐色土粒子多く含む。
- 5 赤褐色土 堅緻。
- 6 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、灰多量含む。
- 6' 暗褐色土 6より焼土・炭化物粒子、灰少量含む。
- 7 褐色土 黄褐色土粒子多量含む。
- 7' 褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。
- 8 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。
- 8' 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。
- 9 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子微量含む。
- 10 褐色土 黄褐色土粒子多量含む。

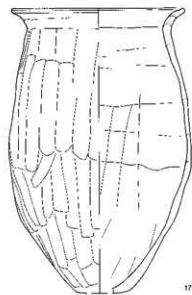
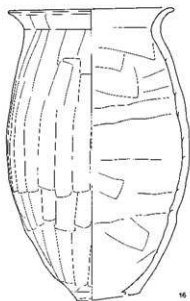
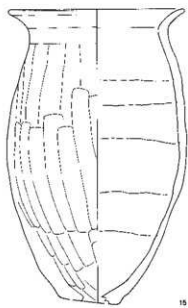
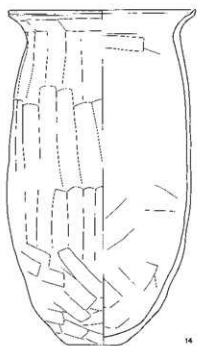
第146号住居跡カマド

- A 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(2~5cm)、炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- B 褐色土 焼土ブロック層。
- C 黒色土 炭化物、灰主体。焼土粒子少量含む。軟質。
- D 黒褐色土 焼土粒子少量。炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- E 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10cm)少量。灰多量含む。



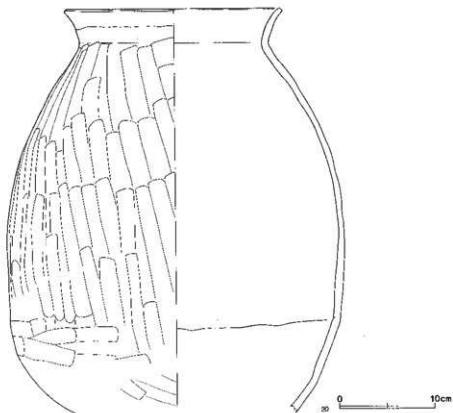
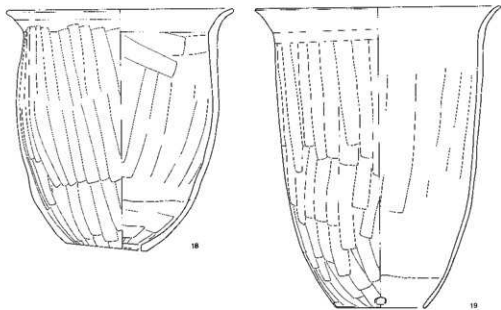


第587图 第144·147号住居跡出土遺物(1)



0 10cm

第588図 第144・147号住居跡出土遺物(2)



第589図 第144・147号住居跡出土遺物(3)



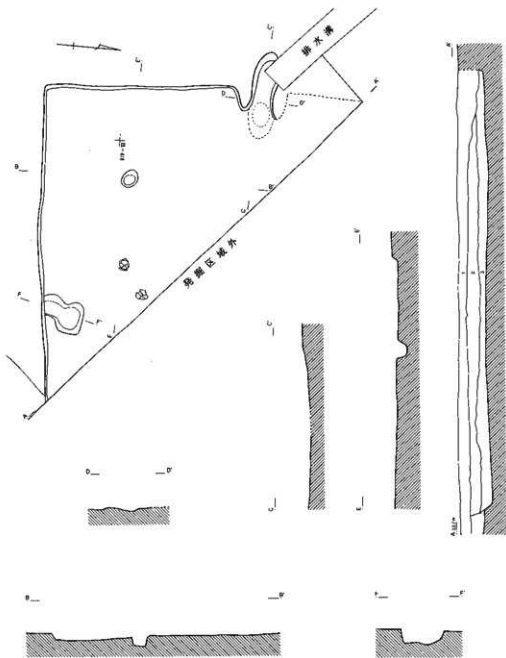
第590図 第146号住居跡出土遺物

第144・147号住居跡 (第587～589図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.3) 高4.8	B+R+W少	におい橙	25	No.21・25。口縁部面トリ
2	坏	口(14.0)	B+R+W+W	(内)におい黄褐 (外)暗褐	30	口縁部面トリ 内外面黒色
3	坏	口(13.4)	B+R多+W	橙	40	口縁部面トリ
4	坏	口13.6 高4.5	B+R多+W	橙	90	No.8。口縁部面トリ 内外面に黒色部分
5	坏	口(14.1)	B+R+W+W少	橙	30	No.19。
6	高坏	口(14.0)	B+R多+W	橙	坏部 20	No.1・貯蔵穴。
7	支脚	下径8.7	B多+R多+W	橙	60	No.7。
8	高坏	脚(14.0)	B+R+W+W	橙	脚部 20	No.2・貯蔵穴。
9	高坏	脚(13.4)	B+R+W+W	橙	脚部 30	貯蔵穴。
10	甕	口19.0 胴19.3	B+R+W+砂少	浅黄橙～暗褐	60	No.22・23。胴部内外面に黒色部分
11	甕	口20.0 底5.5	B多+R+W+砂少	橙～におい橙	80	No.22・23。内外面に黒色部分
12	甕	口20.2	B+R多+W+砂少	橙～におい橙	35	No.27。内外面に黒色部分
13	甕	口17.1 胴22.4	B+R少+W少	赤褐～におい赤褐	70	No.20・25。胴部外面に黒色部分
14	甕	口19.6 底5.5 高34.9	B多+R多+W+砂少	黄橙～橙	60	No.23・24。胴部外面下に黒色部分
15	甕	口18.5 底(8.2) 胴18.8	B+R+W多+砂多	(内)橙～におい橙 (外)橙～におい褐	60	No.13。胴部外面に黒色部分 粘土組織 み上げ痕跡
16	甕	口17.3 底(8.7) 胴19.1	B+R+W+砂多	(内)明赤褐 (外)におい橙	90	No.9・10・16・17。胴部外面に黒色部分 粘土組織み上げ痕
17	甕	口18.1 底(5.5) 胴19.0	B+R+W+砂多	橙～明赤褐	90	No.22・23。外面に黒色部分 粘土組織 み上げ痕
18	甕	口23.8 底8.5 高24.9	B+R多+W	(内)明赤褐 (外)橙～におい橙	95	No.11。胴部外面に黒色部分
19	甕	口25.7 底9.5 高31.2	B多+R多+W	橙	90	No.17・18。焼成前穿孔 口縁部内面に 黒色部分
20	甕	口22.8 胴35.2	B多+R多+W+砂少	橙	70	No.27。胴部外面に黒色部分 粘土組織 み上げ体止痕

第146号住居跡 (第590図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	皿	口11.8 底5.4 高2.2	R+W+W	灰	60	No.2。回転糸切り直し
2	坏	底5.6	R+W多+W	灰	底部 50	回転糸切り直し
3	高台付筒	台(8.0)	W	灰～褐灰	高台部 30	ビット1。高台ナデツケ



第156号住居跡

1. 表土
2. 暗褐色土 基褐色土ブロック・炭化物・炭土粒子を少量含む。
3. 深褐色土 炭化物・炭土粒子を多く含む。しまり・粘性強い。

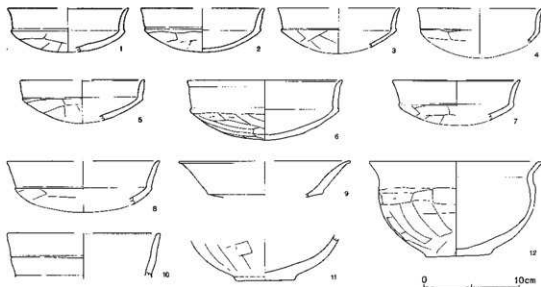


第591図 第156号住居跡

第156号住居跡 (第591図)

に・ほ—416・417Gridに位置し、全体の約半分が調査区域外にかかる。確認された南壁の長さは5m、主軸の傾きはN—87°—W、床面までの深さは10cmである。床面は焼けて炭化物が付着していることから焼失住居と考えられる。

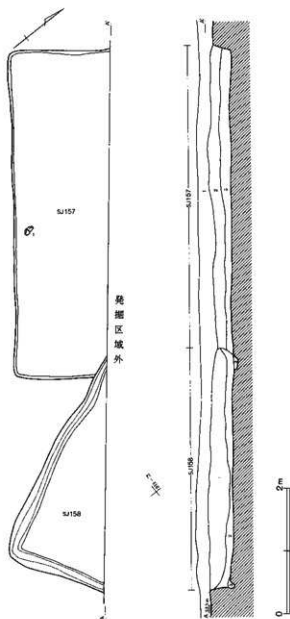
カマドは西壁に構築されているが、右袖および燃焼部のプランは不明瞭である。柱穴と考えられ



第592図 第156号住居跡出土遺物

第156号住居跡 (第592図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.6) 高(4.6)	B+W多+W'	橙~褐灰	25	口縁部ナデ, 体部外面ヘラケズリ, 風化
2	坏	口(13.0) 高4.6	B+R+W	橙	30	口縁端部面取り, 体部外面風化著しくケズリ不可辨。
3	坏	口(12.8) 高(4.6)	B+R+W少+W'少	褐灰	25	口縁部ナデ, 体部外面ヘラケズリ。
4	坏	口(13.0) 高(5.2)	B+W少+W'少	橙	口縁 30	口縁部ナデ, 体部外面風化著しくケズリ不可辨。
5	坏	口(13.0) 高(4.5)	B+R多+W少	橙	25	口縁端部面取り, 体部外面風化著しくケズリ不可辨。
6	坏	口16.2 高6.2	B+R+W+W'多	橙~黒褐	90	口縁端部ヘラアテ。
7	坏	口(13.0) 高(4.7)	B+W+W'多	黒褐	25	口縁端部弱いヘラアテ, 風化。
8	坏	口(16.0) 高(5.3)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	口縁端部面取り, 体部外面風化によりケズリ不可辨。
9	高坏	口(9.0)	B+R多+W	橙	口縁 25	口縁部内外面ナデ, 風化。
10	壺	口(16.0)	B少+R少+W+W'	黒褐	口縁 20	口縁端部弱いヘラアテ, 口縁部壁をもつ
11	壺	底6.0	B+R多+W多+W'	にふい橙	底部 30	胴部外面ヘラケズリ, 風化顯著。
12	鉢	口18.1 高9.9	B+R+W+W'少	橙	70	口縁端部ヘラアテ面取り, 風化顯著。



第157号住居跡

1. 灰土
2. 暗褐色土 砂質の土で、しまりは強いが、粘性に乏しい。
3. 褐色土 焼土粒子・炭化物・やや大型の炭化物を少量含む。

第158号住居跡

1. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多量に、焼土粒子を少量含む。粘性強い。
2. 暗褐色土 茶褐色土ブロックは小粒化し、少量含まれる。若干の炭化物と焼土粒子を含む。
3. 褐色土 粘性としまりの強い土で、茶褐色土小ブロックを若干含む。炭化物は2層より多く含む。

第593図 第157・158号住居跡

るピットは1基確認された。深さは14cmである。南壁際に浅い掘り込みが認められたが、壁溝や貯蔵穴は検出されなかった。

出土遺物は破片でその量は少ないが、床面直上から土師器片が出土している。

第157号住居跡（第593図）

は・に—416・417Gridに位置する。大半が発掘区域外にかかり、南東側を第158号住居跡に切られている。検出された一辺の長さは5.22m、床面までの深さは30cmである。遺構内の施設は確認されなかった。

遺物は非常に少なく、残りのよい土師器片（1）が1点、床面から出土している。他には壺の破片が図示できたにすぎない。

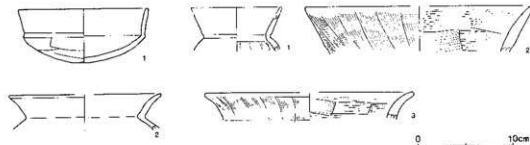
第158号住居跡（第593図）

は・に—415・416Gridに位置し、大半が発掘区域外にかかる。第157号住居跡をわずかに切っているが、床面までの深さは34cmとほとんど変わらない。検出範囲すべての部分で浅い壁溝が検出された。幅18cm、深さは6cmである。他の施設は確認されなかった。

覆上から土師器の破片がいくらか出土している。

SJ 157

SJ 158



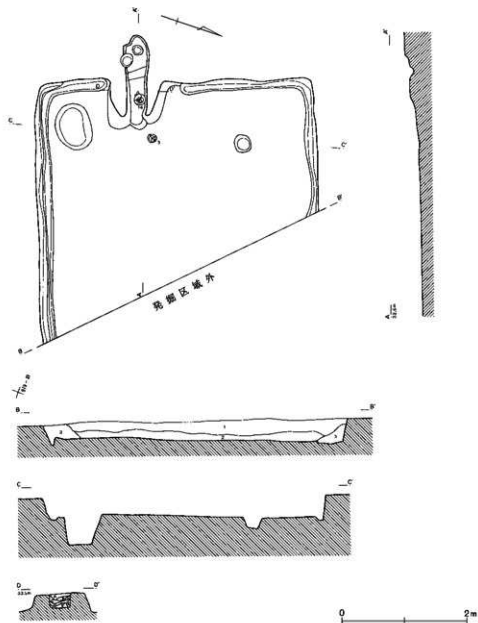
第594図 第157・158号住居跡出土遺物

第157号住居跡（第594図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.5 高5.8	B+R+W少	橙	80	No.1. 体部外面風化著しくクズリ不明瞭。
2	壺	口(16.0)	B少+R少+W多+W'	明赤褐	口縁 5	口縁部面取り、風化顯著。

第158号住居跡（第594図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	小型壺		B少+W+W'	黒褐	口縁 25	胴部外面風化により胴部不明、内面指オサエ。
2	壺	口(24.0)	B+W+W' 少+砂少	橙	口縁 5	口縁部内外面ハケメ後、悪いナデ。
3	壺	口(11.0)	B+W+W'	明赤褐	口縁 5	口縁部内外面ハケメ後、ナデ。



第159号住居跡のマド

- A. 青灰褐色土 機土粒子を少量含む。
 B. 暗青灰褐色土 1層より機土粒子を多く含む。
 C. 赤褐色土 機土ブロックであり、壁体の崩壊したもの。
 D. 暗褐色土 沉層。機土ブロックを少量含む。
 E. 黄褐色土 若干の機土粒子・炭化物を含む。
 F. 暗灰褐色土 灰まじりの土で、炭化物を少量含む。

第159号住居跡

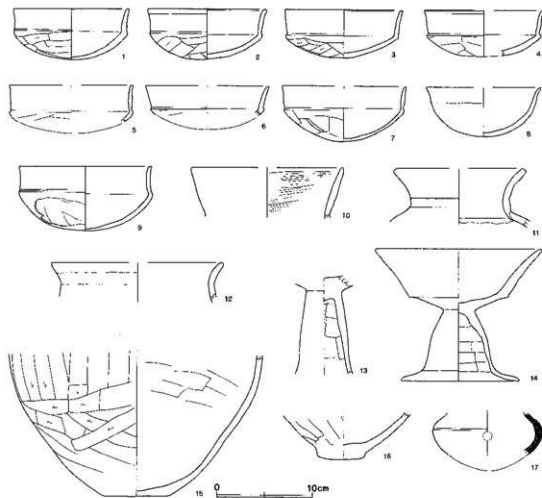
1. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径1~3cm)を全体的に多量に含み、炭化物粒子を少量含む。堅縮。
 2. 暗褐色土 茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~2cm)・同粒子(径3~5mm)を多量に含む。
 3. 黄褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)を全体的に多量に含む。やや粘性があり堅縮。

第159号住居跡 (第595図)

ろ・は—415~416Gridに位置し、東側は調査区域外にかかる。検出された西壁は4.50mで、床面までの深さは29cm、主軸の傾きはN-111°-Wである。

カマドは西壁やや南寄りに構築されている。煙道に新しい小さなピットの掘り込みを受けているが、残存状況は良好である。袖は地山の造り出しで、燃烧部の掘り込みは浅く、支脚がわりに高坪を伏せて使用していた。貯蔵穴はカマドの左側、住居の南西隅に設けられている。規模は73×60cm、深さは45cmで底は平らになる。壁溝は検出された範囲に限り全周している。柱穴と考えられるピットは1基が確認できたのみである。

遺物の量はさほど多くはないが、カマドや貯蔵穴から良好な資料が出土している。また、須恵器甕の破片も覆土から検出された。



第596図 第159号住居跡出土遺物

第159号住居跡 (第596図)

No.	器種	大きさ (ca)	胎土	色調	残存率 (%)	備考
1	坏	口12.0 高5.3	B+R+W'	橙	85	床面。口縁部面取り。
2	坏	口12.4 高5.3	B+R+W	にふい橙	80	貯蔵穴。床面。口縁部面取り。風化。
3	坏	口12.3 高5.0	B+R少+W+W'	明赤褐	100	№2。口縁部面取り。
4	坏	口(12.5) 高(4.8)	B+W+W' 少	明赤褐	30	体部外面風化によりケズリ不明瞭。
5	坏	口(13.0) 高(5.0)	B+W+W'	明赤褐	口縁 20	口縁部面取り。体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
6	坏	口(13.0)	B+W 少	橙	口縁 5	口縁部面取り。体部外面風化著しくツルツル。
7	坏	口(13.0) 高5.8	B+R+W+W' 少	橙	60	口縁部面取り。体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
8	坏	口(12.0) 高5.2	B少+R+W+W'	橙	50	風化著しく痕跡不明瞭。
9	坏	口13.8 高6.7	B+R少+W+W'	橙	90	貯蔵穴。口縁部面取り。体部外面表面剥落部分にヘラケズリ痕。また部分的に粘土を補強しナデつけた面あり。
10	壺	口(18.0)	B+R少+W 少	橙	口縁 5	口縁部内面ハケメ後、肩部ナデ。風化顕著。
11	壺	口(13.0)	B+R+W+W'	(内)黒褐 (外)橙	口縁 95	貯蔵穴。床面。口縁部面取り。
12	蓋	口(18.0)	B多+R少+W+W' 少	橙	口縁 25	口縁部内外面ナデ。風化。
13	高坏	脚基部3.6	B少+W+W' 少	にふい橙	脚部 50	脚部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ヘラケズリ。風化。
14	高坏	口17.5 高13.7 脚12.3	B+R少+W+W' 少	橙	80	№1 カマド。口縁部ナデ。外面体部へ脚部ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラケズリ。
15	壺	底7.0	B+W多+W' 多+砂	橙	胴部下半 30	底部外面周辺まわくヘラケズリ。
16	壺	底5.4	B+W+W' +砂少	にふい赤褐	底部 100	底部外面一方向のヘラケズリ。風化。
17	はそう		B+W多+W'	灰	胴部 10	胴部のみ残存。胴部中央の孔は推定。

第160号住居跡 (第597図)

ろ—414・415Gridに位置する。大半が調査区域外にかかり、南西コーナーが検出されたにとどまる。壁は直に掘り込まれているが、しっかりとした方形プランを示していない。床面までの深さは25cmである。壁溝は幅19cm、深さはだいたい4cm前後と浅く掘り込まれている。その他の施設は検出されなかった。

発掘範囲が狭いため、遺物の量は少なかったが、完形の土師器坏(1)が出土している。

第161号住居跡 (第598図)

ン・い—413・414Gridに位置し、東側が第162号住居跡と切り合っている。北東隅が攪乱と発掘区域外にかかり失われているが、長軸6.48m、短軸6.44m、深さ12cmの規模をもつ。主軸の傾きはN-7°-Eで、噴砂のためやや歪んでいるが、正方形に近い平面プランをもつものと考えられる。

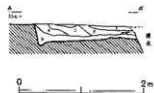
カマドは北壁ほぼ中央に構築されている。袖は地山の造り出しで、燃焼部はゆるやかに掘り込め

られている。全長218cm、焚き口幅は40cmである。ピットは数基検出されたが、ピット1～4が主柱穴と考えられる。いずれも深く50～60cm前後の掘り込みが確認された。壁溝は浅く、10～27cmの幅では全周するものと思われる。貯蔵穴らしき施設は確認されなかった。北東隅に存在していたかもしれない。

遺物はカマド周辺からまとまって出土している。左側には甑や甕が、右側には甕・支脚などが位置していた。また、カマドの火床面から滑石製の白玉が5点検出されている。

第162号住居跡 (第601図)

ン-412・413Gridに位置する。第161号住居跡に切られ、東側は発掘区域外にかかる。住居のコーナーが検出されていないため、その形態は不明である。床面までの深さは20cmである。壁溝はなく、カマドなどの施設も検出されなかったが、南壁近くの床面にわずかな隆起が認められた。他の検出例から類推すると、発掘区域外に馬蹄形状に延びるものと考えられる。おそらく入口の痕跡で



第160号住居跡

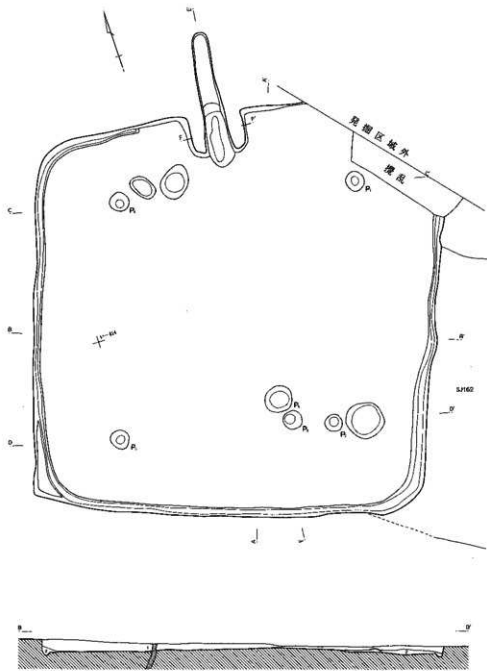
1. 赤褐色土 灰褐色土粒子(径1～2mm)を少量、炭化物粒子をわずかに含む。粘り強く堅固。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径2～3mm)を全体的に多量に含む。焼土粒子をわずかに含む。土層片を多く含む。堅固。
3. 灰褐色土 灰褐色土ブロック(径1～2cm)を主体とし、暗茶褐色土をわずかに含む。やや粘り性があり堅固。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒子(径2～3mm)を少量含む。同ブロック(径5mm～1cm)を部分的に含む。
5. 暗黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1～2cm)を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。堅固。



第597図 第160号住居跡・出土遺物

第160号住居跡 (第597図)

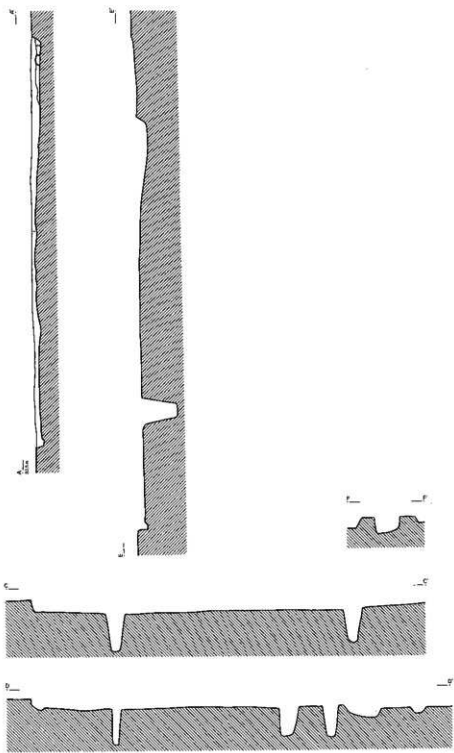
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.0 高4.5	B+R+W多+W'	橙	100	床面、口縁部面取り。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
2	坏	口(16.0) 高(3.8)	B+W+W'	橙～黒	30	口縁部面取り。
3	甕	底5.4	B+R+W多+W'	赤褐	底部 100	底部外面二方向のヘラケズリ。

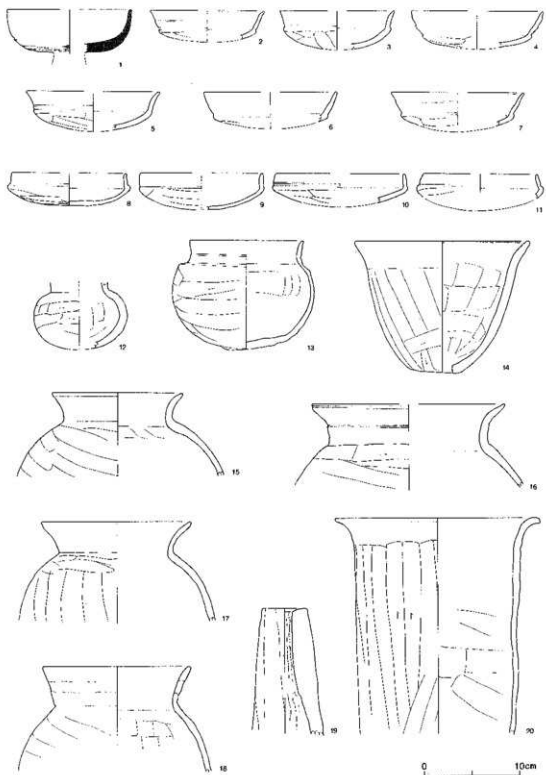


第161号住居跡

1. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子（径1～3mm）を全体的に多く含み、
鉄土・炭化物粒子をまばらに含む。堅緻。
2. 黄褐色土 黄褐色土ブロック（径1～2cm）を主体に暗茶褐色土を少量含む。若干粘性があり、堅緻。

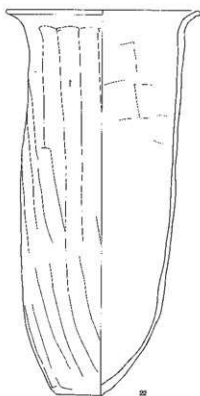
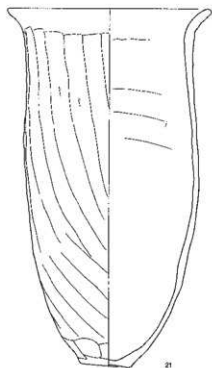
0 2m



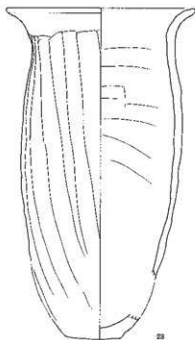


第599图 第161号住居跡出土物(1)

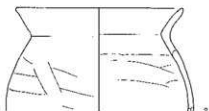
SJ 161



0 10cm



SJ 162



0 10cm

第600图 第161号住居跡出土遺物(2)・第162号住居跡出土遺物

第161号住居跡(第599・600図)

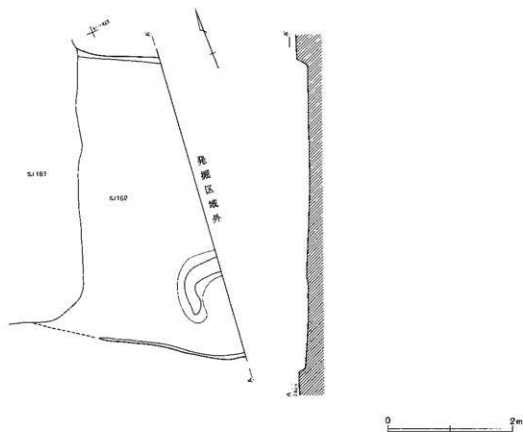
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高坏	口(13.0)	B+W+V'	灰	坏部 26	口縁部ナデ。口縁部と体部の境目強いヘラアテ。体部外面下位カキ目。
2	坏	口(12.0)	B+R+W+V'	橙	口縁 20	口縁部ヘラアテ。風化。
3	坏	口(12.0) 高(4.1)	B+R+V'少	橙	30	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
4	坏	口(14.0)	B+V'多+W'	赤褐	26	口縁部外面ヘラアテによる段をもつ。体部外面ヘラケズリ。
5	坏	口(14.0) 高(4.2)	B+R+V'少	橙	26	口縁部外面ヘラアテ。風化。
6	坏	口(14.0)	B+R+W+V'少	橙	口縁 20	口縁部外面弱いヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。
7	坏	口(14.0)	B+R+V'少+W'少	浅黄橙	口縁 20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
8	坏	口(12.0) 高3.4	B多+W+V'	浅黄橙	35	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
9	坏	口(12.8) 高(3.8)	B多+R+W	にふい黄橙	30	体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
10	坏	口(14.0)	B+V'	明赤褐	口縁 15	口縁部と体部の境目ヘラアテ。
11	坏	口(12.0)	B+R+W多	明赤褐	口縁 15	体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
12	小型壺	胴(9.8)	B+R多+W	橙	胴部 50	胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。
13	鉢	口12.0 底5.0 高11.4	B+R+W	にふい橙～褐灰	85	口縁部ヘラアテ。口縁部外面ヘラアテによる段をもつ。底部外面粗雑なケズリ
14	甗	口18.4 底5.3 高13.7	B+R+W+V'	(内)黒(外)橙	100	カマド左床面。口縁部ヘラアテ。胴部内面ヘラナデ。
15	壺	口13.6	B+R+W	浅黄橙	胴部上半 80	床面。胴部内面ヘラナデ。
16	甗	口(20.2)	B+R+V'少	にふい橙	口縁 30	口縁部ヘラアテ。口縁部外面ヘラアテによる段をもつ。
17	甗	口15.8	B+R+W+V'少	橙	胴部上半 40	胴部外面風化によりケズリ不明瞭。
18	甗	口15.4	B+R+W	橙	胴部上半 90	カマド左床面。風化。
19	支脚	上端4.8 孔1.6	B多+W+V'	明黄橙	70	カマド右床面。外面ヘラケズリ後、ナデ
20	甗	口20.4	B+W+V'+砂多	にふい赤褐	30	カマド右床面。口縁部ナデ。胴部内面ヘラナデ。
21	甗	口11.4 底5.2 高37.8	B+R+W+V'+砂多	にふい橙～褐灰	70	床面。口縁部厚。底部外面強いヘラケズリ。風化。胎土中の含有物量多い。
22	甗	口20.0 底(5.0) 高40.3	B+W+砂多	橙	60	床面。カマド。胴部内面ヘラナデ。
23	甗	口19.8 高34.6	B+R+W+砂多	にふい橙～灰褐	70	口縁部～胴部と底部接点なし。胎土中の含有物量多い。

第162号住居跡(第600図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	埴	口8.6 底2.5 高7.7 胴6.0	B+W+V'	明赤褐	95	床面。口縁部ナデ。胴部外面下半ヘラケズリ。凹み底。
2	甗	口17.4	B+R+W多+V'	明赤褐	胴部上半 95	床面。胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。風化顯著。

あろう。したがって、カマドは北壁に構築されていた可能性が高い。

出土遺物はきわめて少ないが、土師器埴などが床面から出土している。



第601図 第162号住居跡

第163号住居跡 (第602図)

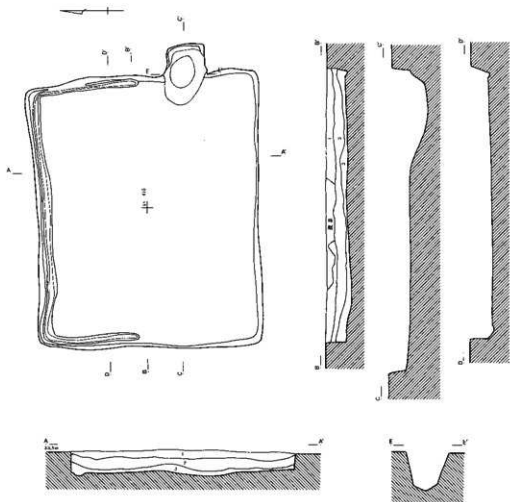
ン・シー414・415Gridに位置する。長軸4.30m、短軸3.57mの長方形を呈し、主軸の傾きはN—90°—Eではほぼ真東を向く。床面までの深さは30cmである。床面は明瞭ではなく、南側の一部に掘り方が確認されている。

カマドは東壁南寄りに構築されている。燃焼部は深く大きく掘り込まれており、袖および煙道部は検出されなかった。壁溝は住居の北半を巡っている。幅20cm、深さは3cmと非常に浅い。貯蔵穴や柱穴などは検出されなかった。

遺物の量は少ないが、床面やカマドから土師器の破片が出土している。

第164号住居跡 (第604図)

ス・シー414・415Gridに位置する。長軸4.4m、短軸4.0mのほぼ正方形を呈し、主軸の傾きはN—126°—Eである。掘り込みは深く、床面までの深さは47cmである。床面はしっかりとしており、検出状況は良好であった。



第163号住居跡

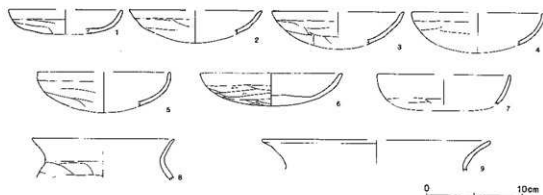
1. 暗黄褐色土 黄褐色土粒子（径1～3mm）を全体的に多く含み、
 焼土・炭化物粒子をわずかに含む。堅緻。
2. 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック（径1～2cm）を多く含み、
 焼土・炭化物粒子を少量含む。堅緻。
3. 黒褐色土 黄褐色土粒子（径1～2mm）を少量含み、炭化物
 粒子を多量に含む。やや粘性があり堅緻。

0 2m

カマドは東壁、ほぼ中央に設けられている。袖は床面近くは地山の造り出しであるが、大半は粘土を貼り付けて構築されていたものと推定される。燃焼部はほとんど掘り込まれておらず、支脚がわりに堯が置かれていた。規模は全長270cm、焚き口幅34cmである。柱穴は4ヶ所から均等に検出され、柱痕も明瞭に残っていた。深さは40~50cmである。壁溝は深さ9cm、ほぼ同じ20cmほどの幅で全周している。

貯蔵穴は住居の北東隅と、南西隅の2ヶ所に設けられている。いずれも深くなるにつれて幅が狭くなるが、底は平らになる。南壁中央にはわずかな半円形の隆起が確認された。住居の出入口と考えられるが、他の例とは異なり、カマドの対面に位置していない。また東南隅に土坑が2基検出されている。いずれも深さ10cm前後である。覆土には焼土や炭化物・灰が多く含まれており特徴的である。

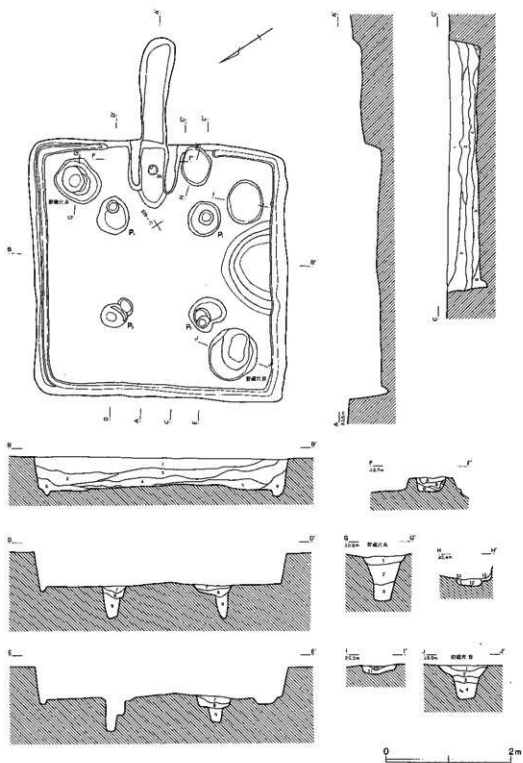
本住居跡は残りがよく、覆土も厚いため、出土遺物の量は大変多い。床面直上から完形品も数点出土しており、破片の接合率も良好である。57点もの遺物を図化することができた。土器以外には、石製の勾玉が1点、ピット1内に堆積した覆土中から検出された。



第603図 第163号住居跡出土遺物

第163号住居跡 (第603図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(12.0) 高(2.6)	B+W	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
2	坏	□(14.0)	B多+W	橙~黒褐	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
3	坏	□(14.0)	B多+W	明赤褐	25	カマド。体部外面ヘラケズリ。
4	坏	□(14.0)	B+W	橙	口縁 20	体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
5	坏	□(14.0)	B+W	橙	口縁 20	体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
6	坏	□15.0 高3.4	B+W+W'	にぶい赤褐~黒	90	床面。口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ
7	坏	□(14.0)	B+W+W' 少	橙	口縁 20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
8	甕	□15.0	B+R少+W多	にぶい赤褐	口縁 85	口縁部ナデ。胴部外面ヘラケズリ。
9	甕	□(24.0)	B+W多	明赤褐	口縁 25	カマド。口縁部外面輪積み痕。



第604图 第164号住居跡

第164号作例

1. 茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)・同ブロック(径5mm~1cm)を全体的に多量に含む。炭化物・焼土粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
2. 暗黄褐色土 1層によく仰るが、1層に比べて黄褐色土ブロックが大きく(径1~2cm)量も多い。炭化物粒子を多く含む。やや粘性があり堅緻。
3. 黒褐色土 炭化物を多量に含む。焼土粒子をまばらに含む。黄褐色土ブロック(径1~2cm)を少量含む。土層片を多く含む。やや粘性があり堅緻。
4. 暗黄褐色土 茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~2cm)を全体的に多量に含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。粘性があり堅緻。
5. 暗黄褐色土 茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)を多量に含む。部分的に大きなブロックを含む。粘性があり堅緻。
6. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)を基本に、茶褐色土を少量含む。やや粘性があり堅緻。
7. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を部分的に、同粒子を全体的に多く含む。焼土粒子を少量含む。
8. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)および焼土・炭化物粒子を多く含む。
9. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を基本に茶褐色土を少量含む。粘性あり。
10. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~2cm)を少量。炭化物粒子を多量に含む。
11. 黒褐色土 黄褐色土粒子(径1~2mm)を全体的に、同ブロック(径5mm~1cm)を若干含む。炭化物を多量に含む。
12. 黒灰色土 灰を主体に焼土を多量に含む。黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)をわずかに含む。粘性があり堅緻。
13. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)を主体に黒灰色土をわずかに含む。粘性があり堅緻。

第164号住居跡貯蔵穴A

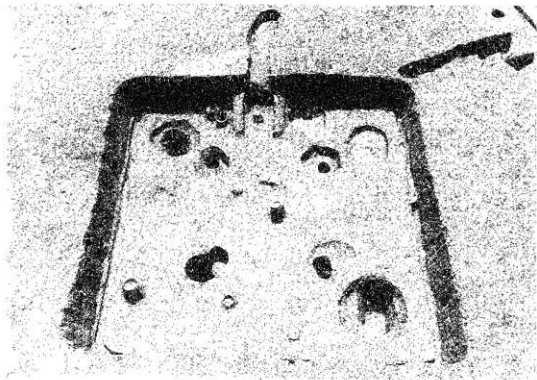
1. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を少量含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。粘性があり堅緻。
2. 黒褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~2cm)を多く含む。焼土粒子を若干含む。粘性強く堅緻。
3. 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を主体に、黒褐色土を少量。焼土・炭化物粒子を若干含む。粘性が強く軟らかい。

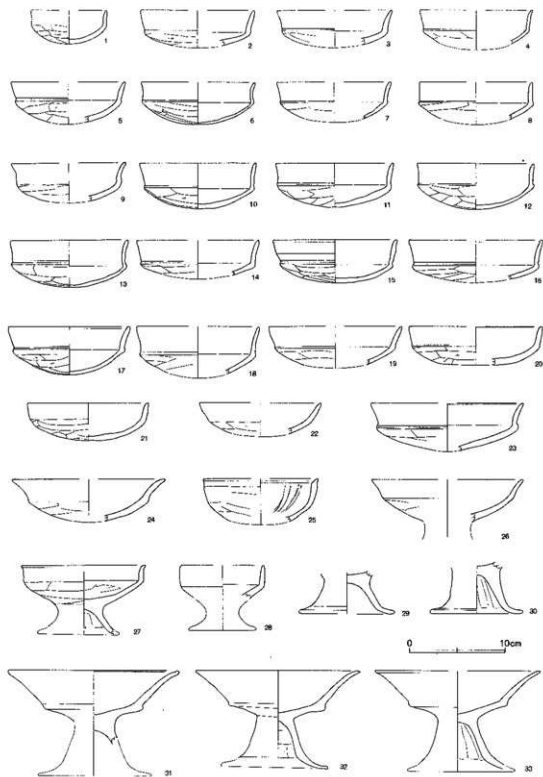
第164号住居跡貯蔵穴B

1. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~2mm)を多く含む。灰褐色土をまばらに含む。焼土粒子をわずかに含む。堅緻。
2. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~3mm)を主体に暗茶褐色土をまばらに含む。
3. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を少量含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。
4. 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック(径2~3cm)を多く、暗茶褐色土をまばらに含む。

第164号住居跡カマド

- A. 暗黄褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を多く、焼土ブロックを部分的に含む。
- B. 赤褐色土 茶褐色土を基本に焼土ブロックを多量に含む。部分的に灰を含む。
- C. 黄褐色土 黄褐色土を基本に茶褐色土を少量含む。
- D. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)をわずかに含む。焼土・炭化物・灰を多量に含む。





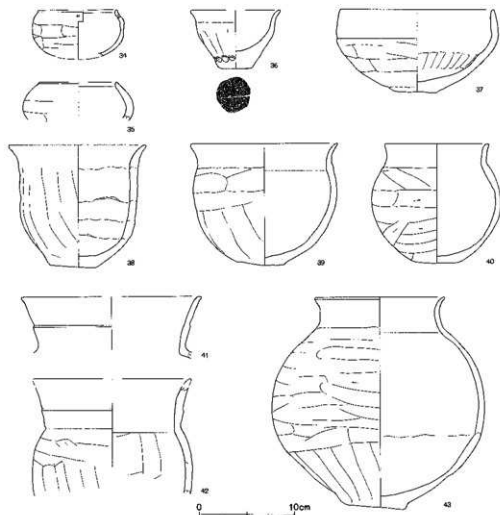
第605图 第164号住居跡出土遺物(1)

第165号住居跡 (第608図)

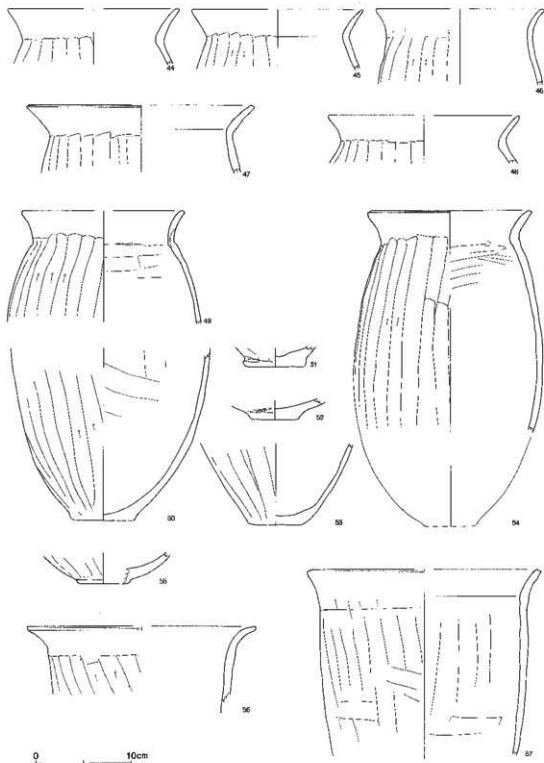
セ・スー414・415Gridに位置する。第166号住居跡に切られたうえ、南側は調査区域外にかかっている。検出された北壁は長さ3.8m、主軸の傾きはおよそN-8°-Eである。床面までの深さは26cmである。

カマドは北壁中央に構築されている。袖は地山の造り出しで、その残存状況は良好である。燃焼部はほとんど掘り込まれていない。全長は220cm、煙道は長くほぼ水平に延びる。煙出しの掘り込みが煙道先端に認められた。柱穴と思われるピットは2基確認された。深さは60cm前後である。貯蔵穴は北西隅に設けられ、壁から直に掘り込まれている。86×66cmの方形を呈し、深さは46cmで、底は平らになる。

遺物の量は多くはなく、すべて覆土からの出土である。破片が多く、接合率もあまり良好ではなかった。



第608図 第165号住居跡出土遺物(2)

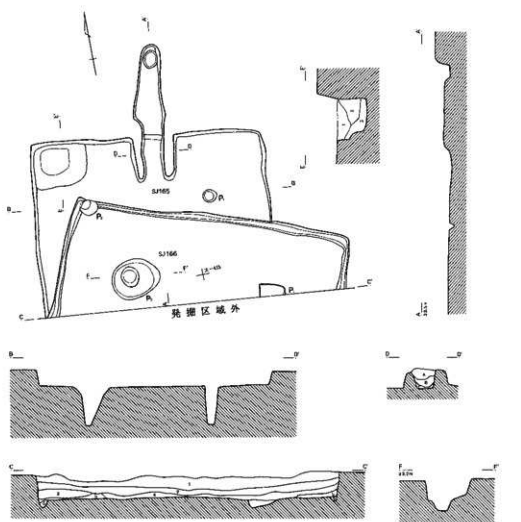


第607図 第164号住居跡出土遺物(3)

第164号住居跡(第805~607回)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(8.0)	B+W少	橙	35	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
2	坏	□(12.0)	B+W	橙	25	口縁部~体部内面ナデ。風化。
3	坏	□(12.0)	B+W	橙~黒	10	壺溝。口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化。
4	坏	□(12.0)	B+W	にふい橙	口縁 20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
5	坏	□(12.0)	B+R少+W	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
6	坏	□(12.0) 高4.4	B+R少+W	橙	45	口縁部ナデ体部外面風化によりケズリ不明瞭。
7	坏	□(12.0)	B+W	にふい橙	20	風化著しく観察不明。
8	坏	□(12.0)	B+R+W少	にふい濁	口縁 20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
9	坏	□(12.0)	B+R多+W	にふい橙	20	体部外面ヘラケズリ。風化顯著。
10	坏	□12.2 高4.8	B多+R+W	橙	95	床面。口縁部ナデ。風化。
11	坏	□12.4 高4.8	B+R+W少	橙~黒	95	口縁端部凹取り。風化。
12	坏	□12.2 高4.8	B+R+W	にふい黄橙	70	口縁部ナデ。風化。
13	坏	□12.3 高4.9	B+R+W	にふい橙	80	口縁部ナデ。
14	坏	□(13.0)	B+R少+W	にふい橙	口縁 25	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
15	坏	□13.0 高4.5	B+R+W	にふい橙	50	口縁部ナデ。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
16	坏	□(14.0)	B+R少+W	橙	20	口縁部~体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。
17	坏	□12.8 高5.0	B+R+W	橙~黒	100	壺溝。口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ
18	坏	□(12.8)	B+R少+W	橙	口縁 40	口縁部と体部の境目ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。風化。
19	坏	□(14.0)	B+W	にふい橙	15	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
20	坏	□(14.0) 高(4.0)	B+W	明赤濁~黒濁	25	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
21	坏	□12.7 高3.9	B+R+W	にふい赤濁~黒	100	床面。口縁部~体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。
22	坏	□(13.0)	B+W+W'	灰濁	口縁 30	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
23	坏	□(16.0) 高(5.1)	B+W	明赤濁	10	口縁端部ヘラアテ面取り。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
24	坏	□(16.0) 高(4.5)	B+W+W'	にふい橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
25	坏	□(12.0)	B+R+W	橙	10	口縁端部ヘラアテ。内面凹文の痕跡。
26	台付坏	□(16.0)	B+R+W	橙	坏部 25	口縁部~体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリナデ。
27	台付坏	□13.0	B少+W+W'	暗赤濁	80	壺溝。口縁端部ヘラアテ。口縁部ナデ体部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。脚部外面ナデ。内面ヘラナデ。
28	高坏	□(8.8)	B+R少+W	にふい橙	口縁 40	体部外面ケズリ後ナデ。脚部欠損。風化顯著。
29	台付坏	脚(10.0)	B+W	(内)黒 (外)にふい濁	脚部 60	脚部内外面ナデ。

30	台付環	脚9.8	B多+R+W	橙	脚部 100	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。
31	高環	口18.0	B+R+W多+W'	橙	50	床面。口縁増部ヘラアテ、坪部内外面ナデ。
32	高環	口27.2 高10.1 脚(11.2)	B+R+W+W' 少	橙	85	床面。P-7。口縁部へ体部内面ナデ。外面体部へ脚部ケズリ後ナデ。脚部ナデ
33	高環	口(17.5)	B+R+W	橙	80	坪部内外面へ脚部外面ナデ。脚部内面ヘラケズリ。
34	楕	口(8.4) 高(5.2)	B+W	橙～黒	30	口縁部付近、竹串状の工具による穿孔。
35	楕	口(8.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
36	ミニチュア	口(9.4) 高6.1	B+R少+W	にふい橙	50	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ、下部に爪圧痕。底部木漆痕。
37	鉢	口18.0 底4.6 高8.5	B+R+W少	橙	100	床面。口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ内面ヘラナデ。
38	小型壺	口14.4 底4.8 高12.8	B+W多+W'+砂少	(内)褐灰～黒 (外)明赤褐	100	(内)褐灰～黒 (外)明赤褐
39	小型壺	口15.4 底4.9 高12.7	B+W+砂多	明赤褐	100	脚部外面ヘラケズリ。底部外面一方のヘラケズリ。風化著しく器面荒れている
40	小型壺	口11.0 底4.4 高12.5	B+R+W	橙	100	脚部外面上位ヘラケズリ後ナデ、中位～下位ヘラケズリ。底部一方のヘラケズリ。
41	小型壺	口(19.0)	B+R+W	橙	口縁 25	口縁部ナデ、轆をもつ。
42	小型壺	口(16.5)	B+W	橙	上半部 25	脚部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。口縁増部欠損。
43	壺	口13.6 底8.0 高21.9 脚22.2	B+R+W	にふい橙	100	床面。脚部外面ヘラケズリ。風化。
44	壺	口(18.0)	B+W+砂多	橙	口縁 25	口縁増部ヘラアテ面取り。脚部外面ヘラケズリ。
45	壺		B+W+砂	橙	口縁 40	口縁部ナデ。脚部外面ヘラケズリ。
46	壺	口(17.6)	B多+R+W+W' 少	にふい褐	口縁 35	口縁部ナデ。脚部外面ヘラケズリ。
47	壺	口(24.0)	B+W多	橙	口縁 30	口縁増部ヘラアテ面取り。
48	壺	口(20.0)	B+R+W	にふい橙	口縁 20	口縁部外面ナデ。風化。
49	壺	口(17.0)	B+W多+W'+砂	にふい赤褐	口縁 30	脚部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。
50	壺	底6.4	B+W+W' 少	にふい赤褐～黒	30	脚部内面ヘラナデ。底部外面一方のヘラケズリ。
51	壺	底6.0	B+R+砂	橙	底部 90	脚部外面ヘラケズリ。底部外面一方のヘラケズリ。
52	壺	底4.8	B+R多+W	にふい黄褐～黒	底部 100	脚部外面ヘラケズリ。底部外面多方向のヘラケズリ。
53	壺	底5.4	B+W+砂多	にふい橙	底部 100	底部外面一方のヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
54	壺	口17.2	B+R+W+砂	にふい橙	50	カマド。口縁増部ヘラアテ面取り。脚部内面ヘラナデ。
55	壺	底(5.0)	B+W	明赤褐	底部 60	脚部外面ヘラケズリ。
56	壺	口(24.0)	B+W+W'	(内)黒 (外)にふい褐	口縁 20	口縁増部ヘラアテ面取り。口縁部ナデ。
57	甌	口(23.5)	B+R+W少	(内)黒 (外)にふい橙	上半部 25	床面。口縁増部ヘラアテ面取り。脚部外面ヘラケズリ、内面丁寧なヘラナデ。



第165号住居跡

1. 茶褐色土 黄褐色土粒子(径1mm以下)・白色微粒子(径1mm以下)を全体の多量に含む。焼土粒子をわずかに含む。粘性なく堅緻。
2. 暗黄褐色土 基本的に1層と同じだが、黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)を少量含む。粘性なく堅緻。
3. 黒褐色土 茶褐色土を基本に、焼土・炭化物を多量に含む。やや粘性があり緻密。
4. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径2~3mm)を多く含む。同ブロック(径1~2cm)をまばらに含む。焼土粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
5. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を多量に含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。やや粘性があり緻密。
6. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を基本に茶褐色土を少量含む。やや粘性がある。

第165号住居跡貯蔵穴

1. 茶褐色土 黄褐色土粒子(径2~3mm)を多量に含む。同ブロック(径1~2cm)をまばらに含む。焼土・炭化物粒子を多く含む。粘性があり堅緻。
2. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~3cm)を主体に、茶褐色土を少量含む。粘性があり堅緻。
3. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子を少量、炭化物を多量に含む。粘性があり堅緻。

第165号住居跡カマド

- A. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径2~3mm)を少量含む。焼土粒子をまばらに含む。若干粘性があり堅緻。
- B. 暗赤褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を全体の多量に含む。焼土ブロック(径1~2cm)も多量に含む。若干粘性があり堅緻。
- C. 黄褐色土 茶褐色土を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。粘性があり堅緻。

第166号住居跡 (第608図)

セ・スー414・415Gridに位置し、第165号住居跡を切って構築されている。南側の大半は発掘区域外にかかる。検出された規模は一辺4.4m、床面の深さは35cm程で、第165号住居跡の床面よりも若干深い。柱穴のピットは2基確認された。ピット1は調査区域外にかかるため、正確なプランは不明である。壁溝は幅10cm、深さ9cmで、検出された範囲に限り全周する。この他の施設は検出されなかった。

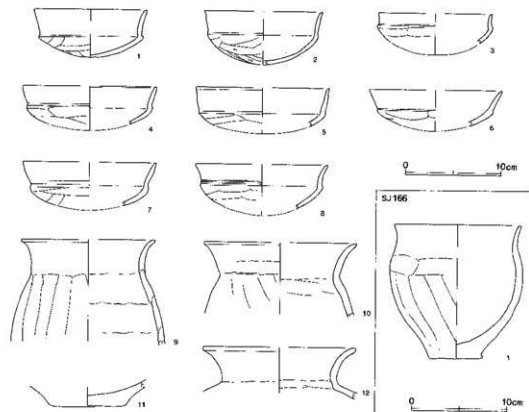
遺物は極端に少なく、小型の土師器片が1点出土したのみである。

第167号住居跡 (第610図)

シ・いー415・416Gridに位置する。規模は長軸4.4m、短軸4.1mで、形態はほぼ正方形を呈している。主軸の傾きはN-8°-W、床面までの深さは43cmである。床面や壁は部分的に熱を受けており、床面から炭化物が一面に検出されている。炭化した部材は検出されなかったが、焼失家屋である可能性が高い。壁は東壁の中位～上位が特に良く焼けており赤橙色を呈している。

カマドは北壁やや東に寄って構築されている。袖は長く、地山の造り出しである。燃焼部は浅く掘り込まれ、支脚が置かれていた。全長229cm、煙道は長いが掘り込みは浅い。状態は非常に良好

SJ 165



第609図 第165・166号住居跡出土遺物

第165号住居跡 (第609図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.8 高6.0	B+R+W	にぶい橙	70	カマド、体部外面ヘラケズリ、風化。
2	坏	口(12.4) 高(5.6)	B+R+W	橙	40	口縁部ナデ、体部外面ヘラケズリ。
3	坏	口(12.0)	B+R少+W	橙	口縁 20	口縁部ナデ、体部外面ヘラケズリ。
4	坏	口(14.0)	B+R	橙	口縁 20	口縁部取り、風化顕著。
5	坏	口(14.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁部～体部内面ナデ、風化顕著。
6	坏	口(14.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁部～体部内面ナデ、風化。
7	坏	口(14.0)	B+R+W	明赤褐	口縁 25	口縁部取り、口縁部～体部内面ナデ風化。
8	坏	口(14.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁部と体部の境目ヘラアテ。
9	小型甕	口(14.0)	B+W	にぶい黄橙	胴部下半 20	口縁部ナデ。
10	小型甕	口(16.0)	B+W+砂	にぶい褐	口縁 25	口縁部ナデ、外面輪痕あり。
11	甕	底(9.6)	B+R多+W	橙	底部 50	胴部外面風化著しく調態不明、底部外面多方向のヘラケズリ。
12	甕	口(16.0)	B+R少+W	橙	口縁 30	口縁部内外面ナデ。

第166号住居跡 (第609図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	小型甕	口13.2 底5.5 高14.0	B+W+砂	橙	100	カマド、胴部外面ヘラケズリ、風化。

ではあったが、天井部は崩壊し、残っていないかった。

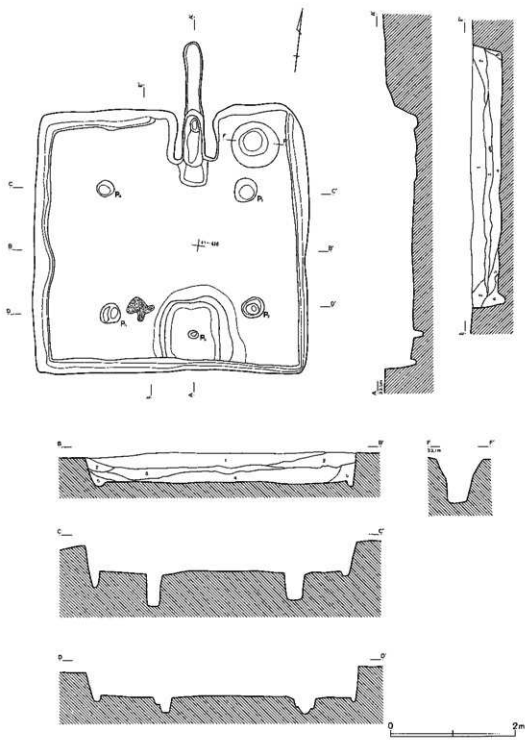
確認されたピットはすべて住居跡に伴うものと考えられる。深さは一定していないが、その配置はバランスがとれている。壁溝は北壁の一部を除いて全周している。幅は15cm、深さは7cmほどである。貯蔵穴はカマドの右側、住居の北東隅に設けられている。径72cmで正円形に近い。深さは68cmで、底は平らになる。カマドのちょうど対面、南壁中央に出入口の隆起が確認された。隅丸方形を呈しており、中央に小さなピットがある。

床面近くの遺物は良好な出土状況を示しており、特に貯蔵穴からは坏、甕など多数の土器が重なり合って出土している。覆土から出土した遺物の量も多いが、接合率はそれほど良好ではない。土器以外には土錘が2点出土している。

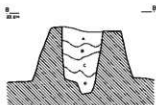
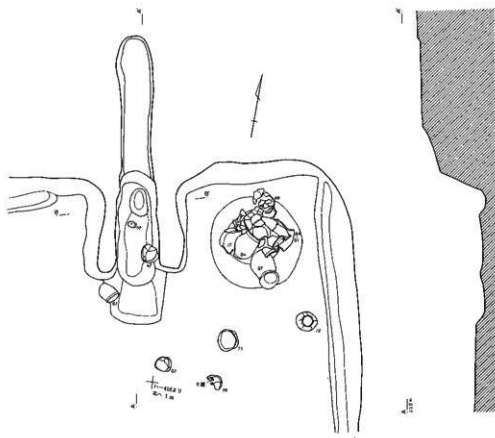
第168号住居跡 (第615図)

ス・ン—416・417Gridに位置する。規模は長軸5.0m、短軸4.8mと正方形に近いが、北壁が長く、扇状にひらいている。主軸の傾きはN—26°—E、床面までの深さは18cmである。

カマドは北壁の東寄りに検出されたが、攪乱を受けており、煙道部は残存していなかった。柱穴は4基、定位に確認された。いずれも深さは60cm前後で直に掘り込まれている。貯蔵穴はカマドの向かって右側、北東隅に設けられている。規模は77×78cm、深さは64cmで、底は平らである。壁



第610图



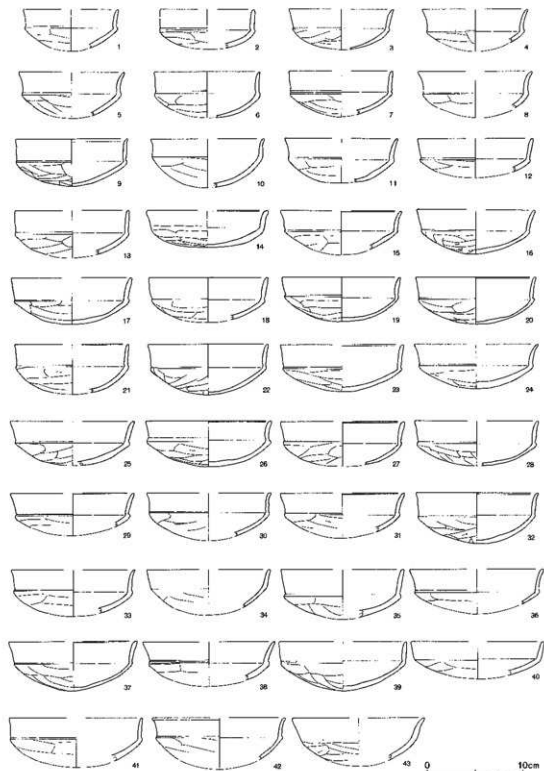
第167号住居跡

1. 赤褐色土 黄褐色土粒子（径1～3mm）を全体的に多量に含む。焼土粒子（径3～5mm）・同ブロック（径1～3cm）を多量に含む。粘性なく堅緻。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子（径2～3mm）を全体的に多量に含む。同ブロック（径1～2cm）を部分的に少量含む。焼土粒子（径2～3mm）・同ブロック（径1～2cm）を多く含む。粘性なく堅緻。
3. 灰褐色土 黄褐色土粒子（径3～5mm）を少量含む。多量の炭を含む。焼土・炭化物粒子をまばらに含む。粘性なく堅緻。
4. 黄褐色土 黄褐色土ブロック（径1～3cm）を主体に、赤褐色土を少量含む。焼土粒子・炭化物を少量含む。炭面との間には炭化物層がある。
5. 黄褐色土 黄褐色土ブロック（径1～2cm）と赤褐色土ブロック（径5mm～1cm）で構成され、焼土粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
6. 暗赤褐色土 雨壇跡に顕著に見られる層で、黄褐色土粒子（径2～3mm）を多量に含む層に、焼土・炭化物粒子を多量に含む。粘性なく堅緻。

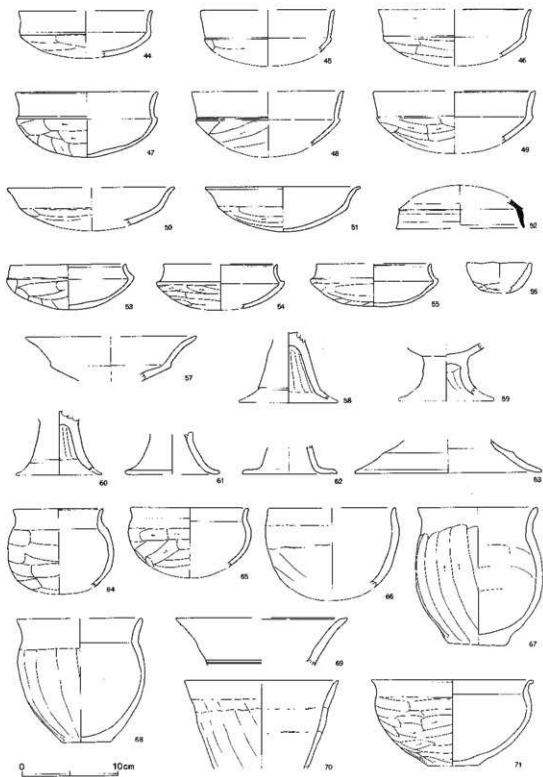
第167号住居跡カマド

- A. 暗褐色土 焼土粒子と炭化物を少量含む。
- B. 暗褐色土 径1cm大の焼土ブロックを少量含む。
- C. 赤褐色土 焼土ブロック（整体）を多く含む。炭化物を若干含む。
- D. 黒褐色土 炭を多く含む。焼土ブロックを若干、炭化物を多く含む。

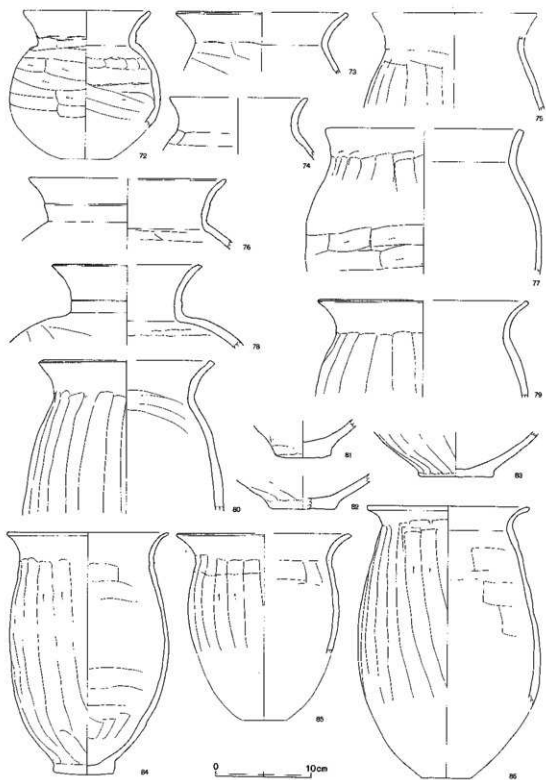




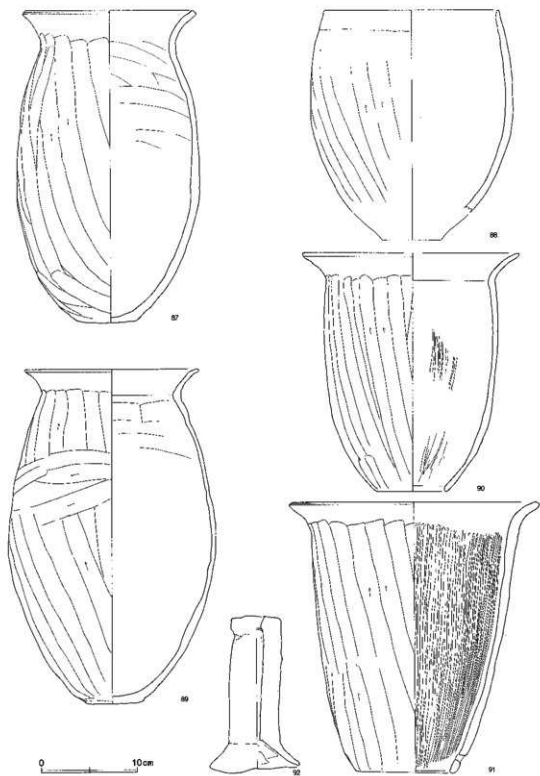
第511圖 第167号住居跡出土物(1)



第612图 第167号住居跡出土遺物(2)



第613图 第167号住居跡出土遺物(3)



第614图 第167号住居跡出土遺物(4)

第167号住居跡 (第611~614図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(10.0)	B+W	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化
2	坏	□(10.0)	B+R+W	橙	口縁 20	体部外面ヘラケズリ。風化。
3	坏	□(11.0) 高(4.2)	B+R多+W	橙	30	体部外面ヘラケズリ。風化。
4	坏	□(11.0)	B+R+W	橙	口縁 20	体部外面風化によりケズリ不瞭。
5	坏	□(11.0)	B+W	橙	25	体部外面風化によりケズリ不瞭。
6	坏	□11.1 高(4.8)	B+R+W	明赤褐～黒	80	口縁部～体部内面ナデ。風化顯著。
7	坏	□(11.0) 高(4.8)	B+R+W	橙	25	口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化。
8	坏	□(12.0)	B+R+W	橙	口縁 20	体部外面風化著しくケズリ不瞭。
9	坏	□11.8 高4.9	B+R+W	にふい橙～黒	95	口縁端部面取り。口縁部～体部内面ナデ
10	坏	□(12.0)	B+R少+W	明赤褐	20	口縁部～体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。
11	坏	□(12.0) 高(4.7)	B+R+W	にふい黄橙	20	体部外面風化によりケズリ不瞭。
12	坏	□(12.0)	B+W	橙	口縁 25	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ風化顯著。
13	坏	□(12.0)	B+R+W多	にふい橙	20	口縁端部面取り。口縁部～体部内面ナデ
14	坏	□(12.8) 高3.8	B+W+W' 多	にふい赤褐	45	口縁端部ヘラアテ。体部外面風化によりケズリ不瞭。
15	坏	□(13.0)	B+R+W	赤灰	20	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
16	坏	□(12.4) 高4.6	B少+W+W'	橙～褐灰	50	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
17	坏	□(12.8) 高4.8	B+R少+W+W' 少	にふい橙	50	口縁端部面取り。口縁部～体部内面ナデ体部外面ヘラケズリ。風化。
18	坏	□12.6 高(4.7)	B+R多+W	にふい橙～黒	50	口縁端部ヘラアテ。風化。
19	坏	□12.5 高4.6	B+R多+W	にふい橙	85	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ風化。
20	坏	□12.6 高4.9	B+W	赤褐～赤黒	85	口縁端部面取り。風化。
21	坏	□(12.0) 高(5.2)	B+R+W	橙	20	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
22	坏	□12.6 高5.3	B+R多+W	にふい橙	85	№4。口縁部ヘラアテ。風化顯著。
23	坏	□(13.0) 高4.9	B+R少+W	にふい橙	30	口縁端部面取り。風化顯著。
24	坏	□(13.0) 高4.6	B+R+W	橙	45	体部外面風化著しくケズリ不瞭。
25	坏	□(13.0) 高(4.6)	B+W多+W'	にふい褐	35	カマド。口縁端部面取り。
26	坏	□13.2 高4.6	B+R+W	にふい橙～黒	55	№5。口縁端部ヘラアテ。
27	坏	□(13.0)	B+R少+W	にふい橙	30	口縁端部ヘラアテ。風化顯著。
28	坏	□(13.0) 高(4.7)	B+W	橙	40	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
29	坏	□(13.0)	B+R+W少	にふい橙	口縁 20	体部外面風化によりケズリ不瞭。

30	环	□(13.0)	B+E+W	にふい黄橙	25	□縁部面取り。体部外面風化によりケズリ不明瞭。
31	环	□(13.0)	B+W+W' 少	橙	□縁 25	□縁部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
32	环	□12.5 高5.3	B+E多+W	にふい橙	95	□縁部面取り。□縁部～胴部内面ヘラケズリ。
33	环	□(13.0)	B+W	橙	25	体部外面風化によりケズリ不明瞭。
34	环	□(13.0)	B+R+W	橙	□縁 20	□縁部面取り。体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
35	环	□(13.0) 高(5.2)	B+W	にふい橙	35	□縁部面取り。体部外面風化によりケズリ不明瞭。
36	环	□(14.0)	B多+R+W	橙	□縁 20	体部外面ヘラケズリ。風化。
37	环	□(13.5) 高5.1	B+R+W少	にふい橙	45	□縁部ヘラアテ。風化。
38	环	□(14.0)	B+W	橙～黒	□縁 20	□縁部面取り。□縁部と体部の境目ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。
39	环	□(13.4) 高5.1	B+R少+W	にふい橙	45	□縁部～体部内面ナデ。
40	环	□(14.0)	B+W	褐灰	25	□縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
41	环	□(14.0)	B+R+W	橙	25	体部外面風化著しくケズリ全くみえない
42	环	□(14.0)	B+R+W	にふい橙	□縁 20	□縁部面取り。体部外面ヘラケズリ。
43	环	□(14.0)	B+W+W'	赤褐	35	□縁部ナデ。体部外面風化によりケズリ不明瞭。
44	环	□(14.0) 高(5.0)	B+W	にふい橙	30	□縁部面取り。□縁部～体部内面ナデ風化。
45	环	□(14.0)	B+R+W	橙～黒褐	□縁 20	□縁部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
46	环	□(16.0)	B+R+W+W'	橙	□縁 20	体部外面ヘラケズリ。風化。
47	环	□14.8 高8.8	B+R+W	橙～黒	85	№2。□縁部面取り。□縁部～体部内面ナデ。
48	环	□(16.0)	B+W多+W'	橙～灰褐	□縁 25	□縁部ヘラアテ。□縁部と体部の境目ヘラアテ。
49	环	□(17.0)	B+R+W	橙	25	□縁部ヘラアテ。□縁部～体部内面ナデ。
50	环	□(17.6)	B+R+W	橙	30	□縁部面取りヘラアテ。□縁部～体部内面ナデ。風化。
51	环	□16.3 高4.7	B+W+W'	橙	40	□縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
52	蓋	□(13.4)	W+W'	灰	□縁 15	ロクロ成形。
53	环	□12.0 高4.7	B+R+W多	にふい黄橙～黒褐	100	風化著。
54	环	□(12.0) 高(4.8)	B+W多+W' 多	褐	40	□縁部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
55	环	□(12.0) 高4.5	B+W多+W'	褐～黒	45	□縁部ヘラアテ。体部外面風化著しくケズリ不明瞭。
56	ミニチュア环	□6.8 高(3.2)	B多+W+W'	にふい橙	95	□縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
57	高环	□(18.0)	B+R+W	橙	□縁 20	□縁部内外面ナデ。
58	高环	脚部3.4	B+W多+W'	橙	脚部 45	脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。
59	高环	脚部4.6	B+R+W	にふい橙	脚部 50	脚部内外面ナデ。

60	高环	脚部4.0	B+W'	橙	脚部 70	脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。
61	台付环	脚(10.0)	B+R+W	暗赤褐	脚部 70	脚部内外面ナデ。
62	台付环	脚(10.0)	B+W多	明赤褐	脚部 20	脚部内外面ナデ。
63	高环	脚19.6	B+R少+W+W'	橙~灰褐	脚部 30	脚部内外面ナデ。
64	靴	口9.4 底(8.9) 脚11.0	R多+W	にふい黄橙~褐	70	口縁端部ヘラアテ。脚部外面ヘラケズリ 風化。
65	靴	口12.6	B+R+W	橙	60	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
66	靴	口(13.4)	B+R+W少	明赤褐~灰赤	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。風化 顕著。
67	小型皿	口12.6 底5.8 高14.3	B+R+W+砂	明赤褐	100	№3。脚部内面ヘラナデ。底部外面一方 向のヘラケズリ。
68	小型皿	口(13.2) 底5.0 高12.9	W多+砂	褐~黒	70	口縁部ナデ。風化顕著。
69	高环	口(16.0)	B+W多+W'	明赤褐	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。口縁部と体部の境目 ヘラアテ。
70	甌	口16.2	B多+W	にふい橙	50	口縁部ナデ。脚部外面ヘラケズリ。風化 顕著。
71	鉢	口17.0 底5.4 高9.0	B+W	明赤褐~黒褐	100	№6。口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
72	小型壺	口13.2 脚15.8	B+R+W+W'	橙~灰褐	60	№7。口縁部ナデ。頸部外面ケズリ工具 痕。脚部内面ヘラナデ。胎土中の含有物 量多い。
73	壺	口(17.6)	B多+W+W'	橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ。脚部外面ヘラケズリ 胎土中の含有物量多い。
74	小型壺	口(14.5)	B+W	明赤褐	口縁 50	口縁端部ヘラアテ面取り。脚部外面ヘラ ケズリ。風化顕著。
75	甌	脚14.6	B+W多+W'	(内)褐 (外)にふい橙	胴部上半 40	床直。口縁部欠損。風化。
76	壺	口(20.6)	B+R+W	橙	口縁 35	口縁部ナデ。脚部内面ヘラナデ。
77	甌	口(20.0)	B+R+W多+W'	にふい橙~灰褐	胴部上半 40	№10。口縁端部ヘラアテ面取り。脚部 外面上位ヘラケズリ後ナデ、中位横方向 のヘラケズリ。
78	壺	口(15.0)	B+R少+W	橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ。口縁部外面ヘラアテ による稜をもつ。脚部外面ヘラケズリ 風化。
79	甌	口(21.6)	B+W+砂多	にふい黄橙	口縁 25	床直。口縁端部ヘラアテ。脚部外面ヘラ ケズリ。
80	甌	口(18.0)	B多+W+W' 少+砂少	にふい褐	胴部上半 60	口縁端部ヘラアテ面取り。脚部内面ヘラ ナデ。風化顕著。
81	甌	底5.8	B+R+W	橙	底部 100	脚部外面ヘラケズリ。底部外面一方 向のヘラケズリ。風化。
82	甌	底(7.0)	B+R+W少	にふい黄橙	底部 25	脚部外面ヘラケズリ。
83	甌	底(7.6)	B少+W	にふい橙	底部 80	脚部外面ヘラケズリ。底部外面一方 向のヘラケズリ。
84	甌	口17.0 底5.4 高25.2 脚16.7	B+W多+W'	褐	100	№9・11。底部外面多方向のヘラケズリ 胎土中の含有物量多い。
85	小型皿	口(18.0)	B+W多+W'	にふい黄橙~黒褐	胴部上半 30	口縁端部ヘラアテ面取り。脚部外面ヘラ ナデ。
86	甌	口17.0 脚19.0	B+W+W'+砂	褐灰	40	口縁部ナデ。胎土中の含有物量多い。
87	甌	口17.6 底6.1 高32.6 脚19.0	B+W+W'+砂	明赤褐~黒	100	№8。口縁端部ヘラアテ面取り。底部外 面一方のヘラケズリ。胎土中の含有物 量多い。
88	甌	口16.4 脚21.2	B+W+砂多	明赤褐	40	無瑕。口縁部ナデ。脚部外面ヘラケズリ

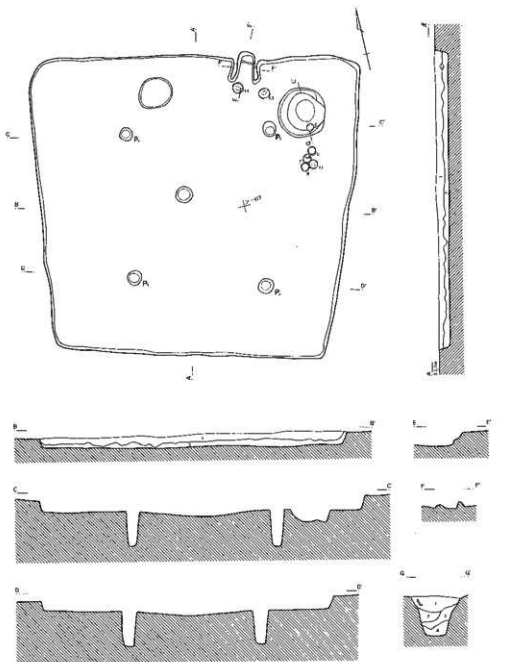
89	罎	口18.2 底6.9 高35.0 胴部21.8	B+W+砂多	灰褐色	85	No.2. 胴部内面ヘラナデ。底部外面一方向のヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
90	瓶	口(22.4) 底(7.0) 高25.9	B+R+W	にふい褐色	45	胴部内面部分的にヘラミガキ。
91	瓶	口26.8 底10.2 高28.2	B+R+W	にふい褐色	100	No.11. 口縁部外ヘラテ面取り。胴部内面ヘラミガキ。直径1cm程の円孔二つが底部近くに対向して穿く。
92	支脚	上部5.2 下部9.5 高16.0	B+W	にふい褐色	100	No.1. 胴部外面ナデ、内面ヘラナデ。

溝は検出されなかった。

覆土にはあまり遺物が含まれていなかったが、床面の遺物には完形品が多い。貯蔵穴の南側に土師器環が4点(5・7・8・11)並んで出土していた。

第168号住居跡(第616図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口13.0 高5.2	B少+R少+W	橙	75	カマド。口縁部ナデ。風化。
2	環	口6.0 高(4.8)	B+R多+W+W' 少	橙	30	体部外面風化著しくザラつく、ケズリ不明瞭。
3	環	口12.8 高4.8	B少+R+W+W'	橙	100	No.3. 風化著しく体部外面のケズリ顕著不明瞭。
4	環	口(11.0) 高(5.1)	R+W	にふい橙～褐色	55	体部外面風化によりケズリ不明瞭、内面工具痕。2破片接点なし。
5	環	口13.0 高5.2	B+R少+W少+W' 少	橙	100	No.4. 口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化顕著。
6	環	口(13.0) 高(5.2)	B少+R+W+W'	にふい橙	30	口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化顕著。
7	環	口13.6 高5.1	B少+R少+W	橙	100	No.5. 口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ風化。
8	環	口12.0 高5.8	B少+W+W' 少	橙	100	No.7. 口縁ナデ。体部外面ヘラケズリ。
9	環	口12.8 高5.9	B少+R+W+W' 少	明赤褐色	90	口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化顕著。
10	環	口13.2 高5.8	B少+R+W+W'	橙	60	体部外面ヘラケズリ。風化顕著。
11	環	口12.8 高6.9	B少+R少+W+W'	明赤褐色	100	No.8. 口縁部と体部の境目、弱いヘラアテ。風化。
12	環	口(8.0) 高(6.3)	B+R+W少+W' 少	橙	25	口縁部外面取り。体部外面風化により顕著不明瞭。
13	鉢	口16.4 高7.2	B+R+W	赤褐色	90	No.2. 口縁部弱い面取り。口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化。
14	瓶	口9.4 高16.0 胴16.1	B多+R少+W+W'	橙	100	No.1. 口縁部ナデ。胴部外面上半ヘラケズリ後ナデ、下半ヘラケズリ。丸底。風化。
15	はそう	口9.8 高10.5 胴10.0	B多+R少+W+W'	にふい橙	70	口縁部弱い縁をもつ。胴部外面ヘラケズリ後ナデ。風化。
16	壺	口20.8 底(7.0) 高29.6	B+R+W少+砂少	にふい黄橙～褐色	60	胴部外面粗いヘラケズリ。胴部外面ケズリ終点部の粘土盛り上がる。
17	壺	口(18.4)	B少+W多+W'	にふい黄橙～褐色	口縁～胴部 40	口縁部外へ屈曲している。胴部内面輪積み痕。胎土中の含有物量多い。
18	壺	底7.4	B+W+W'+砂多	橙	胴部 100	胴部外面ヘラケズリ。底部外面多方向のヘラケズリ。
19	壺	底7.4	B少+W多+W'	にふい黄橙～褐色	底部 75	胴部外面ヘラケズリ。風化顕著。胎土中の含有物量多い。



第168号住居跡

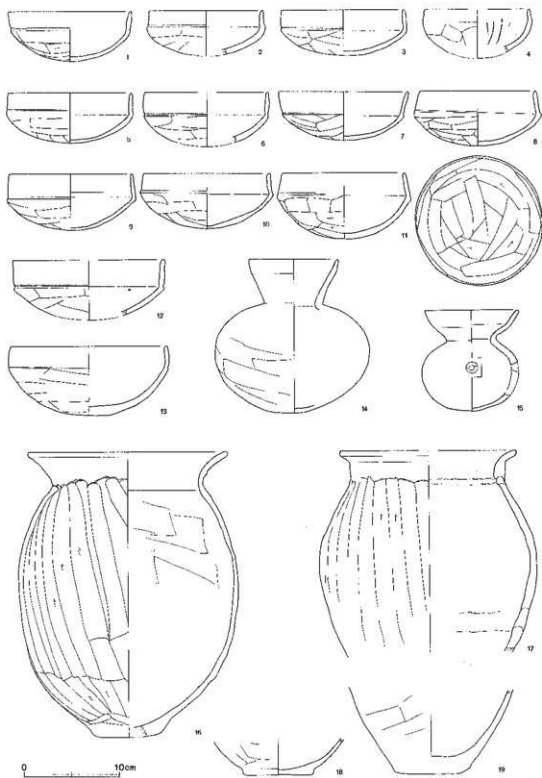
1. 暗褐色土 茶褐色土小ブロックを少量含む。
2. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む、若干の炭化物を含む。
カマド付近では焼土粒子を含む。

第168号住居跡の竈穴

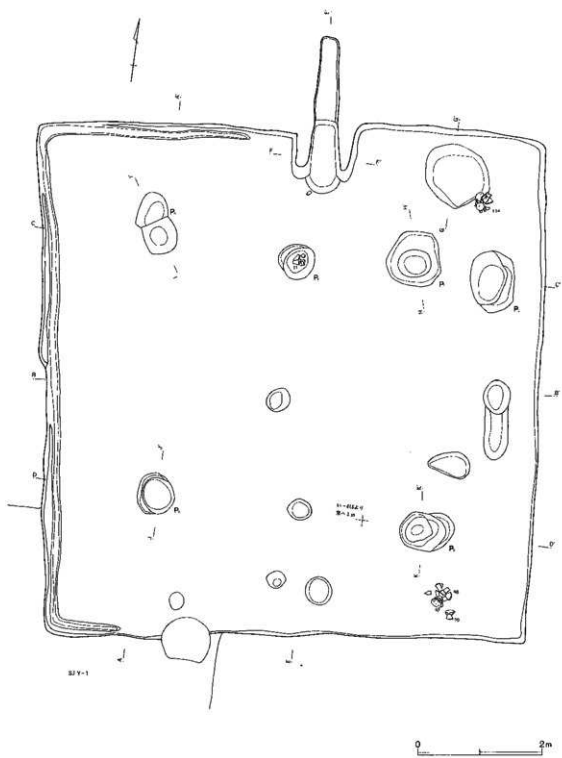
1. 暗褐色土 若干の炭化物を含み、しまり良し。
2. 茶褐色土 茶褐色土小ブロックを少量含む。
3. 茶褐色土 茶褐色土大ブロックを多く含む、粘性・しまりに富む。
4. 黄褐色土 粘性が強く、黄褐色土ブロックを多く含む。

0 2m

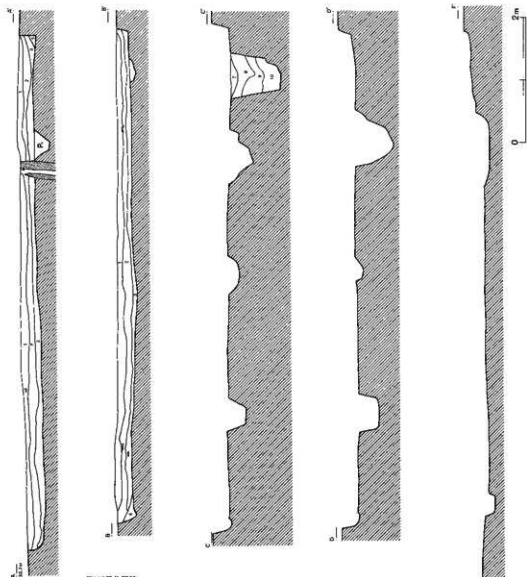
第615回 第168号住居跡



第616図 第168号住居跡出土遺物

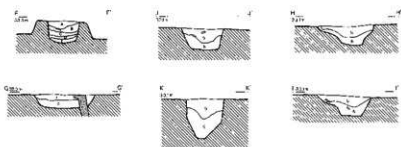


第617图



第169号住居跡

1. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1mm以下)を全体的に多く含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。粘性なく堅緻。
2. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径5mm~1cm)を多く含む。炭化物を全体的に多く含む。粘性なく堅緻。
3. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~3cm)を主体に、黒褐色土をまばらに含む。焼土粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
4. 茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)少量含む。粘性なく堅緻。
5. 黒褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を全体的に多く含む。焼土・炭化物粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
6. 黄褐色土 黄褐色土を主体に茶褐色土を少量含む。やや粘性があり、堅緻。
7. 暗褐色土 炭化物を少量、焼土粒子を若干含む。
8. 褐色土 大粒の焼土粒子を少量含む。炭化物を若干含む。
9. 褐色土 締め締りかな上で、茶褐色土ブロックを少量含む。
10. 暗褐色土 しまり・粘性ともに強く、茶褐色土小ブロックを少量含む。

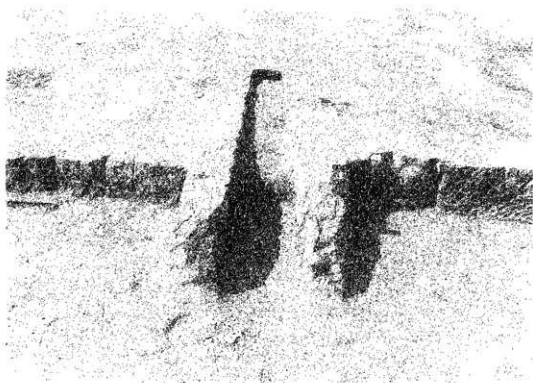


第169号住居跡のV-F

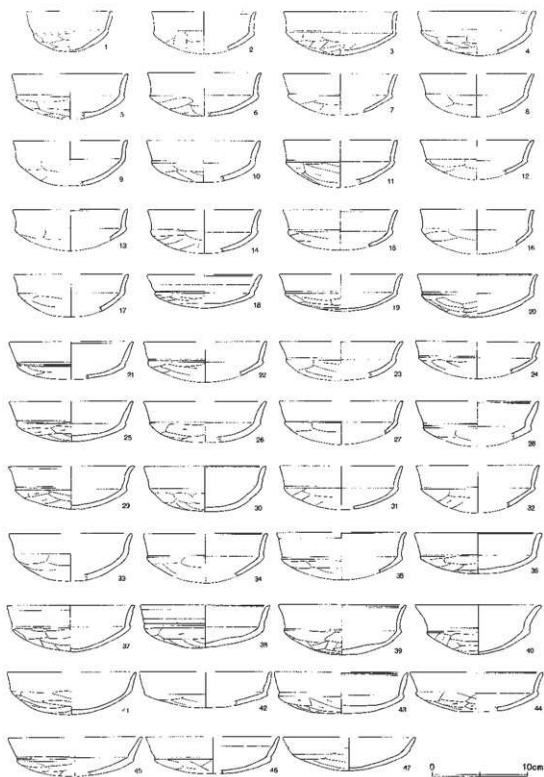
- A. 赤褐色土 灰褐色土ブロック（径5mm～1cm）をまばらに含む。赤土ブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性なく堅固。
- H. 赤褐色土 赤褐色土を主体に、赤土ブロック（径5mm～2cm）を多量に、炭褐色土粒子（径3～5mm）を少量含む。若干粘性あり。傾斜。
- C. 灰褐色土 灰を主体とする層で、炭化物粒子（径2～3mm）を全体的に多く含む。黄褐色土粒子をわずかに含む。粘性なく、しまり弱い。
- D. 暗灰褐色土 基本的に3層と同じだが、3層に比べ炭化物粒子を多く含む。粘性なく、しまり弱い。
- E. 暗赤褐色土 灰層を主体に黄土粒子（径3～5mm）を多量に含む。粘性なくやや砂質で、しまり強い。

第169号住居跡の断面

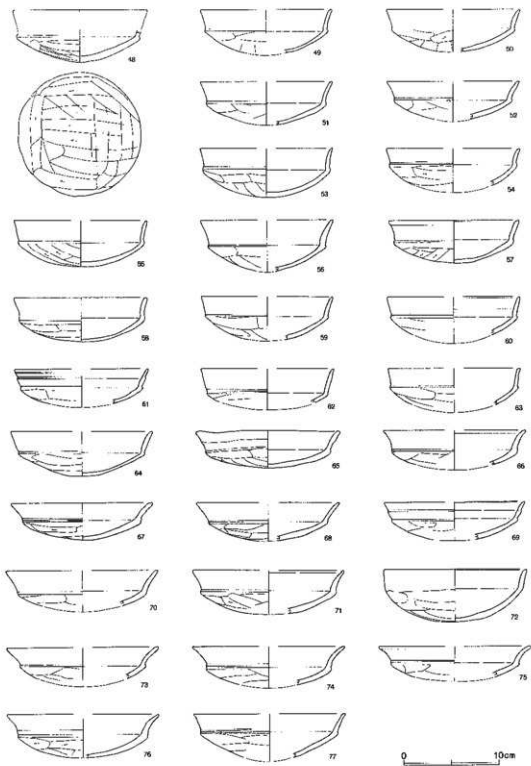
- 灰褐色土 黄土粒子を少量、炭化物を若干含む。粘性あり。
- 青灰褐色土 砂質で、しまりはあるが、粘性に欠ける。



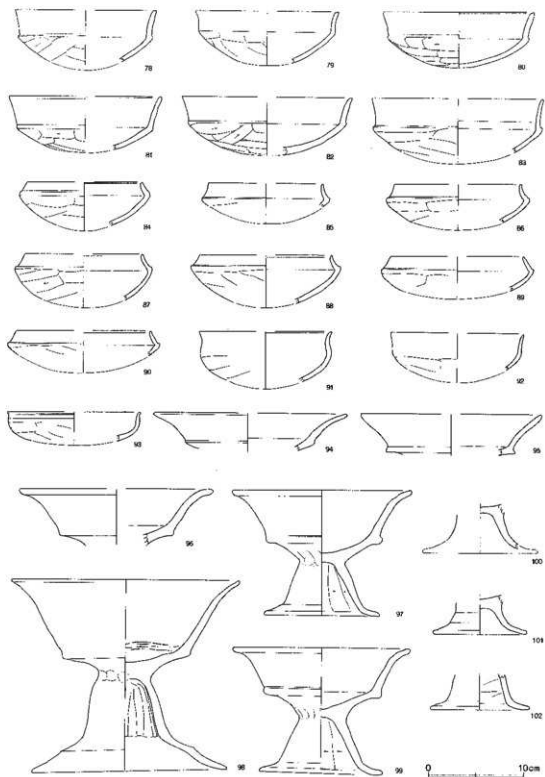
第618図 第169号住居跡(2)



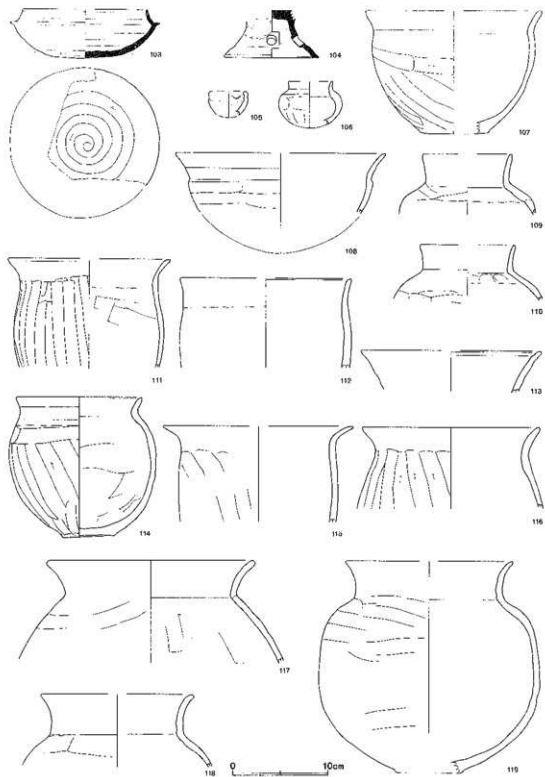
第619图 第169号住居跡出土遺物(1)



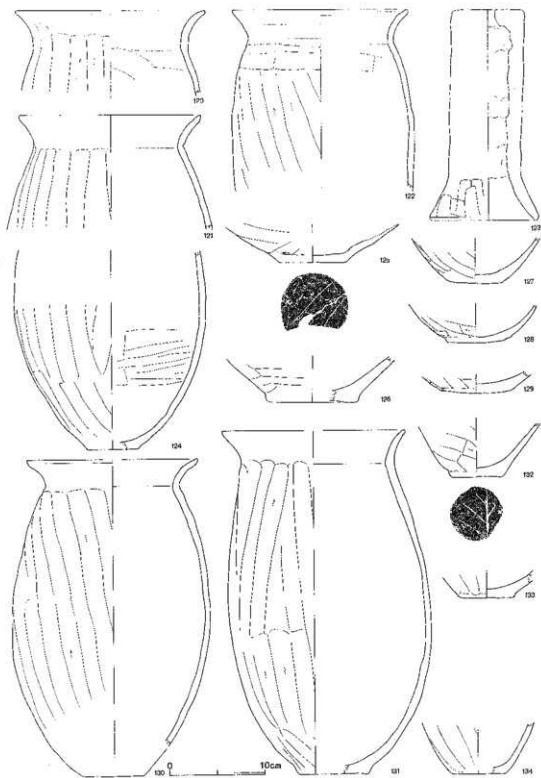
第620图 第169号住居跡出土遺物(2)



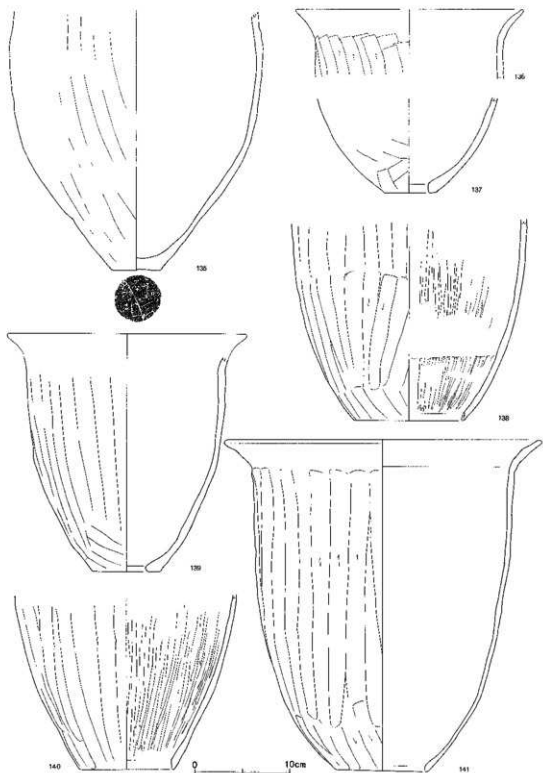
第621图 第169号住居跡出土遺物(3)



第622图 第169号住居跡出土遺物(4)



第623图 第169号住居跡出土遺物(5)



第624図 第169号住居跡出土遺物(6)

第169号住居跡(第619~624図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	□(9.0) 高4.2	B多+R+W	にふい橙	55	風化。やや小型。
2	环	□(11.0)	B+W+W' 少	橙	25	口縁端面取り。風化顯著。
3	环	□12.0 高4.5	B+W+W'	明赤褐	45	床面。口縁端部ヘラアテ。体部内面ヘラナデ。風化。
4	环	□12.4 高(4.5)	B+W+W'	明赤褐~黒	75	カマド。口縁端部ヘラアテ。
5	环	□12.2 高(4.7)	B+R+W	橙	50	風化著しく調整不明瞭。
6	环	□(12.0) 高(4.5)	B+W+W'	にふい橙	30	P-5。口縁端面取り。
7	环	□(12.0)	B+R少+W+W'	橙	20	口縁端部ヘラアテ。風化顯著。
8	环	□(12.0) 高(4.5)	B+W+W'	にふい橙	50	風化著しく調整不明瞭。
9	环	□(12.0) 高(4.7)	B+R+W+W' 少	にふい褐	30	口縁端面取り。風化顯著。
10	环	□(12.0)	B+W+W'	橙	20	口縁端面取り。風化により調整不明瞭。
11	环	□(12.0)	B+W多+W'	にふい橙	25	P-6。口縁端面取り。
12	环	□(12.0)	B+W	橙~黒	25	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。
13	环	□(12.0)	B+R+W+W' 少	にふい黄橙	口縁 25	体部外面ヘラケズリ。風化顯著。
14	环	□(12.0) 高(4.5)	B少+R+W+W'	橙	25	風化顯著。
15	环	□(12.0)	B+R少+W	橙	口縁 30	口縁端面取り。風化著しく調整不明瞭。
16	环	□(12.0)	B+W	にふい橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ。風化顯著。
17	环	□(12.0)	B+W	赤褐	25	口縁端面取り。風化顯著。
18	环	□(12.0) 高3.5	B+W+W'	橙	25	口縁端面弱い面取り。
19	环	□(13.0) 高3.9	B+R+W	橙	60	カマド。風化。
20	环	□12.6 高4.5	B+R+W+W' 少	橙	95	口縁端部ヘラアテ。
21	环	□(13.0) 高(4.0)	B+W少	橙	25	口縁端面取り。口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化。
22	环	□(13.0)	B+W+W'	橙	25	口縁端面取り。
23	环	□(13.0)	B+W	橙	20	口縁端部ヘラアテ。風化。
24	环	□(13.0)	B+W	橙~黒	口縁 30	体部外面ヘラケズリ。風化。
25	环	□(13.0) 高4.2	B+R多+W	にふい黄橙~黒	50	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
26	环	□(13.0)	B+W+W'	橙	30	P-5。口縁端面取り。
27	环	□(13.0)	B+W+W'	橙	口縁 30	口縁端部ヘラアテ。
28	环	□(13.0)	B少+R+W	橙	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。
29	环	□(13.2) 高4.5	B+R+W+W'	明赤褐~黒	50	口縁端部外反する。体部外面ヘラケズリ。

30	环	□12.8 高4.7	B+R+W'	にふい境~風	80	□縁端部ヘラアテ。体部外面上半指オサエ。
31	环	□(13.0) 高(4.6)	B+W+W'	境	30	□縁端部面取り。
32	环	□(13.0)	B+W+W'	境~黒褐	20	□縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
33	环	□(13.0) 高(5.0)	B+R少+W	境	40	体部外面ヘラケズリ。風化。
34	环	□(13.0)	B+W	境	口縁 20	□縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
35	环	□(13.6)	B+R+W	にふい境	30	□縁端部ヘラアテ。風化。
36	环	□13.4 高4.2	B少+W+W' 少	境	80	□縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
37	环	□13.4 高4.8	B+R+W' 少	境	100	P-1。□縁端部ヘラアテ。風化。
38	环	□13.8 高4.5	B+W+W'	境	100	床面。□縁端部ヘラアテ。□縁部外面明瞭な段をもつ。
39	环	□13.4 高5.2	B+R+W	境~風	85	□縁端部内面にヘラアテ。風化。
40	环	□13.2 高5.1	B+W+W'	境	80	□縁部と体部の境目ヘラアテ。
41	环	□(13.4) 高4.5	B+W+W' 少	境~風	30	風化。
42	环	□(14.0)	B少+R+W	褐灰	20	風化により調整不明瞭。
43	环	□(14.0) 高4.3	B+R少+W+W' 少	境	45	□縁端部ヘラアテ。
44	环	□(14.0) 高(4.1)	B+W+W' 少	明赤褐~風	25	□縁端部ヘラアテ。
45	环	□(14.0) 高(4.1)	B+R少+W+W' 少	にふい境	26	□縁端部面取り。風化。
46	环	□(14.0) 高(3.9)	B+R+W+W'	境	25	□縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
47	环	□(14.0) 高3.5	B+W	境	20	風化著しく調整不明瞭。
48	环	体12.8	B+R少+W+W' 少	境~風	体部 100	体部外面ヘラケズリ。□縁部欠損。
48	环	□(14.0)	B+R+W+W'	境	30	□縁端部面取り。風化顯著。
50	环	□(14.0)	B少+R少+W+W'	境~黒	30	□縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
51	环	□(14.0) 高(4.5)	B+W	境	30	□縁端部ヘラアテ。風化顯著。
52	环	□(14.0)	B+R+W	境	25	□縁端部面取り。風化により調整不明瞭
53	环	□(14.0) 高5.1	B+R多+W	境~黒褐	30	風化。
54	环	□(14.0)	B+R+W+W'	境	30	体部外面ヘラケズリ。風化。
55	环	□(14.0) 高4.8	B少+W	褐灰	30	体部外面一方向のヘラケズリ。
56	环	□(14.0)	B+R+W+W' 少	境	30	□縁端部面取り。風化。
57	环	□13.8 高4.4	B+R多+W' 少	境	95	□縁端部ヘラアテ。□縁部と体部の境目ヘラアテ。
58	环	□14.0 高4.8	B+W+W'	境~風	50	□縁端部ヘラアテ。風化。
59	环	□(14.0) 高(4.6)	B+R+W	境	30	風化顯著。

60	坪	□(14.0)	B+R少+W	橙	口縁 25	口縁端面取り。
61	坪	□(14.0)	B+R+W	橙	25	口縁部外面ヘラアテ。
62	坪	□(14.0)	B+R+W少	にふい橙	口縁 20	口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化顕著
63	坪	□(14.0)	B+R+W	橙	口縁 25	口縁端面取り。体部外面ヘラケズリ。
64	坪	□(15.0) 高4.7	B+R+W	にふい橙	40	口縁端面同いヘラアテ。風化顕著。
65	坪	□15.2 高3.9	B+R多+W	橙	100	歪みあり。風化。
66	坪	□(15.0)	B+R少+W+W'	褐	口縁 20	口縁部ヘラアテ。
67	坪	□14.8 高3.8	B+W	橙	55	口縁部ヘラアテ。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
68	坪	□(15.0) 高(4.1)	B+R+W	橙	45	風化。
69	坪	□(14.8) 高(4.0)	B+W	にふい橙	30	口縁部ヘラアテ。風化顕著。
70	坪	□(16.0)	B+R+W少	橙	20	口縁端面取り。風化顕著。
71	坪	□(16.0) 高(4.6)	B+R少+W+W'	にふい褐	25	口縁部ヘラアテ。風化。
72	坪	□15.0 高5.5	B+W	橙	80	口縁部ヘラアテ。風化。
73	坪	□(16.0)	B少+R+W	褐灰	20	体部外面ヘラケズリ。
74	坪	□(16.0) 高(4.3)	B+R+W少	橙	25	口縁部と体部の境目ヘラアテ。風化顕著
75	坪	□(16.0)	B+R+W	橙	口縁 20	口縁部と体部の境目ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ。
76	坪	□(16.0) 高(4.5)	B+R少+W+W'	明赤褐	25	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
77	坪	□(16.0)	B+W+W	明赤褐	25	口縁部ヘラアテ。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
78	坪	□(15.0)	W	褐	口縁 20	口縁部ヘラアテ。
79	坪	□(15.0)	B+R少+W	橙	25	風化著しく調査不明。
80	坪	□15.8 高5.8	B少+W+W'	明赤褐～黒褐	95	No.5, P-3。口縁部ヘラアテ。口縁部と体部の境目ヘラアテ。
81	坪	□(16.0)	B+R少+W+W'	にふい橙	25	口縁端面取り。
82	坪	□(16.0) 高(6.1)	B+R+W+W'少	橙	30	口縁端面取り。
83	坪	□(16.0)	B+W	橙	20	口縁端面取り。体部外面ヘラケズリ。
84	坪	□(12.0)	B少+R+W+W'	にふい赤褐	20	口縁部ヘラアテ。
85	坪	□(12.0)	B+W	橙	15	体部外面ヘラケズリ。風化顕著。
86	坪	□(13.0)	B+W+W'少	橙	口縁 20	風化著しく調査不明瞭。
87	坪	□(12.4)	B+R少+W	灰褐	25	口縁端面取り。口縁部強く内傾する。
88	坪	□(14.0)	B+R+W	橙	25	口縁端面取り。体部外面ヘラケズリ風化。
89	坪	□(14.0)	B+R少+W	橙	口縁 20	風化著しく調査不明瞭。

90	环	□(14.0)	B+W' 少	橙	口縁 30	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
91	輪	□(14.0)	B+R少+W+W' 少	橙	口縁 15	P-2。風化により質感不明。
92	环	□(14.0)	B+W	橙	口縁 25	体部外面ヘラケズリ。
93	环	□(14.0)	B+W+W'	橙	口縁 20	口縁端部外反する。風化顕著。
94	高环	□(21.0)	B+R少+W	橙	环部 20	口縁端部面取り。風化。
95	高环	□(19.0)	B+R多+W+W'	橙	环部 35	口縁部内外面ナデ。
96	高环	□(20.4)	B+R+W	橙	环部 25	环部内外面ナデ。
97	高环	□18.8 高13.0 脚(12.2)	B+R+W	橙	85	№2。口縁部内外面ナデ。外面体部～脚部ケズリ後ナデ。脚部内面ケズリ。脚部ナデ。
98	高环	□24.0 高20.0 脚20.5	B+R多+W	橙	95	№3。口縁部ナデ。环部内面にヘラ質感。脚部外面ケズリ後ナデ。脚部ナデ。
99	高环	□18.6 高13.1 脚12.9	B+R+W	橙	90	№1。口縁部内外面ナデ。外面体部～脚部ケズリ後ナデ。脚部内面ケズリ。脚部ナデ。
100	台付环	脚基部5.0	B+W+W' 少	にふい橙	脚部 70	脚部外面ナデ。
101	台付环	脚3.8	B+R少+W	橙	脚部 80	脚部内外面ナデ。
102	台付环	脚(10.4)	B+W+W' 少	明赤褐	脚部 25	P-2。風化。
103	环	□(13.0) 高5.1	B少+W+W'	暗青灰	50	底部回転ヘラケズリ。
104	高环	脚(10.0)	W+W'	緑黒	脚部 30	脚部円形造かし2ヶ所確認(等距離でない)、外面自然剥付着。
105	手づくね	□(4.0)	B+R少+W	橙	20	口縁端部内面に粘土の折り返し。
106	ミニチュア	□(4.0) 高(4.0)	B+W	橙	25	口縁部ナデ。脚部外面ヘラケズリ。
107	鉢	□(18.6) 底(7.0) 高(12.8)	B+W+W' 少	明赤褐～黒	26	口縁ナデ。体部外面ヘラケズリ。
108	鉢	□(22.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
109	小型壺	□(9.2)	B+R+W	橙	口縁 50	カマド。脚部外面ヘラケズリ。風化顕著
110	小型壺	□(10.0)	B少+R+W	にふい黄褐	口縁 40	カマド。脚部内面凹頂ナデ。
111	壺	□(17.0)	B+W	明赤褐	口縁 30	口縁端部ヘラアテ。脚部内面ヘラナデ。
112	壺	□(18.0)	B+W+W' 少	橙	口縁 16	口縁端部ヘラアテ。内面剥離著しく質感不明。
113	壺	□(19.0)	B+W	にふい橙	口縁 30	口縁端部面取り。
114	小型壺	□13.2 底5.4 高14.6	B多+W+W'	にふい黄橙～黒	95	№4。底部外面一方向のヘラケズリ。風化顕著。
115	壺	□(20.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 25	口縁端部面取り。風化顕著。
116	壺	□18.6	B+R少+W少+W' 少+砂多	浅黄橙	口縁 80	風化。粘土中の含有物量多い。
117	壺	□22.0	B+R少+W+W'	橙	口縁 20	脚部外面風化著しく質感不明。
118	壺	□(16.0)	B+R+W+W' 少	橙	口縁 40	脚部内面剥離している。風化。
119	壺	□(17.8) 底(7.0) 高(22.0)	B+W	赤褐	30	カマド。脚部外面ヘラケズリ。風化。

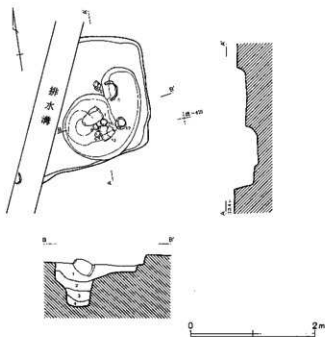
120	礎	口(20.0)	B+W少砂多	にふい橙	口縁 25	口縁端部面取り。胴部内面ヘラナデ。
121	礎	口19.0	B+W少+砂	にふい黄橙	口縁 70	カマド。口縁ナデ。体部外面ヘラケズリ
122	礎	口18.4	B+R少+W'	にふい黄橙～黒	上半部 30	床面。風化。胎土中の含有物量多い。
123	支脚	上端7.8 下端(10.4) 高(23.0)	B+W	にふい橙	100	脚部外面ナデ。胴部外面ヘラケズリ。
124	礎	底(5.4)	B多+R+W+砂	橙～褐灰	30	胴部内面ヘラナデ。胎土中の含有物量多い。
125	礎	底(7.0)	B+R多+W	橙～黒	底部 30	胴部外面ヘラケズリ。木炭痕。
126	礎	底9.6	B+W	橙	底部 90	底部外面多方向のヘラケズリ。風化顯著
127	礎	底5.8	B+W多+W'+砂	にふい黄橙～黒	底部 100	底部外面一方向のヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
128	礎	底8.0	B+R+W	にふい橙～黒	底部 100	底部外面一方向のヘラケズリ。
129	礎	底7.4	B+R+W	橙	底部 180	底部外面一方向のヘラケズリ。
130	礎	口(18.0)	B+W+W'	にふい黄橙	30	カマド。胴部外面ヘラケズリ。風化。
131	礎	口(19.2) 底(7.4)	B少+R+W+砂	にふい黄橙～褐灰	40	型みあり。
132	礎	底5.2	B多+W	にふい黄橙	底部 100	木炭痕。
133	礎	底(5.4)	B+W+W'+砂	(内)明赤褐 (外)灰褐	底部 60	底部外面一方向のヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
134	礎	底(5.6)	B+R+W少	明赤褐	底部 60	底部外面一方向のヘラケズリ。
135	礎	底5.0	B+W+W'少	にふい黄橙～褐灰	25	胴部外面ヘラケズリ。木炭痕。風化。
136	瓶	口(24.0)	B+R少+W+W'	橙	口縁 25	口縁端部面取り。胴部外面↑方向のヘラケズリ。
137	瓶	底5.6	B+W+W'	にふい橙	下半部 20	外面胴部へ底部ヘラケズリ。
138	瓶	底(11.4)	B+R少+W+W'少	にふい黄橙～黒	胴部下半 30	胴部内面一部ヘラミガキ。
139	瓶	底(7.0)	B+R+W	明赤褐	胴部 20	口縁部欠損。底部外面ヘラケズリ。
140	瓶	底(10.0)	B+R+W	橙	胴部下半 80	№5。胴部内面ヘラミガキ。
141	瓶	口32.8 高34.4	B+R+W	にふい黄橙	70	口縁端部面取り。胴部内面風化。

第169号住居跡 (第617・618図)

ン～ろー417・418に位置し、弥生時代の住居跡(Y-1号住)を切って構築されている。規模は長軸8.2m、短軸7.9mで、大型住居の部類に入る。形態は南北方向にわずかに長い長方形を呈する。主軸の傾きはN-4°-W、ほぼ北向きである。床面までの深さは27cmである。噴砂による影響は少なく、覆土は自然な堆積を示している。

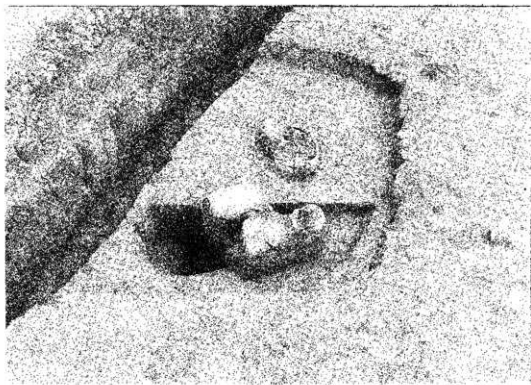
カマドは北壁やや東寄りに構築されている。袖は地山の走り出で、燃焼部は浅く掘り込まれている。全長は250cm、焚口の幅は40cmである。煙道は長く、わずかに上り気味である。

ピットはいくつか検出されているが、ピット1-4が位置的にも主柱穴と考えられる。掘り込みは大きく、深さは30-60cmである。壁溝はカマド西側から南西コーナーにかけて検出されている。

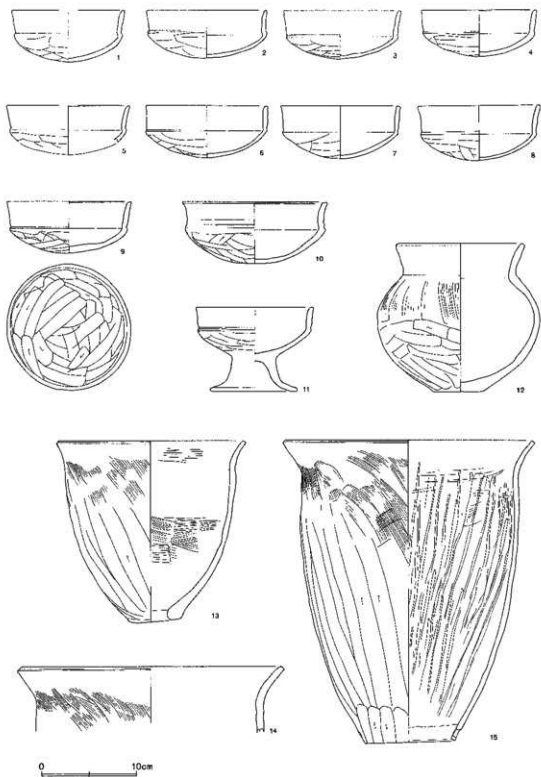


新170号住居跡断面図

1. 黒褐色土 黄褐色土層子(厚3~5cm)を少量含む、黄土層子をまばらに含む、灰土層を多く含む層である。
2. 暗褐色土 黄褐色土層子(厚1cm~1.5cm)を多く含む、灰土層をまばらに含む、粘性が強い層である。
3. 黄褐色土 黄褐色土層子(厚3~5cm)を多く含む、粘性が強く中砂質、暗褐色土を少量、黄土層子を若干含む、粘性が強い層である。
4. 黄褐色土 黄褐色土を少量、黄土層子を若干含む、粘性が強い層である。



第625図 第170号住居跡



第626图 第170号住居跡出土遺物

第170号住居跡 (第626図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(11.8) 高5.4	B+R+W少	橙～黒	35	No.8. 口縁端部弱いヘラアテ面取り。風化。
2	坏	□12.6 高5.0	B+R+W+W'	にふい赤褐	55	口縁端部面取り。風化顕著。
3	坏	□12.8 高5.1	B+R+W	橙	100	No.8-10. 口縁端部弱いヘラアテ面取り。風化顕著。
4	坏	□12.0 高4.9	B+R多+W+W'	にふい橙	80	No.8. 口縁端部ヘラアテ面取り。風化によりケズリ不明瞭。
5	坏	□(13.0)	B+R+W	にふい黄橙	口縁 25	No.2. 口縁端部面取り。風化顕著。
6	坏	□12.8 高5.4	B+R少+W	にふい黄橙	70	No.1. 口縁端部ヘラアテ面取り。風化顕著。
7	坏	□12.4 高5.5	B+R+W	明赤褐～にふい橙	90	No.8. 口縁端部面取り。風化著しくケズリ不明瞭。
8	坏	□12.8 高5.7	B+R+W	明赤褐	100	No.7. 口縁端部弱いヘラアテ。風化。
9	坏	□13.0 高5.4	B+R+W+W'	明赤褐～黒褐	100	No.6. 口縁端部ヘラアテ面取り。
10	坏	□15.2 高6.5	B+R+W	橙	85	No.8. 口縁端部ヘラアテ面取り。
11	高坏	□12.3 脚9.6 高8.8	B+W	明赤褐～にふい橙	100	No.5. 口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。脚部内外面ナデ。
12	小型壺	□13.0 底5.2 高15.5 胴17.0	B+R+W	橙	75	No.3. 胴部外面上半ハケメ後ナデ。底部外面一方のヘラケズリ。
13	瓶	□19.4 底5.8 高18.8	B+R+W	橙	100	No.4. 口縁端部ヘラアテ。口縁部内面ハケメ痕。胴部外面上位ハケメ。内面ハケメナデ。
14	瓶	□27.0	B+R+W	橙	口縁 60	No.8. 口縁端部ヘラアテ。胴部外面ハケメ。
15	瓶	□28.0 底9.4 高31.5	B+W	橙	100	口縁端部ヘラアテ面取り。胴部外面上位ハケメ。内面上位ハケメ後全面粗ミミガキ。底端部面取り。底部付近対向して2孔穿く。

幅は23cm、深さは5cmと非常に浅い。貯蔵穴はカマドの向かって右側、北東隅に設けられている。規模は径100cmと大きい、深さは24cmと浅く、一部噴砂による浸食を受けている。

出土遺物の量はたいへん多く、種類も豊富である。接合率はあまり良好とはいえないが、141点もの土器を図示することができた。残りの良い遺物はおもにカマド周辺から出土しているが、南東隅にも高坏が3点(97-99)まとまって出土している。なかでも98は極端に大型の高坏であり特異例といえよう。また、覆土から須恵器坏(103)が出土しているが、これは陶邑編年のTK10形式前後に比定できると考えられる。他にもミニチュア土器や剣形石製品・土玉・すり石などの遺物が出土している。

第170号住居跡 (第625図)

・は—419Gridに位置し、西半が排水溝にかかる。検出された部分の幅は辺2.0m、深さは16cm程である。不整形を呈しており、床面も明瞭ではない。確認された範囲も狭く、住居跡ではない可能性もあるが、遺物の出土状況も良好であるため、住居跡と判断した。南東コーナー部分にあたと推定され、北側のラインはカマドの袖である可能性がある。

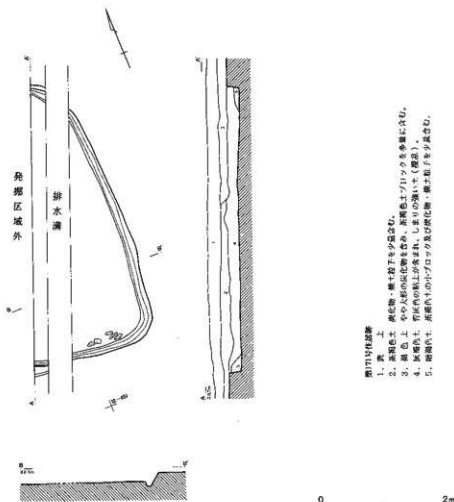
貯蔵穴の規模は上面では100×135cmの不整形を呈しているが、深く掘り込まれている部分は径40cmほどの大きさで、深さは67cmである。

貯蔵穴の中から多くの遺物が出土した。坏・高坏・壺・甗など完形品が多く、良好な土師器のセットとしてとらえることができる。

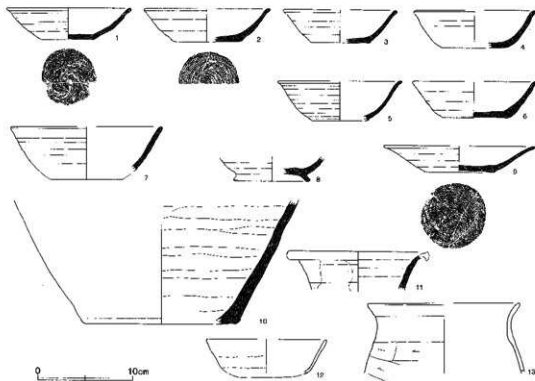
第171号住居跡 (第627図)

は—419・420Gridに位置する。大半が発掘区域外にかかり、かろうじて一辺の大きさを知ることができる程度である。検出された一辺は4.5mで、胴張りの形態を呈している。床面までの深さは18cmである。幅17cm、深さ6cmの排水溝が通っている。他の施設は確認されず、ピットも存在しなかった。

出土遺物の量は少ない。須恵器坏が多いが、あまり接合する資料に恵まれなかった。コーナー部分の南壁際に編物石と考えられる自然石が5点まとまって出土している。



第627図 第171号住居跡



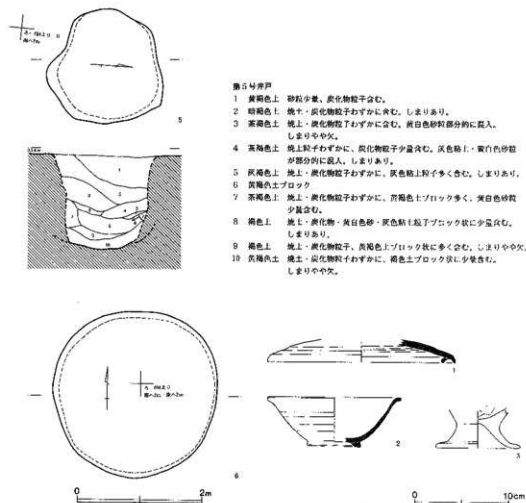
第628図 第171号住居跡出土遺物

第171号住居跡 (628図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	鉢	口13.0 高3.3	B多+W+砂多	灰	60	底部回転糸切り。焼成やや不良。風化。
2	鉢	口(13.2) 底6.4 高3.5	W+W'+砂	灰	10	底部回転糸切り。
3	鉢	口(12.0) 底(6.2) 高3.5	B+W+W'	灰	25	底部回転糸切り。
4	鉢	口(12.6) 底7.0 高3.9	B+W多+W'+砂	灰	25	底部回転糸切り。
5	鉢	口(13.0) 底(6.0) 高4.1	B+W+W'	灰	25	底部回転糸切り。
6	鉢	口(13.0) 底6.8 高3.8	B少+W+W'	灰白	30	底部回転糸切り。
7	鉢	口(16.0)	B+W	淡黄	口縁 30	風化顯著。
8	高台付鉢	高台8.0	B少+R少+W+W'+砂少	灰	底部 30	底部回転糸切り後、高台ナデつけ。
9	甕	口(16.0) 高2.8	B+R多+W+W'+砂少	にふい縄	60	底部回転糸切り。焼成不良。
10	甕	底(16.0)	B+R多+W多+W'+砂	にふい赤縄	底部 30	№8。胴部内面ナデ。焼成不良。
11	甕		R少+W+W'	灰～灰オリーブ		口縁部内外面に軸付著。口縁端部は推定
12	鉢	口(12.6) 高(4.0)	B多+W+W'	にふい橙	40	口縁部ナデ。
13	甕	口(16.0)	B+R+W+W' 多	橙	口縁 10	口縁部ナデ。

(2) 井戸跡

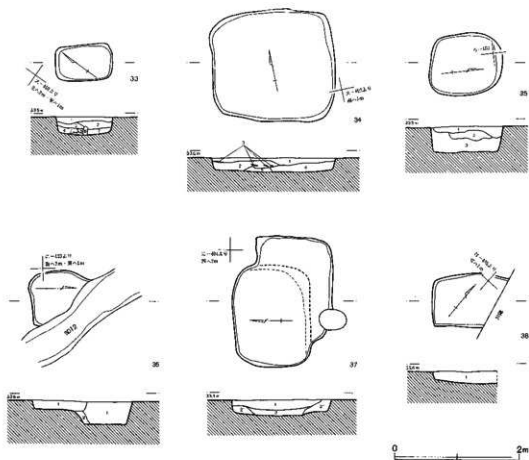
第3発掘区からは2基の井戸跡が検出されている(第629図)。第5号井戸跡は、ろ-104Grid、第6号井戸跡は、い-407Gridに位置している。調査計画の都合により、遺跡の冠水時期に調査を行なった。第5号井戸跡は湧水や壁の崩壊に悩まされた。そこで調査の安全を計るため、やむをえ



第629図 第5・6号井戸・第6号井戸出土遺物

第6号井戸 (第629図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	□(20.0)	W+針	灰	20	SE6
2	高台付柄	口(14.2) 高5.2	台(5.7) B多+W+W'+選少	灰	55	SE6 回転水切り継し後、高台ナデツケ
3	台付蓋	台(9.0)	B+W	橙	脚部 70	SE6



第33号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、焼土ブロック(3~5mm)わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒少量、炭化物粒子多く、焼土ブロック(3~5mm)わずかに含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量、焼土ブロック(2~3mm)少量含む。しまりあり。
- 4 褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)多く、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 5 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック含む。
- 6 黄褐色土
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多く、焼土ブロック(5~10mm)わずかに含む。しまりあり。

第34号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒わずかに含む。黄褐色土ブロック状に混入。しまりあり。
- 3 黄褐色土 炭化物塊混入。焼土粒わずかに含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒わずかに、黄褐色土ブロック状に多く含む。しまりあり。
- 5 黄褐色土 暗褐色土わずかに含む。

第35号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、白色火山灰少量、黄褐色土粒子多量含む。粘性欠。シヤリシヤリしている。
- 2 暗褐色土 砂粒多量含む。
- 3 暗褐色土 焼土・黄褐色土粒子少量含む。粘性ややあり。

第36号土坑

- 1 褐色土 焼土・黄褐色土粒子微量含む。粘性やや欠。

第37号溝

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒少量含む。
- 2 暗褐色土 1に黄褐色土粒少量混入。

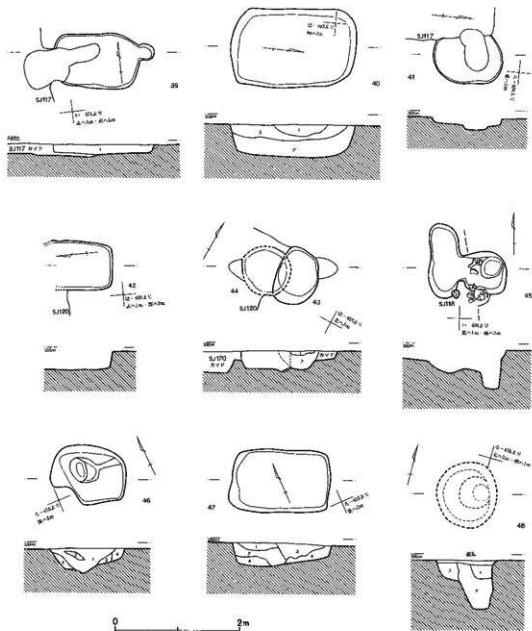
第37号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒少量含む。粘性やや欠。
- 2 褐色土 黄褐色土粒少量含む。粘性やや強。
- 2' 褐色土 黄褐色土粒少量含む。粘性やや強。
- 2'' 褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。粘性やや強。

第38号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物・白色火山灰・黄褐色土粒子少量含む。粘性やや欠。多少シヤリシヤリしている。

第630図 第3発掘区土坑(1)



第39号土坑

- 1 褐色土 礫上・炭化物粒が少量、黄褐色土ブロック多く含む。

第40号土坑

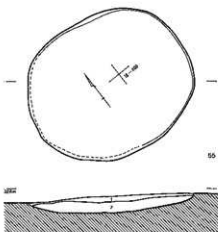
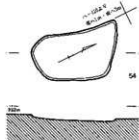
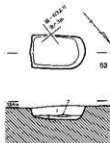
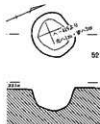
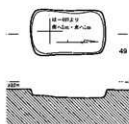
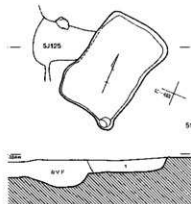
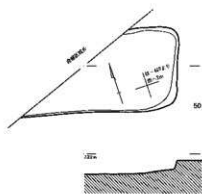
- 1 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
 2 暗褐色土 炭化物粒子少量、黄褐色土粒子多量含む。粘性やや欠。
 2' 暗褐色土 2より粘性弱。

第43号土坑

- 1 暗褐色土 礫土粒が多量含む。
 2 暗褐色土 炭化物粒子少量含む。

第46号土坑

- 1 暗褐色土
 2 黄褐色土 ブロック状断塊。
 3 褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
 4 褐色土



第47号上坑

- 1 暗褐色土
- 2 褐色土 黄褐色上ブロック少量含む。
- 3 黄褐色土 褐色上ブロック多く含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色上ブロック少量含む。

第48号上坑

- 1 暗褐色土 粘土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む、粘性欠。
- 2 暗褐色土 粘土・炭化物・黄褐色土粒子少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 粘土・炭化物粒子微量、黄褐色土粒子少量含む。しまり・粘性あり。

第51号上坑

- 1 暗褐色土 粘土粒子わずかに、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり。

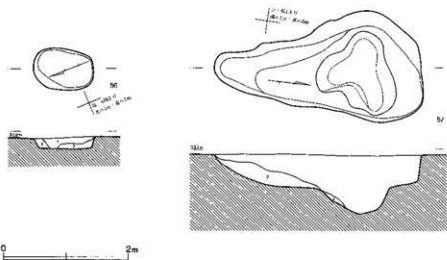
第53号上坑

- 1 茶褐色土 しまりあり。
- 2 赤褐色土 粘土粒子・ブロック塊積層。
- 3 灰褐色土 粘土・炭化物粒子多く、白色粘土少量、スラグ片多く含む。粘性あり。

第55号上坑

- 1 暗褐色土
- 2 褐色土 茶褐色土ブロック多く含む。

第632図 第3発掘区土坑(3)



第56号土坑

- 1 粘褐色土 黄土・炭化物粒子わずかに、砂粒少量含む。しまりあり。
- 2 粘褐色土 黄土・炭化物粒子わずかに、砂粒多量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 炭化物粒子多量、砂粒多量含む。

第57号土坑

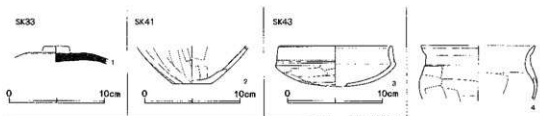
- 1 粘褐色土 黄褐色土粒子混入含む。しまりあり。厚膜。
- 2 粘褐色土 黄褐色土粒子多量含む。しまりあり。厚膜。

第633図 第3発掘区土坑(4)

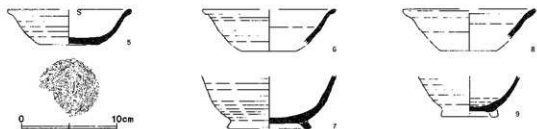
ず、調査を途中で終了している。不整形で、東西1.85m・南北1.94mを測る。第6号井戸跡については、その範囲を確定するに留まった。東西2.63m・南北2.63mを測る円形を呈している。遺物は第6号井戸跡から遺構確認時に須恵器2点、土師器1点が出土しているのみである。そのため遺構の時期を特定するに足る資料とはいえない。

(3) 土坑

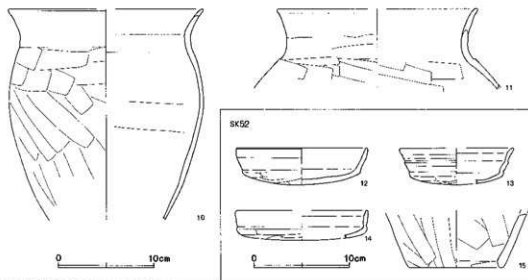
第3発掘区からは25基の土坑が検出されている(第630～633図)。数基が群になって、おもに住居跡の周辺に存在している。群を構成している数や群内の土坑の規模・形態もまちまちであり、規則性等を認めることはできない。住居跡との関連や、用途・性格等も明確ではない。形態的には方形を呈しているものが多く、ほかに円形のものもみられる。数基を除いて規模が小さく、円形のものなどはピットとして把握すべき遺構である可能性も否めない。第48号土坑は—410Gridに位置し、第103号住居跡の調査の際に、発掘区境界を精査中に断面のみ検出されている。発掘区区域内については調査のための排水溝によって壊している。あくまでも形態・規模等は土層断面から推測して復元したものである。遺物は7基の土坑から出土しているが、たいへん少量である。時期を特定する資料としては少ないものの、第43・52号土坑は古墳時代後期、第33・41・42・45・48号は奈良・平安時代前半に比定できよう。



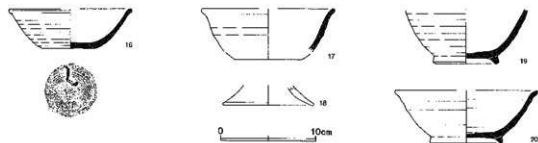
SK42



SK45



SK48



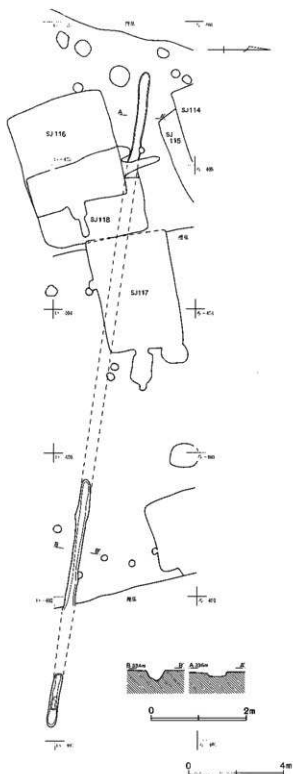
第634图 第3发掘区土坑出土文物

第3発掘区十坑(第634図)

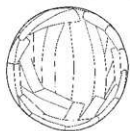
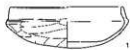
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋		B+W+針	灰	20	SE33 つまみ部分欠損
2	壺	底(4.0)	B+R+W+W'	橙～黒褐	底部 50	SE41 底部一方向のケズリ
3	杯	口11.8 高4.2	B+R+W	にふい黄橙	70	SE43
4	椀	口(12.0)	B+R+W+W'	橙	上半部 10	SE42
5	杯	口13.0 底(6.0) 高3.7	B+R少+W	灰	50	SE42 回転糸切り離し
6	杯	口(14.0)	W	灰	10	SE42
7	高台付筒	台(8.8)	B+W多+W'	灰～黒		SE42 回転糸切り離し後、高台ナデツケ 高台端部ヘラアテ 内面風化
8	杯	口(14.0)	R+W+W'+橙	灰黄褐	20	SE42 焼成やや不良
9	高台付筒		B+W	灰	30	SE42 回転糸切り離し 高台部欠損
10	壺	口20.2	B+R+W	褐灰～にふい橙	30	SE45 外面黒色
11	壺	口(21.0)	B+W	にふい橙	口縁 45	SE45 2点 同一個体
12	杯	口13.6 高3.9	B多+W	にふい橙～黒褐	50	SE52 外面黒色部分
13	杯	口(12.0)	B+R+W	明黄褐	15	SE52
14	杯	口(13.7)	B+R多+W	黒褐～にふい橙	10	SE52 口縁端部面トリ
15	瓶	底(9.8)	B+R+W	明赤褐～にふい橙	5	SE52 口縁端部面トリ
16	杯	口(13.0) 底5.4 高4.1	B少+R+W多+W'	淡黄～黒	60	SE48 回転糸切り離し
17	椀	口(14.0)	R+W多	灰	15	SE48
18	高杯	脚(9.6)	B+R+W	橙～明黄褐	脚部 25	SE46
19	高台付筒	台7.0	B+W+W'	灰白	50	SE48 回転糸切り離し後、高台ナデツケ 風化
20	高台付筒	口(15.0) 台(7.6) 高(5.5)	B+R+W	にふい黄橙	10	SE48 焼成やや不良

(4) 溝

第3発掘区からは7条の溝が検出されている(第635～638図)。土取りによる削平のため幅が狭く、浅く、そして短いものがほとんどである。第9・11号溝は東西に走り、ほかは北西から南東方向に走っている。これらの溝の方向は傾向的に捉えられるのみで、有機的に関連しているとは思えない。また重複している住居跡との関連性も乏しい。第15号溝は規模も大きく、ほぼ直角に屈曲している。時期が明確ではないものの、集落の区画もしくは排水等に用いられた可能性がある。遺物は重複している住居跡からの混入品が多く、時期・用途・性格等を類推する資料に欠ける。ただし第14号溝は重複している第122号住居跡の出土遺物との時期が異なっていることから、明確に伴うものと考えられる。また第13号溝からは円面視の破片が出土している。



SD10



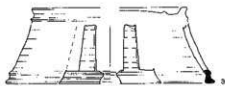
0 10cm

SD11



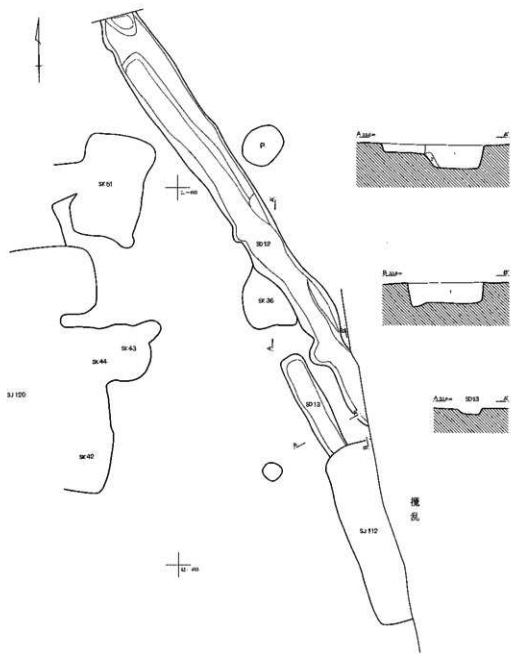
0 10cm

SD13



0 10cm

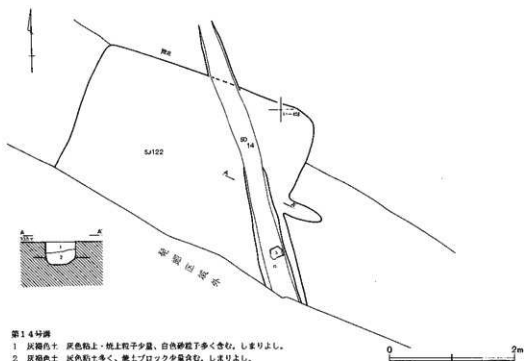
第635图 第11号溝・第10・11・13号溝出土遺物



第12号溝

- 1 暗褐色土 炭化物・焼土・黄褐色土粒子少量混入。
- 2 暗褐色土 1に黄褐色土粒子多量混入。

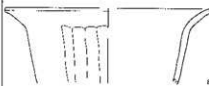
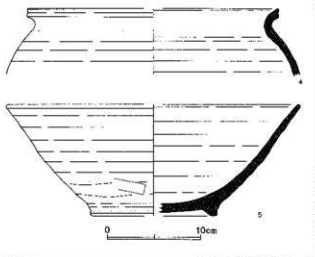
0 ————— 2m



第14号溝

- 1 灰褐色土 灰色粘土・粘土粒子少量、白色砂質土多く含む。しまりよし。
- 2 灰褐色土 灰色粘土多く、黄土ブロック少量含む。しまりよし。

SD14

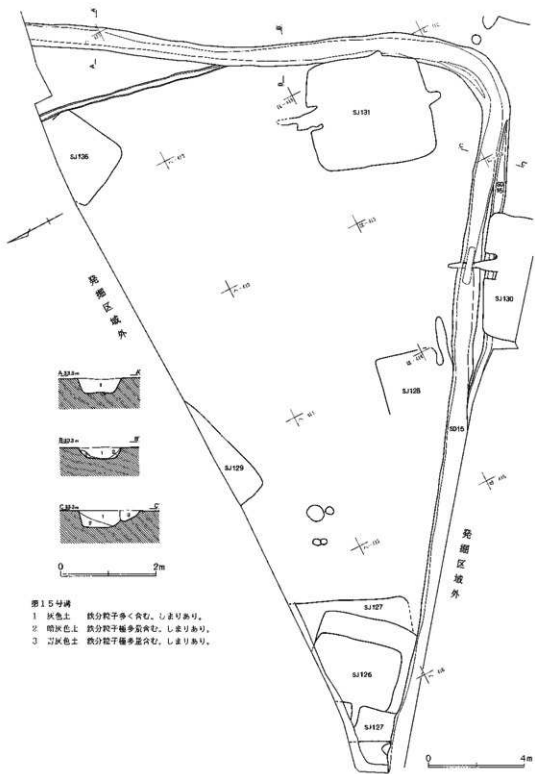


SD15



0 10cm

第637図 第14号溝・第14・15号溝出土遺物



第15号溝

- 1 灰色土 鉄分粒子多く含む。しまりあり。
- 2 暗灰色土 鉄分粒子極多量含む。しまりあり。
- 3 青灰色土 鉄分粒子極多量含む。しまりあり。

第638図 第15号溝

第3発掘区溝 (第635・637図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.8 高4.3	B+R+W	橙～浅黄橙	100	SD10
2	高台付輪	台6.6	B+E多+W	橙	底部 50	SD11 回転糸切り離し後、高台部ナデツケ 酸化焙焼成
3	円面碗	底(22.0)	W	灰～褐灰	10	SD13 長方形一段スカシ
4	甕	口(26.6)	B+W+砂少	灰	口縁 15	SD14
5	高台付鉢	口(31.0) 台(13.2) 高11.8	B+W	灰白	20	SD14 底部ヘラケズリ後、高台ナデツケ
6	坏	口(13.0)	B+R+W	にぶい黄橙	20	SD15
7	坏	口(14.8)	B+R+W	浅黄橙～黒	15	SP15 外面黒色
8	甕	口21.8	B+R+W	浅黄橙	口縁 15	SP15 口縁端部面トリ
9	瓦		B少+W少	灰		SP15 布目瓦

(5) ピット

第3発掘区から多数のピットが検出され、住居跡が比較的密集している地域に多くみられる。そのためなんらかの関連のあるものと想像はされる。しかし配列的な規則性も認められず、用途・性格等は不明である。遺物はスー404GridのP1、に-402GridのP1から出土している。



第639図 第3発掘区ピット出土遺物

第3発掘区ピット (第639図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高台付輪	口(18.4) 台(9.4) 高9.2	B+W+砂少	灰～白灰	40	スー404Gピット1 高台ナデツケ 欠損
2	鉢	口4.5 高9.6	B+E多+W	橙	85	に-402Gピット1

4 第4発掘区

第4発掘区は、全発掘区域のほぼ中央部、X軸の421-438にあたる。遺構確認面における標高は33.3mである。遺構はおもに発掘区の東半分から集中して確認されたが、西半分が瓦焼成のための土取りによる削平を受けているため、本来の遺構の分布は均一であったものと推定される。噴砂の痕跡は各所にみうけられるが、遺構の平面プランを歪めてしまうような大きな影響はみられない。

第4発掘区で検出された遺構は、住居跡35軒（第172-201号）・土坑11基（第58-68号）・井戸3基（第7-9号）・溝1条（第16号）である。西側は削平が著しく、遺構の多くはその痕跡しか確認できなかった。

住居跡は、分布が密な東側では切り合い関係が著しい。また、確認されたほとんどのものが北側の辺にカマドを構築している。これらの時期別の内訳は、古墳時代前期1軒、中期3軒、後期19軒、奈良時代2軒、平安時代前期3軒、不明7軒である。

土坑は、おおむね深さ10cm前後と浅く、出土遺物はほとんど確認されなかった。井戸からもわずかな遺物しか出土していない。したがって、これらの時期や性格などの詳細は不明である。溝からは少量の土器片が出土しているが、時期的に幅があり、どれが溝に伴うかは定かではない。

(1) 住居跡

第172号住居跡（第641図）

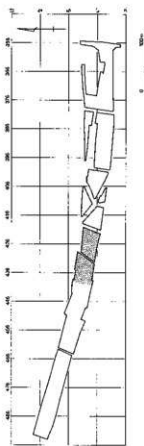
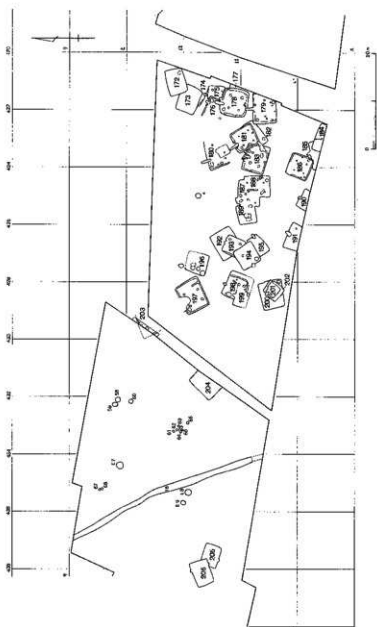
ほぼ420・421Gridに位置する。西南コーナーが第173号住居跡を切っている。形態は東西に長い長方形で、規模は長軸5.3m、短軸3.8m、深さ21cmである。長軸の傾きはN-77°Eである。東南隅の隙には、規模88×54cm、深さ28cmの土坑が存在するが、遺物もほとんどなく、貯蔵穴かどうかは不明である。カマドなど他の施設は検出されず、柱穴も床面を精査したにもかかわらず明らかにすることができなかった。

出土遺物は少なく、図示したもののすべてが破片からの復元であるが、底部回転糸切り後周辺回転ヘラケズリの須恵器坏が1点出土している。

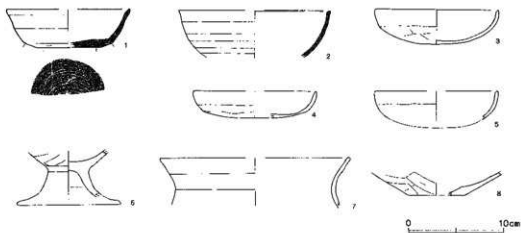
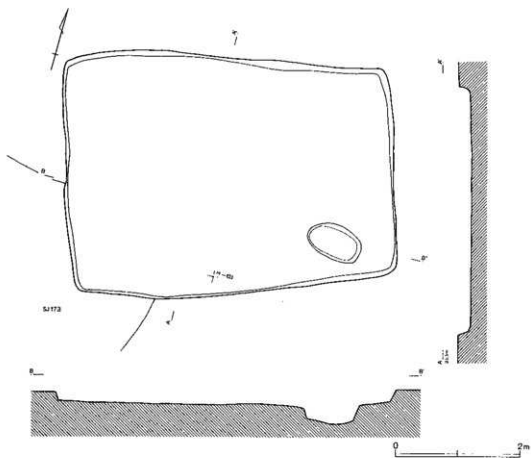
第173号住居跡（第642図）

ほぼ421・422Gridに位置し、第172号住居跡に切られている。規模は長軸5.3m、短軸4.3mの東西にやや長い長方形を呈している。覆土は黒褐色土の下が砂層となっており、明瞭な床面は確認することができなかった。カマド・貯蔵穴・柱穴なども検出されなかった。

遺物は黒褐色土の覆土から土師器の破片が少量出土しているにすぎない。



第640图 第4号地籍区全测图



第641図 第172号住居跡および出土遺物

第172号住居跡 (第641図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.0) 底(7.0) 高4.0	B少+W'	灰	30	底部回転糸切り後、周辺左回転ヘラケズリ。
2	椀	口(16.0) 高4.9	B+W+針	(内)灰 (外)粗灰	口縁 15	口縁端部面取り。
3	坏	口12.8 高3.6	B多+W'+V' 少	明赤褐	40	体部外面ヘラケズリ。風化顕著。
4	坏	口(13.0) 高2.8	B+W'+V' 少	橙	25	口縁部ナデ。風化顕著。
5	坏	口(13.0)	B+W' 少	におい橙	口縁 50	口縁部ナデ。風化顕著。
6	台付罎	脚基部4.2	B+W'+V'	におい赤褐	脚部 70	脚部外面ヘラケズリ。脚部外面ナデ。
7	罎	口(20.0)	B+B多+W'+V'	明赤褐	口縁 10	口縁部ナデ。
8	壺	底(6.0)	B多+W'+V'	におい赤褐	底部 30	底部外面一方向のヘラケズリ。

第174号住居跡 (第642図)

に—421Gridに位置し、第173号住居跡に切られる。検出された南壁は長さ4.1m、主軸の傾きは推定でN-163°-W、深さは14cmである。カマドは本遺跡では珍しい例で、南壁の東寄りに設けられている。カマドの袖は地山の造り出しで、燃焼部は浅く掘り込まれている。深さ45cm程の壁溝が部分的に検出されたが、その他の施設は確認されなかった。

出土遺物は大変少なく、土師器などの小片がわずかに出土したが、図示に耐えうるものは存在しなかった。

第172-174号住居跡の切り合い関係を整理すると、(旧→新) 174→173→172となり、第172号住居跡がもっとも新しい住居跡と考えられるが、出土遺物からはそのことを裏づける資料に恵まれなかった。また、第172号および第173号住居跡は、カマドなどが検出されていないため、確実に住居跡とする根拠は薄いが、方形の黒色のプランが明瞭に確認され、少量ながら遺物も出土しているため、住居跡と判断し、報告することにした。

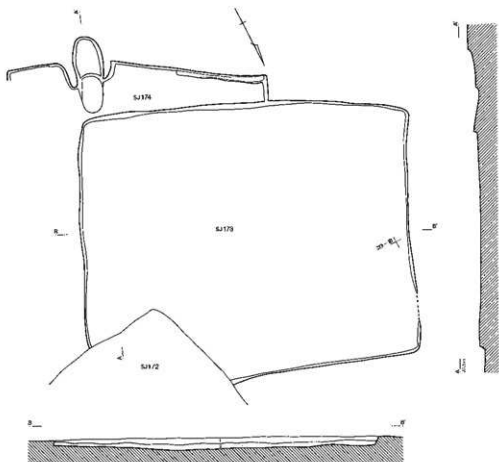
第175号住居跡 (第643図)

は・に—421Gridに位置し、第176号住居跡と第178号住居跡の双方に切られている。規模は長軸3.5m、短軸3.1mとほぼ正方形を呈している。深さは7cmである。径45cm・深さ27cm前後のピットが2基確認されたが、いずれも本住居跡の柱穴であるかどうかは定かでない。カマドや貯蔵穴などは確認されなかった。

遺物はほとんど検出されず、実測できたのは3点ほどである。すべて土師器であるが、小さな破片から復元したため、口縁部の傾きや径の大きさの誤差は大きい可能性がある。

第176号住居跡 (第643図)

は・に—421・422Gridに位置し、第178号住居跡に切られる。主軸の傾きはN-33°-Eで、西

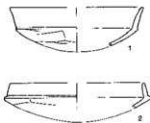


第173号住居跡

1. 黒褐色土 灰化物・焼土粒子を少量含む。しまり直し。
2. 茶褐色土 砂層



SJ 173



SJ 175



第642図 第173・174号住居跡および第173・175号住居跡出土遺物

第173号住居跡 (第642図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口(14.0) 高(4.6)	B+R+W少	橙	口縁 20	口縁端部凹入り。体部外面ヘラケズリ風化。
2	環	口(14.0)	B+R少+W	明赤褐	口縁 15	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
3	小型壺	胴(9.0)	B+R少+W	にぶい橙	20	胴部外面上半ヘラケズリ後ナデ、下半ヘラケズリ。
4	壺	高7.4	B多+R+W	(内)橙 (外)にぶい橙~黒	底部 60	胴部内面ヘラ工具痕。底部木葉痕。

第175号住居跡 (第642図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口(12.0)	B+W	(内)赤褐 (外)黒褐	口縁 35	貯蔵穴。体部外面ヘラケズリ。
2	環	口(12.0)	B+W少	にぶい赤褐	口縁 20	貯蔵穴。体部外面ヘラケズリ。風化。
3	小型壺	口(11.0)	B+R+W少	にぶい赤褐	口縁 30	歪んでいる。風化により調整痕不明瞭。

壁と南壁は確認されず、規模は不明である。カマドは北壁に構築されている。両袖は地山の造り出して、燃焼部は若干掘りくぼめられている。壁溝は細く浅いが、検出した範囲すべてに認められた。貯蔵穴は北東隅にあり、深さ54cmで、底は平らである。

遺物はカマドや貯蔵穴が確認されたにもかかわらず、まったく検出されなかった。

第177号住居跡 (第644図)

は—421Gridに位置し、第178号住居跡に切られている。大半は発掘区域外にかかっており、北壁の一部が検出されたのみである。住居跡の主体は発掘区域外に存在すると考えられるため、全体の規模や施設などその詳細は不明である。なお、深さは12cmである。

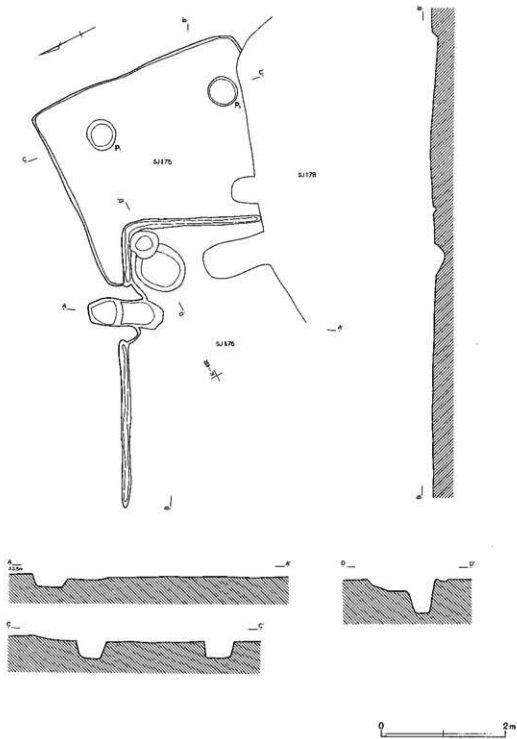
遺物は土師器などの小破片が少量出土したのみで、図示することはできなかった。

第178号住居跡 (第644図)

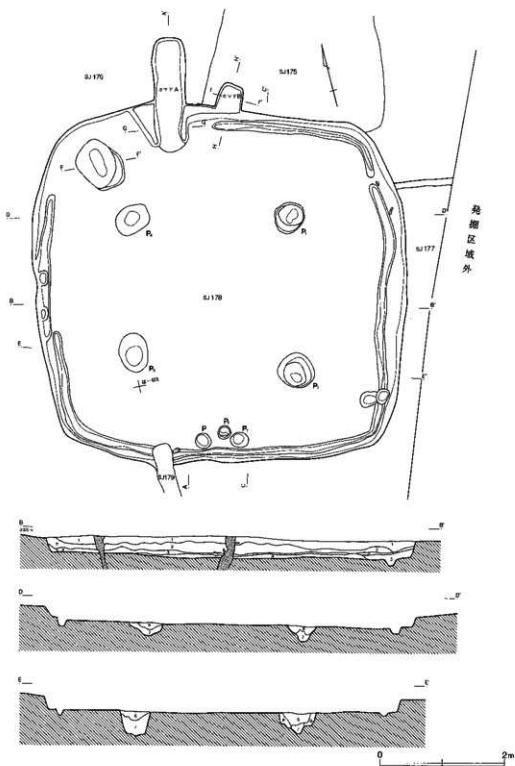
ろ・は—421・422Gridに位置する。南壁の一部は第179号住居跡のカマドの煙道部と重なるが、調査時において新旧関係を明らかにすることはできなかった。規模は長軸5.9m、短軸5.6mで胴張り気味の隅丸方形を呈する。カマドAにおける主軸の傾きはN-11°-Eとほぼ北を向く。深さは28cmで、覆土の状態は自然堆積を示していると思われる。床面は比較的しっかりとしているが、噴砂によりやや変形している箇所がみうけられる。

カマドは2基隣接して北壁に検出された。カマドAはやや西寄りに設けられ、両袖をもち、燃焼部はほとんど掘り込まれていない。カマドBは北壁中央に設けられているが、埋没した状態で検出された。おそらくカマドBが廃された後にカマドAが設けられたものと推定される。

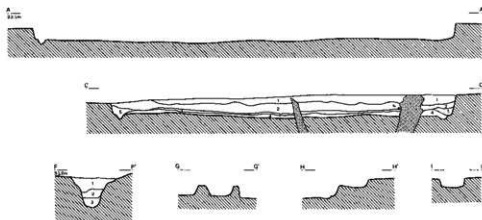
支柱穴はほぼ均等な間隔で4基確認することができた。深さはいずれも20~40cmとあまり深くはなく、柱痕は明瞭ではない。貯蔵穴はカマドの向かって左側、北西隅に設けられ、深さ46cmで底に近づくにつれ幅が狭くなっている。壁溝は貯蔵穴の周辺を除いて全周する。深さは9cmほどで、壁



第643图 第175·176号住居跡



第644图 第177·178号住居跡



第178号住居跡

1. 赤褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を全体的に多く含む。焼土粒子・炭化物粒子をまばらに含む。粘性なく堅緻。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を少量、同ブロック(径1~2cm)を部分的に多く含む。炭化物・焼土粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
3. 黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~3cm)を基本に赤褐色土を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。粘性なく、表面のように堅い。
4. 灰褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)を少量含む。焼土粒子をまばらに含む。粘性なく堅緻。
5. 暗黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~2cm)を多く含む。焼土・炭化物粒子を若干含む。粘性なくよくしまる。
6. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1mm以下)を多量に、同ブロック(径0.5~1cm)を少量含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。粘性なく堅緻。
7. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を少量、同粒子(径1mm以下)を多量に含む。焼土・炭化物粒子を少量含む。若干粘性があり堅緻。
8. 黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~3cm)を多量に含む。若干粘性があり堅緻。

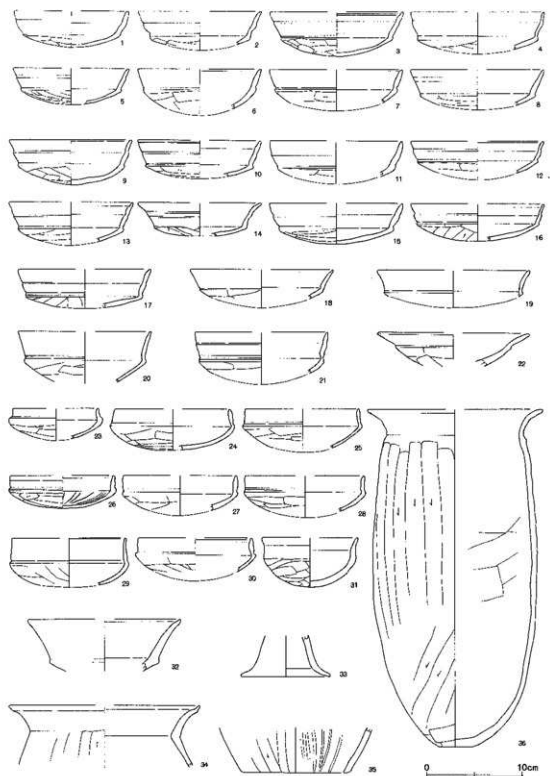
第178号住居跡跡跡穴

1. 赤褐色土 黄褐色土粒子(径2~3mm)を全体的に多く含む。焼土・炭化物粒子を多量に含む。粘性なし。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径2~3mm)を少量、同ブロック(径0.5~1cm)を若干含む。炭化物粒子を少量含む。粘性なくやや砂質でよくしまる。
3. 暗黄褐色土 基本的に2層に同じだが黄褐色土ブロック(径1~2cm)を少量含む。粘性なく砂質。

のラインよりも若干内側を巡っている。また、カマドの対面、南壁中央には3基の小さなビット(深さ15~35cm)が確認された。本遺跡ではカマドの反対面に入口が設けられる例が多いので、あるいはこのビット群も入口の施設に関連するものかもしれない。

出土遺物の量は多いが、残存率の低さにみるように接合率が悪く、土器捨て場的な様相を呈している。完形品は接合完形を含めても認められなかった。したがってすべて破片からの復元実測であるが、坏類の多さが目立つ。土器以外には編物石2点が東南隅の壁溝付近から出土した。また滑石製の剣形石製模造品・同未製品・石錘・土錘2点がいずれも覆土から出土している。

第175~178号住居跡の切り合い関係を整理すると、(旧→新)175→176→178、177→178となる。時期を明確に判断できる遺物は第178号以外にないが、調査時の所見からこの関係は明らかである。また、次に述べる第179号住居跡と第178号住居跡とは、出土遺物から判断して後者の方が新しいものと考えられる。



第645図 第178号住居跡出土遺物

第178号住居跡(第645区)

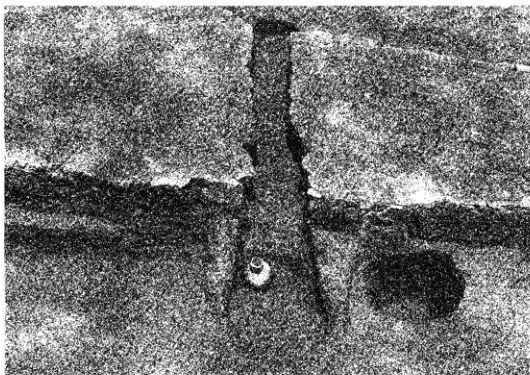
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0) 高3.8	B多+R少+W	にふい橙	30	口縁端部弱いヘラアテ。風化顕著。
2	坏	口(13.0)	B少+W少+W'	黒褐	20	風化。
3	坏	口(14.0) 高4.6	B+W+W'	黒褐	45	口縁端部ヘラアテ。風化。
4	坏	口(14.0) 高(4.4)	B少+R+W少	浅黄橙～にふい橙	20	風化。
5	坏	口(12.2)	B+R+W少	にふい黄橙	25	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
6	坏	口(13.0)	B少+R+W+W'	橙	20	口縁端部弱い面取り。風化顕著。
7	坏	口(14.0) 高(4.3)	R+W+W' 少	橙	10	口縁端部面取り。体部外面風化。
8	坏	口(14.0) 高(4.2)	B+R少+W少+W' 少	にふい橙	20	体部外面ヘラケズリ。風化。
9	坏	口12.8 高4.7	B+R+W	にふい橙	70	口縁端部ヘラアテ。風化顕著。
10	坏	口(13.0)	B+R	にふい黄橙	30	口縁端部ヘラアテ。
11	坏	口(14.0)	B+W少	黒褐	口縁 40	風化。
12	坏	口(14.0)	B+W+W' 少	橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ。風化。
13	坏	口(13.0) 高(4.5)	R+W+W'	にふい橙～灰褐	20	風化。
14	坏	口(13.0)	B+W+W' 少	にふい橙～黒	30	口縁ナデ、外面2条のヘラアテ。
15	坏	口(14.0) 高4.3	B+W	黒褐	40	風化。
16	坏	口(14.0) 高(3.9)	B+R多+W	にふい橙	10	口縁端部面取り。
17	坏	口(14.0)	B+W+W' 少	にふい褐	30	口縁外面ヘラケズリ(粗くノッキングしている)。
18	坏	口(15.0) 高(4.0)	B少+R多+W	橙	20	口縁端部工具アテ痕。風化。
19	坏	口(16.0) 高(3.9)	R少+W	にふい黄橙～褐灰	口縁 20	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ。
20	坏	口(14.0)	B+R少+W+W'	橙	口縁 25	口縁端部弱いヘラアテ。風化。
21	坏	口(14.0) 高(5.5)	B+R+W+W'	橙	10	体部外面ヘラケズリ。風化。
22	坏	口(16.0)	B+R多+W+W'	にふい橙	20	口縁端部面取り。風化。
23	坏	口(9.0)	B少+W+W'	褐	20	風化。
24	坏	口(12.0) 高4.3	B+R少+W+W'	橙	65	カマド。風化顕著。
25	坏	口(12.0)	B多+R+W	橙	20	風化顕著。
26	坏	口(11.0) 高3.5	B+R少+W+W' 少	灰黄褐	25	内面繪文。
27	坏	口(12.0)	B少+R少+W+砂少	にふい橙	15	風化。
28	坏	口(12.6)	B少+W+W'	黒褐	30	口縁部外面ヘラアテ。
29	坏	口(12.0)	B少+W+W'	橙	15	口縁端部面取り。

30	环	口(12.0)	B+R少+W少	にぶい黄橙	15	口縁端部ヘラナデ。風化。
31	环	口(10.0) 高5.2	B+R少+W+W'少	橙	40	風化。
32	高环	口(16.0)	R+W+砂	橙	环部 10	口縁端部工具アテ痕。
33	高环	底(9.4)	B+R+W	橙	脚部 30	脚部風化。
34	環	口(20.0)	B少+R+W+砂多	橙	口縁 10	脚部内面ヘラナデ。
35	環	底(11.0)	R多+W+W'	橙	底部 10	脚部内面粗いヘラミガキ。
36	環	口(18.6) 底(3.4) 高35.2	B多+R+W+W'+砂	にぶい橙	30	脚部内面ヘラナデ。胎土中の含有物量多い。

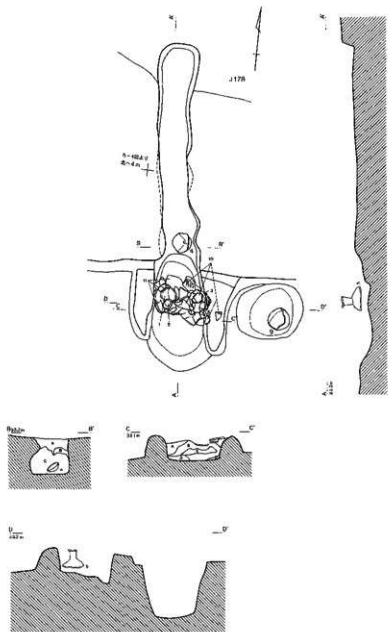
第179号住居跡 (第646・647図)

い・ろ—421・422Gridに位置し、東側の一部が発掘区域外にかかる。規模は長軸6.4m、短軸4.7mの東西に長い長方形を呈する。主軸の傾きはN—8°—Wで、ほぼ真北を向く。深さは30cmである。第178号住居跡および第182号住居跡と切り合い関係にあるが、範囲が狭く、その新旧関係は調査時においては把握することができなかった。

カマドは北壁中央に構築されている。燃焼部は掘り下げられ、高坏がさかさまに支脚として置かれている。煙道部は170cmと長い。覆上には灰や炭化物の顕著な堆積がなく、天井部の痕跡も認められなかった。



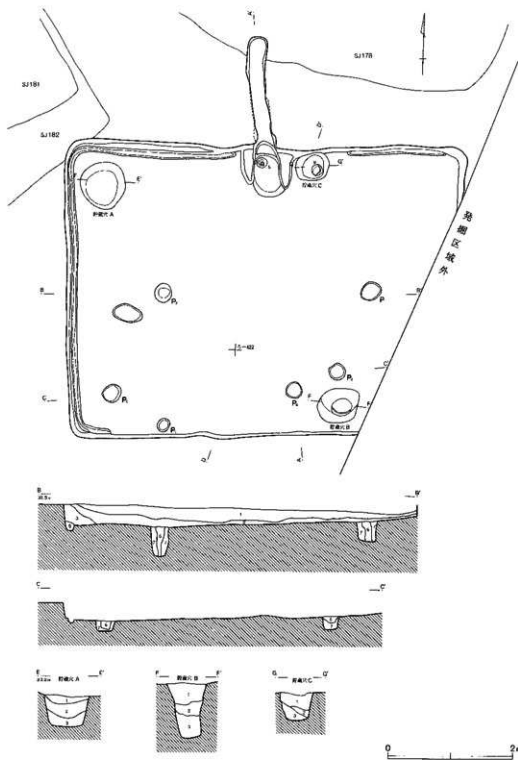
第646図



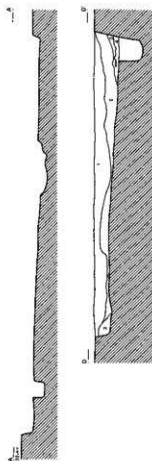
第179号住居跡カマド

- A. 赤褐色土 黄褐色土ブロック（径1〜2cm）を多量に含む。粘性なく堅硬。
 B. 赤褐色土 赤褐色土を基本に焼土ブロック（径1〜3cm）を多量に含む。粘性なく堅硬。
 C. 暗灰褐色土 赤褐色土を基本に淡黄褐色土ブロック（径1〜2cm）を少量含む。焼土ブロック（径1〜2cm）を部分的に含む。粘性なく堅硬。
 D. 黄褐色土 黄褐色土を主体に焼土粒子を含む。





第647图 第179号住居跡



第170号住居跡

1. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~2mm)同ブロック(径0.5~1cm)を少量含む。焼土粒子・炭化物粒子を若干含む。粘性なく堅硬。
2. 黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径1~3cm)を多量に含む。やや粘性があり堅硬。
3. 黒褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)を全体的に多く、同ブロックを少量含む。
4. 暗赤褐色土 黒褐色土を基本に焼土・炭化物粒子・灰を多量に含む。粘性あり。しまりなし。
5. 茶褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を部分的に少量含む。粘性あり堅硬。
6. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~2mm)を多量に含む。炭化物粒子を多量に含む。若干粘性があり堅硬。
7. 茶褐色土 黄褐色土粒子(3~5mm)をブロック状に含む。粘性なく堅硬。

第170号住居跡貯蔵穴A(sp4-E)

1. 黄褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)を全体的に多く含む。粘性なく堅硬。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子(径3~5mm)を少量、同ブロック(径0.5~1cm)を多量に含む。やや粘性があり堅硬。
3. 暗黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径0.5~1cm)を疎らに含む。粘性があり堅硬。

第170号住居跡貯蔵穴B(sp4-F)

1. 茶褐色土 黄褐色土粒子(径1~3mm)を全体的に多く含む。炭化物を少量含む。粘性なく堅硬。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土ブロック(径0.5~1cm)を少量含む。炭化物を多量に含む。粘性なく堅硬。
3. 黒褐色土 基本的に2層と同じだが、2層に比べ黄褐色土ブロック(径1~3cm)を多量に含む。炭化物を少量含む。やや粘性があり堅硬。

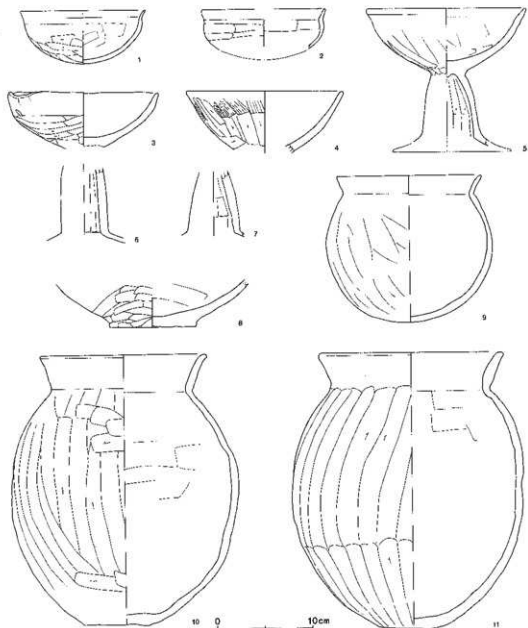
第170号住居跡貯蔵穴C(sp4-G)

1. 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック(径1~2cm)を少量に、焼土粒子を若干含む。粘性あり堅硬。
2. 暗茶褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土ブロック(径0.5~1cm)を少量含む。粘性あり堅硬。
3. 黒褐色土 黄褐色土ブロック(径2~3cm)及び焼土粒子を多量に含む。粘性あり堅硬。

床面からは数基のピットが検出された。覆土の状態や規模、およびその配置から、そのうちのピット1と2が主柱穴と考えられる。深さはピット1が32cm、ピット2が45cmである。他のピットはいずれも深さ20cm前後であり、すべてが本住居跡に伴う確証はない。壁溝は浅くどぎれがちで北-西壁にかけて廻っている。

貯蔵穴は3基検出されている。貯蔵穴Aは北西隅に設けられ、規模は72×74cm、深さは50cmで底は平らである。貯蔵穴Bは南壁東寄りに設けられ、規模は64×54cm、深さは86cmと3基の中でもっとも深い。貯蔵穴Cはカマドの右側、北壁に沿って設けられている。規模は54×44cm、深さは44cmである。遺物はおもに貯蔵穴Cから出土した。

出土遺物は土師器のみで、その量はさほど多くはないが、残りは比較的良好である。カマド燃焼部から、輪1点、支脚転用を含めた高坏3点、甕2点がまとまって出土している。また、貯蔵穴Cからは小型甕が出土している。



第648図 第179号住居跡出土遺物

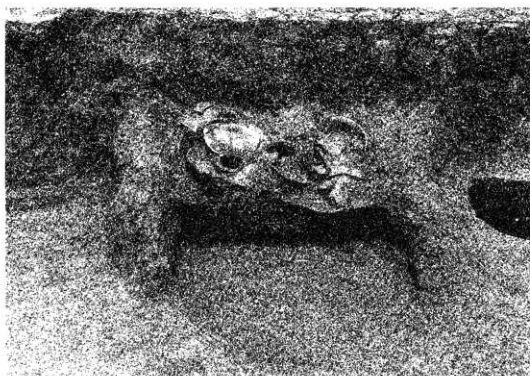
第180号住居跡 (第650図)

は・に-423・424Gridに位置する。カマドを伴う北壁と西壁の一部が検出されたが、覆土もほとんどなく、住居跡としては痕跡をとどめているにすぎない。しかし床面は中央部に大きな根乱を受けてはいたが、部分的に確認することができた。主軸の傾きはN-22°-Wである。

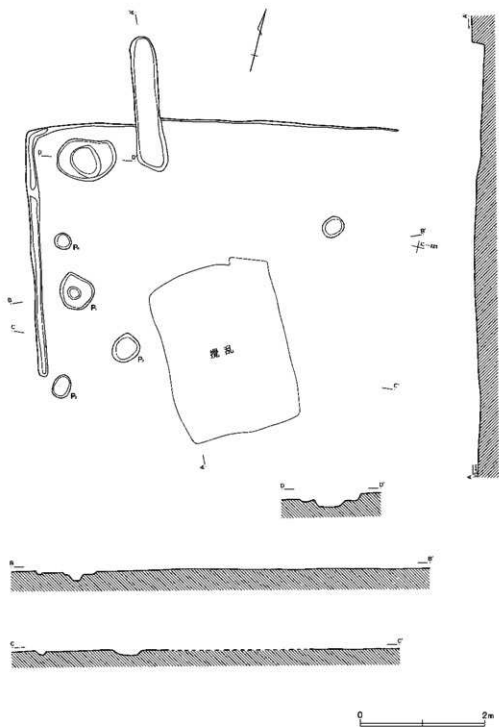
カマドは北壁西寄りに構築されている。やはり残りが悪く、燃焼部はわずかな掘り込みをみるのみである。袖は確認されていない。ピットは4基ほど確認されたが、いずれも浅く、本住居跡との

第179号住居跡 (第648図)

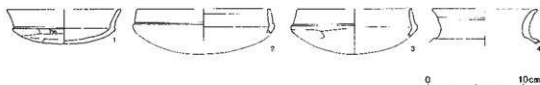
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	椀	□13.0 高5.5	B+R少+W+W' 少	におい褐	80	No.2. カマド。体部外面下半ヘラケズリ風化。
2	椀	□(13.0) 高(5.2)	R+W 少	橙	30	体部外面風化。
3	高環	□15.7	B+R+W 少	におい赤褐	坏部 100	No.5. カマド。脚部剥落。歪みあり。
4	高環	□16.4	B+R+W+W'	明赤褐	坏部 100	No.8. カマド。坏部外面ハケメ後、ヘラケズリ。風化。
5	高環	□16.8	B+W+W' 少	明赤褐～橙	80	No.3. カマド。体部～脚部外面ヘラケズリ後、ナデ。体部内面ヘラケズリ痕。支脚乾涸。
6	高環	脚部5.0	B+R少+W+W' 少	橙	脚部 50	脚部外面ヘラケズリ後ナデ。
7	高環	脚部3.0	B+R+W 少	橙	脚部 50	脚部外面ヘラケズリ後ナデ。
8	壺	底(9.0)	R+W 少	(内)におい橙 (外)黒	底部 40	底部外面ヘラケズリ。
9	小型甕	□15.2 高15.3	B+W多+W' 多+砂	におい橙～赤灰	50	No.1. P-6。脚部外面ヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
10	甕	□19.6 底(6.5) 高28.1 脚24.0	B+W多+W' +砂多	におい橙～褐灰	60	No.4-6. カマド。脚部内面ヘラナデ。
11	甕	□19.4 底5.5 高28.8 脚24.2	B+W多+W' +砂多	におい褐～褐灰	65	No.7. カマド。脚部内面ヘラナデ。



第649図 第179号住居跡カマド遺物出土状況



第650图 第180号住居跡



第651図 第180号住居跡出土遺物

第180号住居跡 (第651図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0) 高3.5	B+R少+W少	橙	25	口縁ナデ。
2	坏	口(14.0)	B+R+W少	橙	口縁 10	貯蔵穴。体部外面へラケズリ。風化顯著
3	坏	口(12.0)	B多+W+W'少	にぶい橙	口縁 10	貯蔵穴。体部外面へラケズリ。風化顯著
4	小型壺	口(11.0)	B+R少+W	橙	口縁 20	口縁ナデ。

関連は定かではない。壁溝もやはり浅く、西壁を巡っているが、他の部分からは検出されなかった。貯蔵穴はカマドの左側北西隅に設けられている。深さは16cmと浅く、底は平らである。

遺物は覆土および貯蔵穴から土師器・須恵器の破片が少々出土した。図示できる遺物の数は少なく、残りも悪い。

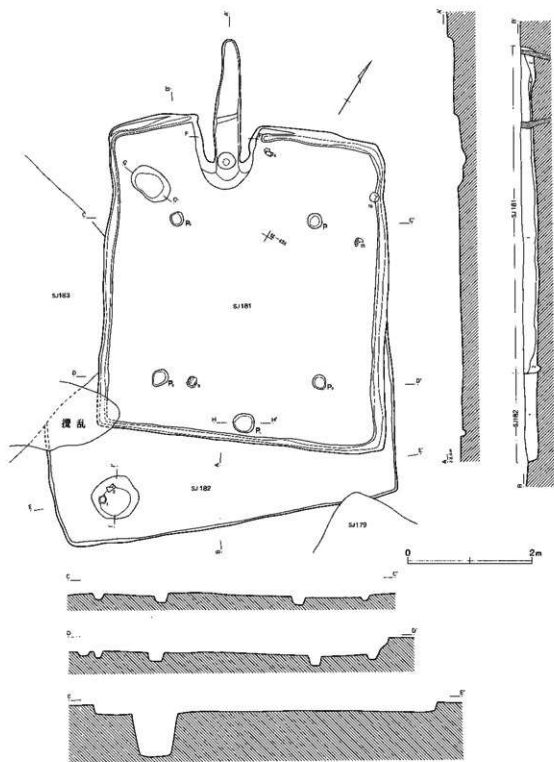
第181号住居跡 (第652図)

ろ・は—422・423Gridに位置し、第182・183号住居跡と切り合い関係にある。南西コーナーの一部は攪乱によって壊されている。長軸5.1m、短軸4.6m、深さ10cmのやや縦長の長方形を呈する。噴砂によって平面プランが若干歪んでいるが、北辺はカマドを中心にわずかに突出していると考えられる。主軸方向はN—29°—Wである。

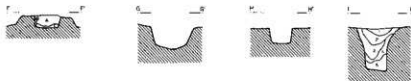
カマドは北壁やや西寄りに構築されている。袖は地山の造り出して、しっかりと残っている。燃焼部は浅く掘り込まれている。支柱穴はビット1—4と考えられるが、深さはいずれも12—14cmと浅い。壁溝は全周するが浅い。貯蔵穴はカマドの左側、北西隅に設けられている。規模は68×45cm、深さ35cmである。カマドの対面南壁際にもビットが1基確認されたが、入口施設と関連づけられるものと思われる。遺物は土師器坏類を中心として、多量に出土している。また、滑石製品としてF1玉2点、有孔円板1点、剣形品1点が覆土から出土した。

第182号住居跡 (第652図)

ろ・は—422・423Gridに位置し、大半が第181・183号住居跡と切り合っている。一部は攪乱によって壊されているが、検出された南壁の長さはおよそ5.5mである。カマドは明らかではなく、貯蔵穴以外の施設は検出されなかった。貯蔵穴は南西隅に設けられ、規模は7.5×6.7cm、深さは68cmで底は平らである。



第652图 第181・182号住居跡



第181号住居跡

1. 褐色土 茶褐色土ブロック及び炭化物・焼土粒子を多量に含む。
2. 暗褐色土 炭化物を多量に含む。しまり良し。
3. 黒褐色土 焼土粒子・炭化物を多量に含む。

第182号住居跡

1. 褐色土 小粒の茶褐色土ブロックを多量に含む。

第181号住居跡カマド

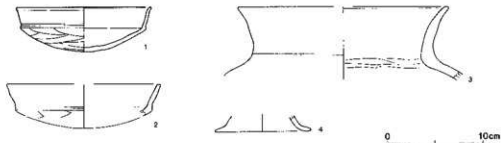
- A. 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- B. 赤褐色土 カマド天井部の残り。良く焼けている。
- C. 灰褐色土 灰層。炭化物を少量含む。

第182号住居跡貯蔵穴

1. 褐色土 焼土粒子・炭化物を少量含む。
2. 暗褐色土 大形の炭化物を少量。茶褐色土小ブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土 2層と同じだが、炭化物はあまり含まれない。
4. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多量に含む。粘性に富む。
5. 暗褐色土 砂質で、しまりに欠ける。

遺物の量は少なく、おもに貯蔵穴から出土した。多くは土師器の破片であるが、そのなかに完成の土師器坏が1点存在する。

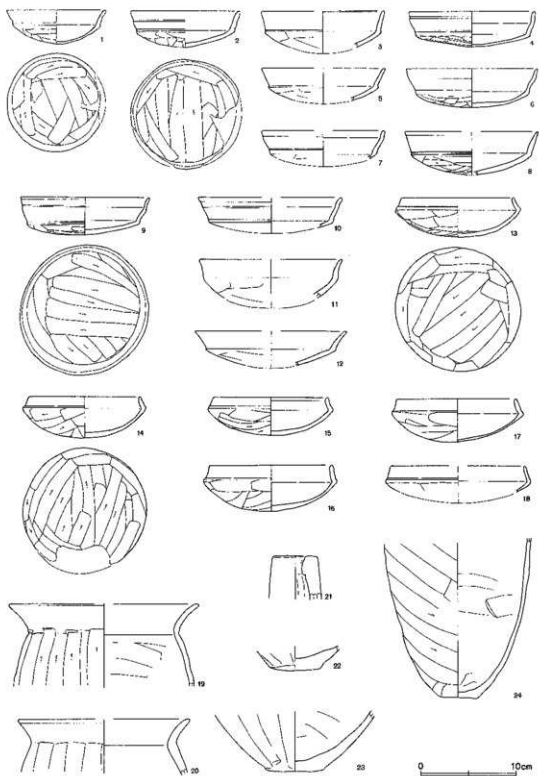
第181号住居跡と第182号住居跡とは、発掘調査時の土層の観察から（旧→新）182→181という関係がとらえられた。これらの住居跡と第183号住居跡との切り合いは、根乱の影響などから、調査時においてその関係を把握することはできなかったが、出土遺物からは第183号住居跡が3基のなかでもっとも古い住居跡と考えられる。



第653図 第182号住居跡出土遺物

第182号住居跡（第653図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□14.0 高4.6	B+R+W少+W少	橙	100	No.2 貯蔵穴。口縁端部面取り。風化顕著。
2	坏	□(16.0)	B+R+W	橙	口縁 20	貯蔵穴。口縁端部ヘラアテ。
3	壺	□(22.0)	B+R+W多+W	橙	口縁 25	No.1 貯蔵穴。頸部内面ヘラナデ。風化。
4	高坏	脚(10.0)	B+W少	橙	脚端部 25	脚部内外面ナデ。



第654图 第181号住居跡出土遺物

第181号住居跡 (第654図)

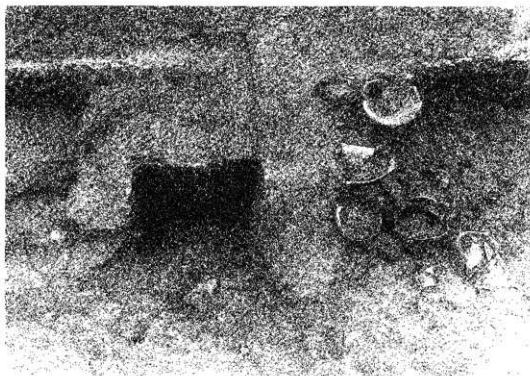
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.0 高3.5	B多+R+W+V' 少	褐灰～橙	90	口縁部と体部の境目、工具ナデ。
2	坏	口11.4 高3.8	B多+R少+W+V' 少	にふい黄橙	80	口縁部外面工具アテナデ。
3	坏	口(13.0) 高(4.4)	B+R+W	橙～黒褐	口縁 20	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ風化。
4	坏	口13.8 高3.7	B多+R少+W+V'	橙～黒褐	80	No.1。口縁部外面ヘラアテ。
5	坏	口(13.0) 高(3.7)	B少+R+W少	橙～褐灰	口縁 25	口縁端部面取り。風化顯著。
6	坏	口13.7 高4.0	B多+W+V' 少	橙～褐灰	60	口縁部ナデ。
7	坏	口(13.0) 高(3.8)	B+R少+W少	橙	口縁 20	カマド。体部外面ヘラケズリ。風化顯著
8	坏	口(14.0) 高(4.6)	B+R少+W多+V' 多	黄褐～灰黄褐	40	口縁部と体部の境目、工具ナデ。風化。
9	坏	口12.5 高3.9	B多+R+W+V' 少	(内)明赤褐 (外)黒褐	100	No.4。口縁外面工具アテナデ。
10	坏	口(15.0)	B+R少+W少	赤褐～にふい黄褐	60	口縁外面ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ風化。
11	坏	口(15.0) 高(5.0)	B+R少+W+V' 少	橙	口縁 30	体部外面ヘラケズリ。風化著しく調整痕不明瞭。
12	坏	口(16.0) 高(3.5)	B+R+W少	橙	口縁 25	口縁端部面取り。体部外面ヘラケズリ風化顯著。
13	坏	口11.7 高4.1 胴13.2	B多+R少+W+V' 少	橙	100	体部内面工具アテナデ。
14	坏	口11.7 高4.3 胴12.8	B多+R+W	橙	90	カマド。
15	坏	口12.0 高4.0 胴13.2	B多+W+V'	橙～黒	90	No.3。
16	坏	口13.0 高4.8	B+R少+W+V' 少	浅黄橙	95	No.2。
17	坏	口12.6 高4.5 胴13.8	B多+R少+W+V'	明赤褐	80	体部の調整痕。風化。
18	坏	口(14.0) 高(3.5) 胴(15.2)	B+R+W	にふい橙	口縁 80	体部外面ヘラケズリ。風化顯著。
19	甕	口(20.0)	B+R+W少+V' 少+砂多	にふい橙	口縁 25	口縁部ナデ。
20	甕	口(18.0)	B+R+W+V' +砂多	にふい橙	口縁 20	風化。
21	支脚	上端(5.0)	B+R多+V' 少	橙	上端部 50	外面ヘラケズリ後ナデ。
22	甕	底5.6	B+R+W+V' 少	(内)橙 (外)黒褐	底部 80	底部外面ヘラケズリ。
23	甕	底(6.0)	B+R+W+V' +砂多	(内)褐灰 (外)にふい橙	底部 40	胴部内面ヘラナデ。底部外面一方のヘラケズリ。風化顯著。
24	小型甕	底3.8	B+W多+V' +砂多	明赤褐	底部 100	胴部内面ヘラナデ。

第183号住居跡 (第656図)

ろ-423・424Gridに位置し、東壁の一部が攪乱により壊されている。形態は横に長い長方形を呈し、長軸5.5m、短軸4.7m、主軸の傾きはN-20°-Eである。深さは20cmで、貼床が部分的に確認されている。

カマドは北壁やや西寄りに構築されている。袖は地山の造り出して、燃焼部は若干掘り込まれて

いる。煙道部はほとんど残存していない。主柱穴は4本（ビット1～4）で、深さは35～65cmである。いずれもほぼ定位置にある。壁溝はほぼ全周しているが、南東コーナーでは壁との間が大きく隔たっており、間仕切りの存在が想定される。貯蔵穴はカマドの向かって右側、北壁近くに設けられている。規模は80×60cm、深さは56cmで、底は平らになる。また、図示していないが、カマドの対面、ビット2と3とのあいだに、馬蹄形状のわずかな高まりが認められ、その中心に小さなビツ



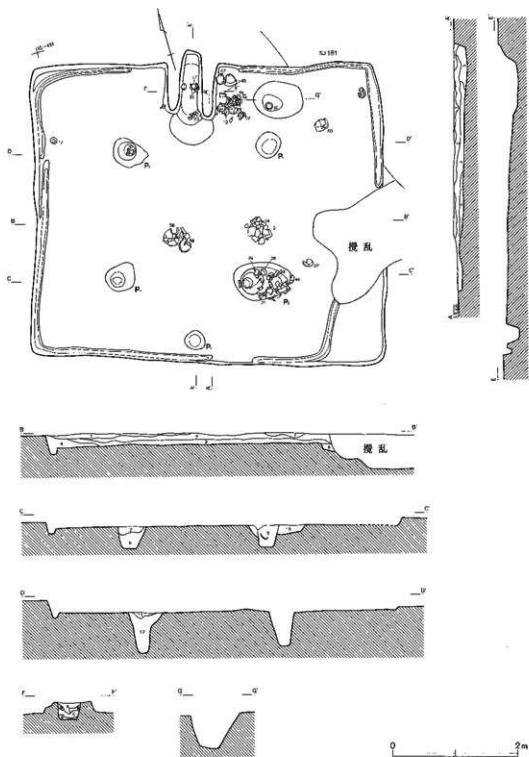
第655図 第183号住居跡カマド

第183号住居跡

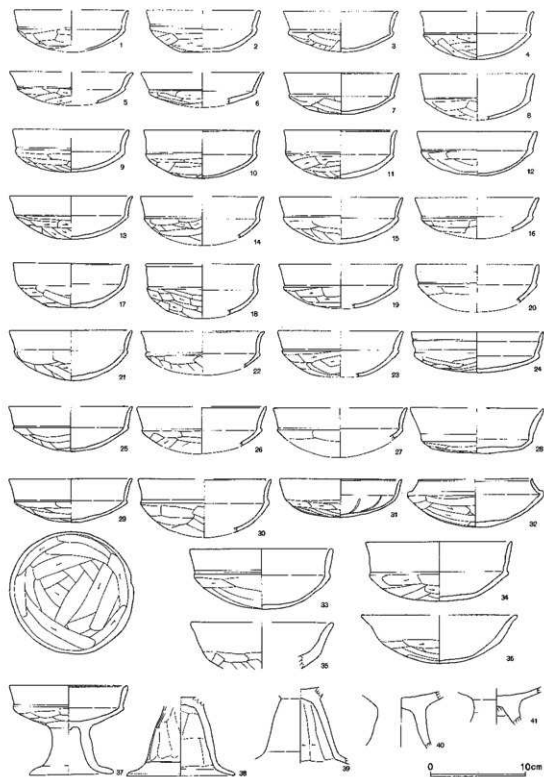
1. 灰褐色土 灰褐色土に多数の軽石（B軽石？）を含む。粘性・しまりなし。この層の面では遺構は確認できない。
2. 暗黄褐色土 赤褐色土を基本に黄褐色土粒子（径3～5mm）を多量に含む。粘性なく堅緻。
3. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子（径3～5mm）を少量、焼ブロック（径0.5～1cm）を多量に含む。炭化物・焼土粒子を少量含む。粘性なく堅緻。
4. 黄褐色土 黄褐色土を主体に赤褐色土を少量含む。粘性なくかなり堅い。
5. 暗黄褐色土 暗褐色土を主体に黄褐色土粒子（径2～3mm）を多量に、焼ブロック（径0.5～1cm）を少量含む。炭土・炭化物を多量に含む。やや粘性あり堅緻。
6. 暗茶褐色土 黄褐色土ブロック（径2～3cm）を多量に含む。粘性なくよくしまる。（183号住居跡層上）
7. 褐色土 炭化物を少量含む。
8. 赤褐色土 赤褐色土ブロックを多量に含む。
9. 黄褐色土 しまりなし。
10. 褐色土 炭化物・赤褐色土ブロックを多量に含む。
11. 黒褐色土 炭化物・焼土粒子を多量に含む。
12. 褐色土 小粒の炭化物を多量に含む。灰を少量含む。

第183号住居跡カマド

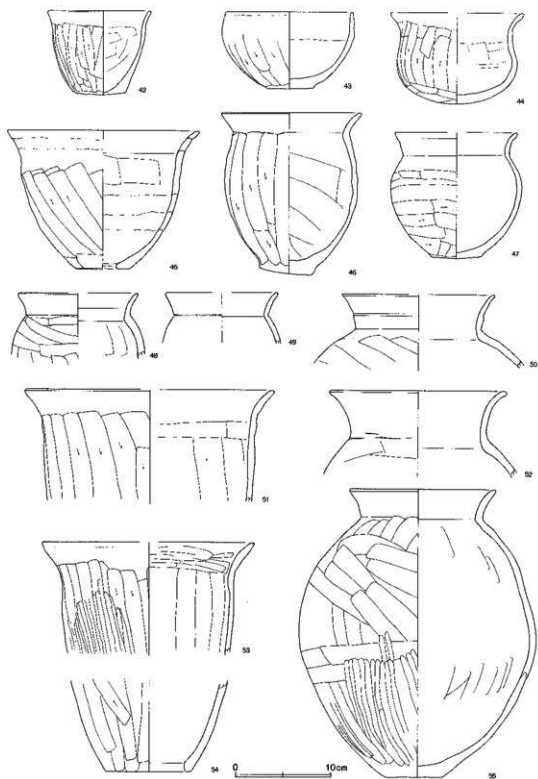
- A. 赤褐色土 焼土ブロック・炭化物を少量含む。粘性・しまり強い。
- B. 暗褐色土 カマドの天井部分が崩壊したものをよく焼けている。
- C. 暗褐色土 灰泥じりの上で焼土ブロックを少量含む。
- D. 赤褐色土 粘性の強い土でカマド雑骨を埋めている。



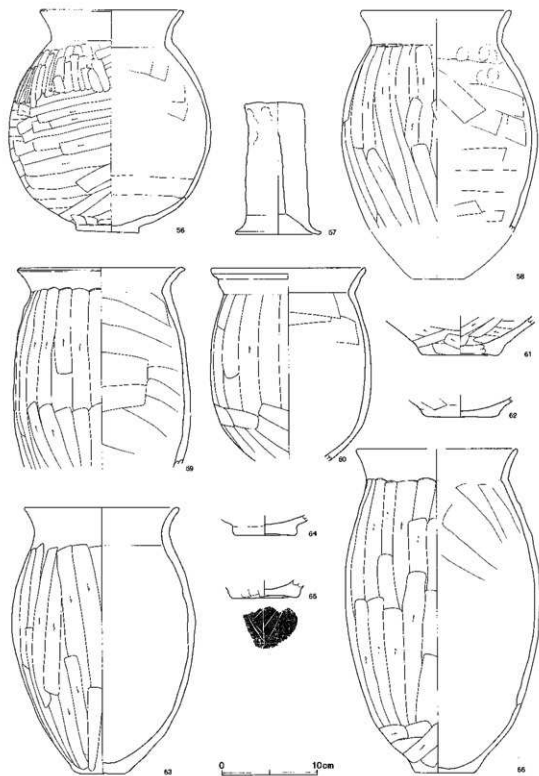
第656図 第183号住居跡



第657图 第183号住居跡出土物(1)



第658图 第183号住居跡出土遺物(2)



第659图 第183号住居跡出土遺物(3)

第183号住居跡(第657~659図)

No.	遺構	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	□(12.0) 高(4.4)	B+R+W	橙	25	風化顯著。
2	环	□(12.0) 高4.4	B+R少+W+W' 少	橙	30	底部外面一方向のヘラケズリ。平底。
3	环	□(12.0) 高4.3	B+W多+W'	橙	50	口縁端部ヘラアテ。
4	环	□(12.0) 高5.0	B+W+W' 少	橙	50	№29 カマド。
5	环	□(13.0)	B少+R+W	にふい橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
6	环	□(13.0)	B+R少+W+W' 少	にふい黄橙	口縁 20	風化。
7	环	□12.1 高4.3	B多+R少+W+W' 多	橙	100	№13。口縁端部ヘラアテ。風化。
8	环	□(12.0) 高(4.9)	B多+R少+W+W'	橙	30	№7。風化顯著。
9	环	□12.2 高4.4	B+R多+W+W'	橙	95	№21 カマド。風化顯著。
10	环	□12.1 高5.0	B少+R少+W+W' 少	橙	100	№34 貯蔵穴。口縁端部弱い面取り。風化顯著。
11	环	□11.8 高5.0	B+W多+W'	明赤褐	90	P-4。口縁端部弱い面取り。
12	环	□12.6 高4.6	B+W+W'	(内)明赤褐 (外)にふい橙	70	№21・23 カマド。口縁端部面取り。風化顯著。
13	环	□12.9 高4.5	B+R+W+W' 少	橙	70	風化。
14	环	□(13.0)	B+W少+W' 少	にふい赤褐	25	口縁端部面取り。
15	环	□(13.0) 高4.9	B+R多+W' 少	橙	60	口縁端部面取り。風化。
16	环	□(13.0)	B+R+W	橙	口縁 20	P-2。口縁端部ヘラアテ。風化。
17	环	□12.0 底4.5 高4.8	B+R多+W	明赤褐	100	№16。口縁端部面取り。平底。風化。
18	环	□(12.0)	B+W少+W' 少	明赤褐	25	体部外面横かへラケズリ。
19	环	□(13.0) 高(4.6)	B少+W	橙	25	№11。風化。
20	环	□(13.0)	B+W+W' 少	橙	口縁 25	P-4。風化顯著。
21	环	□12.8 高5.2	B+R+W	橙	80	№9。風化顯著。
22	环	□(13.0)	B+W+W' 少	橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ。風化。
23	环	□(13.1) 高(4.9)	B多+W+W' 少	橙	40	№26・27 カマド。
24	环	□13.8 高4.8	B多+R少+W+W'	橙~褐灰	80	№1。風化。
25	环	□(13.0) 高4.7	B+R+W+W'	橙	40	風化顯著。
26	环	□(13.6)	B少+R+W' 少	橙	25	口縁端部面取り。
27	环	□(14.0) 高(5.2)	R+W' 少	橙	20	口縁端部面取り。風化顯著。
28	环	□(14.0) 高4.7	B+R+W+W' 少	橙	30	風化。
29	环	□12.9 高4.5	B多+R+W+W'	橙	100	№33 P-2。口縁端部面取り。風化。

30	坏	□(14.0) 高(6.0)	B少+W+W'	黒褐	口縁 20	口縁部面取り。風化。
31	坏	□12.8 高4.0	B+R少+W+W' 少	におい橙	30	№31 カマド。口縁部強いヘラアテ内面障文。
32	坏	□(12.0) 高5.0	B+W少	黒褐	70	№5。口縁部面取り。
33	坏	□15.0 高5.3	B+R+W多+W'	橙	70	口縁部面取り。
34	坏	□15.3 高5.2	B少+R+W+W'	におい橙	90	№22 カマド。風化顯著。
35	坏	□(15.0)	B少+W少+W'	におい褐	口縁 25	風化。
36	坏	□(16.4) 高5.0	B+W+W' 少	橙	50	№31 カマド。口縁部面取り。風化。
37	高坏	□12.4 脚2.2 高9.2	B+W多+W' 多	明赤褐	100	№32 P-4。口縁部ヘラアテ。脚部内外面ナデ。
38	高坏	脚11.4	B+R多+W少	明赤褐	脚部 60	№11。脚部外面ヘラケズリ後ナデ。丁寧なつくり。
39	高坏	脚部4.0	B+R+W少	におい黄橙	脚部 50	№12。脚部内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ後ナデ。
40	高坏		B+R多+W	(内)黒褐 (外)橙	脚部 40	脚部外面ヘラケズリ後、ナデ。風化顯著
41	高坏	脚部4.8	B+R+W+W'	(内)黒 (外)におい黄橙	脚部 30	風化著しく調整不明。
42	小型鉢	□10.8 底5.4 高8.8	B+R+W+W' 少	明赤褐	60	口縁部面取り。底部外面一方のヘラケズリ。
43	鉢	□13.4 底4.8 高8.0	B多+R+W+W'	橙	100	№24 カマド。体部外面ヘラケズリ後半ナデ。内面上半帯状に灰化。底部外面は一方のヘラケズリ。風化顯著。
44	鉢	□(14.0) 高9.5	B+R+W少	橙	50	№8。脚部内面ヘラナデ。風化。
45	甌	□20.0 底5.6 高14.5	B+R多+W少	橙	70	№17 カマド。№19。口縁部ヘラアテ風化。
46	小型甌	□14.6 底5.6 高18.8	B多+W+W'+砂多	(内)褐 (外)赤~橙	60	№20 カマド。口縁部面取り。底部外面一方のヘラケズリ。風化顯著。
47	小型甌	□(12.8) 底5.2 高13.0	B+R+W+W' 少	明赤褐	40	№18 カマド。底部外面一方のヘラケズリ。風化顯著。
48	小型甌	□(12.4)	B少+R少+W+W' 少	におい橙	20	口縁部面取り。
49	小型甌	□(11.8)	B+R少+W	橙	口縁 40	脚部内外面風化著しく調整不明瞭。
50	甌	□(16.0)	B+R少+W+W'	橙	口縁 20	口縁外面中位ヘラアテ。風化顯著。
51	甌	□(20.2)	B少+R+W+W' 少	橙	口縁 20	貯蔵穴。口縁部面取り。
52	甌	□18.6	B+W+W'	におい橙	口縁 80	№6。脚部外面ケズリ工具痕。風化顯著。
53	甌	□(22.2)	B+R+W少	(内)におい黄橙 (外)橙	口縁 25	№7。口縁部ヘラアテ。脚部外面ヘラケズリ後、一部ミガキ。
54	甌	底(9.0)	B+W+砂多	(内)黒 (外)橙	底部 10	№4。底部外面ヘラケズリ。風化。
55	甌	□15.4 底8.0 高30.0 脚24.8	B+R	灰白~黒	70	脚部外面ヘラケズリ後、下半ヘラナデ給土中の含有物量多い。
56	甌	□15.0 底8.6 高23.0	B+R少+W+W' 少	橙	95	№15。口縁部ヘラアテ。脚部外面上半部ヘラナデ。下半部ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ後、ナデ。丁寧なつくり
57	支脚	上端(6.0) 下端(9.0) 高13.8	B+W多+W'	明赤褐~明褐	85	№20 カマド。裾部ナデ。
58	甌	□15.8	B多+R少+W+W' 少	黄橙~におい橙	70	№14。内面脚部付近、指頭オサエ。
59	甌	□17.0	B+W+砂	橙	70	№19-21-25 カマド。口縁部面取り給土中の含有物量多い。

60	壁	口16.2 高20.2	砂	橙～黒	80	№2. 風化。胎土中の含有物量多い。
61	壁	底(8.0)	B+R少+W少+砂少	橙	底部 10	胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。
62	壁	底(8.0)	B+W少+W'少	にふい橙	底部 40	底部外面一方向のヘラケズリ。
63	壁	口16.2 底5.5 高27.8	B+R少+W+W'+砂	にふい赤褐	90	№4. 胴部内面風化。底部外面一方向のヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
64	壁	底6.4	R少+W+砂多	橙～黒褐	底部 100	胴部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ
65	壁	底(7.0)	R+W+砂多	橙	底部 30	胴部内面ハケメ痕。底部木葉痕。
66	壁	口(17.0) 底5.2 高33.8	B多+W+W'+砂多	にふい橙～黒褐	60	№7. 底部外面一方向のヘラケズリ。

ト(5)が確認された。おそらく入口の施設と考えられる。

遺物は覆土・床面から多量に出土した。特にカマドの東側とピット2付近に集中している。土器以外の出土品としては、小孔が多くあけられた不明滑石製品や土錘がある。

第184号住居跡 (第660図)

ン-422・423Gridに位置し、大半が調査区域外にかかる。噴砂により若干歪んでいる。検出された一辺は長さ4.9m、深さは35cmである。住居内の施設は検出されなかった。

遺物は土師器片が少量出土したが、接合率は悪い。

第185号住居跡 (第660図)

ン-423・424Gridに位置する。第184号住居跡および第186号住居跡と切り合い、南半は調査区域外にかかる。検出された北壁は長さ5.7m、主軸の傾きはN-2°-W、深さは14cmである。カマド?は北壁東寄りに構築されている。燃焼部の掘り込みはなく、袖も検出されていないため、カマドであるかどうか確証はない。貯蔵穴などは確認できなかった。

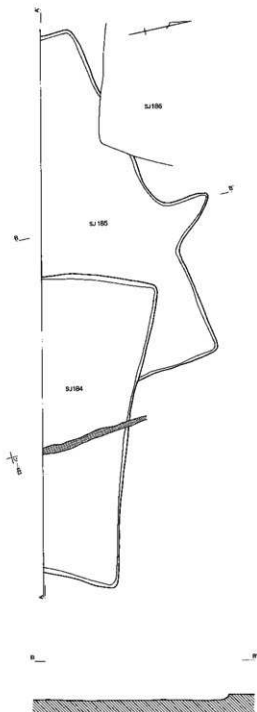
遺物は覆土から土師器の破片が少量出土したのみである。

第184号住居跡を調査中に、覆土に第185号住居跡のものと考えられる貼床が確認され、土層断面による観察でも第185号住居跡は第184号住居跡を明瞭に切っていることが判明したため、これらの住居跡の関係は(旧→新)184→185ととらえることができる。

第186号住居跡 (第662図)

ン-い-423・424Gridに位置する。長辺4.9m、短辺4.8mのほぼ正方形を呈し、主軸の傾きはN-119°-E、深さは20cmである。床面の一部は攪乱により壊されている。第185号住居跡と南東隅が切り合うが、その新旧関係は不明である。

東壁南寄りの壁にわずかな掘り込みが認められている。燃焼部の掘り込みや、袖・煙道などは確認されなかったが、この他にカマドと考えられる施設が見当たらなかったため、本住居跡のカマド



1. 灰褐色土 現代水田跡（耕作上）。
 2. 灰褐色土 部分の奥中間で灰褐色土ブロック（厚2～3cm）を多量に含む。
 3. 丹波赤土 灰褐色土をわずかに含む。

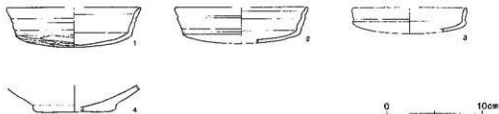
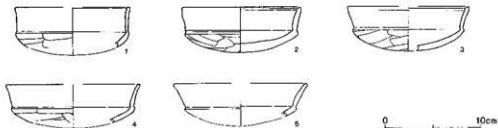
図184付居跡

1. 海濱褐色土 灰褐色土ブロック（厚2～3cm）を多量に含む。
 灰褐色・赤土粒子を多量に含む。粘性なく堅固。
 2. 暗赤褐色土 灰褐色土粒子（径1～3mm）を多量に、黒ブロック（径0.5～1cm）を若干含む。灰化物粒子をわずかに含む。粘性なく堅固。

図185付居跡

1. 海濱褐色土 灰褐色土粒子を少量、黒ブロック（径0.5～1cm）を多量に含む。
 灰褐色・赤土粒子をまばらに含む。灰くしまる。
 2. 灰褐色土 灰褐色土を主体に白色顔料下（径1mm以下）を多量に含む。
 粘性なく堅固。

第660図 第184・185号住居跡



第661図 第184・185号住居跡出土遺物

第184号住居跡 (第661図)

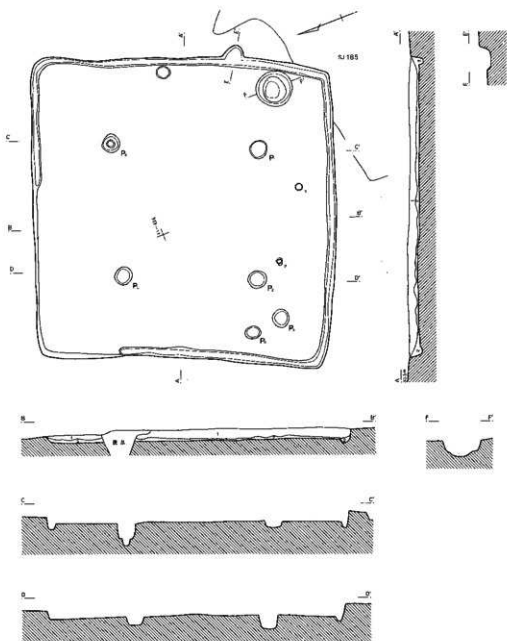
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0) 高(5.0)	R	橙	20	口縁端面取り, 風化。
2	坏	口12.5 高4.7	R	橙	60	床面, 口縁端面ヘラアテ。
3	坏	口(10.8) 高(4.7)	R	(内)残黄橙 (外)黒	30	口縁端面ヘラアテ。
4	坏	口(14.0) 高(4.6)	R	にぶい黄橙	10	口縁端面取り, 内面風化。
5	坏	口(14.0) 高(4.5)	B+R+W	橙	10	内面風化。

第185号住居跡 (第661図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 高4.1	R	橙	30	口縁部内外面ナデ。
2	坏	口(14.0) 高(3.8)	B+R	橙	20	風化顕著。
3	坏	口(12.0) 高(2.7)	B+R	橙	10	風化著しく調整不明。
4	壺	底(8.0) 高2.8	砂	(内)灰白 (外)黒褐	底部 30	風化。胎土中の含有物量多い。

はこの位置にあったと考えておく。主柱穴はピット1~4で、あまり深く掘り込まれていないが、きちんとした位置関係を示している。壁溝は北西コーナーを除き全周しており、深さは10cmである。貯蔵穴はカマドの向かって右側、南東隅に構築されている。深さ26cmで、円形のプランをもつ。

遺物量はさほど多くはなく、土師器の破片類が主体であるが、床面から完形の土師器坏(1)が出土している。糸切り離し無調整の須恵器坏の底部が覆土から出土しているが、他の遺物からみて混入と考えられる。

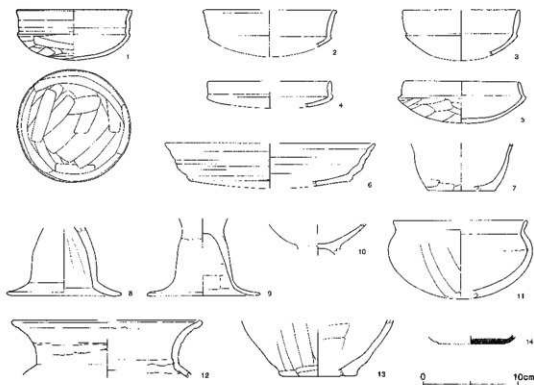


第186号住居跡

1. 褐色土 焼土粒子・炭化物を多量に含む。
2. 赤褐色土 焼土粒子・炭化物を少量含む、しまり・粘性強い。
層厚上に薄い炭化物層がある。

0 2m

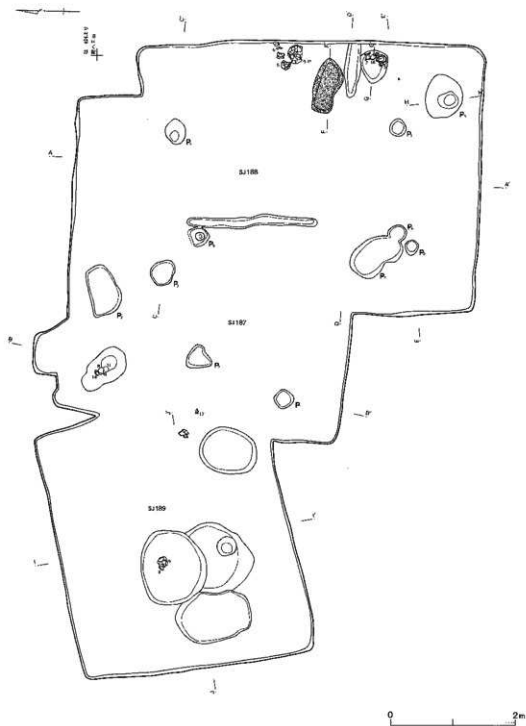
第662図 第186号住居跡



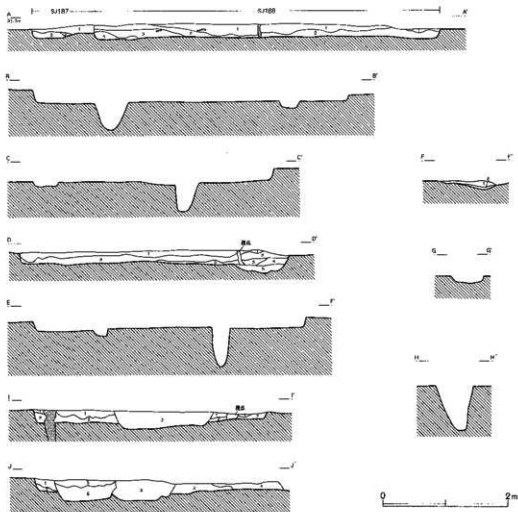
第663図 第186号住居跡出土遺物

第186号住居跡 (第663図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.0 高5.2	B多+W	橙	100	No.2. 口縁部面取り。
2	坏	口(14.0) 高(4.9)	W	橙	10	口縁部面取り。
3	坏	口(12.2) 高(5.3)	R	橙	30	風化顯著。胎土中の含有物量多い。
4	坏	口(13.6) 高(2.6)	R	橙	10	風化顯著。胎土中の含有物量多い。
5	坏	口12.0 高4.4 胴13.4	B	(内)橙 (外)にふい黄橙	80	体部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
6	坏	口(22.0) 高(4.7)	B多+R	橙	10	カマド。口縁部外面散糸の縞をもつ。
7	鉢	底(9.6) 高5.0	砂	(内)灰白 (外)にふい黄橙	底部 30	底部本黒燻。風化。胎土中の含有物量多い。
8	高坏	底(12.0) 高7.1	R	橙	脚部 30	脚部内面ナデ。
9	高坏	底(12.0) 高8.0	R	橙	脚部 50	No.1. 脚部内面ナデ。
10	高坏	高3.2	R多+W	橙	坏部 10	坏部内面ナデ。外面風化。
11	椀	口(14.0) 高(6.2) 胴(15.0)	R+W	橙	20	体部内面ナデ。
12	皿	口(20.0) 高5.6	B+R+W	橙	口縁 20	口縁部面取り。
13	鉢	底(8.0) 高5.8	W	(内)黒褐 (外)にふい橙 灰	底部 10	内面黒色。胎土中の含有物量多い。
14	坏	底7.0 高0.9	W+針		底部 100	底部回転糸切り。混入。



第664图



第187号住居跡

1. 赤褐色土 多量の炭化物粒子及び少量の焼土粒子を含む。黄褐色土粒子（径1mm以下）を全体的に多量に含む。粘性なく堅縮。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子（径2～3mm）・炭化物粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性なく堅縮。
3. 暗黄褐色土 暗茶褐色土を基本に黄褐色土粒子（径2～3mm）を多量に含む。焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。粘性なく堅縮。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒子（径3～5mm）を多量に含む。焼土・炭化物粒子をわずかに含む。粘性なく堅縮。
5. 黄褐色土 赤褐色土を基本に黄褐色粘土ブロック（1～2mm）を多量に含む。焼土・炭化物粒子を含まない。やや粘性があり堅縮。

第188号住居跡出土層跡

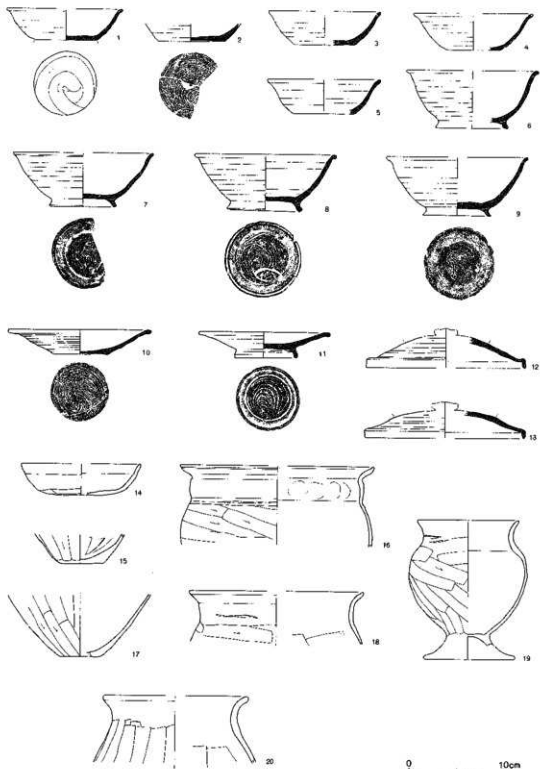
1. 暗色土 焼土層。よく焼けていて表面が盛り上がる。堅縮。
2. 暗褐色土 焼土に褐色土が少量混じる。軟弱。

第189号住居跡

1. 黄褐色土 黄褐色土ブロック（径0.5～1cm）を多量に含む。焼土粒子を少量含む。粘性なく堅縮。
2. 赤褐色土 赤褐色土に焼土粒子を多量に含む。
3. 暗茶褐色土 黄褐色土粒子（径3～5mm）を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。

第189号住居跡

1. 暗褐色土 焼土粒子・炭化物を少量含む。
2. 赤褐色土 赤褐色土ブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土 炭化物・焼土粒を多量に含む。土坑層土。
4. 茶褐色土 焼土粒子を多量に含む。
5. 灰褐色土 日曜石を含む。土坑層土。
6. 褐色土 焼土ブロック・炭化物を多量に含む。土坑層土。



第665圖 第187号住居跡出土遺物

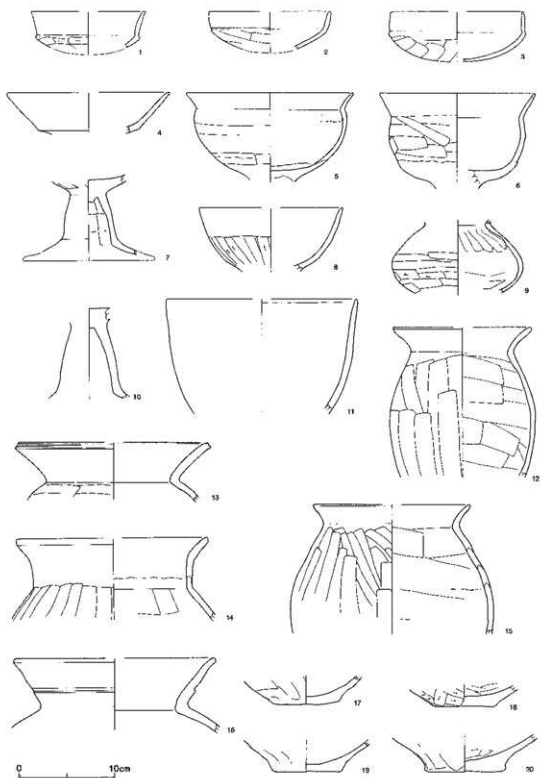
第187号住居跡 (第665図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(12.0) 底6.5	B+V多+W'	灰	70	底部右回転ヘラケズリ。
2	坏	底6.8	B少+W+W' 少+砂少	褐灰	底部 70	底部回転未切り。焼成やや不良。
3	坏	□(11.8) 底(6.4) 高3.5	V多+W'+砂	暗灰	25	貯蔵穴。底部回転未切り。
4	坏	□(10.4) 底(5.4) 高3.8	B+W+W'+砂少	にふい黄橙	20	底部回転未切り。焼成不良。
5	坏	□(12.0) 底(6.5) 高3.6	B多+R+W少	灰黄	20	貯蔵穴。底部回転未切り。
6	高台付甕	□(13.8) 高台(7.6) 高6.0	B+W+W' 少+砂少	灰	25	貯蔵穴。底部回転未切り後、高台ナデつけ。
7	高台付甕	□(14.6) 高台7.0 高5.6	B+W+W'	(内)灰(外)暗灰	40	貯蔵穴。底部回転未切り後、高台ナデつけ。
8	高台付甕	□14.9 高台7.9 高5.8	B少+V多+W'+砂	暗黄灰	90	No.1 貯蔵穴。底部回転未切り後、高台ナデつけ。
9	高台付甕	□(14.8) 高台7.1 高6.1	B+W+W' 少+砂	オリーブ灰	60	貯蔵穴。底部回転未切り後、高台ナデつけ。
10	皿	□15.0 底5.8 高2.5	B+W+W' 少+砂少	褐灰	90	貯蔵穴。底部回転未切り。
11	高台付皿	□13.8 高台6.8 高2.7	B少+R多+W+W'+砂	にふい黄	100	No.2 貯蔵穴。底部回転未切り後、高台ナデつけ。焼成不良。
12	蓋	□(15.7)	B+W+W'	灰	35	天井部外面右回転ヘラケズリ。
13	蓋	□(16.6)	B少+W+W'	灰	25	天井部右回転ヘラケズリ。
14	坏	□(12.4) 高3.3	B多+W+W'	にふい橙	30	No.3 貯蔵穴。体部外面ヘラケズリ後上半ナデ。
15	甕	底5.0	B多+W+W'	橙	底部 100	胴部内面ヘラナデ。
16	甕	□(20.3)	B+R少+W+W'	明赤褐	口縁 50	貯蔵穴。口縁部内面下半推オサエ。
17	甕	底4.0	B+R少+W+W'	にふい赤褐	底部 60	底部外面一方向のヘラケズリ。
18	甕	□(18.2)	B+R+W+W' 少	明赤褐	口縁 20	胴部内面ヘラナデ。
19	台付甕	□10.6 脚12.3	B多+W+W' 多	にふい赤褐	70	貯蔵穴。胴部外面ヘラケズリ工具痕。風化。
20	甕	□(15.2)	B+W+W'	にふい橙	口縁 20	胴部内面ヘラナデ。

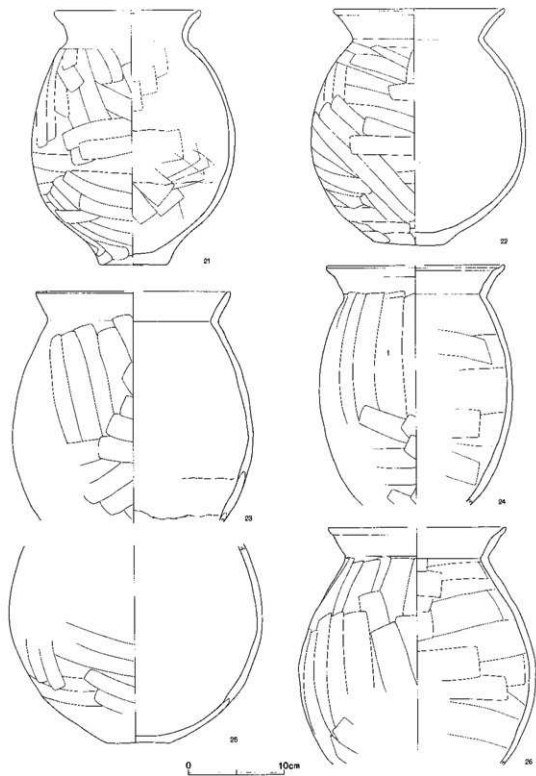
第187号住居跡 (第664図)

ろ・は—424・425Gridに位置し、第188号住居跡を切り、第189号住居跡と接するが切り合い関係は不明である。長軸5.0m、短軸4.6mの東西に長い長方形を呈する。深さは16cmである。

カマドなどの施設は不明。ピットは3基検出されたが、いずれも10cm前後と浅く、住居跡との関



第666圖 第188号住居跡出土遺物(1)



第667图 第188号住居跡出土遺物(2)

第188号住居跡 (第666・667図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0)	B+W'	橙	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。
2	坏	口(12.8)	B+R+W少	明赤褐	口縁 25	風化顯著。
3	坏	口(14.0) 高5.2 胴14.4	R	橙～黒褐	30	胎土中の含有物量多い。
4	高坏	口(17.0)	B+W	橙	口縁 20	口縁ナデ。
5	高坏	口17.4 高9.3	R	橙	坏部 80	№8。坏部と脚部の接合部周囲が観察できる。胎土中の含有物量多い。
6	高坏	口16.4 高10.0	R	橙～黒褐	坏部 90	№2・4。体部内面ナデ。
7	高坏	脚基部3.8	B+W+W'	明赤褐	脚部 80	№5。脚部内面丁寧なヘラケズリ、外面ヘラケズリ後ナデ。
8	碗	口(15.0)	B少+W+W'	明赤褐	45	口縁ナデ。体部外面ヘラケズリ。
9	小型壺	胴(14.0)	B+W+W'	橙	脚部 30	№5。脚部外面ヘラケズリ後上半ナデ。
10	高坏	脚基部3.6	B少+W	にふい橙	脚部 80	脚部内外に風化著しく調整不明。
11	鉢	口(20.0)	B+R+W少	橙	口縁 20	風化顯著で調整不明。
12	壺	口(14.6) 高15.6 胴(15.2)	R+砂多	(内)黒 (外)灰白～橙	上半部 30	口縁端部面取り。内面全体黒色。
13	壺	口(19.8)	B+W+W' 少	にふい橙	口縁 60	口縁端部高度かのヘラアテ。
14	壺	口(20.0)	B少+R少+W+W'	橙	口縁 20	口縁端部面取り。風化。
15	壺	口(16.4) 高13.5 胴(21.3)	砂	橙～黒褐	口縁 20	胎土中の含有物量多い。
16	壺	口(20.8)	B+R少+W多+W'	にふい橙	口縁 40	口縁端部面取り。体部外面風化。
17	壺	底7.0	B+W+W'	にふい橙	底部 60	底部外面一方向のヘラケズリ。
18	壺	底8.4	B+R少+W多+W'	(内)灰褐 (外)橙	底部 100	№7。底部外面一方向の粗いヘラケズリ。
19	壺	底7.0	B+W+W'+砂多	にふい橙	底部 70	底部外面一方向の粗いヘラケズリ。風化顯著。
20	壺	底(8.4)	B+W+W' 少	橙	底部 40	底部外面二方向のヘラケズリ。風化顯著
21	壺	口15.2 底7.0 高26.4 胴21.4	B+砂	橙～黒	80	口縁端部面取り。
22	壺	口18.0 底7.4 高24.7 胴22.4	W	橙～黒	80	№5。脚部内面黒色。
23	壺	口(20.4) 高24.0 胴(25.2)	砂	(内)橙 (外)にふい 赤褐～黒	20	内面風化。胎土中の含有物量多い。
24	壺	口(18.8) 高25.0 胴(20.2)	R+砂	浅黄	10	口縁端部粗いヘラアテ。
25	壺	底5.6 高20.8 胴(20.4)	砂	橙～黒	脚部 60	脚部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
26	壺	口(18.8) 高24.8 胴(25.0)	R+砂	灰黄	30	口縁部弱い橙をもつ。

迹は明らかではない。また、北西隅に確認された土坑は、住居跡の覆土を掘り込んで構築されており、住居跡に伴う遺構ではない。この土坑からは国分期の須恵器が多く出土しているが、本住居跡に伴う遺物は非常に少なく、図示することはできなかった。

第188号住居跡 (第664図)

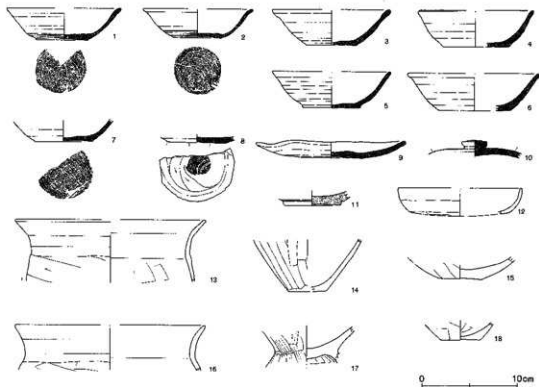
ろ—424Gridに位置し、第187号住居跡に切られる。長軸5.6m、短軸4.4mの長方形で、主軸の傾きはN—95°—E、深さ16cmである。5層の上面を床面の高さと考えたいが、他の住居跡に比べて軟弱であり、覆土の状態からみて、埋め戻された可能性もある。

カマドは東壁中央やや南寄りに構築されている。左側の袖と煙道部は確認されなかったが、燃焼部と思われる箇所に焼土の堆積が認められた。主柱穴と考えられる柱穴はビット1と4の2基で、深さは40—60cmである。貯蔵穴はカマドの向かって右側に設けられている。深さは11cmと浅い。また、北西コーナー寄りに間仕切りと考えられる溝が存在する。

出土遺物の量は多いが、瓦類の接合率はよくない。主にカマドの両側に集中して出土している。

第189号住居跡 (第664図)

ろ・は—425Gridに位置し、第187号住居跡と切り合うが、その関係は不明である。規模は長軸



第668図 第189号住居跡出土遺物

第189号住居跡(第668区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	環	口(12.0) 底5.4 高3.3	B+W多+W'	灰	50	体部外面下半カキ目線の調整痕。底部回転未切り。
2	環	口(11.5) 底5.0 高3.0	B+W多+W'+砂	灰	50	体部外面下半カキ目線の調整。底部回転未切り。
3	環	口(12.4) 底(6.2) 高3.7	B少+W+W'	灰	30	No.2。底部回転未切り。
4	環	口(12.0) 底(7.0) 高3.7	B+R少+W+W' 少	灰オリーブ	10	底部回転未切り。焼成不良。
5	環	口(12.5) 底(6.0) 高3.8	B少+W+W'	灰	20	底部回転未切り。
6	環	口(14.0) 底(7.4) 高3.9	R+W+W'	灰オリーブ	20	底部回転未切り。
7	環	底(6.0)	B+W+W'+砂少	灰	底部 60	底部回転未切り。
8	環	底8.0	B+W+W'+針	緑灰	底部 50	底部回転未切り後、周辺右回転ヘラケズリ。
9	皿	口15.6 底8.6 高1.6	B+W多+W'	灰	95	No.2。底部回転未切り。
10	蓋	つまみ2.6	B少+W+W'	灰白	20	天井部外面回転ヘラケズリ。
11	環	底5.8	B+R少+W	灰白	底部 100	縁部陶器。風化著しく軸の残り非常に悪い。
12	環	口(13.0) 高(2.9)	B多+W+W' 少	橙	口縁 20	体部外面ヘラケズリ。
13	壺	口(20.0)	B多+R少+W+W'	明赤褐	口縁 20	口縁端部取り。胴部外面ヘラケズリ。
14	壺	底(4.0)	B+R少+W+W'	(内)にふい煙 (外)黒褐	底部 25	胴部外面ヘラケズリ。
15	壺	底4.6	B+R少+W+W' 少	明赤褐	底部 70	No.1。胴部外面ヘラケズリ。風化顕著。
16	壺	口(20.0)	B多+W+W'	にふい煙	口縁 20	胴部外面ヘラケズリ。
17	台付壺		B多+W+W'+砂	明赤褐	胴部 30	No.4。外面ハケメ。唯一本来の住居跡に伴うもの。
18	壺	底4.2	B+W	にふい煙	底部 60	胴部外面ヘラケズリ。風化顕著。

4.1m、短軸3.7mで、深さは20cmである。カマドその他の施設は検出されなかった。

住居中央で確認された土坑は、住居跡の覆土を切って掘り込まれており、本住居跡に伴うものではない。覆土中には焼土の堆積が認められた。この土坑からは国分期の須恵器が多量に出土している。しかし遺構に伴う土器は少なく、図示できたものも1個体に過ぎない。

第187号住居跡と第188号住居跡との新旧関係は断面の観察によって(旧→新)188→187と判明したが、出土遺物からの検証はかなわなかった。第189号住居跡と他の2軒との新旧はとらえられなかったが、わずかに確認された伴出遺物から類推すると、本住居跡の年代は五領期に求められ、3軒中もっとも古いと考えられる。

また、これら住居跡よりも新しい土坑およびその遺物は、強いて土坑番号をつけずに整理したが、性格的には国分期の住居跡に伴うものか、もしくは当期の単独の土坑と考えてよい。とくに第189号住居跡の土坑群は、その覆土に焼土や炭化物が多く含まれることから、生産遺構に関連するものである可能性がある。

第190号住居跡 (第669図)

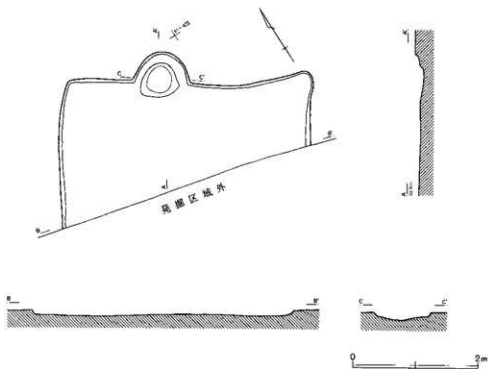
ン・い-424・425Gridに位置し、半分程度発掘区域外にかかると思われる。検出された北壁は長さ4.0m、主軸の傾きはN-29°-Eで、深さは浅く10cmである。カマドは北壁中央やや西寄りに構築されている。浅く掘り下げられた燃焼部のみが確認され、袖はなく、煙道は完全に削平されているらしくまったく残っていない。なお、その他の施設は検出されなかった。

出土遺物はないに等しく、覆土中より土師器小片が1点出土したのみである。図示することはできなかった。

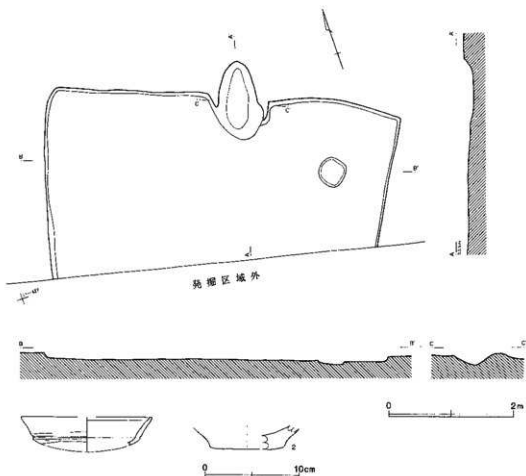
第191号住居跡 (第670図)

ン・い-425・426Gridに位置し、南半は調査区域外にかかる。検出された北壁は長さ5.5m、主軸の傾きはN-14°-Eで、床面までの深さは10cmと浅い。カマドは北壁ほぼ中央に構築されている。袖は小さく造り出されており、燃焼部は浅く掘り込まれている。煙道は確認されなかった。深さ7cmのごく浅いピットが1基検出されたが、木住居跡に伴うかどうかは不明。その他の施設は確認されなかった。

出土遺物は少なく、覆土から少量の土師器片が出土しているに過ぎない。そのなかで図示できたのは2点のみである。



第669図 第190号住居跡



第670図 第191号住居跡および出土遺物

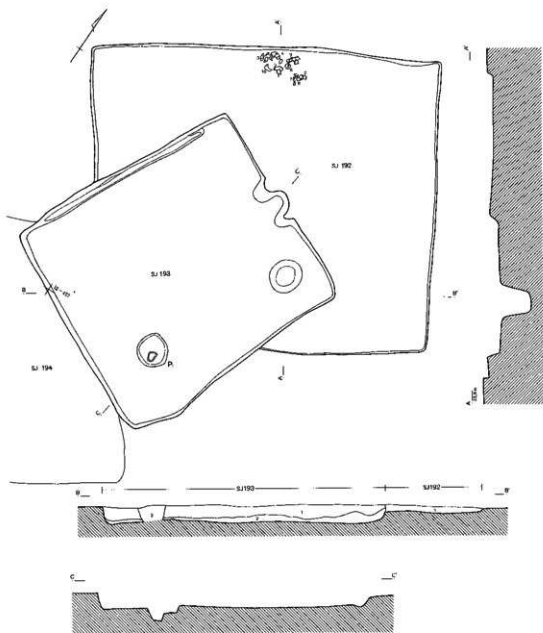
第191号住居跡 (第670図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 高(3.7)	R	橙	10	口縁部ヘラアテ。
2	甕	底(8.0) 高2.5	B	浅黄橙	底部 10	底部内面ナデ、外裏風化。

第192号住居跡 (第671図)

は・に—426・427Gridに位置し、第193号住居跡に切られる。形態は長方形で、長辺5.5m、短辺4.8m、深さは10cmと浅く、覆土は1層である。カマドや貯蔵穴などの施設はまったく検出されなかった。

出土遺物は少ないが、北壁寄り中央に土師器高坏がまとめて出土している。



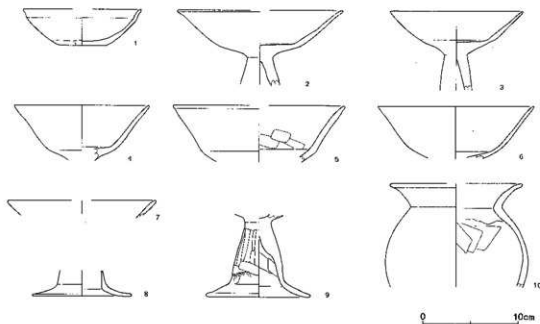
第192号住居跡

1. 暗褐色土 赤褐色土ブロック及び炭化物・炭土粒子を少量を含む。

第193号住居跡

1. 褐色土 赤褐色土小ブロックを少量含む。
2. 赤褐色土 赤褐色土ブロック及び炭化物を多量に含む。
3. 褐色土 赤褐色土小ブロックを少量含む。





第672図 第192号住居跡出土遺物

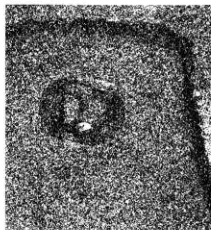
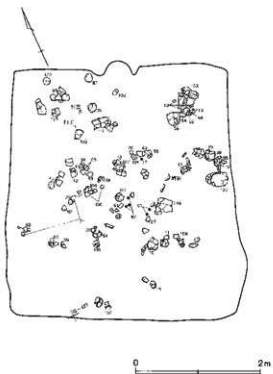
第192号住居跡 (第672図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(10.4) 底5.0 高3.8	砂	橙~黒褐	20	No.4, 体部外面風化。
2	高坏	口(16.4) 高7.8	R	明赤褐~こふい橙	40	No.4・8, 風化顯著。
3	高坏	口14.0 高8.3	R	橙~明赤褐	上半部 80	No.1・4, 坏部外面風化。
4	高坏	口14.2 高5.7	R	橙~黒	坏部 80	No.2・4。
5	高坏	口(18.0) 高5.9	W	(内)橙 (外)淡橙	坏部 10	No.4, 口縁端部弱い面取り。
6	高坏	口16.4 高5.5	R	橙~こふい橙	50	No.5, 胎土中の含有物量多い。
7	高坏	口(15.8) 高1.8		橙	口縁 30	No.4・8, 胎土密。
8	高坏	底10.4	R	橙	脚部 60	No.2・4・8, 脚部外面風化。
9	高坏	口11.0 高8.5	R	橙	脚部 50	No.4・6, 脚部外面ハケメ痕。
10	甌	口(14.0) 高10.8 胴(15.0)	R	明赤褐~黒褐	20	No.3・4・8, 外面風化。胎土中の含有物量多い。

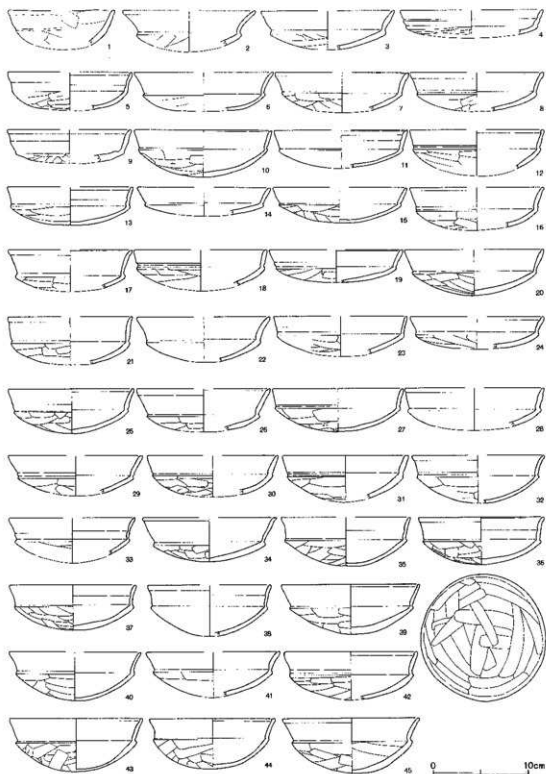
第193号住居跡 (第671・673図)

ろ・は—426・427Gridに位置する。長軸4.1m、短軸3.7mと小ぶりの住居跡で、形態は正方形に近い。主軸の傾きはN—22°—Eで、床面までの深さは20cmである。

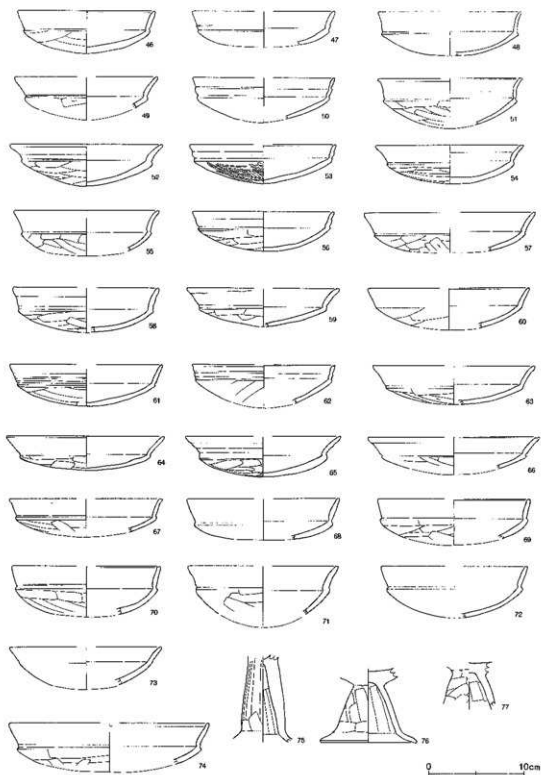
カマドは北壁中央に構築されている。袖は小さく造り出されており、燃烧部はわずかに掘り込まれている。煙道は確認されなかった。ピットは1基確認された。深さは25cmである。壁溝は西壁のみ巡っている。貯蔵穴はカマドの向かって右側、北東隅に設けられており、規模は49×59cm、深さ



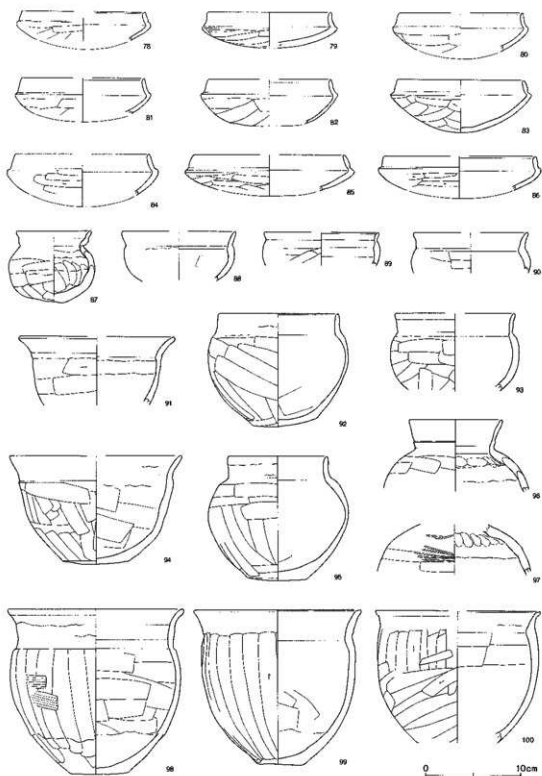
第673回 第193号住居跡遺物出土状況



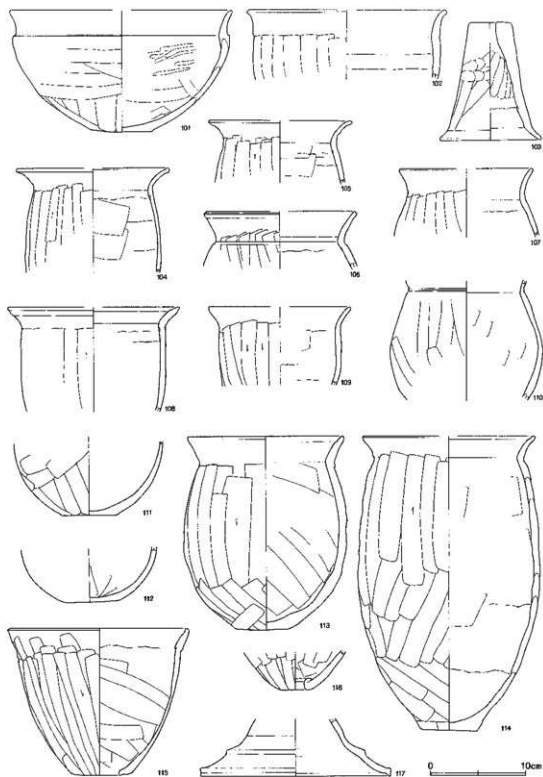
第671图 第193号住居跡出土遺物(1)



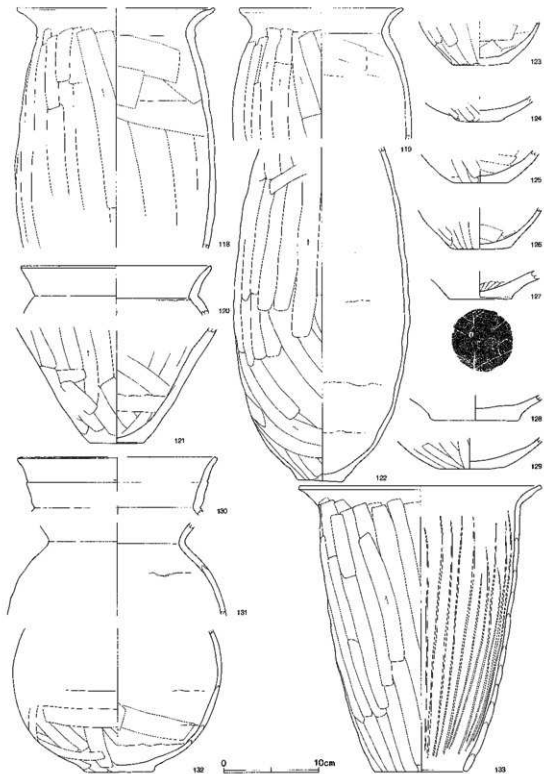
第675図 第193号住居跡出土遺物(2)



第676图 第193号住居跡出土遺物(3)



第677图 第193号住居跡出土遺物(4)



第678図 第193号住居跡出土遺物(5)

第193号住居跡(第574~678区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(11.0) 高(4.1)	R	橙	30	体部内面ナデ。
2	坏	□(14.0) 高(4.3)	W	橙	10	口縁端部弱い面取り。
3	坏	□(14.0) 高(4.0)	R	橙	20	口縁端部面取り。胎土中の含有物量多い
4	坏	□(15.0) 高(2.9)	R	橙	20	No.63。
6	坏	□(13.0) 高(4.0)	W	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
6	坏	□(14.6) 高(4.1)	R+W	橙	30	口縁端部弱い面取り。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
7	坏	□(14.0) 高(4.2)	R	橙	30	口縁端部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
8	坏	□(14.0) 高(4.0)	砂	橙	20	口縁端部弱い面取り。
9	坏	□(13.0) 高(3.5)	R	橙	30	胎土中の含有物量多い。
10	坏	□14.4 高5.9	R	橙	60	No.65。口縁端部面取り。
11	坏	□(14.0) 高(4.0)	R+W	橙	20	No.55。口縁端部ヘラアテ。体部外面風化。
12	坏	□(14.0) 高(4.6)	W	橙	20	No.15。口縁端部ヘラアテ。
13	坏	□(13.2) 高4.0	R	淡黄橙	30	No.82-83。口縁端部弱いヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
14	坏	□(14.0) 高(3.0)	R	橙	10	風化顕著。胎土中の含有物量多い。
15	坏	□(14.4) 高3.7	R	橙	30	No.51。
16	坏	□(14.0) 高(4.5)	R	橙	30	内面風化。
17	坏	□(13.0) 高(4.3)	R	橙	20	No.33。口縁端部ヘラアテ。
18	坏	□(14.0) 高(4.3)	R	橙	30	No.27-32。胎土中の含有物量多い。
19	坏	□(14.0) 高(3.4)	R+W	橙	30	風化顕著。
20	坏	□(14.8) 高4.8	R	橙	40	No.32-38-53。内面風化。
21	坏	□(13.0) 高(5.0)	R	橙	30	No.46。口縁端部弱い面取り。
22	坏	□(14.0) 高(4.7)	R	にぶい橙	30	No.60。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
23	坏	□(14.0) 高(4.1)	R	橙	30	No.78。風化。胎土中の含有物量多い。
24	坏	□(14.0) 高(3.3)	R多+W	橙	20	No.17。内面風化。
25	坏	□13.2 高4.6	R	橙	100	No.69。口縁端部弱い面取り。
26	坏	□(14.0) 高(4.5)	B	(内)黒褐 (外)橙	10	口縁端部ヘラアテ。内面黒色。
27	坏	□13.8 高5.5	R	橙	50	口縁端部面取り。胎土中の含有物量多い
28	坏	□(14.8) 高(4.4)	R多+W	橙	20	体部外面風化。
29	坏	□(14.0) 高(4.2)	W	橙	20	口縁端部ヘラアテ。

30	环	□(13.8) 高(4.3)	R+W	橙	30	No.44.
31	环	□13.2 高(4.9)	R	橙～浅黄橙	50	No.22. 口縁部ヘラアテ。
32	环	□(14.0) 高(5.0)	R	浅黄橙	30	口縁ナデ。
33	环	□(13.2) 高(4.7)	R	にふい黄橙	20	内面風化。胎土中の含有物量多い。
34	环	□(14.0) 高4.6	R	橙	30	口縁部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
35	环	□(13.6) 高5.1	R	橙	80	No.8. 胎土中の含有物量多い。
36	环	□13.2 高4.9	R	橙	100	No.76. 胎土中の含有物量多い。
37	环	□13.2 高4.7	B+R	橙	90	No.76.
38	环	□(13.9) 高(5.4)	R	にふい橙	20	風化顕著。胎土中の含有物量多い。
39	环	□14.4 高5.2	B+2多	橙～灰黄褐	80	No.70. 口縁部部取り。
40	环	□(13.8) 高5.1	R多+W	橙	40	内面風化。
41	环	□(14.0) 高(4.7)	R	橙	30	No.15・17. 口縁部部取り。体部外面風化。
42	环	□14.0 高(5.0)	R	橙～浅黄橙	80	No.28. 口縁部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
43	环	□14.0 高5.5	R+W	橙	50	No.15.
44	环	□13.0 高5.2	R	橙	90	No.83 野蔵穴。口縁部部取り。
45	环	□14.4 高5.7	R	橙	90	No.11・15・20・21・28. 体部内面ナデ。
46	环	□14.4 高4.5	R	橙	50	No.27. 体部内面ナデ。
47	环	□(15.0) 高(3.8)	W	(内)橙 (外)にふい黄橙	30	風化顕著。
48	环	□(15.0) 高(4.6)	R	橙	30	No.19. 風化顕著。胎土中の含有物量多い。
49	环	□(15.0) 高(4.5)	B+R	橙	20	内面風化。
50	环	□(15.0) 高(4.7)	R	にふい橙	40	No.31. 風化顕著。胎土中の含有物量多い。
51	环	□(15.0) 高(5.2)	R	橙	30	口縁部ヘラアテ。
52	环	□18.0 高4.4	2多+W	橙	95	No.83.
53	环	□(15.4) 高4.1	R	にふい黄橙	30	口縁部ヘラアテ。体部外面ヘラミガキ
54	环	□15.4 高4.0	R多+W	橙	100	No.81. 口縁部ヘラアテ。内面風化。
55	环	□15.3 高(4.8)	R少+R多+W	にふい橙	40	No.29. 風化顕著。
56	环	□15.0 高4.1	R	にふい橙	95	胎土中の含有物量多い。
57	环	□(18.0) 高(4.2)	R	橙	20	胎土中の含有物量多い。
58	环	□(15.2) 高(4.7)	R	橙	30	内面風化。胎土中の含有物量多い。
59	环	□(16.0) 高(4.0)	R	橙～黒褐	20	No.34. 胎土中の含有物量多い。

60	环	□(17.0)	高(4.3)	R	(内)にふい赤褐 (外)にふい橙	30	No.18。口縁端部弱い面取り。胎土中の含有物量多い。
61	环	□(16.0)	高4.4	R	橙	40	口縁部外面数本の段をもつ。
62	环	□(16.0)	高(4.5)	R	橙	40	口縁端部弱いヘアラテ。、体部外面風化胎土中の含有物量多い。
63	环	□(17.0)	高(4.0)	R	橙	30	No.28。胎土中の含有物量多い。
64	环	□16.6	高3.6	R	橙	70	No.44。内面風化。胎土中の含有物量多い。
65	环	□(16.2)	高4.3	R	橙	40	No.11・16。内面風化。
66	环	□(18.0)	高(3.9)	R	橙	20	口縁端部強いヘアラテ。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
67	环	□(16.0)	高(4.0)	R	橙	30	口縁端部ヘアラテ。胎土中の含有物量多い。
68	环	□(16.0)	高(4.3)	R	にふい橙	20	No.21。胎土中の含有物量多い。
69	环	□(16.0)	高(4.6)	R	橙	30	No.27。口縁端部弱いヘアラテ。
70	环	□(15.6)	高(5.3)	R	橙	30	No.21。口縁端部面取り。胎土中の含有物量多い。
71	环	□(16.0)	高(6.4)	R	橙～にふい橙	40	No.19・21。胎土中の含有物量多い。
72	环	□(15.4)	高(5.4)	R	浅黄橙	40	口縁端部弱い面取り。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
73	环	□(16.0)	高(4.4)	R	(内)橙 (外)にふい黄橙	30	体部外面風化。胎土中の含有物量多い。
74	环	□(21.0)	高(5.1)	R	橙	30	胎土中の含有物量多い。
75	高环	高9.0		R+W	にふい黄橙	脚部 80	脚部内面ナデ。
76	高环	底10.2	高7.7	R	にふい黄橙	脚部 80	No.74。脚部ナデ。胎土中の含有物量多い。
77	高环	高4.8		W	橙	脚部 40	脚部内面ナデ。
78	环	□(13.0)	高(3.9)	R	橙	30	No.11・26。
79	环	□13.0	高(3.8)	R	にふい黄橙	50	胎土中の含有物量多い。
80	环	□(13.0)	高(4.9)	B+W+V' 少	明赤褐	25	口縁端部面取り。風化。
81	环	□(13.0)	高(4.6)	B+W+V' 少	明赤褐	25	口縁端部面取り。風化顕著。
82	环	□(13.0)	高(4.9)	B+R少+W+V' 少	明赤褐	40	口縁端部面取り。風化。
83	环	□13.2	高5.5	R	灰白	50	No.33。風化。胎土中の含有物量多い。
84	环	□(14.0)	高(5.5)	R	橙	10	口縁部ナデ。
85	环	□(16.0)	高(4.3)	R	橙	20	内面風化。
86	环	□(16.0)	高(4.4)	R	橙	10	口縁端部強いヘアラテ。胎土中の含有物量多い。
87	小型壺	□8.0 底4.0 高7.4 脚0		R	灰黄	80	No.20。輪郭も復可辨。脚部内面指頭ナデ。
88	碗	□(12.0)	高5.2	R	橙	10	風化顕著。
89	碗	□(12.0)	高3.5	R	橙	10	口縁端部ヘアラテ。

90	楕	口(12.0) 高4.2 胴(12.6)	R	楕	10	風化。胎土中の含有物量多い。
91	鉢	口(16.4) 高7.2	R	楕	口縁 10	No.39。体部内面輪積み痕明瞭。
92	壺	口12.4 底6.4 高11.8 胴14.6	R	楕	80	No.6。胴部～底部外面黒斑。
93	壺	口(12.6) 高8.0 胴13.8	R	浅黄楕	30	No.61。内面風化。胎土中の含有物量多い。
94	壺	口(18.2) 底7.0 高11.3	R	楕	70	No.49。底部外面黒色。
95	壺	口10.4 底8.2 高13.0 胴14.8	R多+W	楕	80	No.71。口縁部外面輪積み痕明瞭。胴部内面ナデ。
96	壺	口9.8 高7.2	R	楕～にふい黄楕	上半部 70	胴部内面上位指オサエ。胎土中の含有物量多い。
97	壺		R	(内)明黄褐(外)楕	胴部上半 60	胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面上位指痕ナデ。
98	壺	口18.4 底8.0 高17.2	R	楕	100	No.76。胴部外面ハケメ痕、中位黒斑。胎土中の含有物量多い。
99	壺	口15.6 底4.5 高16.0	砂	浅黄楕	100	No.3。口縁端部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
100	壺	口(17.2) 高13.8	R	浅黄楕～にふい楕	20	No.23・25・86。口縁端部強いヘラアテ。
101	鉢	口(23.2) 底8.4 高12.7	R	楕～にふい黄楕	20	No.36。体部内面ナデ後ヘラミガキ。胎土中の含有物量多い。
102	瓶	口(21.0) 高7.3	R	楕	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
103	支脚	上端4.4 下端10.6 高12.3	R+砂	楕	80	No.7。内外面指痕ナデ。脚部ナデ。
104	壺	口(16.0) 高11.0	砂	浅黄楕	口縁 20	口縁端部面取り。胎土中の含有物量多い。
105	壺	口(15.0) 高6.5	砂	浅黄楕	口縁 20	No.75。胎土中の含有物量多い。
106	壺	口(16.0) 高6.0	砂	楕	口縁 10	口縁端部面取り。胎土中の含有物量多い。
107	壺	口(14.0) 高7.2	R	楕	口縁 20	No.48。内面風化。胎土中の含有物量多い。
108	壺	口(18.0) 高11.0	R	楕	口縁 20	No.56・65。風化。胎土中の含有物量多い。
109	小型壺	口(15.0)	B多+R+W少	明赤褐	口縁 30	No.24・26。胴部内面ナデ。
110	壺	胴(16.0)	R	(内)楕～黒褐 (外)楕	胴部 40	No.10。胴部内面黒色。胎土中の含有物量多い。
111	壺	底5.8 高7.5	R	楕～にふい黄楕～黒	下半部 30	胴部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
112	壺	底5.6 高5.6	R	(内)楕 (外)にふい黄楕	底部 60	No.32・38。胴部外面風化。胎土中の含有物量多い。
113	壺	口18.4 底5.6 高20.2 胴17.0	R+砂	にふい楕～楕	80	No.83 貯蔵穴。胴部内面中位、帯状に黒色。胎土中の含有物量多い。
114	壺	口(18.0) 底8.0 高30.4 胴(19.0)	砂	楕～黒褐	30	No.9。輪積み痕明瞭。口縁端部面取り。胴部内面中位、外面下位帯状に黒色。
115	瓶	口19.0 底8.4 高15.3	R	楕～淡楕	70	No.72。口縁端部面取り。底部外面ハケメ。
116	瓶	底2.0	R	楕	底部 80	No.30。
117	高坏	底(20.0) 高6.0	W	楕	脚部 10	脚部面をもつ。
118	壺	口(20.8) 高25.0 胴(21.0)	R+砂多	楕	30	No.63。口縁端部ヘラアテ。
119	壺	口(17.2)	B+R+W多+W'多	赤褐	口縁 25	No.47。胎土中の含有物量多い。

120	竪	□29.0 高6.0	W	椽	口縁 10	口縁部ナデ。
121	竪	底(5.6) 高12.0	砂	(内)椽 (外)明赤椽	下半部 20	底部外面黒色。胎土中の含有物量多い。
122	竪	底4.6 高34.9 胴(18.4)	砂	(内)洗黄椽 (外)にふい椽	胴部 70	No.73. 胴部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
123	竪	底5.8 高4.6	R	椽	底部 100	No.77. 底部ヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
124	竪	底5.0 高2.7	R	椽	底部 100	No.31. 底部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
125	竪	底6.0 高3.4	R	椽	底部 50	底部外面ヘラケズリ。
126	竪	底6.0 高4.3	R	(内)椽 (外)洗黄椽	底部 100	底部外面ヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
127	竪	底6.6 高2.9	R多+W	椽	底部 100	No.27. 上げ底。木炭痕。
128	竪	底(9.0) 高2.7	B+W	椽	底部 30	底部内面ナデ、外面ヘラケズリ。
129	竪	底7.0 高3.2	R	椽	底部 100	No.4. 底部外面ヘラケズリ。
130	竪	□(21.0) 高6.0	R	椽	口縁 10	口縁端部ヘラアテ。
131	竪	高9.7	R多+W	椽へにふい黄椽	上半部 30	風化顯著。
132	竪	底7.2 高15.0 胴(22.0)	R	椽へにふい黄椽	胴部下半 50	No.83. 胴部内面輪痕み痕。胎土中の含有物量少ない。
133	瓶	□25.4 底10.0 高29.8	R	椽へ黒	90	No.80 貯蔵穴。輪痕み痕明確。胴部内面ヘラミガキ。胎土中の含有物量多い。

は50cmで底は平らである。

遺物は住居跡の規模のわりには大量に出土しているが、接合率はあまり良好ではなく、完形品も多くはない。床面直上から検出された遺物は少なく、その多くは覆土中か貯蔵穴内から出土している。土器はすべて土師器であり、坏類が多い。それ以外にも工具擦痕のついたすり石が2点と、カマド周辺から滑石製白玉が4点出土している。

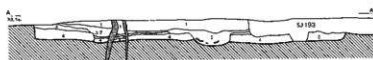
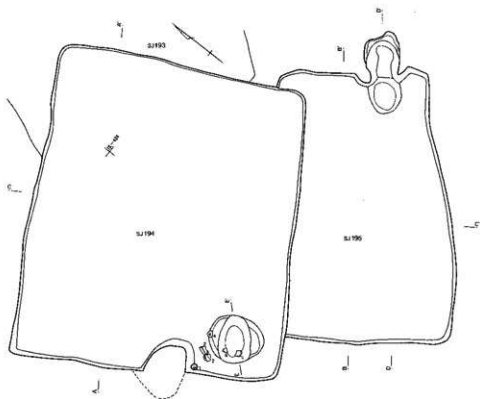
第194号住居跡 (第679図)

ろ・は—426・427Gridに位置し、第193号住居跡および第195号住居跡と切り合い関係にある。形態は長方形で、規模は長軸4.9m、短軸4.2m、主軸の傾きはN—117°—Wである。カマド付近から北東隅にかけて噴砂が帯状に走っており、床面の一部は落ち込んでいる。カマドは西壁やや南寄りに構築されている。噴砂の影響をまともに受けており、検出状態は悪い。燃烧部のみなんとか確認することができたが、その形態は推定である。貯蔵穴は南西隅に設けられている。規模は88×77cmの楕円形を呈し、深さは75cmで、底はほぼ平らである。その他の施設は確認されなかった。

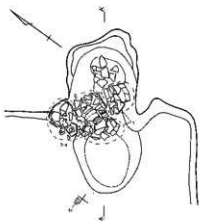
遺物の量はあまり多くなく、主にカマド周辺と貯蔵穴から出土している。土師器以外には編物石が1点出土した。

第195号住居跡 (第679・680図)

ろ—426・427Gridに位置し、第194号住居跡を切る。長軸4.3m、東壁短辺2.4mの長方形を呈する。噴砂により若干歪んでいる。主軸の傾きはN—51°—Eで、深さは18cmである。カマドは東壁



第679图 第194·195号住居跡



第194号住居跡

1. 褐色土 焼土粒子・炭化物を少量含む。
2. 黒褐色土 炭化物を多量に含む。
3. 灰褐色土 灰白色の粒子を多量に含む。
4. 茶褐色土 多量の茶褐色土ブロックと少量の焼土粒子・炭化物を含む。
5. 暗茶褐色土 炭化物・茶褐色土粒子を多量に含む。

第194号住居跡貯蔵穴

1. 褐色土 炭化物・焼土粒子を少量含む。しまり良好。
2. 黒褐色土 炭化物を多量に含む。住居跡層土2層に類似。
3. 灰褐色土 灰白色の粒子を多量に含む。住居跡層土3層に類似。
4. 茶褐色土 住居跡層土4層と類似するがしまりに欠ける。



第195号住居跡

1. 褐色土 H軽石を含む。
2. 暗褐色土 焼土層下・炭化物を少量含む。
3. 黒褐色土 炭化物を多量に含む。
4. 茶褐色土 しまり良く、茶褐色土ブロックを多く含む。
5. 暗褐色土 炭化物・茶褐色土小ブロックを少量含む。

第680図 第195号住居跡カマド

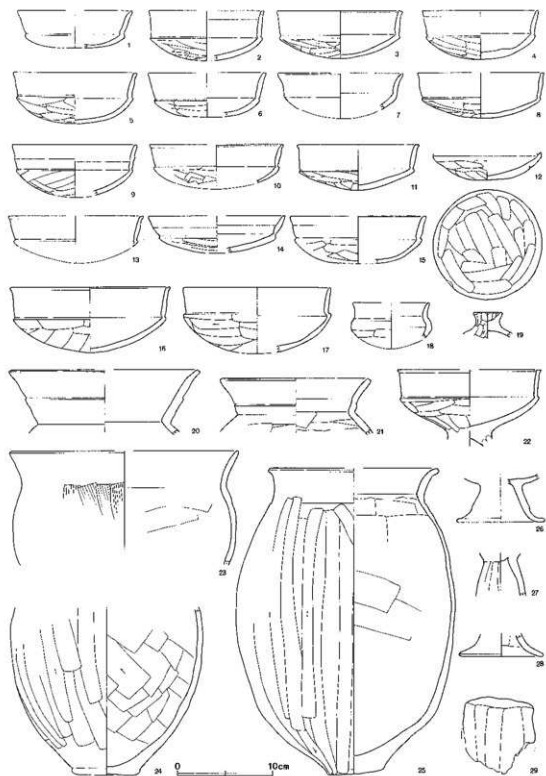
南寄りに構築されている。袖は小さく造り出され、燃焼部ははっきりと掘り込まれている。その他の施設は確認されなかった。

出土遺物は少ないが、カマド内の遺物の出土状態は良好であった。土器器甕が4点(1~4)ままとって出土している。

第192~195住居跡の新旧関係は、土層断面から(旧→新)192→193 194→193 194→195のようにとらえることができた。出土遺物には若干の混入が認められるが、第192号住居跡がもっとも古く、第195号住居跡がもっとも新しい国分期のものと考えられる。

第196号住居跡 (第683回)

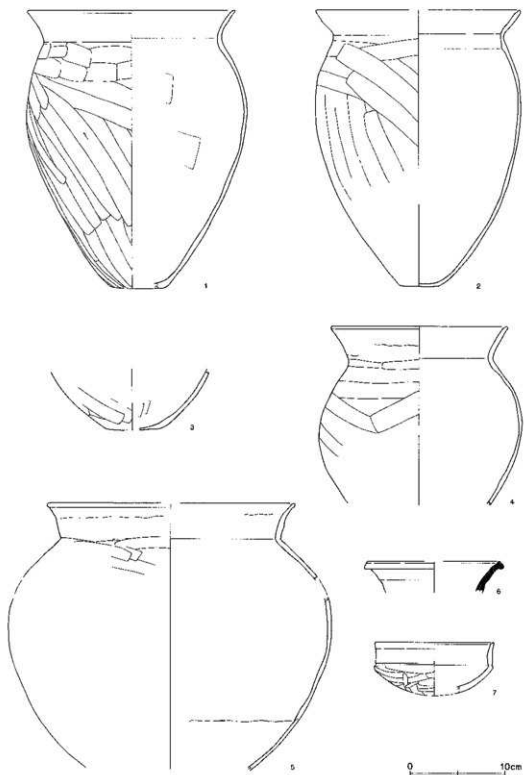
に-427Gridに位置している。床面までの深さが非常に浅く、北壁と東壁の一部は確認できなかった。痕跡をとどめているのみでその余容も不明確であるが、形態は1辺4.3mほどの正方形を呈すると推定される。住居跡内の施設としては貯蔵穴が2基確認された。貯蔵穴Aは南西コーナー寄りに設けられ、規模は102×79cm、深さ38cmで、中央部がさらに深く掘り込まれている。貯蔵穴Bは南西隅の壁際に設けられている。規模は90×78cm、深さは26cmで、底は平らである。その他の施設は検出されなかった。なお、中央西よりにある2基の土坑は、覆土の状態などから本住居跡より



第681图 第194号住区跡出土遺物

第194号住居跡(第681図)

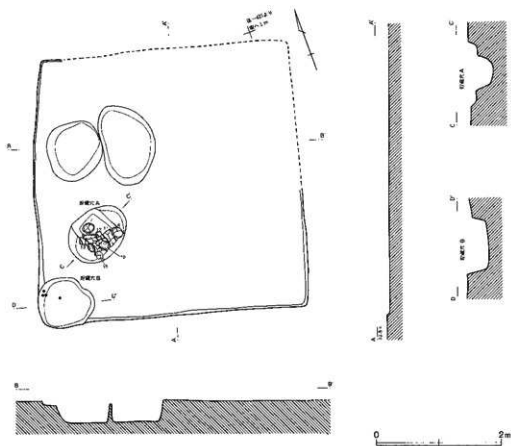
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(X)	備考
1	坏	口(12.0) 高(3.9)	W	浅黄橙	20	口縁部面取り、外面風化。
2	坏	口(12.0) 高(5.3)	R	橙～におい橙～黒	20	貯蔵穴。口縁部ヘラアテ。
3	坏	口13.2 高5.0	R	橙	50	口縁部強いヘラアテ。
4	坏	口12.2 高5.1	R	橙	50	%5。口縁部上位筋糸の段をもつ。
5	坏	口13.0 高5.3	R	橙～浅黄橙～黒	80	貯蔵穴。口縁部弱いヘラアテ。
6	坏	口(12.4) 高(4.6)	R	におい橙	20	口縁部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
7	坏	口(13.0) 高(4.7)	R多+W	橙	20	口縁部面取り。
8	坏	口(13.2) 高4.7	R	橙～浅黄橙	40	口縁部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
9	坏	口13.0 高(5.5)	R	浅黄橙	40	内面風化。胎土中の含有物量多い。
10	坏	口(14.0) 高(4.7)	R	橙	20	口縁部ヘラアテ。
11	坏	口12.8 高4.8	R	橙～浅黄橙	90	%2。口縁部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
12	坏	高3.0	R	橙～浅黄橙	坏部 100	%1。口縁部欠損。体部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
13	坏	口(14.0) 高(4.9)	B	橙	口縁 30	貯蔵穴。口縁部ヘラアテ。
14	坏	口(14.4) 高(3.9)	R	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
15	坏	口(14.2) 高(5.0)	R	橙	30	口縁部段をもつ。
16	坏	口16.8 高5.8	R	橙～浅黄橙～黒	80	口縁部強いヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
17	坏	口15.6 高(6.9)	R	橙	50	口縁部面取り。体部内面ナデ。
18	小型碗	口(8.0) 高(4.9) 胴(8.4)	R	橙	20	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ。
19	蓋	高2.5 つまみ3.0	W	橙	つまみ部 80	貯蔵穴。つまみ部外面ヘラケズリ、内面橙オサエ。
20	壺	口(20.0) 高6.8	R	橙～におい黄橙	口縁 10	口縁部ヘラアテ。内面風化。胎土中の含有物量多い。
21	壺	口16.0 高5.8	R	橙	口縁 90	口縁部ヘラアテ。
22	高坏	口(15.0) 高8.0	R	浅黄橙～橙	坏部 30	%8。貯蔵穴と接合。口縁部強いヘラアテ。
23	甕	口(24.0) 高11.9	W	橙	上半部 10	胴部外面ハケム。風化顯著。
24	甕	底(7.0) 高17.5	砂	橙～明赤褐	下半部 40	底部外面ヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
25	甕	口(18.0) 底8.0 高32.0 胴22.8	砂	橙～黒褐	50	口縁部ヘラアテ。底部外面ヘラケズリ胎土中の含有物量多い。
26	台付甕	底9.2 高5.0	R+W	橙	脚部 90	脚部内外面ナデ。
27	高坏	高4.3	B+W+W'	(内)明赤褐 (外)橙	脚部 20	%3。脚部外面ナデ。
28	台付甕	底8.8 高2.3	R	橙	脚部 90	%4。脚部内外面ナデ。
29	支脚	上端7.0 高8.0	R+W	橙	上半部 40	外面ヘラケズリ。



第682图 第195号住居跡出土遺物

第195号住居跡 (第682図)

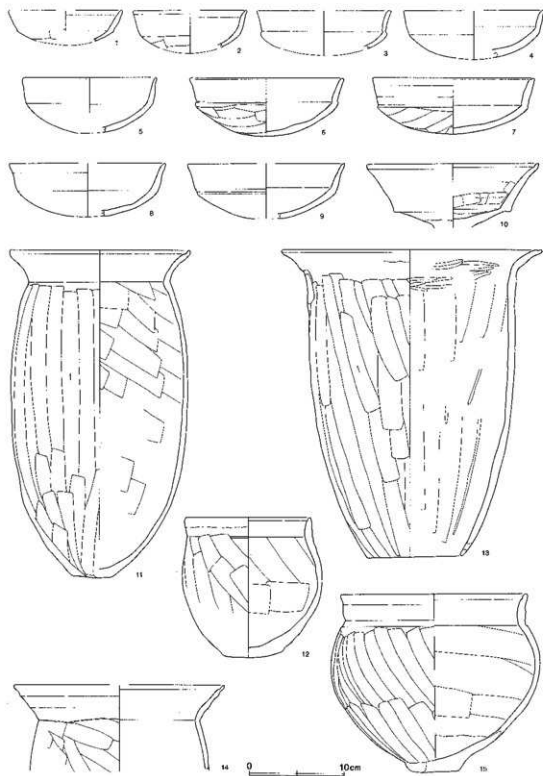
No.	器種	大きさ(ca)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	甕	口21.6 底5.6 高(29.0) 胴23.0	R+砂	橙	70	No.2・3・4 カマド。底部外面ヘラケズリ。
2	甕	口(21.4) 底4.0 高28.8	B+W	橙	60	No.3 カマド。底部外面ヘラケズリ。胴部内面風化。
3	甕	底5.6 高8.1	砂	(内)橙 (外)黒褐	底部 70	No.5 カマド。胎土中の含有物量多い。
4	甕	口18.4 高18.4 胴1.0	W+砂多	橙～にふい黄橙～黒	上半部 70	No.5 カマド。胴部内面風化。
5	甕	口(26.0) 高27.7	B	浅黄橙	20	胴部内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
6	甕	口(14.0) 高3.3	W	明赤褐	口縁 10	口縁端部強いヘラアテ面取り。焼成不良
7	坏	口12.4 高5.6 胴12.4	R	橙～にふい黄橙～黒	70	口縁端部強い面取り。



第683図 第196号住居跡

も新しい遺構と考えられる。

浅い住居跡であるため覆土からの遺物は少ないが、貯蔵穴Aから土師器坏や甕などが良好な状態で出土している。



第684图 第196号住居跡出土遺物

第196号住居跡 (第684図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□(12.0) 高(3.6)	B+R多+W	(内)橙 (外)浅黄橙	10	内面風化。
2	坏	□(12.0) 高(4.5)	B+R+W	橙~にぶい橙	30	内面風化。
3	坏	□(14.0) 高(4.7)	R	にぶい橙	20	口縁端部取り。体部外面風化。
4	坏	□(14.6) 高(5.1)	R	橙	40	貯蔵穴B。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
5	坏	□14.2 高(5.8)	R	橙	50	貯蔵穴A。風化顕著。胎土中の含有物量多い。
6	坏	□16.0 高6.1	R多+W	橙	100	No.2 貯蔵穴A。口縁端部取り。
7	坏	□17.0 高5.9	R+W	橙	95	No.1 貯蔵穴A。口縁端部強いヘラアテ。
8	坏	□(16.4) 高5.6	R	橙	30	風化顕著。胎土中の含有物量多い。
9	坏	□(16.4) 高(5.7)	R	橙~にぶい橙	30	風化顕著。胎土中の含有物量多い。
10	高坏	□18.0 高6.7	R+W	橙	坏部 95	No.7 貯蔵穴A。口縁端部ヘラアテ。坏部内外面ナデ。
11	甕	□19.0 底4.0 高34.1	B+R+砂多	橙~灰白~黒~赤褐	90	No.3 貯蔵穴A。口縁端部ヘラアテ。底部外面ヘラクスリ。
12	甕	□13.0 底6.2 高14.6 胴14.8	砂	橙~黒褐	90	No.3 貯蔵穴A。胎土中の含有物量多い。
13	甕	□27.2 底10.0 高32.1	R	橙	90	No.5 貯蔵穴A。口縁端部ヘラアテ。内面部分的にヘラミガキ。直径6mm程の円孔2つが底部近くの、ほぼ対向する位置にある。
14	甕	□(22.2) 高9.0	B+R多	橙	口縁 20	口縁端部ヘラアテ。内面風化。
15	甕	□19.6 底5.4 高18.6 胴22.0	R多+W	橙~黒	80	No.5 貯蔵穴A。口縁端部ヘラアテ。

第197号住居跡 (第685図)

に・ほ—427—429Gridに位置し、北壁の一部が攪乱により壊されている。おそらくカマドの部分と考えられる。規模は長軸6.4m、短軸5.3mで、長方形を呈している。床面までの深さは非常に浅い。柱穴は4基検出されているが、いずれも5—10cmと浅い。壁溝は検出された範囲で全周しており、南東コーナー近くでは間仕切り状に確認されている。幅はほぼ一定で、深さは9cmである。貯蔵穴は北西隅に設けられている。規模は84×54cm、深さは27cmである。

出土遺物は覆土が浅いためかあまり多くはないが、貯蔵穴から完形の土器坏坏3点(1—3)が重なって出土した。また、土器以外には編物石1点と釘らしき鉄製品が出土している。

第198号住居跡 (第687図)

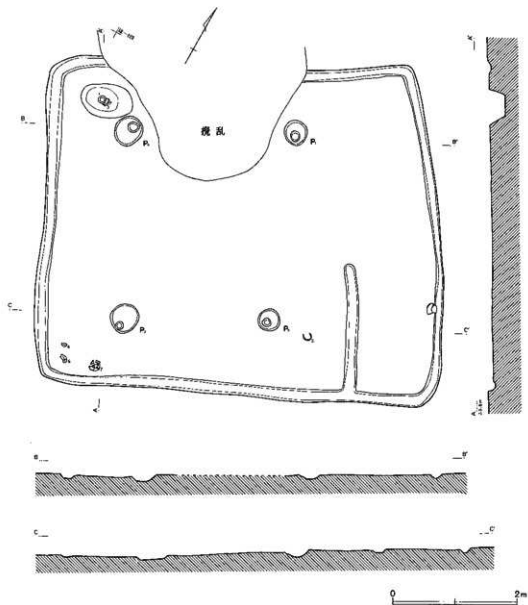
ろ・は—427—428Gridに位置し、第199号住居跡に切られ、南側は攪乱にかかる。北壁は長さ5.3m、主軸の傾きはN—23°—E、深さは10cmである。カマドは北壁やや西寄りに構築されているが、痕跡をとどめるのみである。貯蔵穴は西壁際設けられている。住居内東側には壁溝が認められたが、間仕切りの可能性もある。ピットは数基確認されたが、柱穴かどうかは不明。

出土遺物は覆土および貯蔵穴から出土しているが、破片が多くその量は少ない。

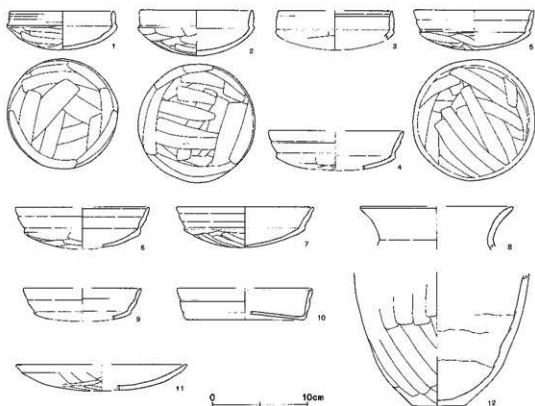
第199号住居跡 (第687図)

ろ・は—428Gridに位置する。大半は擾乱にかかり、東側のプランは確認されなかった。カマドは北壁に構築されていると考えられるが、痕跡しか残っておらず、その詳細は不明である。また、2基の土坑とピットが数基確認されているが、本住居跡との関連は不明である。第198号住居跡の施設である可能性もある。

出土遺物はごくわずかで、土師器・須恵器の破片が出土している。



第685図 第197号住居跡



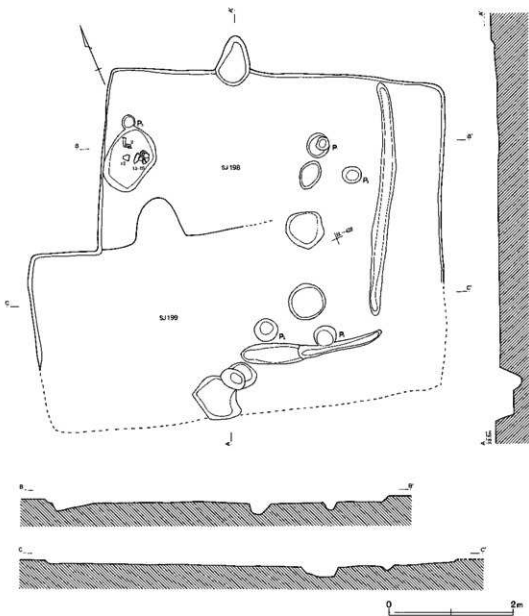
第686図 第197号住居跡出土遺物

第197号住居跡 (第686図)

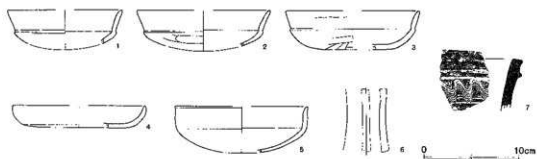
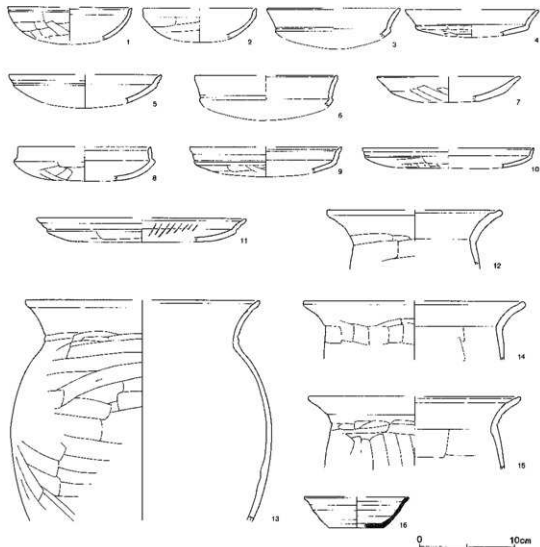
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□10.6 高4.0 胴11.4	B多+W	におい橙	100	口縁部外面に明確な段をもつ。
2	坏	□12.0 高4.8 胴12.2	B+R多+W多	橙	100	体部外面ヘラケズリ。
3	坏	□(12.0) 高(4.1) 胴(12.4)	B	(内)黒 (外)浅黄橙	口縁 30	No.5. 口縁端部ヘラアテ。
4	坏	□(14.2) 高(4.1)	B	におい褐	20	No.3. 内面風化。
5	坏	□12.4 高4.2	B多+R+W	浅黄橙	100	体部外面ヘラケズリ。
6	坏	□(14.0) 高(4.4)	B多+R	におい橙	40	No.3. 内面風化。
7	坏	□12.4 高4.2	B+W	黒褐~におい橙	70	No.4.
8	甕	□(18.0)	R	橙	口縁 10	風化顕著。胎土中の含有物量多い。
9	坏	□(12.2) 高(3.5)	B	橙	20	体部外面ヘラケズリ。
10	坏	□(14.2) 高(12.4)	R	橙	20	風化顕著。
11	皿	□(18.0) 高(2.7)	B+R	橙	10	体部内面ナデ。
12	甕	高5.4	砂	(内)灰白 (外)浅黄橙	下半部 80	胴部内面輪郭み積り顕著。胎土中の含有物量多い。

第200号住居跡 (第689図)

い・ろー428Gridに位置し、第201・202号住居跡に切られる。長軸5.8m、短軸4.4mの不整形長方形を呈する。噴砂により東壁の一部がずれている。長軸の傾きはN-80°-Eで、深さ15cmである。カマドは確認されていないが、東壁中央に構築されていた可能性がある。貯蔵穴は東南隅に設けられている。規模は68×68cm、深さ25cmである。貯蔵穴の西側に小石が1列に並んで検出されたが、何の施設かは不明である。



第687図 第198・199号住居跡



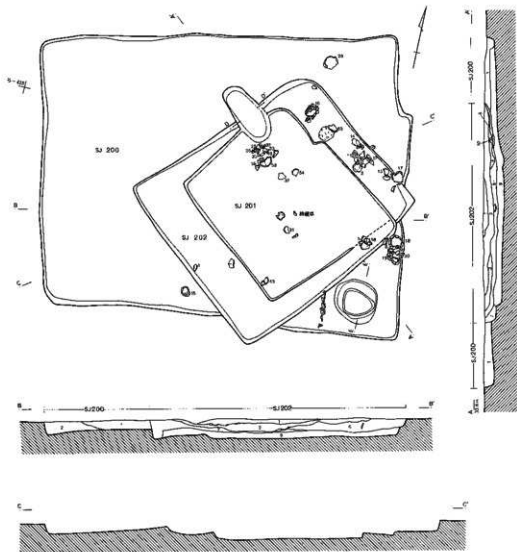
第688图 第198·199号住居跡出土遺物

第198号住居跡 (第688図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	口(13.0) 高(3.9)	B+R多+W	浅黄橙	20	口縁端部ヘラアテ。内面風化。
2	环	口(12.0) 高(3.6)	W	橙	10	№1 貯蔵穴。内面ナデ。
3	环	口(14.0) 高(4.2)	R	橙	10	風化顕著。
4	环	口(14.0) 高(2.9)	R	橙	10	体部外面黒色。
5	环	口(16.0) 高(3.5)	B+R	橙	20	風化著しく調査不明。
6	环	口(15.0) 高(4.7)	W	橙	10	風化顕著。
7	环	口(15.0) 高(2.7)	W	にぶい橙	10	口縁部内外面ナデ。
8	环	口(14.0) 高(3.6)	R	橙	10	口縁端部即取り。内面風化。
9	环	口(16.0) 高(3.1)	B+R	橙	10	口縁端部ヘラアテ。
10	皿	口(18.0) 高(2.1)	B+R	浅黄橙	10	口縁端部ヘラアテ。
11	皿	口(22.0) 高(2.5)	B+W	橙～にぶい橙	10	口縁端部ヘラアテ。内面暗文。体部外面黒色。
12	壺	口(18.4) 高6.1	B	明黄褐	口縁 20	№2 貯蔵穴。口縁端部ヘラアテ。内面風化。
13	壺	口(24.6) 高23.0 胴(27.4)	B多+R	浅黄橙	20	№3 貯蔵穴。内面風化。
14	壺	口(23.4) 高6.0	B	(内)橙 (外)にぶい黄橙	口縁 20	口縁端部即取り。胎土中の含有物量多い
15	壺	口(22.4) 高7.5	B+R+W	橙	口縁 20	№3 貯蔵穴。口縁端部ヘラアテ。
16	环	口(11.0) 底(5.8) 高3.2	W	灰	10	底部回転未切り。混入。

第199号住居跡 (第688図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	环	口(12.0) 高(4.2)	R	橙	20	内面風化。胎土中の含有物量多い。
2	环	口(14.0) 高(4.2)	R	橙	20	内面風化。胎土中の含有物量多い。
3	环	口(14.0) 高(4.0)	R	にぶい黄橙	10	体部外面黒色。風化。胎土中の含有物量多い。
4	环	口(14.0) 高(2.4)	B+W	にぶい橙	10	内面ナデ。外面風化。
5	环	口(14.0) 高(4.9)	R多+W	橙	20	風化顕著。
6	高环	高4.7	B+W	灰白	胴部 10	胴部四方に透かしをもつ。
7	壺		B+W	暗灰	口縁小片	口縁部外面縞線状文。



第200号住居跡

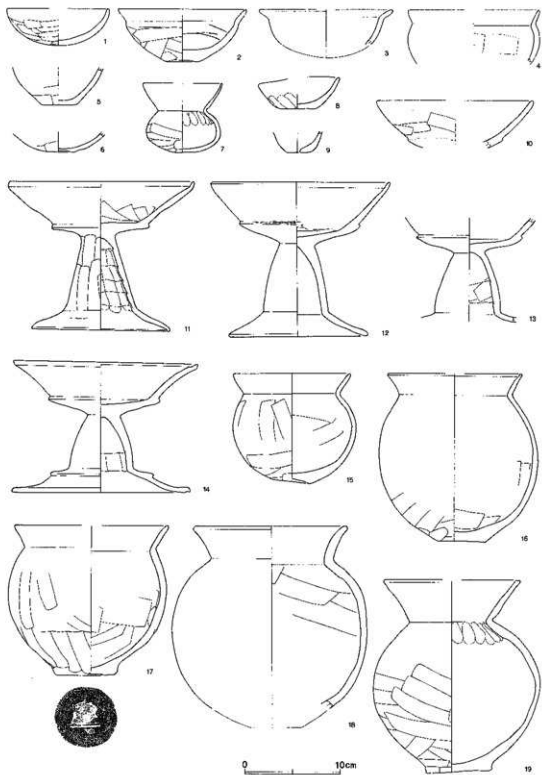
1. 褐色土 粘性強く、焼土粒子を含む。
2. 黄褐色土 粘性強く、焼土粒子は含まれない。



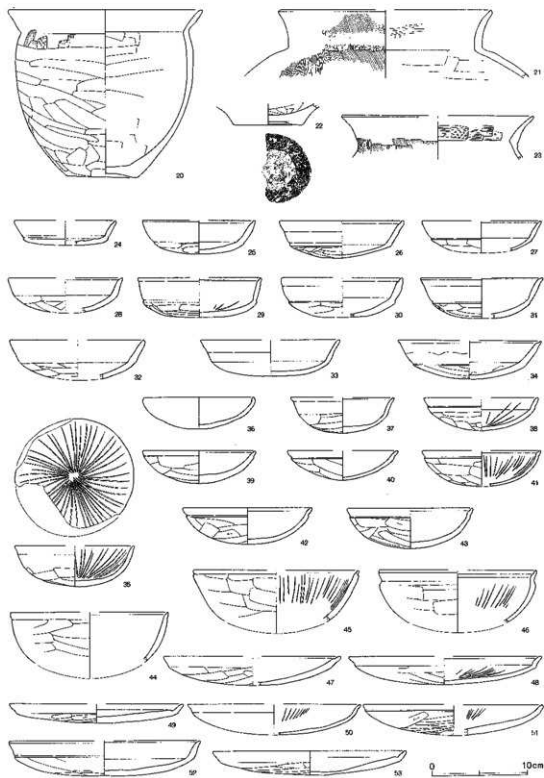
第202号住居跡

1. 暗褐色土 粘性の強い層で、黄褐色土のブロックを多量に含む。赤褐色粒子（焼土ではない）を含む。
2. 暗灰褐色土 灰色粘土を含み、粘性に大変富んだ層。焼土粒子をわずかに含む。粒子の強い粘性の強い層で、多量の炭化物を含む。
3. 黒色土 粘性の強い粒子の強い層で、多量の炭化物を含む。
4. 淡灰褐色土 粘性の強い粒子の弱かな層で、炭化物・焼土を多量に含む。炭化物層。
5. 黒色土 粘性の強い層で、炭化物・焼土を含む。
6. 黒色土 粘性の強い粒子の強い層で、炭化物・焼土は含まれない。
7. 暗褐色土 粘性の強い粒子の強い層で、炭化物・焼土は含まれない。
8. 褐色土 粘性の強い粒子の強い層で、炭化物・焼土は含まれない。
9. 暗褐色土 粘床。ややしまりの悪い層で、黄褐色土と黒色土の混合。固くしまった焼土層。
10. 赤褐色土

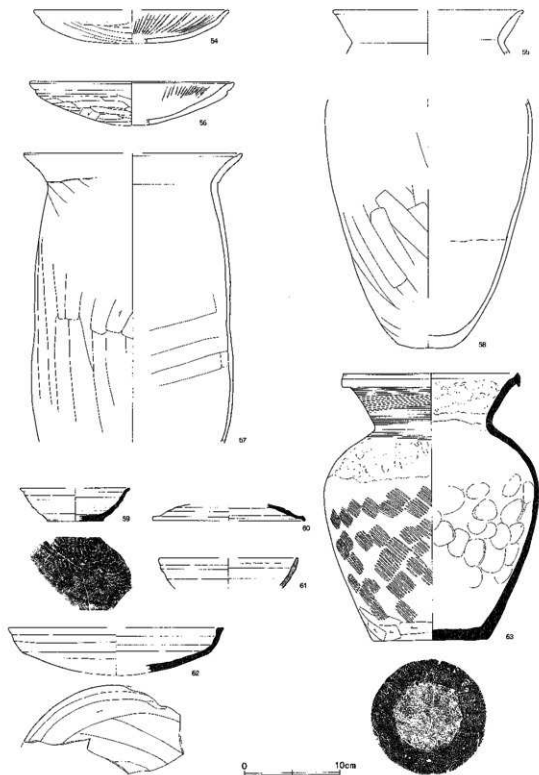
第689図 第200・201・202号住居跡



第690图 第200·201·202号住居跡出土遺物(1)



第691图 第200·201·202号住居跡出土遺物(2)



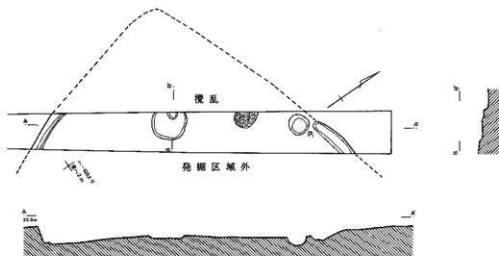
第692图 第200·201·202号住居跡出土遺物(3)

第200・201・202号住居跡(第690~692図)

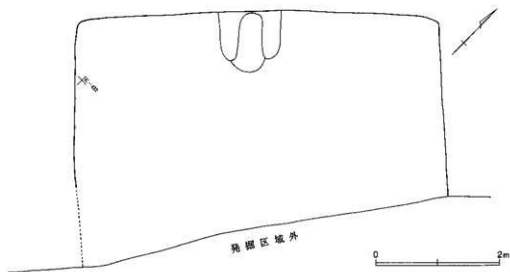
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(10.8) 高3.9	R多+W	橙~灰白	30	口縁部ナデ。
2	坏	口13.4 底3.0 高5.5	R多+W	明赤褐	95	SJ202 №18. 平底。
3	碗	口(14.0) 高(5.0)	R	橙	10	体部内面ナデ。風化。
4	碗	口(13.8)	R	にぶい黄橙~黒褐	20	体部外面風化顯著。
5	壺	底3.6	砂	にぶい黄橙~黒	底部 30	SJ202 №8. 風化顯著。胎土中の含有物量多い。
6	小型壺	底5.0	R	明赤褐~暗赤褐	底部 100	上げ底。風化。
7	小型埴	口(8.4) 高7.2	R	橙	70	SJ202 №12. 胴部外面上半ナデ、内面上位指オサエ。
8	ミニチュア坏	口(8.6) 底4.0 高3.2	B	橙	20	内面ナデ。底部ヘラケズリ。
9	ミニチュア壺	底2.4	R	橙	底部 50	内外面ナデ。
10	高坏	口(16.4) 高5.0	R	橙	坏部 20	胎土中の含有物量多い。
11	高坏	口13.4 底14.6 高15.5	R+W	橙~褐灰	80	SJ202 №17. 口縁部、胴部ヘラアテ。胴部内面輪積み痕可瞭。
12	高坏	口18.8 底14.6 高16.1	R	橙	80	SJ202 №16. 口縁部と体部との境にハケメ痕。胴部内面ヘラナデ。胎土中の含有物量多い。
13	高坏	胴部3.2	R	橙	70	SJ202 №19. 胴部外面ナデ。胎土中の含有物量多い。
14	高坏	口19.2 底18.6 高13.6	R	橙	70	SJ202 №14. 口縁部、胴部ヘラアテ。胎土中の含有物量多い。
15	壺	口12.2 底3.8 高11.3 胴13.0	R多+W	橙	100	SJ200 №8. 上げ底。
16	壺	口(14.0) 底5.0 高17.5 胴16.6	砂	にぶい黄橙	70	SJ202 №13. 胴部外面風化。胎土中の含有物量多い。
17	壺	口(16.0) 底8.2 高15.6 胴16.6	R	橙	80	SJ200 №20. 上げ底。風化。胎土中の含有物量多い。
18	壺	口16.2 高(21.0) 胴20.8	R+W多	橙	70	SJ200 №2. 胴部外面風化。
19	壺	口(14.2) 底7.0 高20.0 胴17.4	B+W	浅黄橙~にぶい橙	70	SJ200 №4. 胴部内面上位指オサエ。外面上半風化。
20	壺	口10.4 底7.3 高17.4	R	橙~淡橙	80	SJ200 №1. 胴部外面ハケメ後ヘラケズリ。胎土中の含有物量多い。
21	壺	口(22.4)	砂	橙~にぶい褐	口縁 10	口縁部外面ハケメ後一部ナデ、内面ハケメ痕。胎土中の含有物量多い。
22	壺	底7.2	砂	(内)黒 (外)にぶい橙~黒	底部 50	上げ底。内面黒色。胎土中の含有物量多い。
23	壺	口(20.0) 高4.5	砂	橙	口縁 10	口縁部内面、胴部外面ハケメ。胎土中の含有物量多い。
24	坏	口(10.8) 高(2.6)	R	橙~浅黄橙	20	内面全体黒色。外面風化。
25	坏	口(11.8) 高3.5	R	橙~にぶい黄	20	SJ202 №1. 内面風化。胎土中の含有物量多い。
26	坏	口13.0 高3.8	B+R	橙~黒褐	80	口縁部ヘラアテ。
27	坏	口(12.4) 高(3.4)	B+R多	(内)橙 (外)灰白~黒	20	口縁部明いヘラアテ。
28	坏	口(12.0) 高(3.6)	R	(内)黒褐 (外)橙	20	内面全体黒色。胎土中の含有物量多い
29	坏	口(13.0) 高4.1	B+R	橙	30	内面破文。

30	环	口(12.6) 高(4.1)	B	にふい楊	20	SJ202 No.1・2。口縁端部ヘラアテ。
31	环	口(12.8) 高(4.2)	B+R	橙	40	SJ202 No.7。口縁端部ヘラアテ。
32	环	口(14.2) 高(4.2)	B	橙～黒	20	SJ202 No.1。体部外面黒色。風化。胎土中の含有物量多い。
33	环	口(14.6) 高3.8	B+W	橙～黒	40	体部外面黒色。風化顯著。
34	环	口(15.0) 高4.0	B+R	浅黄橙	30	口縁端部ヘラアテ。
35	环	口(12.4) 高4.2	B+R	橙～浅黄橙	70	SJ202 No.1。内面放射状暗文。
36	环	口11.4 高3.3 胴11.8	B	橙	50	SJ202 No.1。風化著しく調整不明。
37	环	口(10.8) 高3.8	R	(内)橙 (外)浅黄橙	30	SJ202 No.3。口縁端部ヘラアテ。
38	环	口(12.0) 高3.5	R	(内)浅黄橙 (外)明黄褐	20	内面暗文。胎土中の含有物量多い。
39	环	口12.0 高3.4	B多+R+W	浅黄橙～橙	50	SJ202 No.1。内面暗文の痕跡。
40	环	口(11.6) 高3.1	B+R多	橙	30	SJ202 No.1。体部内面ナデ。
41	环	口(12.4) 高3.8	R	橙	40	口縁端部強いヘラアテ。内面暗文。胎土中の含有物量多い。
42	环	口13.6 高3.8	R+W	橙～にふい楊	50	内面ナデ。
43	环	口13.2 高4.2	B+R	橙	50	SJ202 No.9。口縁端部強いヘラアテ。
44	环	口(16.6) 高(6.9)	R	橙	20	口縁端部ヘラアテ。内面ナデ。胎土中の含有物量多い。
45	环	口(17.2) 高(6.6)	B	橙～浅黄橙	20	口縁端部ヘラアテ。内面暗文。
46	环	口(16.4) 高(6.5)	B+W+W'	(内)黒 (外)にふい黄橙	10	内面暗文。内面全体黒色。
47	皿	口(18.6) 高(3.0)	B+R+W	橙	30	口縁端部ヘラアテ。
48	皿	口(20.2) 高2.9	B+R	橙～浅黄橙	60	内面暗文。胎土中の含有物量多い。
49	皿	口(18.2) 高2.0	W	橙～黒褐	10	SJ202 No.1。体部内面ナデ。
50	皿	口(18.2) 高3.2	B+R	橙～浅黄橙	40	内面暗文。体部外面風化。
51	皿	口(18.8) 高(3.2)	R	明黄褐	20	内面暗文。胎土中の含有物量多い。
52	皿	口(20.0) 高3.6	B+R多+W	橙～黒褐	20	体部外面ヘラケズリ。
53	皿	口20.2 高2.5	B	橙～灰白	50	SJ202 No.2。
54	皿	口(20.6) 高(3.5)	R	橙～灰白	20	SJ202 No.4。内面暗文。
55	罎	口(20.0)	R多+砂	浅黄橙	口縁 10	SJ202 No.21。内面風化。胎土中の含有物量多い。
56	皿	口21.4 高(4.5)	B多+R	浅黄橙～黒褐	30	SJ202 No.1。口縁端部強いヘラアテ。内面暗文。
57	罎	口(23.0) 胴(21.2)	B+R+砂多	橙	30	SJ202 No.1・8。口縁端部ヘラアテ。
58	罎	底0.0	R+砂多	橙	胴部 30	SJ202 No.8。胴部外面ナデ。底部ヘラケズリ。
59	环	口(11.6) 底0.0 高3.5	W	灰	40	底面回転糸切り。

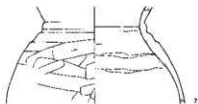
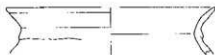
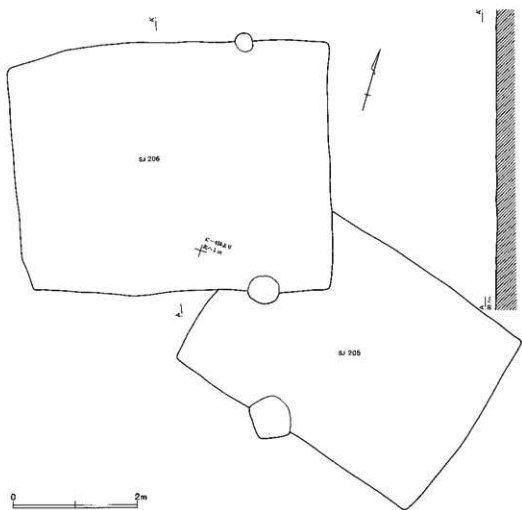
60	蓋	口(16.0) 高1.7	Ⅴ	灰	10	回転ナデ調整。
61	坏	口(14.6)		灰	20	灰軸陶器。口縁部外面僅かに軸の痕跡 内面輪襷のみ痕。
62	皿	口(22.6) 高(5.0)	Ⅴ	灰	20	口縁端部ヘラアテ。内面青濁波文。
63	壺	口18.2 底12.0 高27.6	B+Ⅴ多	灰	85	SJ202 No.22。輪襷み成形。胴部外面平 行叩き。内面無文のアテによる整形。胴 部～肩部外面力キメ。底部ヘラケズリ ヘラ記号。



第693図 第203号住居跡



第694図 第204号住居跡



第695図 第205・206号住居跡および第206号住居跡出土遺物

第206号住居跡 (第695図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	□(16.4)	W	灰	10	天井部回転ヘラケズリ。
2	坪	□(13.6) 高(4.0)	W	灰	10	外面回転ナデ後下位回転ヘラケズリ。内面火傷。
3	坪	□12.6 底5.8 高3.8	W	灰	90	底面回転未切り。
4	坪	□12.0 底5.8 高3.5	W	灰	20	底面回転未切り。
5	甕	□(22.0)	B+R多	濃黄	口径 10	外面輪痕み痕明確。内面風化。
6	坪	□(12.0) 高(3.4) 厚(12.4)	W	にふい黄橙	口径 20	口縁部ヘラアテ。体部外面ヘラケズリ
7	甕		B+R	にふい橙	胴部 20	胴部内面輪痕み痕明確。

第201号住居跡 (第689図)

い・ろ—428Gridに位置し、第202号住居跡を切る。形態は長方形で、やはり噴砂により東壁の一部がずれている。規模は長軸2.6m、短軸2.3m、主軸の傾きはN—49°—Wで、深さは30cmである。カマドは北壁やや東寄りに構築されている。その他の施設は検出されなかった。

第202号住居跡 (第689図)

い・ろ—428Gridに位置し、第201号住居跡に大半を切られる。規模は長軸3.5m、短軸3.0m、深さ20cmである。本住居跡に伴う施設はいっさい検出されなかった。

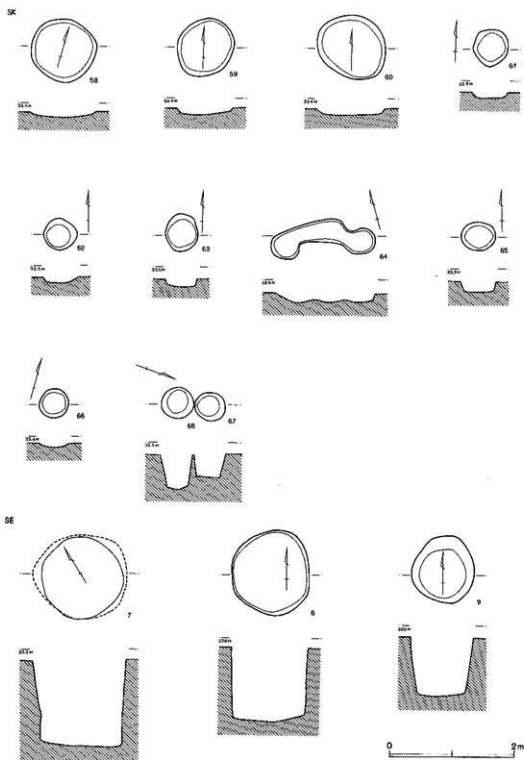
第200—202号住居跡の新旧関係は、(旧→新) 200→201→202と推定される。これらの住居跡は噴砂の影響を強く受けており、またその切り合いも著しいため、出土した遺物を明確に帰属させることができなかった。そこで、これらを一括して提示したが、大きく3段階に分けることができるので、それをもってこれらの住居跡の年代とみなしてもよいと思われる。

第203号住居跡 (第693図)

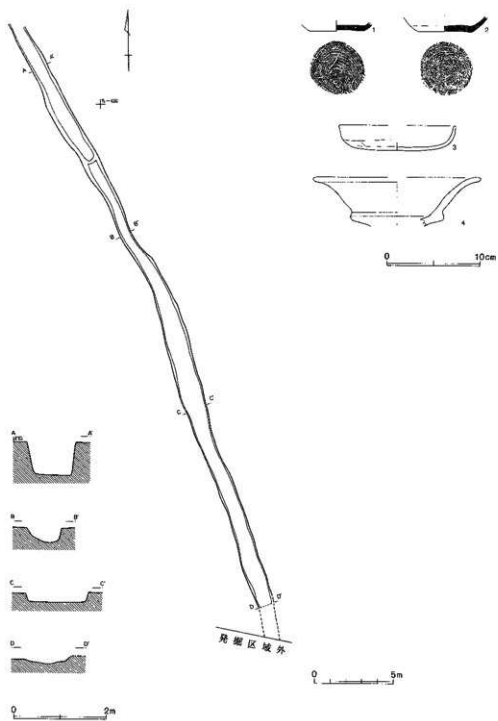
へ—429Gridに位置する。大半が攪乱と発掘区域外にかかり、住居のごく一部が検出されたにすぎない。柱穴1基と壁溝が残存部分より確認された。柱穴の西側より焼土の堆積が検出されており、北壁にカマドが存在していた可能性がある。遺物は出土しなかった。

第204号住居跡 (第694図)

は・に—431・432Gridに位置し、南半が発掘区域外にかかる。掘り方が確認されたにすぎないが、規模は検出された北壁の長さ5.8m、主軸の傾きはN—43°—Wである。出土遺物はない。



第696图 第4发掘区土坑·井戸



第697図 第16号溝および出土遺物

第16号溝 (第697図)

NO.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	底5.8	W	青灰	底部 100	底部回転未切り。
2	坏	底5.8	B少+W+W'	灰白～灰	底部 100	底部回転未切り。
3	坏	口(12.8) 高2.6	B+W+W' 少	橙	50	口縁部～体部内面ナデ。風化顕著。
4	高坏	口(18.0)	B+R少+W	橙	坏部 40	口縁部内外面ナデ。風化顕著。

第205号住居跡 (第695図)

は・に—437Gridに位置し、第206号住居跡と切り合う。長軸4.6m、短軸3.3mの長方形で、外形プランおよびカマドの痕跡が確認された。遺物は出土しなかった。

第206号住居跡 (第695図)

に—437・438Gridに位置している。長軸5.1m、短軸4.0mの外形プランのみ確認された。遺物は若干出土している。

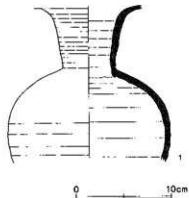
(2) その他の遺構

第58～68号土坑 (第696図)

土坑はすべて発掘区西側の削平区域から検出されているため、深さは浅く、出土遺物も少ない。

第7～9号井戸 (第696図)

井戸は第16号溝の近くで確認された。すべて茶掘りであり、土器の破片が少量出土している。



第698図 第4発掘区グリッド出土遺物

第16号溝 (第697図)

ろ～ち—434～436Gridに位置し、南北に横切る。幅は20～40cmで南側にいくほど浅くなる。

(3) グリッド出土遺物

に—433Grid、土坑群の近くから須恵器長頸壺が出土している。遺構との関連は不明である。

第4発掘区グリッド (第698図)

NO.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	長頸壺	胴部17.0	W	暗青灰	80	に—433、ロクロナデ。